

大和市
大和市総合計画に関する市民意識調査
調査結果報告書

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
7	標本誤差について	2
II	調査結果	3
1	回答者属性	3
2	大和市について	14
	（1）大和市への愛着度について	14
	（2）大和市への定住意向について	18
	（3）個別目標の重要度・満足度について	24
	（4）成果を計る指標について	43
	（5）市が重視すべき取り組みについて	96
III	まちづくりに関する意見・要望	143

I 調査の概要

1 調査の目的

本業務は、大和市総合計画に係る市民意識の調査分析等を通じ、市政の推進に寄与することを目的とする。

2 調査対象

無作為に抽出した 16 歳以上の市民 5,000 人

3 調査期間

令和元年 8 月 19 日から令和元年 9 月 9 日

4 調査方法

無記名返信の郵送調査

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
5,000 通	2,294 通	45.9%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示すものとする。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合がある。
- ・クロス集計の場合、表側の無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数とが合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。
- ・割合の表記については、下記のとおりとする。

例：40%台

表記	約 4 割（4 割）	4 割強	4 割台半ば	5 割近く	5 割弱（5 割）
範囲	40.1～40.9% (40.0%)	41.0～43.9%	44.0～45.9%	46.0～48.9%	49.0～49.9% (50.0%)

7 標本誤差について

全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べて、調査結果（回答の割合）に差が生じることがあり、その誤差のことを「標本誤差」という。

この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、数学的に計算することが可能である。対象者を無作為抽出した時の標本誤差は、以下の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm \lambda \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

λ = 信頼係数
 N = 母集団数（令和元年8月1日時点、
 大和市在住の16歳以上人口 206,709人）
 n = 回答者数
 P = 回答比率（%）

信頼度を95%（詳しくは後述）とした場合、信頼係数(λ)は1.96となり、簡単のためにλ = 2として計算する。

母集団数(N)が回答者数(n)より非常に大きい場合（一般に、1万人～10万人以上）、

$$\frac{N-n}{N-1} \approx 1$$

とみなすことができるので、標本誤差の範囲の大きさは、①回答者数(n)と②回答比率(P)の2要因によって決定される。上の式に①回答者数(n)と②回答比率(P)を代入した一覧表が以下の標本誤差早見表である。

標本誤差早見表（信頼度：95%）

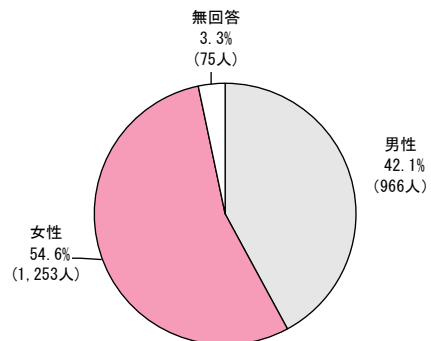
回答比率(P) 回答者数(n)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
2,294	±1.25%	±1.67%	±1.91%	±2.05%	±2.09%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
500	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
300	±3.46%	±4.62%	±5.29%	±5.66%	±5.77%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

上記早見表のうち、回答比率(P)とは「ある設問に対して、1つの選択肢を選んだ回答者の割合」を意味する。例えば、問4の「23 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う」の質問で選択肢「1. そう思う」を選んだ人の割合が30.3%であるため、「30%または70%程度」の行を見る。回答者数が2,294人であった場合、標本誤差は「±1.91%」となり、標本回答の割合が30.3%であるのに対して、そこから推定される母集団の回答比率は30.3%±1.91%、すなわち28.39%～32.21%の範囲内にある、と言えることになる。なお、信頼度95%とは、「この標本調査を100回行った時、そのうちの95回は母集団の回答比率が28.39%～32.21%の範囲内に収まる」という意味である。

II 調査結果

1 回答者属性

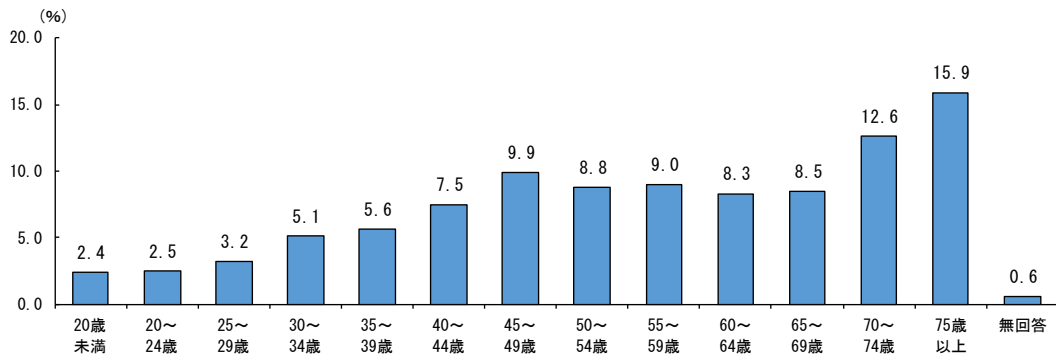
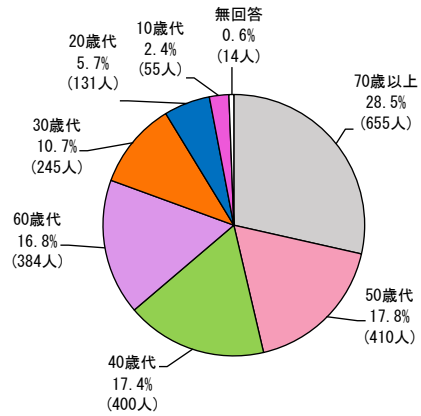
F 1 性別



(上段：人、下段：%)

	全体	男性	女性	無回答
令和元年度	2,294 100.0	966 42.1	1,253 54.6	75 3.3
平成28年度	2,451	41.0	52.2	6.8
平成26年度	2,334	41.4	53.0	5.7
平成23年度	2,510	42.2	53.5	4.3
平成20年度	3,179	44.1	54.9	1.1
H28－R1比較		1.1pt.	2.4pt.	-3.5pt.
H26－H28比較		-0.4pt.	-0.8pt.	1.1pt.
H23－H26比較		-0.8pt.	-0.5pt.	1.4pt.
H20－H23比較		-1.9pt.	-1.4pt.	3.2pt.

F 2 年齢



合計	2,294	55	57	74	116	129	173	227	203	207	190	194	290	365	14	(人)
	100.0	2.4	2.5	3.2	5.1	5.6	7.5	9.9	8.8	9	8.3	8.5	12.6	15.9	0.6	(%)
男性	966	26	30	34	41	56	62	90	80	97	87	89	117	156	1	(人)
	100.0	2.7	3.1	3.5	4.2	5.8	6.4	9.3	8.3	10	9	9.2	12.1	16.1	0.1	(%)
女性	1,253	29	27	40	75	71	110	133	119	109	98	99	161	182	0	(人)
	100.0	2.3	2.2	3.2	6	5.7	8.8	10.6	9.5	8.7	7.8	7.9	12.8	14.5	0	(%)

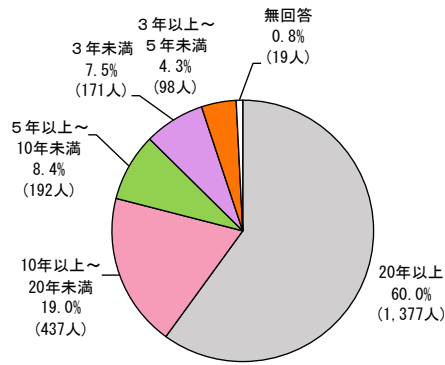
(上段：人、下段：%)

	全体	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
令和元年度	2,294 100.0	55 2.4	57 2.5	74 3.2	116 5.1	129 5.6	173 7.5	227 9.9
平成28年度	2,451	2.3	3.4	4.8	6.9	7.7	9.3	8.6
平成26年度	2,334	1.8	3.1	5.1	6.6	8.7	7.9	7.6
平成23年度	2,510	3.0	2.9	5.3	7.6	8.2	9.0	7.7
平成20年度	3,179	3.2	4.1	6.9	9.2	10.0	8.4	6.8
H28－R1比較		0.1pt.	-0.9pt.	-1.6pt.	-1.8pt.	-2.1pt.	-1.8pt.	1.3pt.
H26－H28比較		0.5pt.	0.3pt.	-0.3pt.	0.3pt.	-1.0pt.	1.4pt.	1.0pt.
H23－H26比較		-1.2pt.	0.2pt.	-0.2pt.	-1.0pt.	0.5pt.	-1.1pt.	-0.1pt.
H20－H23比較		-0.2pt.	-1.2pt.	-1.6pt.	-1.6pt.	-1.8pt.	0.6pt.	0.9pt.

(上段：人、下段：%)

	全体	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答
令和元年度	2,294 100.0	203 8.8	207 9.0	190 8.3	194 8.5	290 12.6	365 15.9	14 0.6
平成28年度	2,451	8.2	6.7	8.3	10.6	10.7	11.7	0.9
平成26年度	2,334	6.4	6.9	8.4	10.0	10.9	10.9	5.4
平成23年度	2,510	6.9	6.6	11.2	9.2	9.9	8.3	4.1
平成20年度	3,179	7.0	9.4	10.7	10.5	7.6	5.4	0.8
H28－R1比較		0.6pt.	2.3pt.	0.0pt.	-2.1pt.	1.9pt.	4.2pt.	-0.3pt.
H26－H28比較		1.8pt.	-0.2pt.	-0.1pt.	0.6pt.	-0.2pt.	0.8pt.	-4.5pt.
H23－H26比較		-0.5pt.	0.3pt.	-2.8pt.	0.8pt.	1.0pt.	2.6pt.	1.3pt.
H20－H23比較		-0.1pt.	-2.8pt.	0.5pt.	-1.3pt.	2.3pt.	2.9pt.	3.3pt.

F 3 市内での居住年数



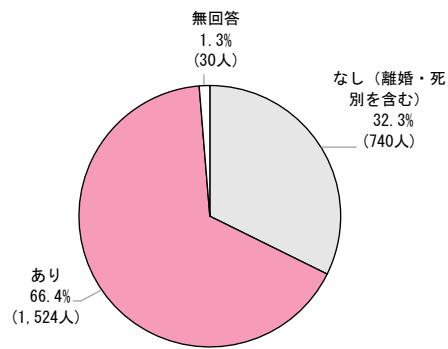
		いる(未就学のお子さんのみ)	いる(小学生以上18歳未満のお子さんのみ)	いる(未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも)	いない	無回答	
合 計	2,294 100.0	163 7.1	275 12	83 3.6	1,711 74.6	62 2.7	(人) (%)
3年未満	171 100.0	36 21.1	10 5.8	1 0.6	124 72.5	0 0	(人) (%)
3年以上～5年未満	98 100.0	26 26.5	8 8.2	5 5.1	58 59.2	1 1	(人) (%)
5年以上～10年未満	192 100.0	35 18.2	31 16.1	27 14.1	98 51	1 0.5	(人) (%)
10年以上～20年未満	437 100.0	20 4.6	116 26.5	27 6.2	261 59.7	13 3	(人) (%)
20年以上	1,377 100.0	46 3.3	108 7.8	23 1.7	1,164 84.5	36 2.6	(人) (%)

		3年未満	3年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上	無回答	
合 計	2,294 100.0	171 7.5	98 4.3	192 8.4	437 19	1,377 60	19 0.8	(人) (%)
いる(未就学のお子さんのみ)	163 100.0	36 22.1	26 16	35 21.5	20 12.3	46 28.2	- -	(人) (%)
いる(小学生以上18歳未満のお子さんのみ)	275 100.0	10 3.6	8 2.9	31 11.3	116 42.2	108 39.3	2 0.7	(人) (%)
いる(未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも)	83 100.0	1 1.2	5 6	27 32.5	27 32.5	23 27.7	- -	(人) (%)
いない	1,711 100.0	124 7.2	58 3.4	98 5.7	261 15.3	1,164 68	6 0.4	(人) (%)
無回答	62 100.0	- -	1 1.6	1 1.6	13 21	36 58.1	11 17.7	(人) (%)

(上段：人、下段：%)

	全体	3年未満	3年以上～5年未満	5年以上～10年未満	10年以上～20年未満	20年以上	無回答
令和元年度	2,294 100.0	171 7.5	98 4.3	192 8.4	437 19.0	1,377 60.0	19 0.8
平成28年度	2,451	9.2	6.6	9.1	17.6	56.8	0.6
平成26年度	2,334	7.0	4.3	8.6	19.5	55.1	5.6
平成23年度	2,510	7.6	4.4	10.3	20.0	53.5	4.2
平成20年度	3,179	8.4	6.0	11.1	19.8	53.9	0.8
H28－R1比較		-1.7pt.	-2.3pt.	-0.7pt.	1.4pt.	3.2pt.	0.2pt.
H26－H28比較		2.2pt.	2.3pt.	0.5pt.	-1.9pt.	1.7pt.	-5.0pt.
H23－H26比較		-0.6pt.	-0.1pt.	-1.7pt.	-0.5pt.	1.6pt.	1.4pt.
H20－H23比較		-0.8pt.	-1.6pt.	-0.8pt.	0.2pt.	-0.4pt.	3.4pt.

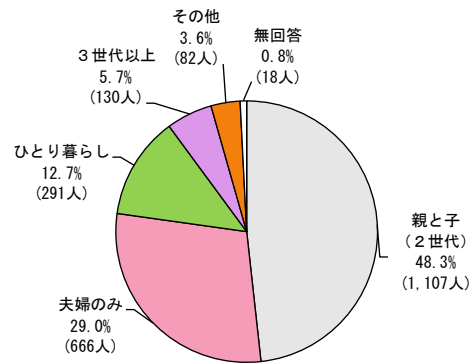
F 4 配偶者の有無



(上段：人、下段：%)

	全体	なし (離婚・死別を含む)	あり	無回答
令和元年度	2,294 100.0	740 32.3	1,524 66.4	30 1.3
平成28年度	2,451	31.4	67.3	1.3
H28－R1比較		0.9pt.	-0.9pt.	0.0pt.

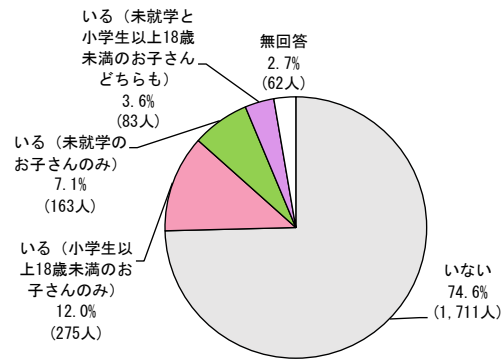
F 5 家族構成



(上段：人、下段：%)

	全体	ひとり暮らし	夫婦のみ	親と子 (2世代)	3世代以上	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	291 12.7	666 29.0	1,107 48.3	130 5.7	82 3.6	18 0.8
平成28年度	2,451	11.0	26.9	52.2	6.0	3.1	0.8
平成26年度	2,334	8.7	24.9	52.7	6.8	1.4	5.6
平成23年度	2,510	9.9	24.1	51.7	6.2	3.9	4.2
平成20年度	3,179	9.0	22.8	54.2	8.3	4.7	1.0
H28－R1比較		1.7pt.	2.1pt.	-3.9pt.	-0.3pt.	0.5pt.	0.0pt.
H26－H28比較		2.3pt.	2.0pt.	-0.5pt.	-0.8pt.	1.7pt.	-4.8pt.
H23－H26比較		-1.2pt.	0.8pt.	1.0pt.	0.6pt.	-2.5pt.	1.4pt.
H20－H23比較		0.9pt.	1.3pt.	-2.5pt.	-2.1pt.	-0.8pt.	3.2pt.

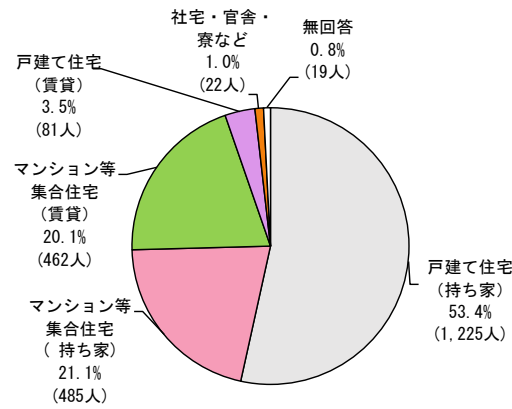
F 6 18歳未満の子どもの有無



(上段：人、下段：%)

	全体	いる（未就学のお子さんのみ）	いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）	いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）	いない	無回答
令和元年度	2,294 100.0	163 7.1	275 12.0	83 3.6	1,711 74.6	62 2.7
平成28年度	2,451	10.1	11.0	6.0	60.5	12.4
平成26年度	2,334	8.3	13.3	4.4	67.1	6.9
平成23年度	2,510	9.6	14.4	4.4	68.8	2.7
平成20年度	3,179	9.6	15.7	3.9	68.4	2.4
H28－R1比較		-3.0pt.	1.0pt.	-2.4pt.	14.1pt.	-9.7pt.
H26－H28比較		1.8pt.	-2.3pt.	1.6pt.	-6.6pt.	5.5pt.
H23－H26比較		-1.3pt.	-1.1pt.	0.0pt.	-1.7pt.	4.2pt.
H20－H23比較		0.0pt.	-1.3pt.	0.5pt.	0.4pt.	0.3pt.

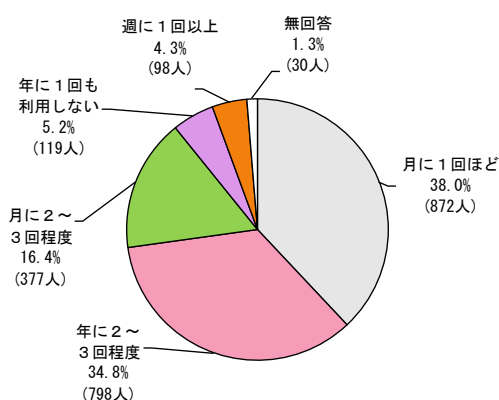
F 7 住居の形態



(上段：人、下段：%)

	全体	戸建て住宅 (持ち家)	戸建て住宅 (賃貸)	マンション等集合住宅 (持ち家)	マンション等集合住宅 (賃貸)	社宅・官舎・寮など	無回答
令和元年度	2,294 100.0	1,225 53.4	81 3.5	485 21.1	462 20.1	22 1.0	19 0.8
平成28年度	2,451	53.2	4.0	19.8	20.9	1.4	0.7
平成26年度	2,334	53.9	4.2	19.6	18.8	1.3	2.2
平成23年度	2,510	53.6	4.6	17.9	20.7	1.8	1.4
平成20年度	3,179	54.1	4.8	19.2	19.0	1.8	1.1
H28－R1比較		0.2pt.	-0.5pt.	1.3pt.	-0.8pt.	-0.4pt.	0.1pt.
H26－H28比較		-0.7pt.	-0.2pt.	0.2pt.	2.1pt.	0.1pt.	-1.5pt.
H23－H26比較		0.3pt.	-0.4pt.	1.7pt.	-1.9pt.	-0.5pt.	0.8pt.
H20－H23比較		-0.5pt.	-0.2pt.	-1.3pt.	1.7pt.	0.0pt.	0.3pt.

F 8 医療機関の利用頻度

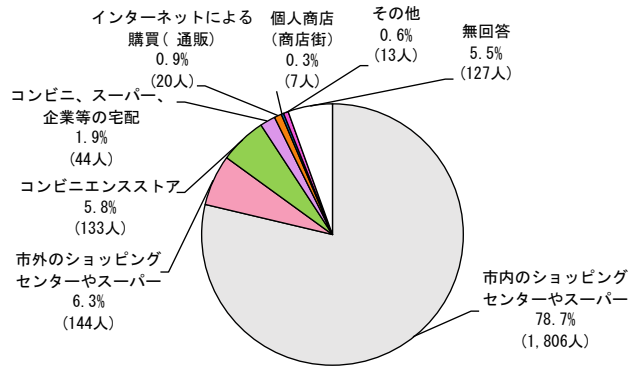


		週に1回以上	月に2～3回程度	月に1回ほど	年に2～3回程度	年に1回も利用しない	無回答	
合計	2,294 100.0	98 4.3	377 16.4	872 38.0	798 34.8	119 5.2	30 1.3	(人) (%)
10歳代	55 100.0	2 3.6	4 7.3	20 36.4	24 43.6	4 7.3	1 1.8	(人) (%)
20歳代	131 100.0	2 1.5	13 9.9	37 28.2	64 48.9	15 11.5	-	(人) (%)
30歳代	245 100.0	3 1.2	55 22.4	72 29.4	95 38.8	20 8.2	-	(人) (%)
40歳代	400 100.0	9 2.3	41 10.3	137 34.3	192 48.0	19 4.8	2 0.5	(人) (%)
50歳代	410 100.0	11 2.7	52 12.7	142 34.6	182 44.4	23 5.6	-	(人) (%)
60歳代	384 100.0	20 5.2	49 12.8	163 42.4	131 34.1	18 4.7	3 0.8	(人) (%)
70歳以上	655 100.0	51 7.8	163 24.9	300 45.8	108 16.5	20 3.1	13 2.0	(人) (%)

(上段：人、下段：%)

	全体	週に1回以上	月に2～3回程度	月に1回ほど	年に2～3回程度	年に1回も利用しない	無回答
令和元年度	2,294 100.0	98 4.3	377 16.4	872 38.0	798 34.8	119 5.2	30 1.3
平成28年度	2,451	4.3	17.2	35	36.5	5.7	1.4
H28-R1比較		0.0pt.	-0.8pt.	3.0pt.	-1.7pt.	-0.5pt.	-0.1pt.

F 9 最も買い物に利用する場所

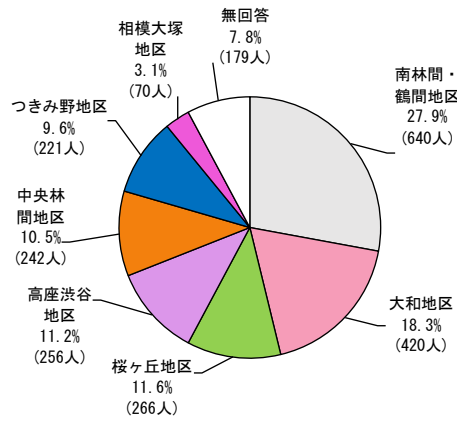


	市内のショッピングセンターやスーパー	市外のショッピングセンターやスーパー	コンビニエンスストア	個人商店(商店街)	インターネットによる購買(通販)	コンビニ、スーパー、企業等の宅配	その他	無回答
合計	2,294 100.0	1,806 78.7	144 6.3	133 5.8	7 0.3	20 0.9	44 1.9	13 0.6
中央林間地区	242 100.0	202 83.5	8 3.3	7 2.9	1 0.4	3 1.2	5 2.1	1 0.4
つきみ野地区	221 100.0	177 80.1	14 6.3	10 4.5	1 0.5	1 0.5	4 1.8	4 1.8
南林間・鶴間地区	640 100.0	537 83.9	22 3.4	43 6.7	1 0.2	3 0.5	7 1.1	3 0.5
相模大塚地区	70 100.0	45 64.3	15 21.4	5 7.1	-	2 2.9	2 2.9	-
大和地区	420 100.0	324 77.1	23 5.5	29 6.9	3 0.7	5 1.2	9 2.1	3 0.7
桜ヶ丘地区	266 100.0	198 74.4	29 10.9	13 4.9	-	4 1.5	9 3.4	2 0.8
高座渋谷地区	256 100.0	197 77.0	21 8.2	15 5.9	1 0.4	-	5 2.0	-

(上段：人、下段：%)

	全体	市内のショッピングセンターやスーパー	市外のショッピングセンターやスーパー	コンビニエンスストア	個人商店(商店街)	インターネットによる購買(通販)	コンビニ、スーパー、企業等の宅配	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	1,806 78.7	144 6.3	133 5.8	7 0.3	20 0.9	44 1.9	13 0.6	127 5.5
平成28年度	2,451	71.2	5.0	2.9	0.2	0.4	3.1	0.8	16.6
H28-R1 比較		7.5pt.	1.3pt.	2.9pt.	0.1pt.	0.5pt.	-1.2pt.	-0.2pt.	-11.1pt.

F10 居住地域



		10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	
合 計	2,294 100.0	55 2.4	131 5.7	245 10.7	400 17.4	410 17.9	384 16.7	655 28.6	14 0.6	(人) (%)
中央林間地区	242 100.0	4 1.7	10 4.1	22 9.1	61 25.2	51 21.1	34 14.0	60 24.8	-	(人) (%)
つきみ野地区	221 100.0	5 2.3	11 5.0	23 10.4	43 19.5	41 18.6	40 18.1	58 26.2	-	(人) (%)
南林間・鶴間地区	640 100.0	18 2.8	39 6.1	73 11.4	116 18.1	123 19.2	119 18.6	150 23.4	2 0.3	(人) (%)
相模大塚地区	70 100.0	1 1.4	6 8.6	13 18.6	13 18.6	14 20.0	11 15.7	12 17.1	-	(人) (%)
大和地区	420 100.0	15 3.6	35 8.3	47 11.2	74 17.6	73 17.4	71 16.9	104 24.8	1 0.2	(人) (%)
桜ヶ丘地区	266 100.0	7 2.6	10 3.8	28 10.5	39 14.7	43 16.2	42 15.8	97 36.5	-	(人) (%)
高座渋谷地区	256 100.0	3 1.2	14 5.5	31 12.1	38 14.8	43 16.8	40 15.6	86 33.6	1 0.4	(人) (%)

(上段：人、下段：%)

	全体	中央林間地区	つきみ野地区	南林間・鶴間地区	相模大塚地区	大和地区	桜ヶ丘地区	高座渋谷地区	無回答
令和元年度	2,294 100.0	242 10.5	221 9.6	640 27.9	70 3.1	420 18.3	266 11.6	256 11.2	179 7.8
平成28年度	2,451	10.5	9.4	27.8	2.8	17.1	12.3	10.1	10.0
平成26年度	2,334	12.0	9.0	29.7	2.7	19.3	15.3	10.3	1.8
平成23年度	2,510	11.6	9.2	29.9	2.4	18.8	15.7	10.6	1.8
H28-R1比較		0.0pt.	0.2pt.	0.1pt.	0.3pt.	1.2pt.	-0.7pt.	1.1pt.	-2.2pt.
H26-H28比較		-1.5pt.	0.4pt.	-1.9pt.	0.1pt.	-2.2pt.	-3.0pt.	-0.2pt.	8.2pt.
H23-H26比較		0.4pt.	-0.2pt.	-0.2pt.	0.3pt.	0.5pt.	-0.4pt.	-0.3pt.	0.0pt.

2 大和市について

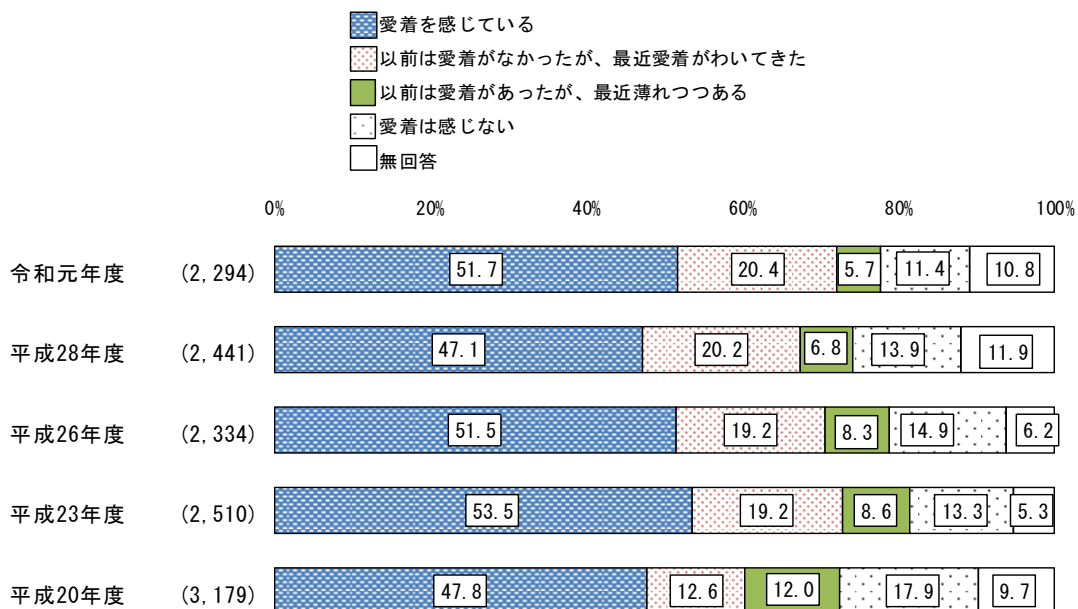
(1) 大和市への愛着度について

問1 あなたは、大和市に愛着を感じていますか。(○印は1つ)

大和市への愛着度については、「愛着を感じている」(51.7%)が最も多く、5割を超えている。次いで、「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」(20.4%)、「愛着は感じない」(11.4%)、「以前は愛着があったが、最近薄れつつある」(5.7%)の順となっている。「愛着を感じている」と「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」を合わせた【愛着を感じる(以下同様)】(72.1%)は7割を超えている。(図表1-1)

【愛着を感じる】について、前回結果(67.3%)と比較すると4.8ポイント増加している。(図表1-1)

図表1-1 愛着度—全体・経年比較



(上段：人、下段：%)

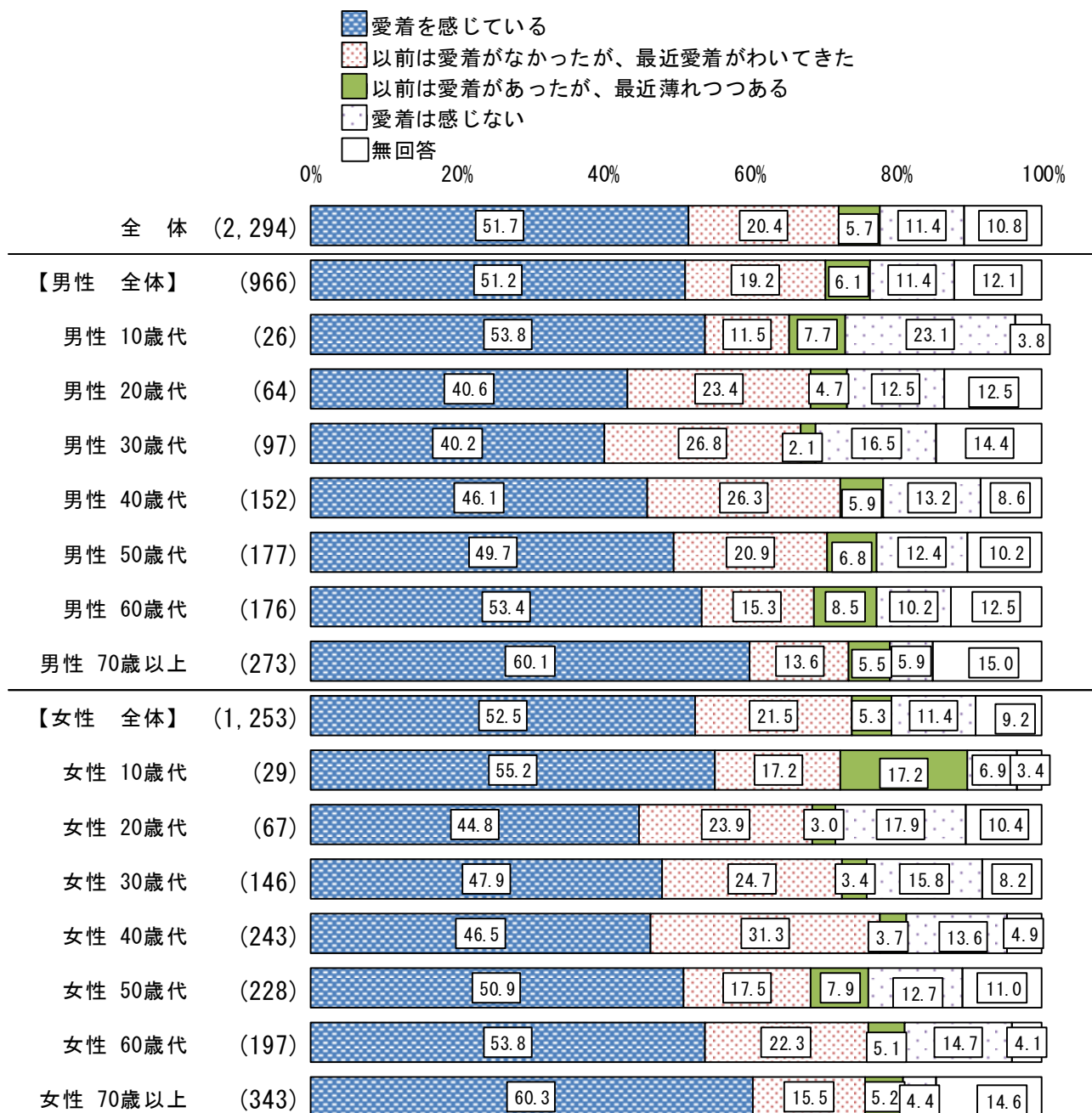
	全体	愛着を感じている	以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた	以前は愛着があったが、最近薄れつつある	愛着は感じない	無回答
令和元年度	2,294 100.0	1,185 51.7	469 20.4	131 5.7	261 11.4	248 10.8
平成28年度	2,451	47.1	20.2	6.8	13.9	11.9
平成26年度	2,334	51.5	19.2	8.3	14.9	6.2
平成23年度	2,510	53.5	19.2	8.6	13.3	5.3
平成20年度	3,179	47.8	12.6	12.0	17.9	9.7
H28－R1比較		4.6pt.	0.2pt.	-1.1pt.	-2.5pt.	-1.1pt.
H26－H28比較		-4.4pt.	1.0pt.	-1.5pt.	-1.0pt.	5.7pt.
H23－H26比較		-2.0pt.	0.0pt.	-0.3pt.	1.6pt.	0.9pt.
H20－H23比較		5.7pt.	6.6pt.	-3.4pt.	-4.6pt.	-4.4pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに【愛着を感じる】と回答した人は7割を超えている。

年齢別にみると、「以前は愛着があったが、最近薄れつつある」と「愛着は感じない」を合わせた【愛着は感じない（以下同様）】が男性70歳以上（11.4%）、女性70歳以上（9.6%）で約1割と他の年代と比べ少なくなっている。（図表1-2）

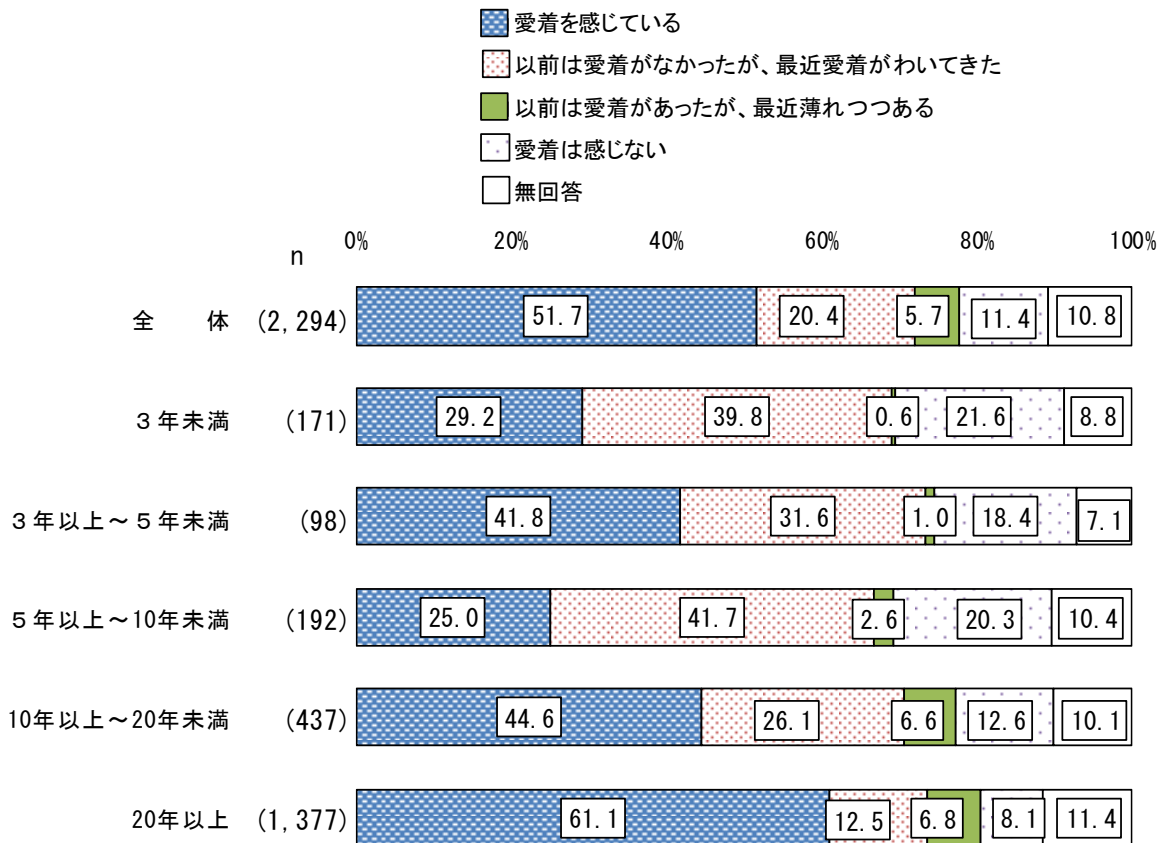
図表1-2 愛着度一性別・年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、【愛着を感じる】と回答した人が、20年以上（73.6%）と多くなっている。一方、5年以上10年未満では【愛着は感じない】が22.9%と多くなっている。（図表1-3）

図表1-3 愛着度—居住年数別

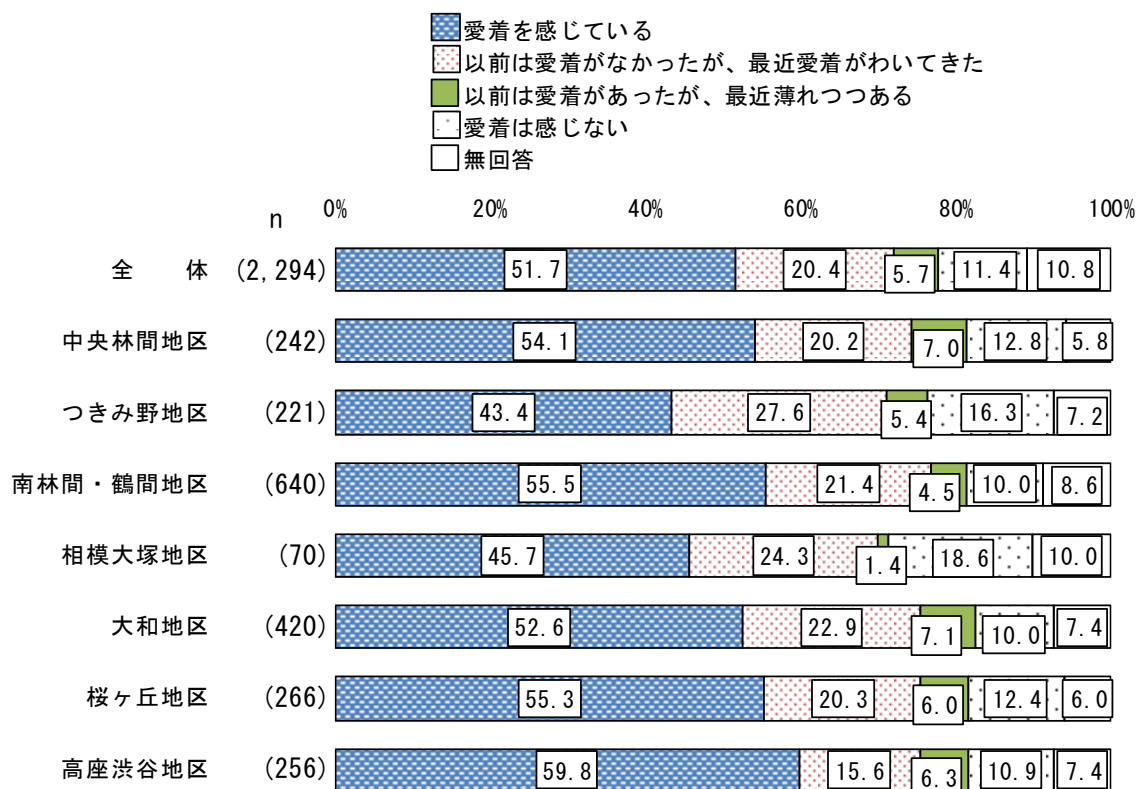


【居住地域別】

居住地域別にみると、【愛着を感じる】と回答した人が、南林間・鶴間地区（76.9%）、桜ヶ丘地区（75.6%）、大和地区（75.5%）、高座渋谷地区（75.4%）で7割台半ば以上と多くなっている。

一方、つきみ野地区、相模大塚地区では【愛着を感じない】が2割以上となっており、ほかの地域と比較して多くなっている。（図表1-4）

図表1-4 愛着度—居住地域別



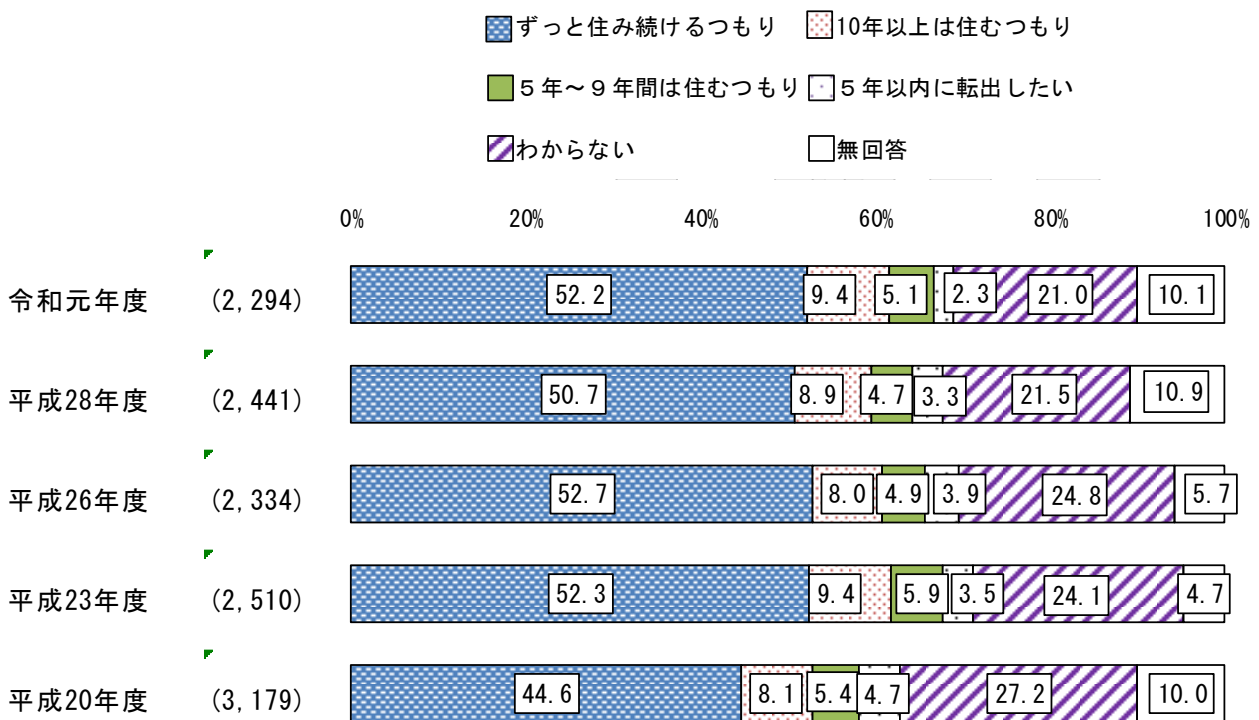
(2) 大和市への定住意向について

問2 あなたは、これからも大和市内に住み続けたいですか。(○印は1つ)

大和市内への定住意向については、「ずっと住み続けるつもり」(52.2%)が最も多く約5割となっている。次いで、「10年以上は住むつもり」(9.4%)、「5年～9年間は住むつもり」(5.1%)、「5年以内に転出したい」(2.3%)の順となっている。「ずっと住み続けるつもり」と「10年以上は住むつもり」を合わせた【定住希望(以下同様)】(61.6%)は約6割となっている。一方、「わからない」(21.0%)は約2割となっている。(図表2-1)

【定住希望】について、前回結果(59.6%)と比較すると2.0ポイント増加している。(図表2-1)

図表2-1 定住傾向—全体・経年比較



(上段：人、下段：%)

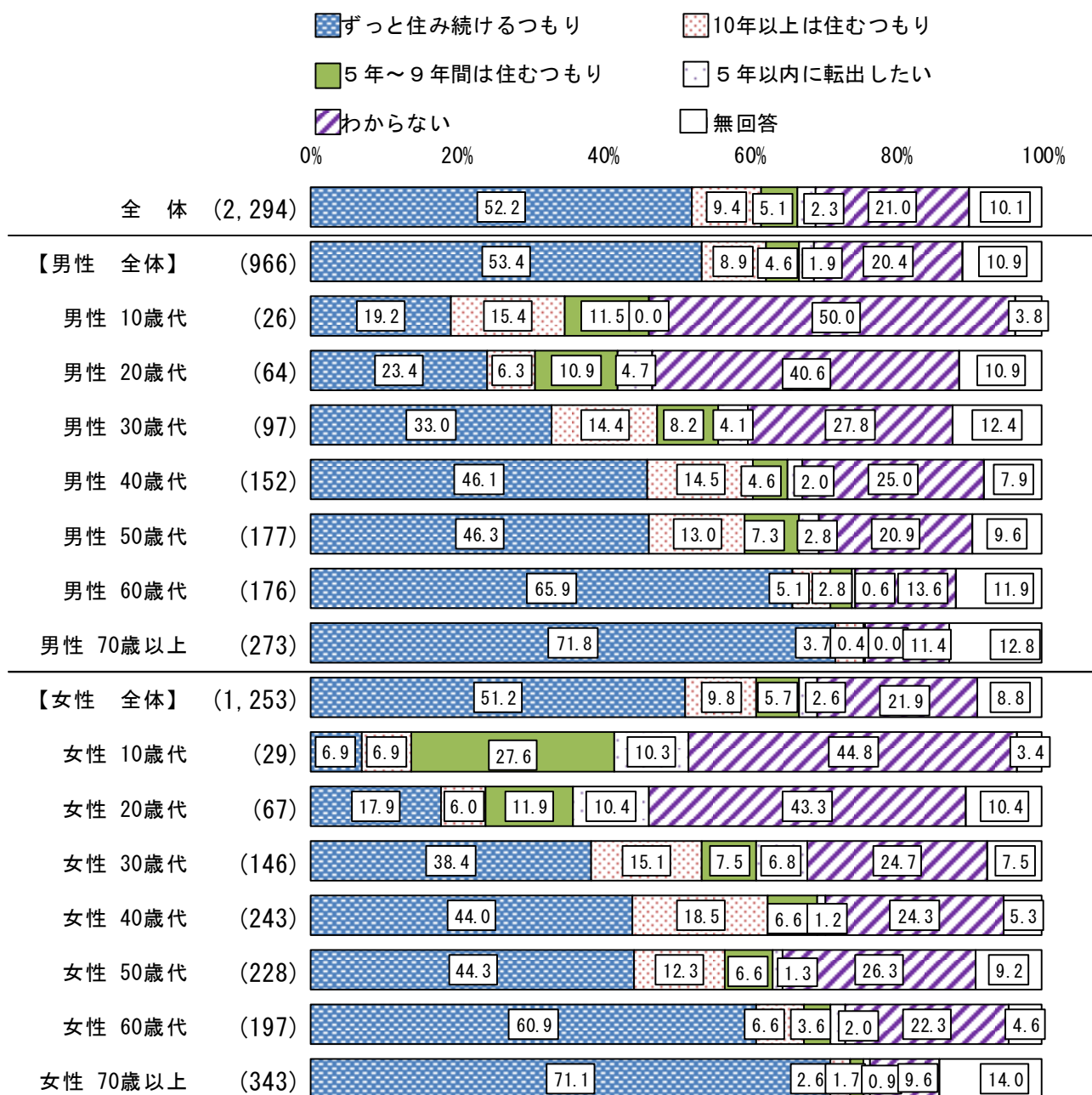
	全体	ずっと住み続けるつもり	10年以上は住むつもり	5年～9年間は住むつもり	5年以内に転出したい	わからない	無回答
令和元年度	2,294 100.0	1,197 52.2	216 9.4	116 5.1	52 2.3	482 21.0	231 10.1
平成28年度	2,451	50.7	8.9	4.7	3.3	21.5	10.9
平成26年度	2,334	52.7	8.0	4.9	3.9	24.8	5.7
平成23年度	2,510	52.3	9.4	5.9	3.5	24.1	4.7
平成20年度	3,179	44.6	8.1	5.4	4.7	27.2	10.0
H28-R1比較		1.5pt.	0.5pt.	0.4pt.	-1.0pt.	-0.5pt.	-0.8pt.
H26-H28比較		-2.0pt.	0.9pt.	-0.2pt.	-0.6pt.	-3.3pt.	5.2pt.
H23-H26比較		0.4pt.	-1.4pt.	-1.0pt.	0.4pt.	0.7pt.	1.0pt.
H20-H23比較		7.7pt.	1.3pt.	0.5pt.	-1.2pt.	-3.1pt.	-5.3pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【定住希望】(62.3%)は女性の【定住希望】(61.0%)より1.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて【定住希望】が増加傾向となり、男性70歳以上では75.5%、女性の70歳以上では73.8%となっている。(図表2-2)

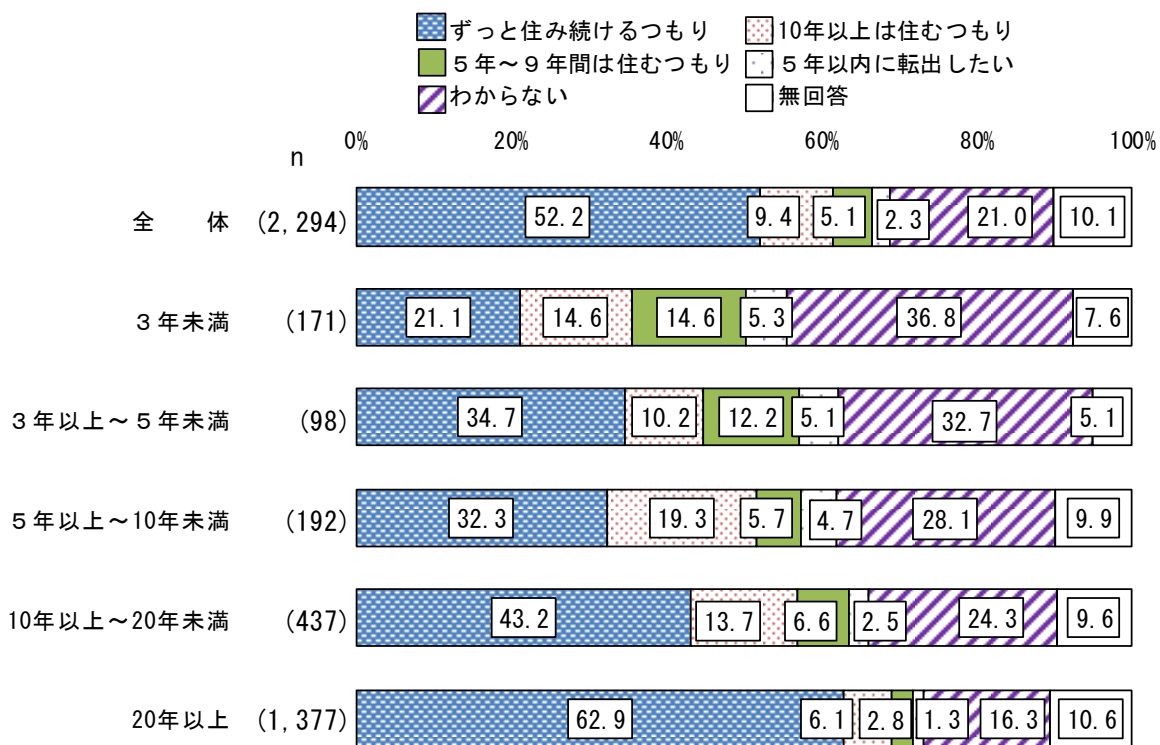
図表2-2 定住傾向—性別・年齢別



【居住年数別】

居住年数別にみると、居住年数が長いほど【定住希望】の割合が高くなり、20年以上では【定住希望】(69.0%)が7割弱と多くなっている。一方、3年未満では【定住希望】(35.7%)が3割台半ばとなっている。(図表2-3)

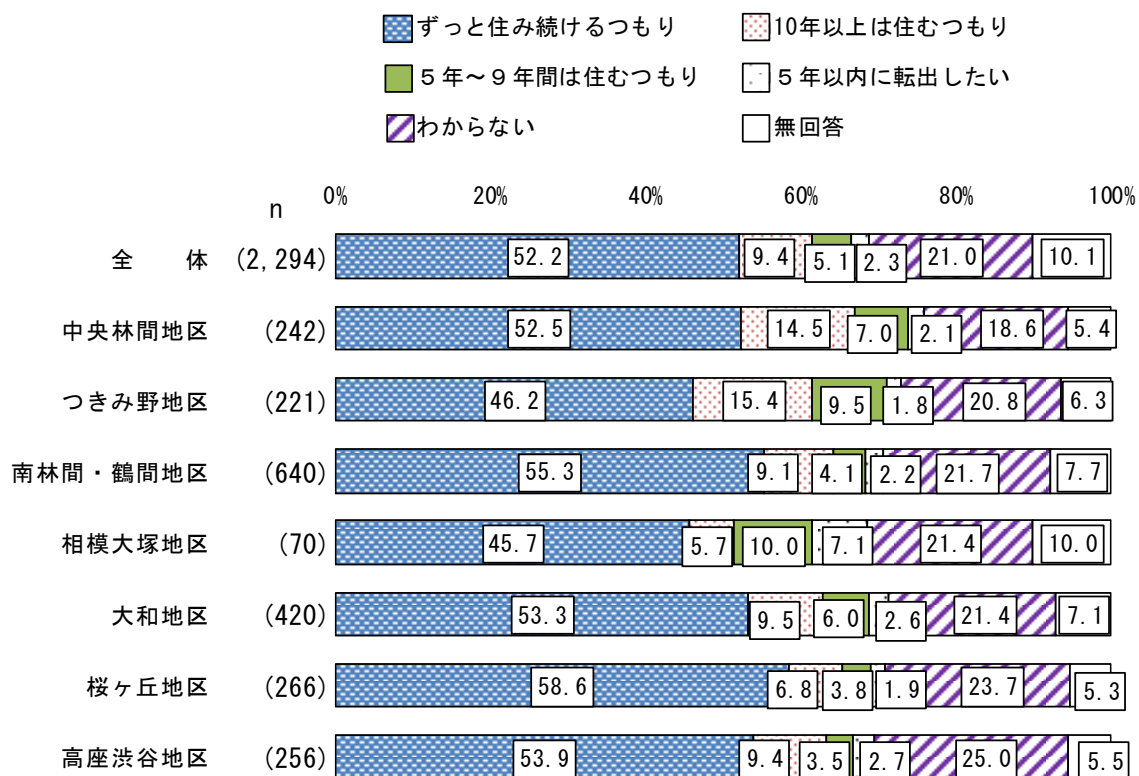
図表2-3 定住傾向—居住年数別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【定住希望】と回答した人は中央林間地区（67.0%）や桜ヶ丘地区（65.4%）で多くなっている。（図表2-4）

図表2-4 定住傾向—居住地域別

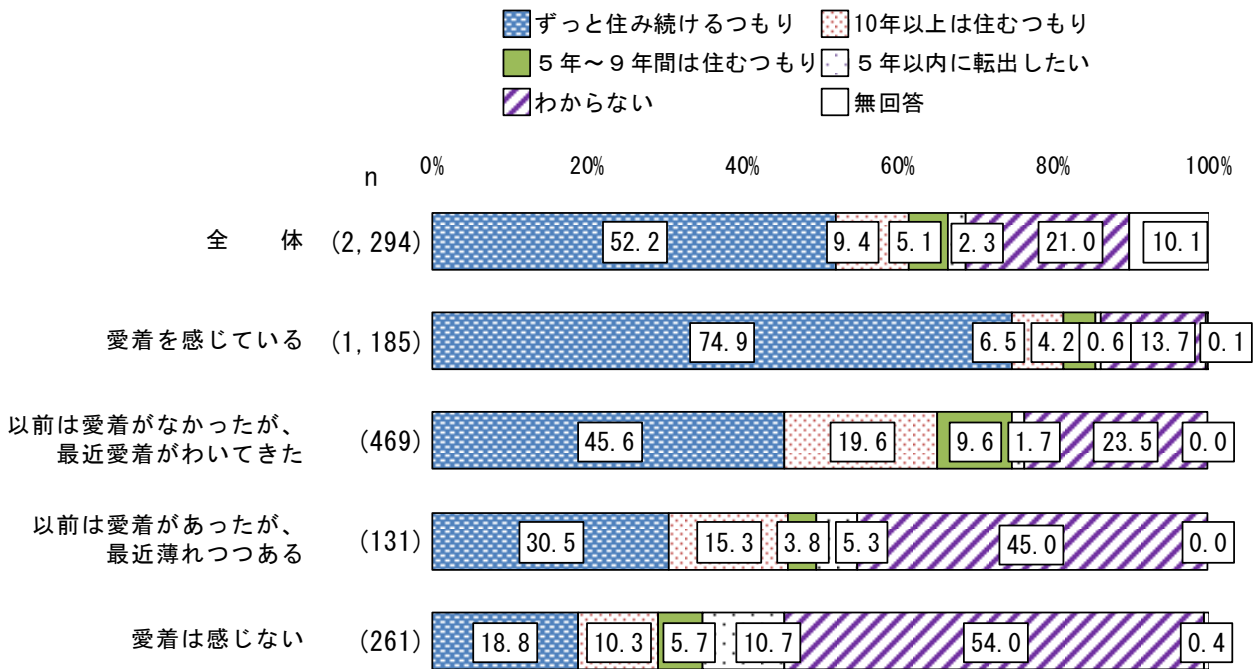


【愛着度別】

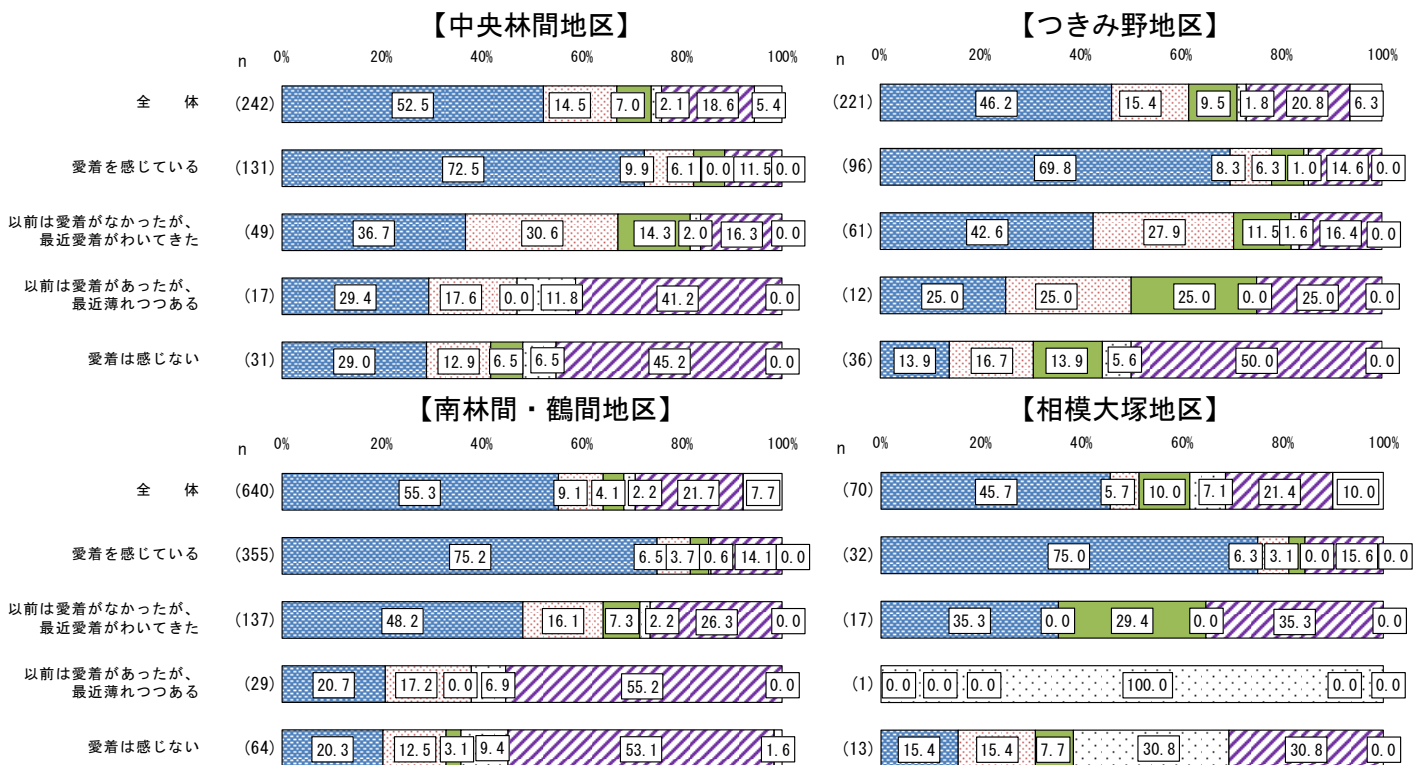
愛着度別にみると、「愛着を感じている」と回答した人では【定住希望】(81.4%)が8割強と多くなっている。また「以前は愛着がなかったが、最近愛着がわいてきた」と回答した人では【定住希望】(65.2%)が6割台半ばとなっている。一方、「愛着は感じない」と回答した人では「わからない」(54.0%)が5割台半ばと多くなっている。大和市への愛着度と定住意向は相関関係にあることがうかがえる。

(図表2-5)

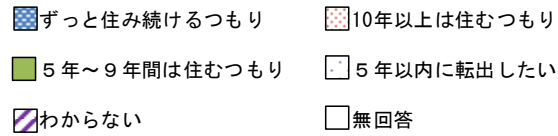
図表2-5 定住傾向－愛着度別



図表2-6 定住傾向－愛着度別・居住地域別

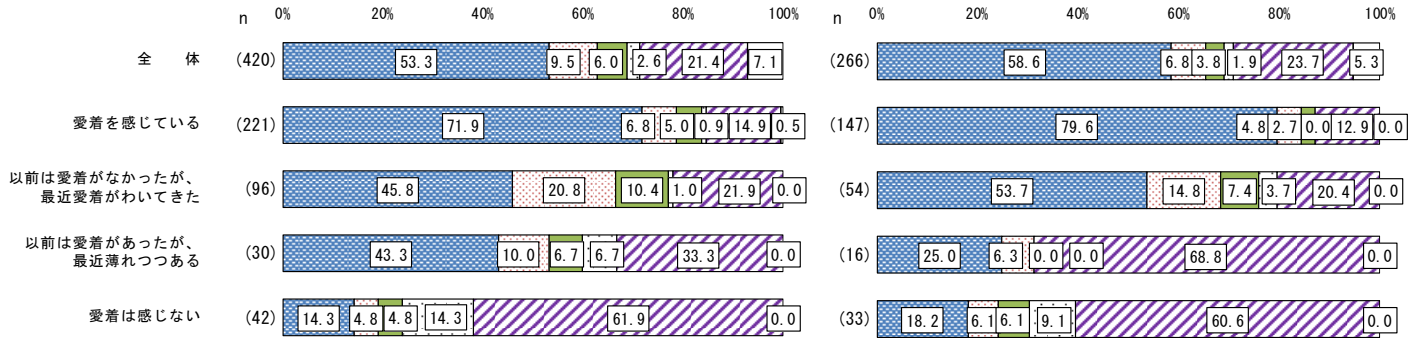


図表 2-6 定住傾向-愛着度別・居住地域別（つづき）

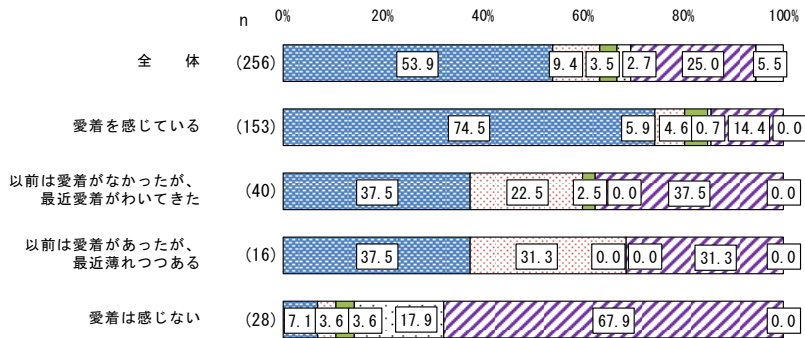


【大和地区】

【桜ヶ丘地区】



【高座渋谷地区】



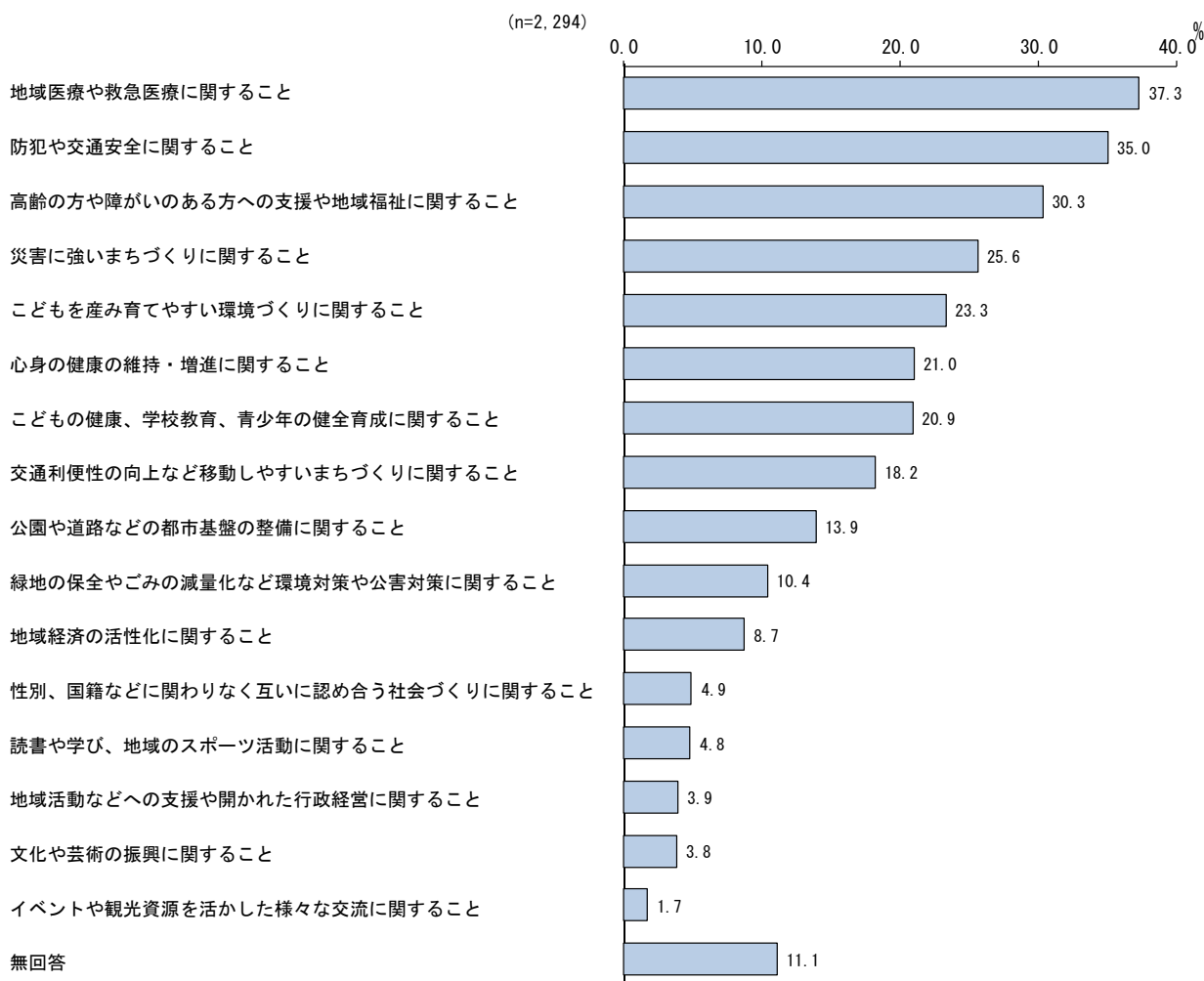
(3) 個別目標の重要度・満足度について

問3 あなたは、次に掲げるまちづくりの分野の中で、どの分野が重要と感じていますか。またどの分野に満足していますか。次の欄の1～16の中から、重要度、満足度それぞれに該当する番号を3つまで選んで記入してください。
また、(1)で選んだ中から、最も重点的に進めて欲しいと思う分野について、1つだけ番号を記入してください。

(1) あなたにとって重要度の高い分野（1～16の中から3つまで）

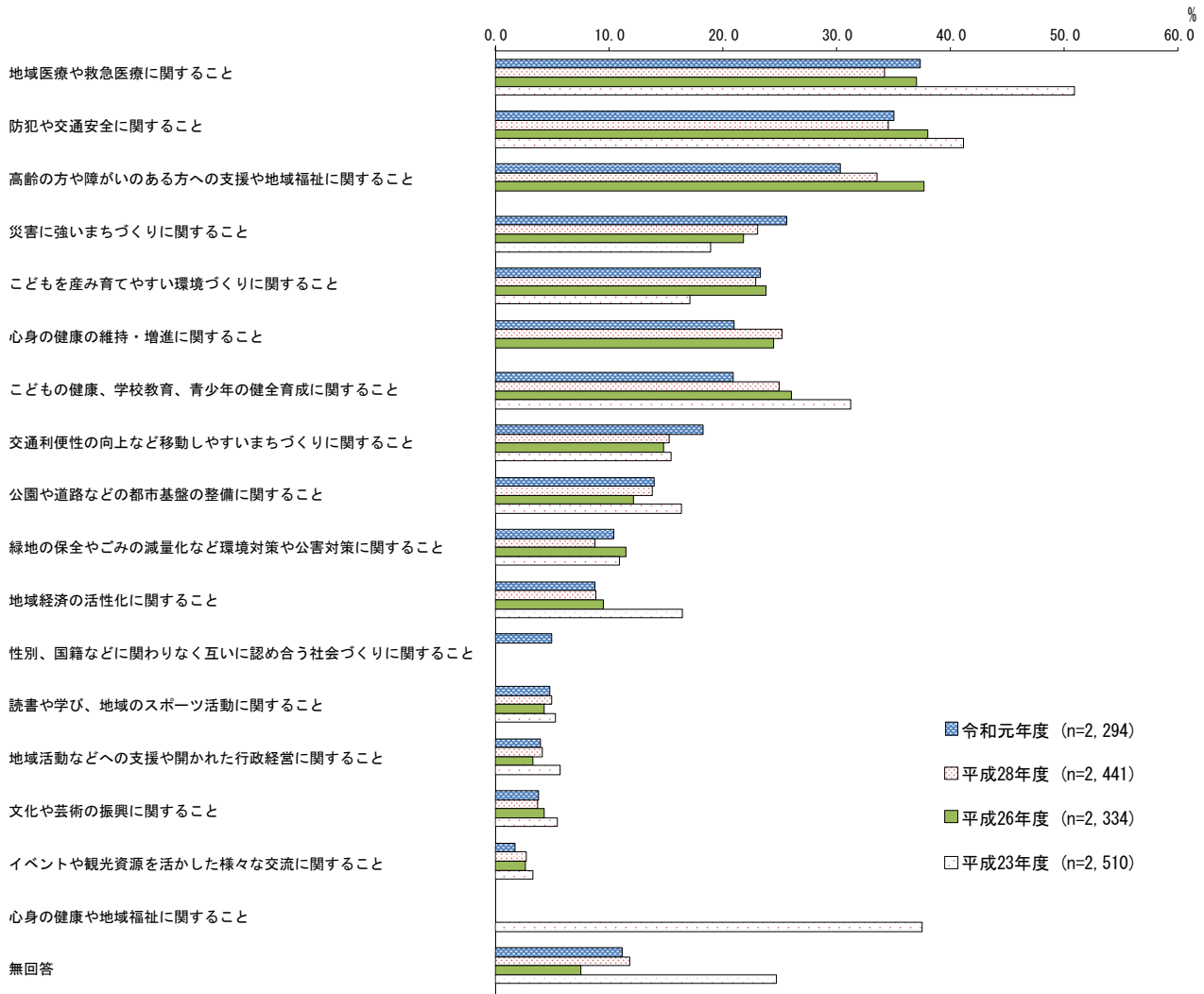
まちづくりの分野で重要度の高い分野について、「地域医療や救急医療に関すること」(37.3%)と「防犯や交通安全に関すること」(35.0%)が3割台半ば以上、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」(30.3%)が約3割となっている。次いで、「災害に強いまちづくりに関すること」(25.6%)、「子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること」(23.3%)などの順となっている。(図表3-1)

図表3-1 重要度の高い分野—全体（グラフ）



前回結果と比較すると、「地域医療や救急医療に関すること」が2位だった前回より3.1ポイント増加して今回1位となっている。「防犯や交通安全に関すること」は前回1位から今回2位となっている。また「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」はそれぞれ3位となっているが前回より3.2ポイント減少している。(図表3-2)

図表3-2 重要度の高い分野一経年比較(グラフ)



(上段：人、下段：%)

	全体	心身の健康の維持・増進に関すること	(心身の健康や地域福祉に関すること)	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
令和元年度	2,294 100.0	482 21.0	-	856 37.3	696 30.3	534 23.3	480 20.9	587 25.6	804 35.0	238 10.4
平成28年度	2,451	25.2	-	34.2	33.5	22.9	24.9	23.0	34.5	8.7
平成26年度	2,334	24.4	-	37.0	37.7	23.8	26.0	21.8	38.0	11.5
平成23年度	2,510	-	37.5	50.9	-	17.1	31.2	18.9	41.1	10.9
H28-R1比較		-4.2pt.	-	3.1pt.	-3.2pt.	0.4pt.	-4.0pt.	2.6pt.	0.5pt.	1.7pt.
H26-H28比較		0.8pt.	-	-2.8pt.	-4.2pt.	-0.9pt.	-1.1pt.	1.2pt.	-3.5pt.	-2.8pt.
H23-H26比較		-	-	-13.9pt.	-	6.7pt.	-5.2pt.	2.9pt.	-3.1pt.	0.6pt.

(上段：人、下段：%)

	全体	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
令和元年度	2,294 100.0	319 13.9	417 18.2	111 4.8	87 3.8	112 4.9	200 8.7	39 1.7	90 3.9	254 11.1
平成28年度	2,451	13.8	15.3	4.9	3.7	-	8.8	2.7	4.1	11.8
平成26年度	2,334	12.1	14.8	4.3	4.3	-	9.5	2.6	3.3	7.5
平成23年度	2,510	16.3	15.4	5.3	5.4	-	16.4	3.3	5.7	24.7
H28-R1比較		0.1pt.	2.9pt.	-0.1pt.	0.1pt.	-	-0.1pt.	-1.0pt.	-0.2pt.	-0.7pt.
H26-H28比較		1.7pt.	0.5pt.	0.6pt.	-0.6pt.	-	-0.7pt.	0.1pt.	0.8pt.	4.3pt.
H23-H26比較		-4.2pt.	-0.6pt.	-1.0pt.	-1.1pt.	-	-6.9pt.	-0.7pt.	-2.4pt.	-17.2pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男性は「防犯や交通安全に関すること」が1位、女性は「地域医療や救急医療に関すること」が1位となっている。

年齢別にみると、男女ともに年齢が上がるにつれて「心身の健康の維持・増進に関すること」と「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が増加傾向となっている。(図表3-3)

図表3-3 重要度の高い分野—性別・年齢別

単位：％

	調査数 (n)	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	青少年の健康、学校教育、こと	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,294	21.0	37.3	30.3	23.3	20.9	25.6	35.0	10.4
【男性 全体】	966	21.2	34.9	26.2	23.4	22.0	20.8	35.7	9.6
男性 10歳代	26	23.1	19.2	19.2	23.1	23.1	23.1	26.9	3.8
男性 20歳代	64	12.5	14.1	14.1	32.8	15.6	17.2	39.1	15.6
男性 30歳代	97	6.2	22.7	10.3	53.6	38.1	14.4	40.2	8.2
男性 40歳代	152	21.7	33.6	18.4	25.0	28.9	21.1	45.4	4.6
男性 50歳代	177	17.5	37.9	27.7	18.1	19.8	26.6	38.4	6.8
男性 60歳代	176	26.1	45.5	31.8	18.8	14.8	21.0	36.9	9.1
男性 70歳以上	273	27.5	37.7	34.8	15.8	19.8	19.8	26.4	14.3
【女性 全体】	1,253	20.8	39.4	33.2	23.9	20.8	29.7	35.4	11.0
女性 10歳代	29	13.8	34.5	27.6	24.1	10.3	24.1	41.4	3.4
女性 20歳代	67	11.9	29.9	13.4	56.7	17.9	19.4	44.8	10.4
女性 30歳代	146	8.2	34.9	13.0	50.7	47.3	27.4	41.8	6.2
女性 40歳代	243	19.3	41.2	25.5	22.2	31.3	36.2	44.9	8.6
女性 50歳代	228	19.3	39.9	42.1	19.7	10.1	38.2	39.0	9.6
女性 60歳代	197	25.9	42.1	44.2	18.8	15.2	33.0	32.5	12.2
女性 70歳以上	343	27.7	40.5	39.4	12.8	14.0	21.0	23.0	15.7

図表3-3 重要度の高い分野—性別・年齢別（つづき）

単位：％

	公園や道路などの都市基盤の整備に関する事	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関する事	文化や芸術の振興に関する事	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関する事	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関する事	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関する事	無回答
全体	13.9	18.2	4.8	3.8	4.9	8.7	1.7	3.9	11.1
【男性 全体】	17.5	18.4	5.4	3.1	5.6	10.7	2.4	4.3	11.9
男性 10歳代	23.1	30.8	11.5	-	30.8	7.7	-	-	7.7
男性 20歳代	28.1	29.7	14.1	7.8	4.7	9.4	7.8	3.1	10.9
男性 30歳代	18.6	18.6	3.1	2.1	9.3	4.1	3.1	1.0	12.4
男性 40歳代	25.7	16.4	8.6	3.3	2.6	11.8	3.9	2.0	7.9
男性 50歳代	18.1	22.6	4.5	2.8	5.6	14.1	2.3	4.0	10.7
男性 60歳代	14.2	13.1	5.1	2.8	5.1	13.1	1.7	4.5	11.9
男性 70歳以上	11.4	16.5	2.6	2.9	4.0	9.2	0.7	7.7	15.4
【女性 全体】	11.4	17.6	4.4	4.4	4.2	7.2	1.3	3.6	9.7
女性 10歳代	10.3	31.0	20.7	6.9	13.8	10.3	10.3	-	3.4
女性 20歳代	9.0	23.9	4.5	4.5	9.0	4.5	-	1.5	11.9
女性 30歳代	15.1	13.0	7.5	0.7	4.1	2.7	2.1	2.7	7.5
女性 40歳代	16.0	15.6	4.1	4.9	3.7	5.3	1.6	2.9	4.9
女性 50歳代	9.6	17.5	3.5	5.3	3.5	9.2	0.9	2.6	9.2
女性 60歳代	10.7	17.3	6.6	6.1	5.1	8.6	0.5	3.6	5.1
女性 70歳以上	8.7	19.0	1.2	3.8	2.9	8.5	0.9	5.8	16.9

【居住地域別】

居住地域別にみると、「防犯や交通安全に関すること」が相模大塚地区(40.0%)と大和地区(39.8%)で約4割と多くなっている。(図表3-4)

図表3-4 重要度の高い分野－居住地域別

単位：%

	調査数（n）	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみ減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,294	21.0	37.3	30.3	23.3	20.9	25.6	35.0	10.4
中央林間地区	242	24.4	38.8	29.3	26.0	19.0	27.3	37.6	14.5
つきみ野地区	221	16.3	39.8	33.0	21.3	29.0	23.1	33.0	14.5
南林間・鶴間地区	640	23.0	40.3	31.1	23.1	22.5	26.3	37.2	11.3
相模大塚地区	70	11.4	27.1	25.7	37.1	21.4	27.1	40.0	8.6
大和地区	420	23.3	38.1	30.0	23.1	21.9	25.7	39.8	8.6
桜ヶ丘地区	266	22.9	42.5	32.3	22.6	20.3	28.9	33.8	9.8
高座渋谷地区	256	19.5	34.8	33.2	29.7	20.3	29.3	33.2	9.0

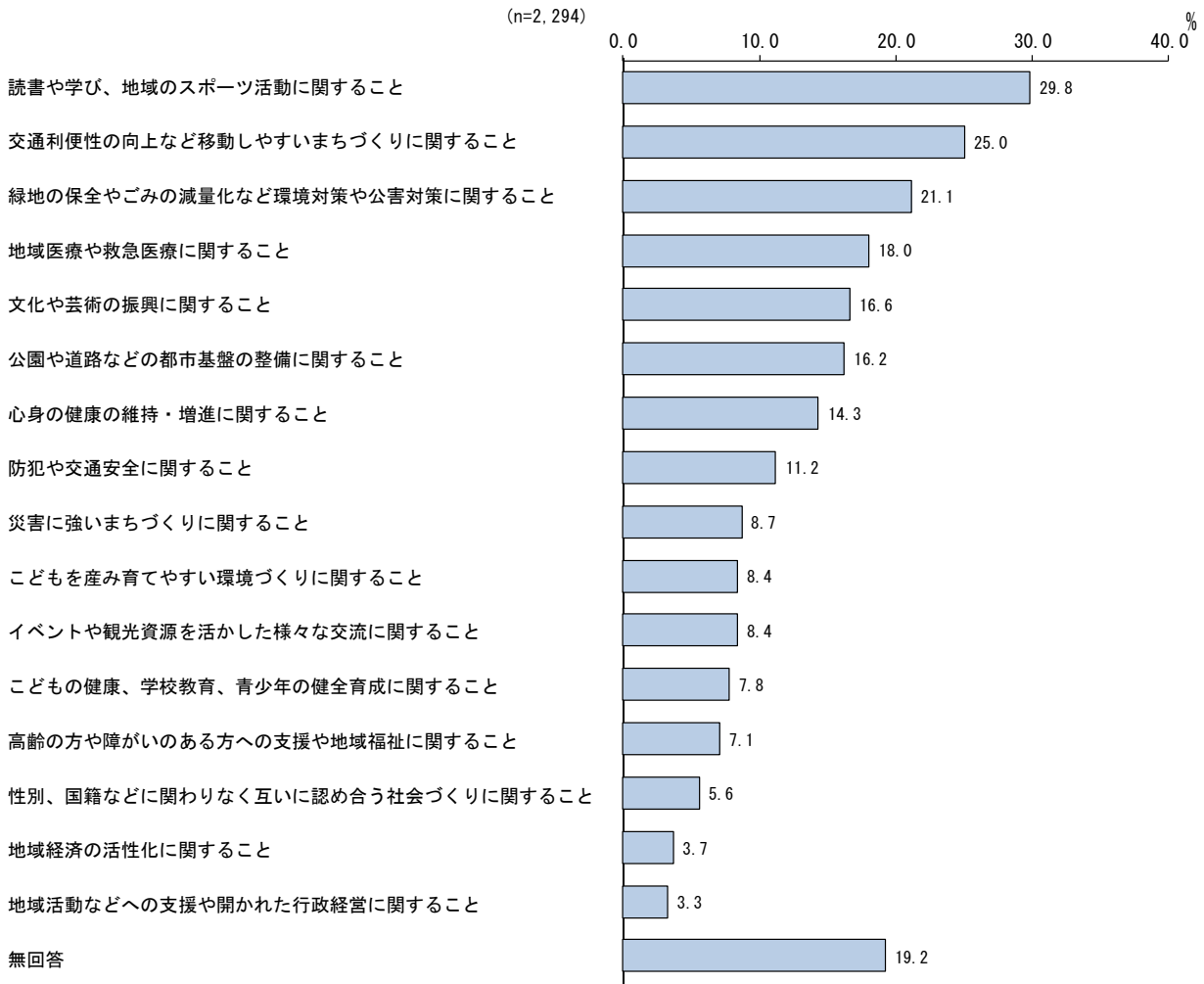
単位：%

	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	様々な交流に関する観光資源を活かしたイベントや観光資源を活かした	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全体	18.2	15.7	9.1	5.0	4.1	7.9	0.8	5.0	5.0
中央林間地区	17.6	22.6	5.9	3.6	5.4	8.1	1.8	3.2	6.3
つきみ野地区	14.4	18.0	4.2	4.2	4.5	7.0	2.0	3.8	8.1
南林間・鶴間地区	25.7	22.9	1.4	2.9	4.3	11.4	1.4	1.4	10.0
相模大塚地区	12.4	17.9	5.5	4.3	6.2	10.0	2.1	3.3	8.1
大和地区	12.8	22.6	4.9	3.4	3.8	9.8	1.9	4.9	6.8
桜ヶ丘地区	11.7	17.6	3.9	3.9	6.6	10.9	1.6	5.9	8.2
高座渋谷地区	5.6	10.1	1.1	0.6	2.8	7.8	0.6	2.2	53.6

(2) あなたにとって満足度の高い分野（1～16の中から3つまで）

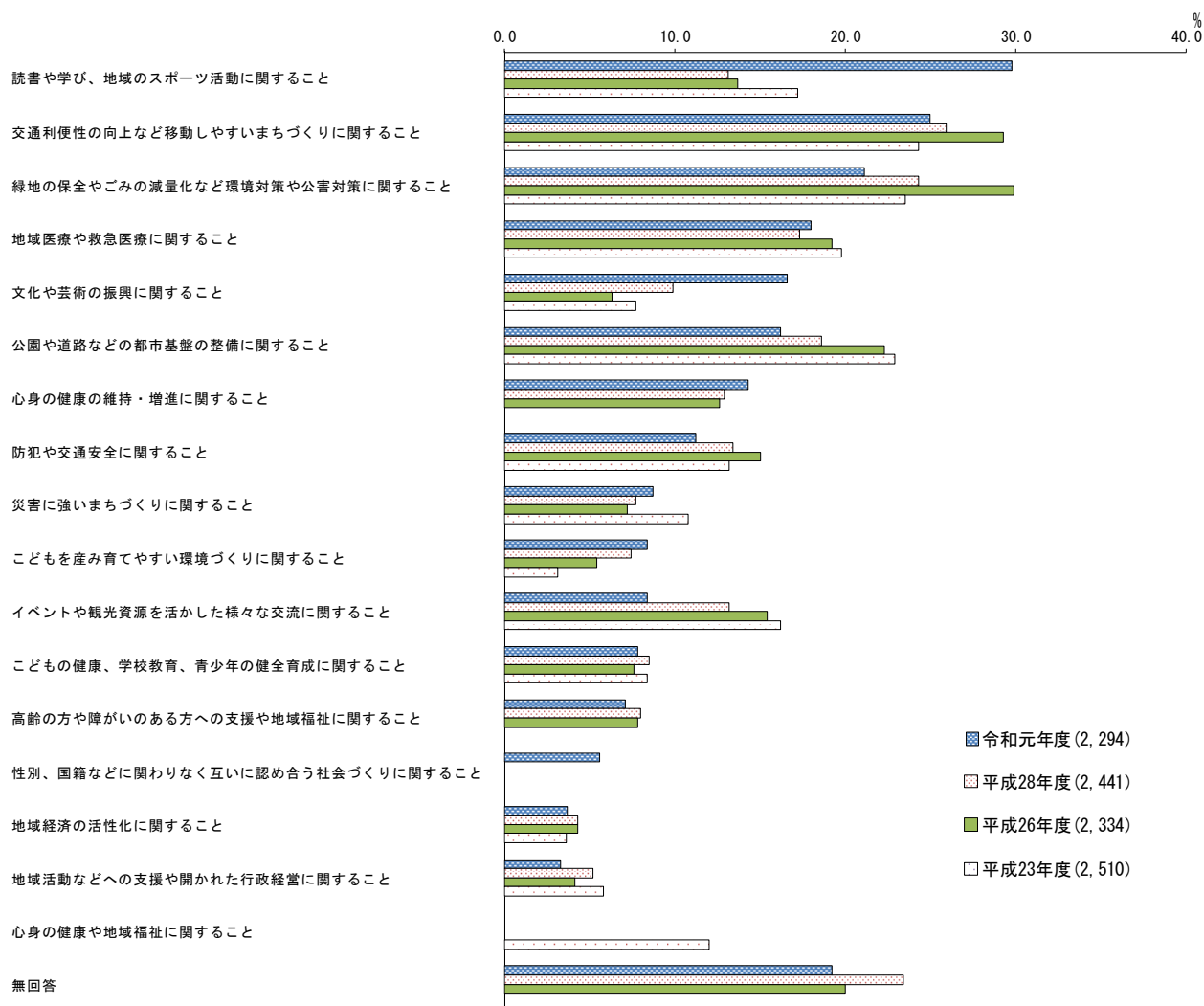
まちづくりの分野で満足度の高い分野について、「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」（29.8%）が約3割、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」（25.0%）が2割台半ばと多くなっている。次いで、「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」（21.1%）、「地域医療や救急医療に関すること」（18.0%）などの順となっている。（図表3-5）

図表3-5 満足度の高い分野—全体（グラフ）



前回結果と比較すると、「読書や学び、地域のスポーツ活動に関する事」が前回7位から今回1位になり、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関する事」が前回1位から今回2位となっている。また「文化や芸術の振興に関する事」(16.6%)が前回から6.7ポイントの増加となっている。(図表3-6)

図表3-6 満足度の高い分野一経年比較



図表3-6 満足度の高い分野一経年比較（つづき）

（上段：人、下段：％）

	全体	心身の健康の維持・増進に関すること	（心身の健康や地域福祉に関すること）	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
令和元年度	2,294 100.0	328 14.3	-	414 18.0	163 7.1	193 8.4	179 7.8	199 8.7	256 11.2	484 21.1
平成28年度	2,451	12.9	-	17.3	8.0	7.4	8.5	7.7	13.4	24.3
平成26年度	2,334	12.6	-	19.2	7.8	5.4	7.6	7.2	15.0	29.9
平成23年度	2,510	-	12.0	19.8	-	3.1	8.4	10.8	13.2	23.5
H28-R1比較		1.4pt.	-	0.7pt.	-0.9pt.	1.0pt.	-0.7pt.	1.0pt.	-2.2pt.	-3.2pt.
H26-H28比較		0.3pt.	-	-1.9pt.	0.2pt.	2.0pt.	0.9pt.	0.5pt.	-1.6pt.	-5.6pt.
H23-H26比較		-	-	-0.6pt.	-	2.3pt.	-0.8pt.	-3.6pt.	1.8pt.	6.4pt.

（上段：人、下段：％）

	全体	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
令和元年度	2,294 100.0	372 16.2	574 25.0	683 29.8	381 16.6	129 5.6	84 3.7	192 8.4	76 3.3	441 19.2
平成28年度	2,451	18.6	25.9	13.1	9.9	-	4.3	13.2	5.2	23.4
平成26年度	2,334	22.3	29.3	13.7	6.3	-	4.3	15.4	4.1	20.0
平成23年度	2,510	22.9	24.3	17.2	7.7	-	3.6	16.2	5.8	-
H28-R1比較		-2.4pt.	-0.9pt.	16.7pt.	6.7pt.	-	-0.6pt.	-4.8pt.	-1.9pt.	-4.2pt.
H26-H28比較		-3.7pt.	-3.4pt.	-0.6pt.	3.6pt.	-	0.0pt.	-2.2pt.	1.1pt.	3.4pt.
H23-H26比較		-0.6pt.	5.0pt.	-3.5pt.	-1.4pt.	-	0.7pt.	-0.8pt.	-1.7pt.	-

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」が高くなっている。

年齢別にみると、男性 60 歳代で「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」(30.1%) が約 3 割、女性 40 歳代で「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」(40.7%) が約 4 割と多くなっている。(図表 3-7)

図表 3-7 満足度の高い分野—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,294	14.3	18.0	7.1	8.4	7.8	8.7	11.2	21.1
【男性 全体】	966	12.8	18.5	7.2	7.7	7.7	9.9	12.5	20.6
男性 10歳代	26	11.5	11.5	11.5	11.5	23.1	3.8	3.8	15.4
男性 20歳代	64	12.5	14.1	9.4	9.4	10.9	6.3	12.5	15.6
男性 30歳代	97	11.3	21.6	5.2	10.3	5.2	11.3	9.3	10.3
男性 40歳代	152	14.5	16.4	5.9	12.5	8.6	10.5	10.5	15.1
男性 50歳代	177	10.7	19.8	6.2	6.8	7.3	10.2	15.3	19.2
男性 60歳代	176	7.4	15.9	7.4	5.7	6.8	9.7	14.8	30.1
男性 70歳以上	273	17.2	20.9	8.4	5.1	6.6	10.6	12.5	23.8
【女性 全体】	1,253	15.6	17.4	6.7	9.1	8.0	7.6	10.0	21.5
女性 10歳代	29	13.8	10.3	10.3	10.3	-	10.3	13.8	20.7
女性 20歳代	67	16.4	7.5	1.5	10.4	7.5	10.4	11.9	14.9
女性 30歳代	146	12.3	23.3	6.2	18.5	8.2	6.8	8.2	14.4
女性 40歳代	243	13.2	18.1	2.9	14.8	8.2	8.2	8.2	17.7
女性 50歳代	228	11.0	15.8	3.9	8.3	7.5	3.5	8.3	22.4
女性 60歳代	197	21.3	19.3	8.1	6.1	10.2	6.1	12.7	23.4
女性 70歳以上	343	18.7	16.9	11.4	2.9	7.6	10.2	10.8	26.8

図表3-7 満足度の高い分野—性別・年齢別（つづき）

単位：％

	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
全体	16.2	25.0	29.8	16.6	5.6	3.7	8.4	3.3	19.2
【男性 全体】	18.1	25.8	28.2	14.4	5.2	4.1	6.9	3.4	20.4
男性 10歳代	15.4	30.8	19.2	3.8	11.5	15.4	3.8	3.8	15.4
男性 20歳代	17.2	25.0	28.1	17.2	9.4	4.7	10.9	1.6	10.9
男性 30歳代	22.7	27.8	23.7	10.3	6.2	1.0	3.1	2.1	25.8
男性 40歳代	17.1	24.3	31.6	11.8	3.9	4.6	5.9	1.3	18.4
男性 50歳代	17.5	26.0	34.5	14.7	5.6	2.3	7.9	5.1	19.8
男性 60歳代	16.5	26.1	30.1	13.1	6.3	4.0	7.4	4.5	22.2
男性 70歳以上	19.0	24.9	23.4	18.3	2.9	5.1	7.3	3.7	21.6
【女性 全体】	15.4	24.8	32.0	18.8	6.2	3.1	9.5	3.4	17.1
女性 10歳代	17.2	20.7	31.0	17.2	13.8	-	24.1	6.9	6.9
女性 20歳代	14.9	31.3	35.8	14.9	7.5	1.5	7.5	3.0	20.9
女性 30歳代	14.4	27.4	37.7	15.1	6.2	2.7	10.3	1.4	12.3
女性 40歳代	21.0	19.8	40.7	20.6	7.8	3.7	8.6	2.9	11.9
女性 50歳代	11.0	26.8	36.8	17.1	4.8	2.6	10.5	2.2	18.9
女性 60歳代	17.3	28.9	33.5	17.8	4.1	4.1	12.2	3.0	13.2
女性 70歳以上	13.7	22.7	18.7	21.6	6.4	3.2	6.7	5.2	23.9

【居住地域別】

居住地域別にみると、南林間・鶴間地区で「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」が3割台半ば、桜ヶ丘地区、高座渋谷地区で「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」が2割台半ばと他の地域と比べて多くなっている。(図表3-8)

図表3-8 満足度の高い分野－居住地域別

単位：%

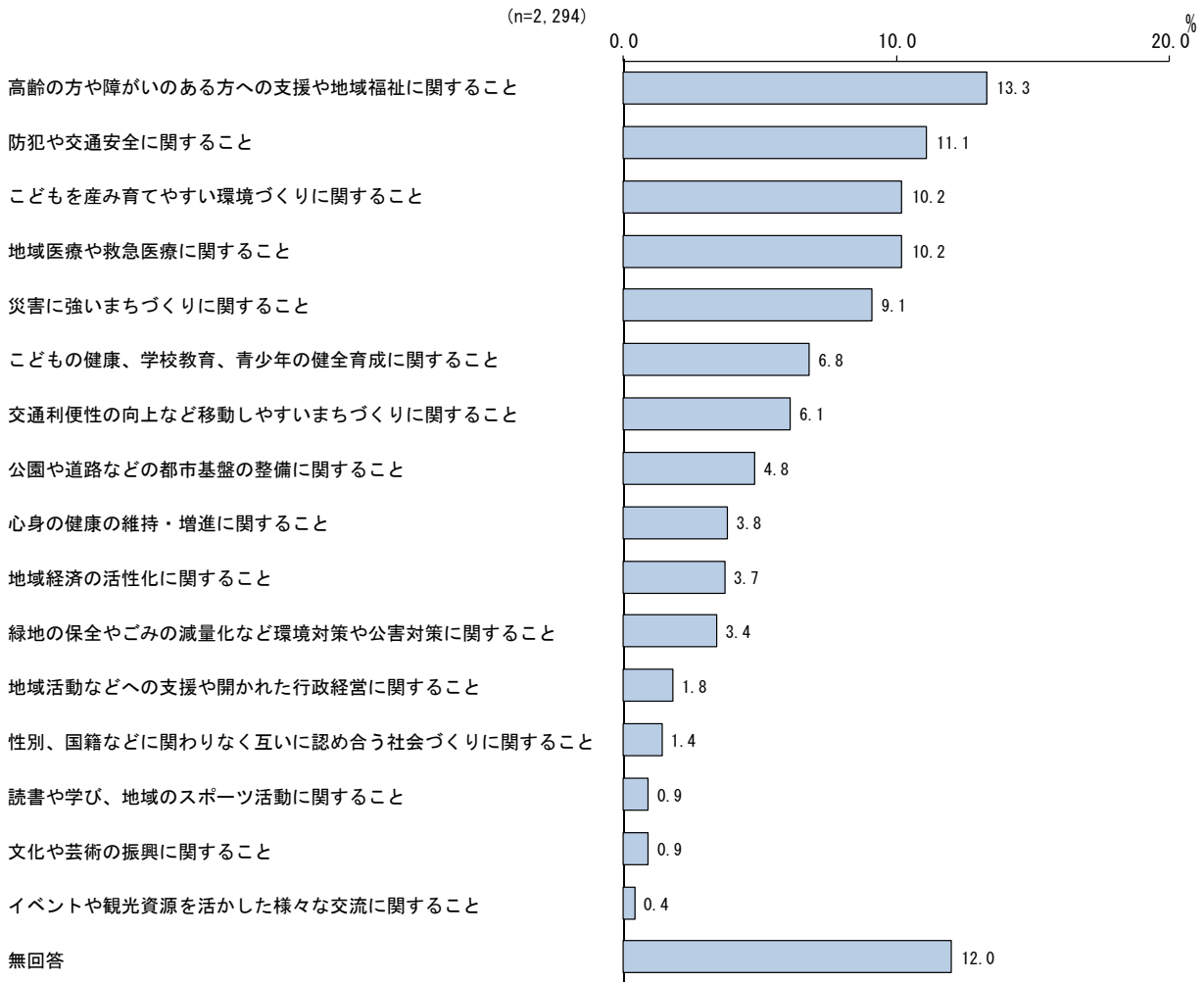
	調査数 (n)	心身の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,294	14.3	18.0	7.1	8.4	7.8	8.7	11.2	21.1
中央林間地区	242	15.7	17.4	5.8	7.9	9.1	5.8	8.3	19.4
つきみ野地区	221	11.8	17.2	7.7	10.9	7.2	10.9	19.9	20.4
南林間・鶴間地区	640	14.2	21.6	7.8	11.3	9.2	10.2	12.3	21.7
相模大塚地区	70	14.3	22.9	2.9	2.9	8.6	5.7	17.1	21.4
大和地区	420	13.6	14.8	5.0	8.3	6.4	5.5	7.4	22.1
桜ヶ丘地区	266	19.5	18.4	9.0	9.0	8.3	10.2	9.8	25.9
高座渋谷地区	256	16.0	19.9	10.9	4.7	8.2	12.9	11.3	23.4

	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	様々な交流に関すること	イベントや観光資源を活かした地域活動などへの支援や開かれた地域活動に関すること	無回答
全体	16.5	30.2	40.1	17.8	3.7	4.5	5.4	2.5	14.5
中央林間地区	15.4	20.4	30.8	16.7	5.4	3.2	5.9	5.4	15.8
つきみ野地区	15.6	26.1	29.7	15.6	5.2	4.4	7.7	3.3	15.8
南林間・鶴間地区	20.0	34.3	31.4	20.0	11.4	-	12.9	4.3	15.7
相模大塚地区	16.0	30.5	37.6	19.8	7.4	4.8	13.1	3.1	14.8
大和地区	21.4	20.3	25.9	17.7	5.3	3.0	10.2	4.1	14.3
桜ヶ丘地区	16.8	24.6	24.2	18.4	5.1	3.1	9.0	2.0	18.4
高座渋谷地区	9.5	11.2	9.5	5.6	5.0	1.1	1.7	2.8	62.6

(3) あなたが最も重点的に進めてほしいと思う分野（(1)で選んだ中から1つだけ）

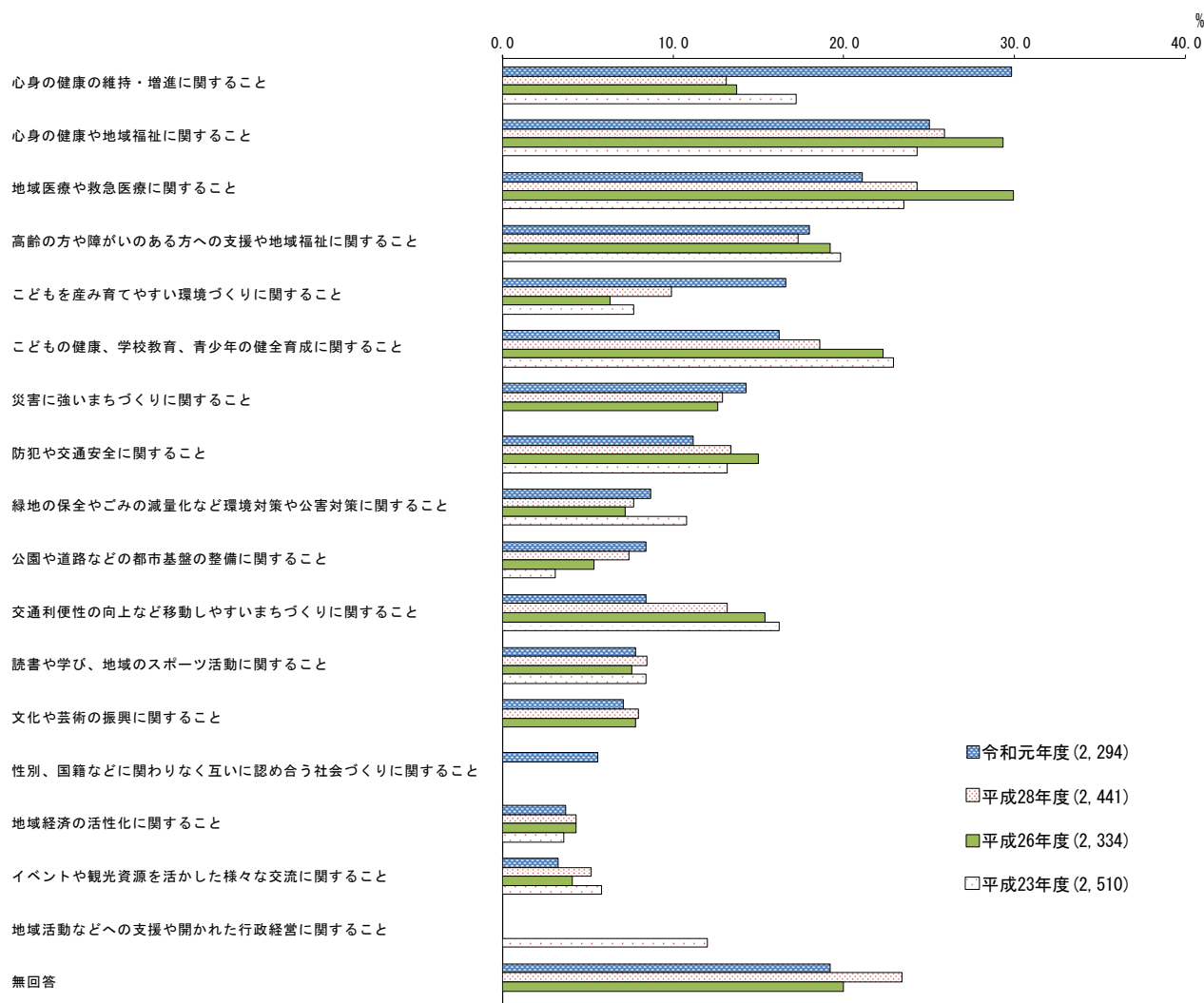
まちづくりの分野で最も重点的に進めてほしいと思う分野について、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関する事」（13.3%）が最も多く、次いで「防犯や交通安全に関する事」（11.1%）、「子どもを産み育てやすい環境づくりに関する事」、「地域医療や救急医療に関する事」とともに（10.2%）などの順となっている。（図表3-9）

図表3-9 最も重点的に進めてほしい分野—全体（グラフ）



前回結果と比較すると、「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が1位、「防犯や交通安全に関すること」が2位と前回同様となっている。(図表3-10)

図表3-10 最も重点的に進めてほしい分野一経年比較



図表3-10 最も重点的に進めてほしい分野—経年比較（つづき）

（上段：人、下段：％）

	全体	心身の健康の維持・増進に関すること	（心身の健康や地域福祉に関すること）	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
令和元年度	2,294 100.0	88 3.8		233 10.2	305 13.3	235 10.2	155 6.8	209 9.1	254 11.1	77 3.4
平成28年度	2,451	5.0	-	9.1	15.2	10.4	8.3	8.9	11.3	2.1
平成26年度	2,334	4.5	-	9.3	17.7	11.7	7.3	7.6	12.1	3.1
平成23年度	2,510	-	10.9	17.2	-	6.9	11.5	6.0	12.4	3.2
H28-R1比較		-1.2pt.	-	1.1pt.	-1.9pt.	-0.2pt.	-1.5pt.	0.2pt.	-0.2pt.	1.3pt.
H26-H28比較		0.5pt.	-	-0.2pt.	-2.5pt.	-1.3pt.	1.0pt.	1.3pt.	-0.8pt.	-1.0pt.
H23-H26比較		-	-	-7.9pt.	-	4.8pt.	-4.2pt.	1.6pt.	-0.3pt.	-0.1pt.

（上段：人、下段：％）

	全体	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること	文化や芸術の振興に関すること	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関すること	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	無回答
令和元年度	2,294 100.0	111 4.8	141 6.1	20 0.9	21 0.9	33 1.4	86 3.7	9 0.4	41 1.8	276 12.0
平成28年度	2,451	4.1	4.7	1.1	1.1	-	4.1	0.7	1.3	12.5
平成26年度	2,334	4.2	4.5	1.2	1.8	-	4.5	0.7	1.5	8.5
平成23年度	2,510	5.1	5.1	0.8	2.1	-	8.1	1.0	2.2	7.5
H28-R1比較		0.7pt.	1.4pt.	-0.2pt.	-0.2pt.	-	-0.4pt.	-0.3pt.	0.5pt.	-0.5pt.
H26-H28比較		-0.1pt.	0.2pt.	-0.1pt.	-0.7pt.	-	-0.4pt.	0.0pt.	-0.2pt.	4.0pt.
H23-H26比較		-0.9pt.	-0.6pt.	0.4pt.	-0.3pt.	-	-3.6pt.	-0.3pt.	-0.7pt.	1.0pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」が1位、「防犯や交通安全に関すること」が2位となっている。

年齢別にみると、男性30歳代と女性20歳代で「こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること」が3割台となっている。(図表3-11)

図表3-11 最も重点的に進めてほしい分野—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	関心の健康の維持・増進に関すること	地域医療や救急医療に関すること	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること	こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること	こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること	災害に強いまちづくりに関すること	防犯や交通安全に関すること	緑地の保全やごみの減量など環境対策や公害対策に関すること
全体	2,294	3.8	10.2	13.3	10.2	6.8	9.1	11.1	3.4
【男性 全体】	966	4.1	10.7	10.9	10.4	7.0	8.0	10.8	3.0
男性 10歳代	26	3.8	-	7.7	3.8	7.7	11.5	15.4	3.8
男性 20歳代	64	-	1.6	4.7	20.3	7.8	4.7	12.5	3.1
男性 30歳代	97	1.0	8.2	2.1	33.0	12.4	6.2	9.3	2.1
男性 40歳代	152	2.6	8.6	11.2	11.2	9.9	9.2	16.4	-
男性 50歳代	177	4.5	11.3	13.6	3.4	6.8	9.6	9.6	2.3
男性 60歳代	176	7.4	16.5	11.4	8.5	2.3	6.3	10.8	4.5
男性 70歳以上	273	4.8	11.7	13.6	5.5	6.6	8.4	8.1	4.4
【女性 全体】	1,253	3.7	10.0	15.5	10.5	6.7	10.1	11.4	3.6
女性 10歳代	29	3.4	6.9	10.3	6.9	3.4	13.8	20.7	-
女性 20歳代	67	-	4.5	1.5	34.3	3.0	6.0	16.4	3.0
女性 30歳代	146	0.7	6.2	5.5	29.5	15.8	8.9	8.9	4.1
女性 40歳代	243	4.5	12.3	9.9	7.8	11.5	12.8	16.9	2.9
女性 50歳代	228	3.1	12.3	19.3	6.6	3.5	12.3	11.4	3.1
女性 60歳代	197	5.1	9.1	23.9	6.6	4.1	10.7	11.2	4.1
女性 70歳以上	343	4.7	10.2	19.5	4.7	4.1	7.6	7.0	4.4

図表3-11 最も重点的に進めてほしい分野－性別・年齢別（つづき）

単位：％

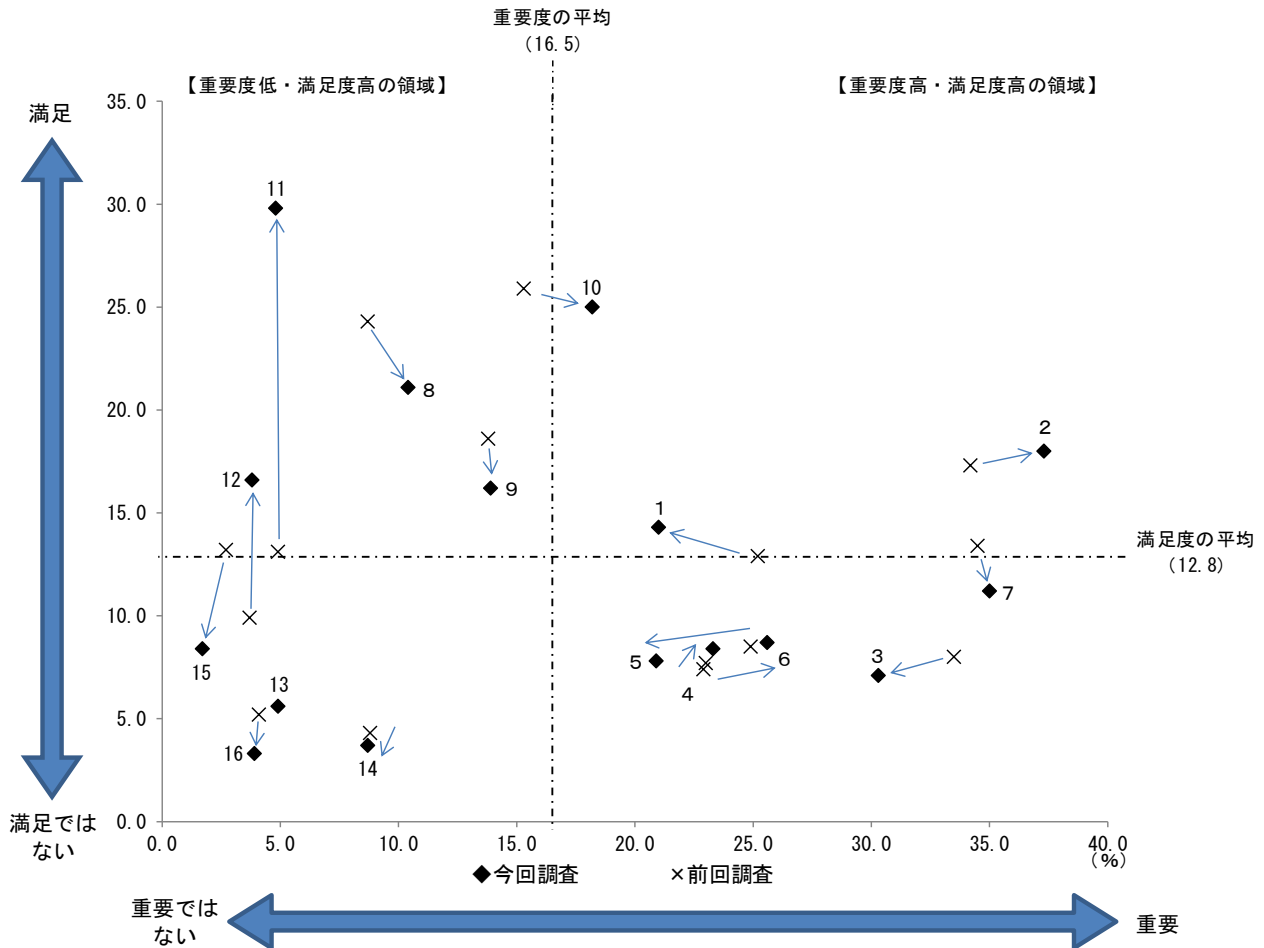
	公園や道路などの都市基盤の整備に関する事	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること	読書や学び、地域のスポーツ活動に関する事	文化や芸術の振興に関する事	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること	地域経済の活性化に関する事	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関する事	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関する事	無回答
全体	4.8	6.1	0.9	0.9	1.4	3.7	0.4	1.8	12.0
【男性 全体】	6.4	5.0	0.8	0.9	1.8	4.1	0.6	2.6	12.9
男性 10歳代	7.7	3.8	3.8	-	15.4	3.8	-	-	11.5
男性 20歳代	10.9	4.7	1.6	3.1	3.1	6.3	-	3.1	12.5
男性 30歳代	2.1	6.2	-	1.0	2.1	1.0	1.0	-	12.4
男性 40歳代	7.2	5.3	0.7	1.3	0.7	3.9	2.0	-	9.9
男性 50歳代	9.0	5.6	-	1.1	2.3	7.9	0.6	1.7	10.7
男性 60歳代	4.5	2.8	1.7	0.6	1.1	5.1	0.6	3.4	12.5
男性 70歳以上	5.9	5.5	0.7	0.4	0.7	1.8	-	5.1	16.8
【女性 全体】	3.6	6.8	0.9	1.0	1.2	3.3	0.2	1.2	10.5
女性 10歳代	3.4	10.3	6.9	-	3.4	-	3.4	-	6.9
女性 20歳代	4.5	6.0	-	1.5	1.5	3.0	-	1.5	13.4
女性 30歳代	3.4	4.1	1.4	-	0.7	1.4	1.4	0.7	7.5
女性 40歳代	6.2	5.3	0.8	0.4	1.2	1.6	-	0.4	5.3
女性 50歳代	3.5	6.6	0.9	0.9	1.3	3.9	-	1.3	10.1
女性 60歳代	2.0	8.6	1.0	1.5	1.0	4.6	-	1.0	5.6
女性 70歳以上	2.6	7.9	0.3	1.5	1.2	4.4	-	2.0	18.1

(4) 個別目標の重要度・満足度

縦軸を満足度、横軸を重要度とし、各施策に対する回答の割合を座標で示した。重要度と満足度の平均値を中間線で区分し、各施策に対する回答結果を4つの領域に分けて示している。

(図表 3-12)

図表 3-12 個別目標の重要度・満足度ークロス分析



	分野
1	心身の健康の維持・増進に関すること
2	地域医療や救急医療に関すること
3	高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること
4	子どもを産み育てやすい環境づくりに関すること
5	子どもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること
6	災害に強いまちづくりに関すること
7	防犯や交通安全に関すること
8	緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること
9	公園や道路などの都市基盤の整備に関すること
10	交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること
11	読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること
12	文化や芸術の振興に関すること
13	性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること
14	地域経済の活性化に関すること
15	イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること
16	地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること

図表 3-13 個別目標の重要度・満足度－クロス分析の詳細

満足 ↑	【重要度低・満足度高の領域】 8 緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること 9 公園や道路などの都市基盤の整備に関すること 11 読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること 12 文化や芸術の振興に関すること	【重要度高・満足度高の領域】 1 心身の健康の維持・増進に関すること 2 地域医療や救急医療に関すること 10 交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること
↓ 満足ではない	【重要度低・満足度低の領域】 13 性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること 14 地域経済の活性化に関すること 15 イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること 16 地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること	【重要度高・満足度低の領域】 3 高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること 4 こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること 5 こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること 6 災害に強いまちづくりに関すること 7 防犯や交通安全に関すること
	← 重要ではない	→ 重要

重要度・満足度ともに高い領域には「心身の健康の維持・増進に関すること」、「地域医療や救急医療に関すること」、「交通利便性の向上など移動しやすいまちづくりに関すること」がある。この領域にある施策は、質・量ともに住民のニーズに即していると考えられる。

重要度が高く満足度が低い領域には「高齢の方や障がいのある方への支援や地域福祉に関すること」、「こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること」、「こどもの健康、学校教育、青少年の健全育成に関すること」、「災害に強いまちづくりに関すること」、「防犯や交通安全に関すること」がある。この領域については、施策の充実について検討していく必要があると考えられる。

重要度が低く満足度が高い領域には「緑地の保全やごみの減量化など環境対策や公害対策に関すること」、「公園や道路などの都市基盤の整備に関すること」、「読書や学び、地域のスポーツ活動に関すること」、「文化や芸術の振興に関すること」がある。この領域については、施策が効果的に推進されてきたと捉えることもでき、提供するサービスの量について検討する必要があると考えられる。

重要度・満足度ともに低い領域には「性別、国籍などに関わりなく互いに認め合う社会づくりに関すること」、「地域経済の活性化に関すること」、「イベントや観光資源を活かした様々な交流に関すること」、「地域活動などへの支援や開かれた行政経営に関すること」がある。この領域については、施策のあり方や効果的な推進方法について検討する必要があると考えられる。(図表 3-13)

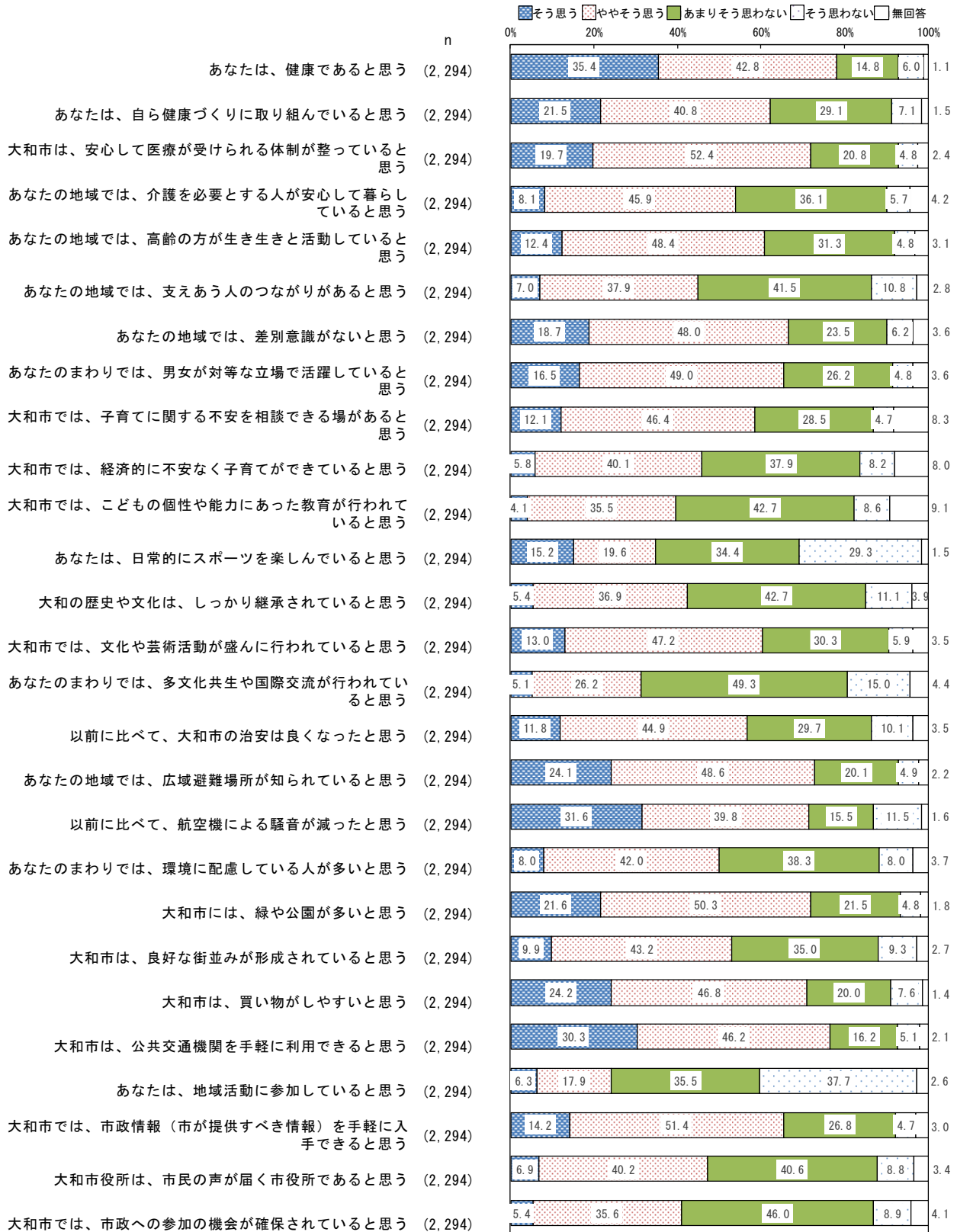
(4) 成果を計る指標について

問4 あなたは次にあげる項目についてどう思われますか。1～27の項目それぞれについて、「そう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の中から選んで番号に○印をつけてください。(それぞれ○印は1つ)

成果を計る指標について、「そう思う」と「ややそう思う」の合計(以下【そう思う】という)が6割以上となっている項目は、「あなたは、健康であると思う」(78.2%)、「大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う」(76.5%)、「あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う」(72.7%)、「大和市は安心して医療が受けられる体制が整っていると思う」(72.1%)、「大和市には、緑や公園が多いと思う」(71.9%)、「以前に比べて、航空機による騒音が減ったと思う」(71.4%)、「大和市は、買い物がしやすいと思う」(71.0%)、「あなたの地域では、差別意識がないと思う」(66.7%)、「大和市では、市政情報(市が提供すべき情報)を手軽に入手できると思う」(65.6%)、「あなたのまわりでは、男女が対等な立場で活躍していると思う」(65.5%)、「あなたは自ら健康づくりに取り組んでいると思う」(62.3%)、「あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う」(60.8%)、「大和市では、文化や芸術活動が盛んに行われていると思う」(60.2%)、の13項目となっている。(図表4-1)

また、第8次大和市総合計画・後期基本計画において成果を計る指標に設定している19項目のうち、最終年度目標値を達成したものは、「あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う」(60.8%、最終目標値:57.0%)、「大和市では、文化や芸術活動が盛んに行われていると思う」(60.2%、最終目標値:56.4%)、「あなたのまわりでは、多文化共生や国際交流が行われていると思う」(31.3%、最終目標値:30.0%)、「以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う」(56.7%、最終目標値:50.0%)、「あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う」(72.7%、最終目標値:70.3%)、「大和市には、緑や公園が多いと思う」(71.9%、最終目標値:70.5%)、「大和市は、良好な街並みが形成されていると思う」(53.1%、最終目標値:52.0%)の7項目となっている。

図表4-1 成果を計る指標-全体 (グラフ)



図表4-1 成果を計る指標—全体（つづき）

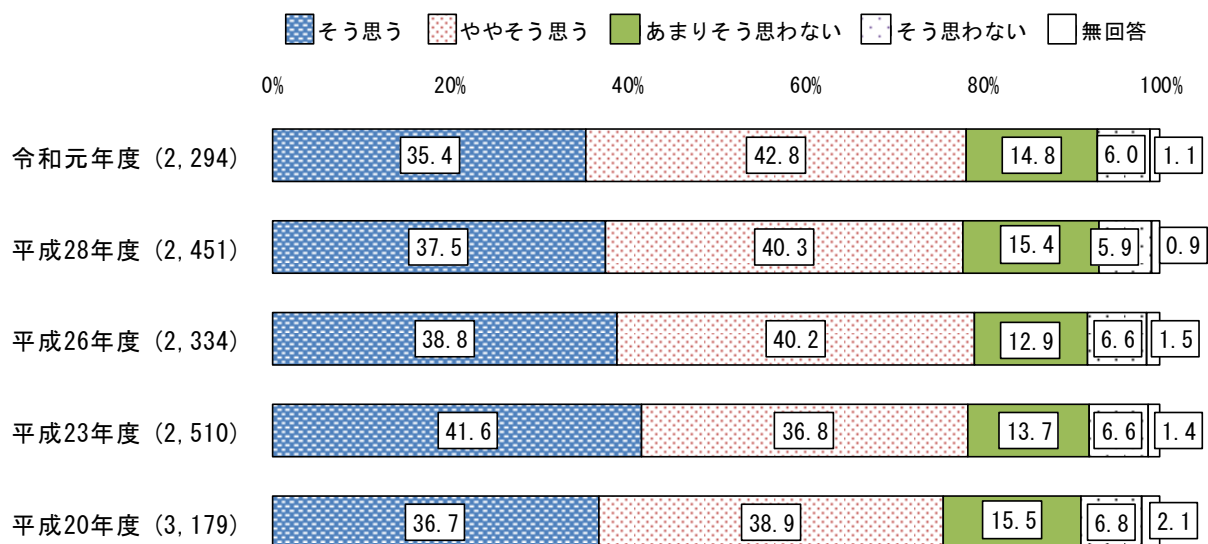
（単位：％）

n = 2,294		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
【健康・医療・福祉・人権】	あなたは、健康であると思う	35.4	42.8	14.8	6.0	1.1
	あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う	21.5	40.8	29.1	7.1	1.5
	大和市は、安心して医療が受けられる体制が整っていると思う	19.7	52.4	20.8	4.8	2.4
	あなたの地域では、介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う	8.1	45.9	36.1	5.7	4.2
	あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う	12.4	48.4	31.3	4.8	3.1
	あなたの地域では、支えあう人のつながりがあると思う	7.0	37.9	41.5	10.8	2.8
	あなたの地域では、差別意識がないと思う	18.7	48.0	23.5	6.2	3.6
	あなたのまわりでは、男女が対等な立場で活躍していると思う	16.5	49.0	26.2	4.8	3.6
【こども】	大和市では、子育てに関する不安を相談できる場があると思う	12.1	46.4	28.5	4.7	8.3
	大和市では、経済的に不安なく子育てができていると思う	5.8	40.1	37.9	8.2	8.0
	大和市では、こどもの個性や能力にあった教育が行われていると思う	4.1	35.5	42.7	8.6	9.1
【スポーツ・文化・国際交流】	あなたは、日常的にスポーツを楽しんでいると思う	15.2	19.6	34.4	29.3	1.5
	大和の歴史や文化は、しっかり継承されていると思う	5.4	36.9	42.7	11.1	3.9
	大和市では、文化や芸術活動が盛んに行われていると思う	13.0	47.2	30.3	5.9	3.5
	あなたのまわりでは、多文化共生や国際交流が行われていると思う	5.1	26.2	49.3	15.0	4.4
【安全・安心】	以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う	11.8	44.9	29.7	10.1	3.5
	あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う	24.1	48.6	20.1	4.9	2.2
	以前に比べて、航空機による騒音が減ったと思う	31.6	39.8	15.5	11.5	1.6
【環境・緑・公園】	あなたのまわりでは、環境に配慮している人が多いと思う	8.0	42.0	38.3	8.0	3.7
	大和市には、緑や公園が多いと思う	21.6	50.3	21.5	4.8	1.8
【都市環境】	大和市は、良好な街並みが形成されていると思う	9.9	43.2	35.0	9.3	2.7
	大和市は、買い物しやすいと思う	24.2	46.8	20.0	7.6	1.4
	大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う	30.3	46.2	16.2	5.1	2.1
【地域活動】	あなたは、地域活動に参加していると思う	6.3	17.9	35.5	37.7	2.6
【開かれた行政】	大和市では、市政情報（市が提供すべき情報）を手軽に入手できると思う	14.2	51.4	26.8	4.7	3.0
	大和市役所は、市民の声が届く市役所であると思う	6.9	40.2	40.6	8.8	3.4
	大和市では、市政への参加の機会が確保されていると思う	5.4	35.6	46.0	8.9	4.1

1. あなたは、健康であると思う

【そう思う】は78.2%で前回結果（77.8%）と比較して0.4ポイント増加している。（図表4-2）

図表4-2 成果を計る指標—経年比較（グラフ）

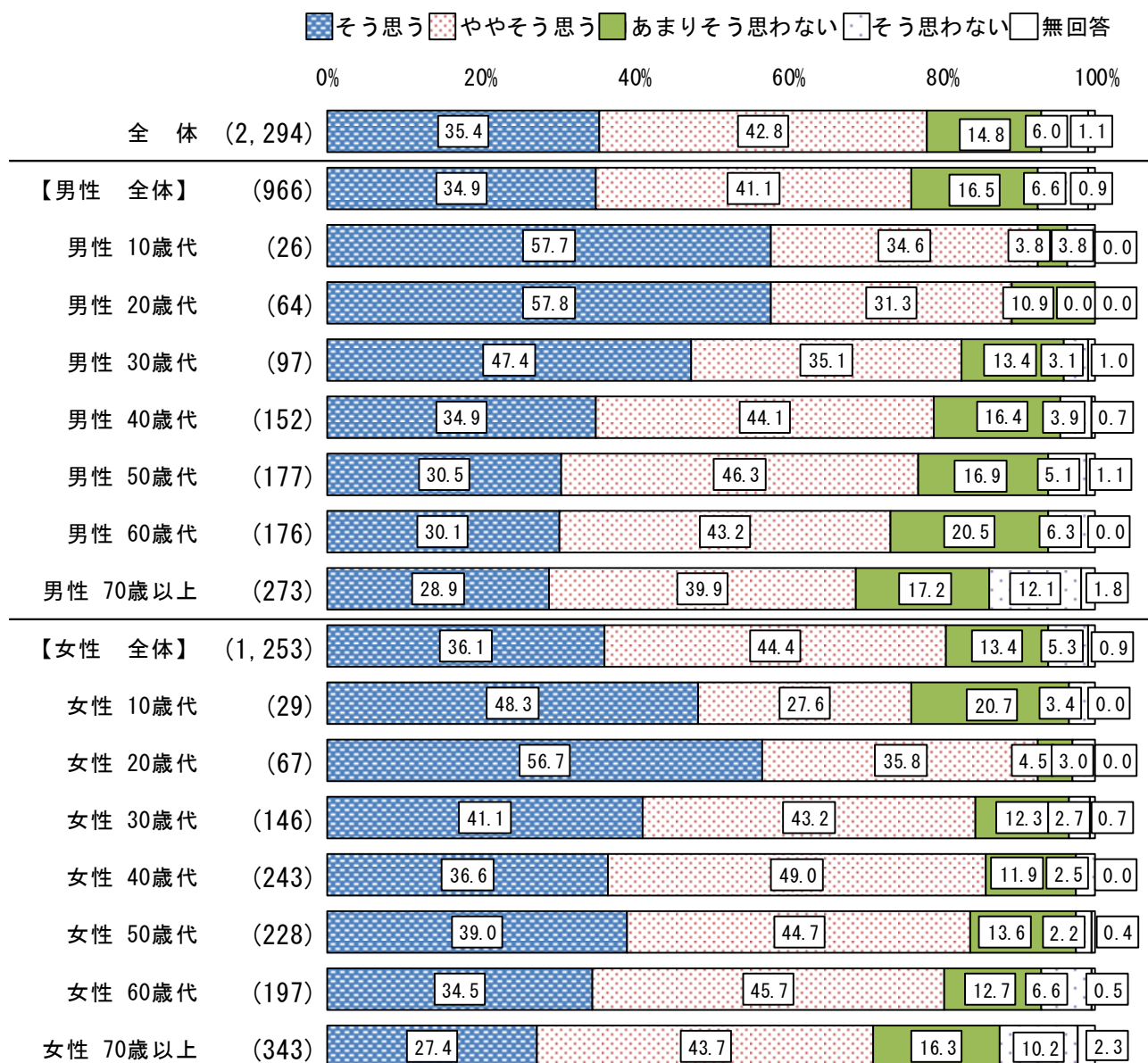


【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(80.5%)は男性の【そう思う】(76.0%)よりも4.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男性20歳代で【そう思う】(89.1%)と回答した人が9割近くとなっている。また、男性70歳以上では【そう思う】(68.9%)と回答した人が7割弱となっている。(図表4-3)

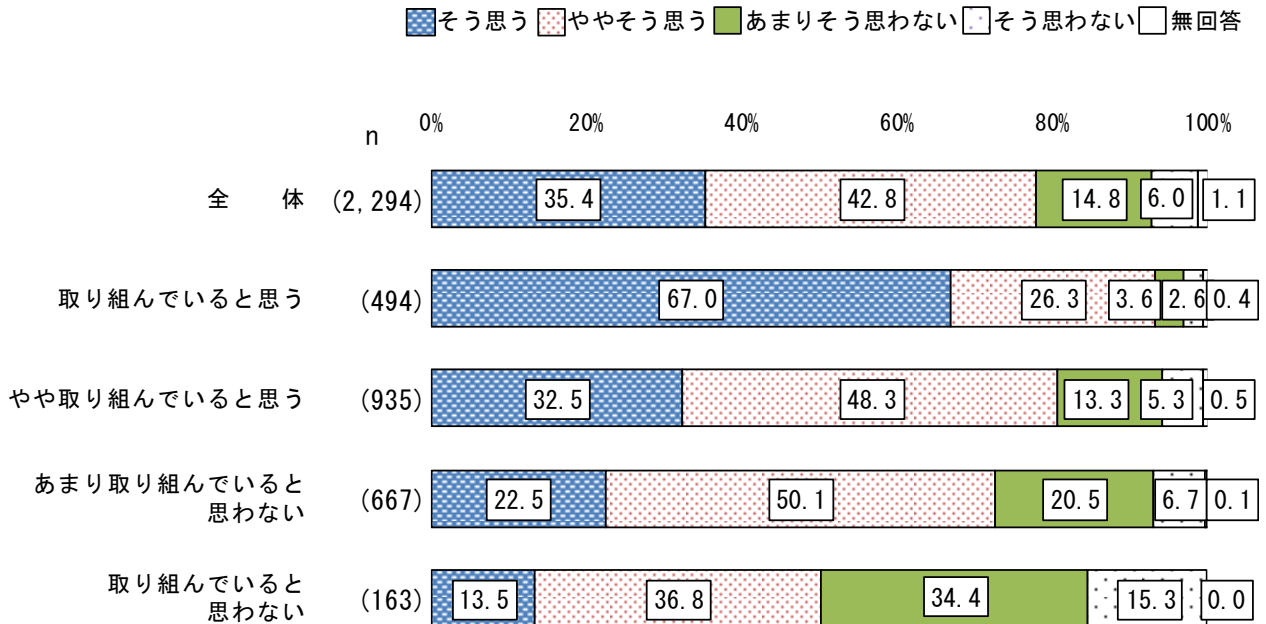
図表4-3 成果を計る指標—性別・年齢別



【健康づくりへの取り組み別】

健康づくりへの取り組み別にみると、「取り組んでいると思う」と回答した人では【**そう思う**】(90.3%)が約9割と多くなっている。また、「取り組んでいると思わない」と回答した人では【**そう思う**】(50.3%)が約5割となっている。(図表4-4)

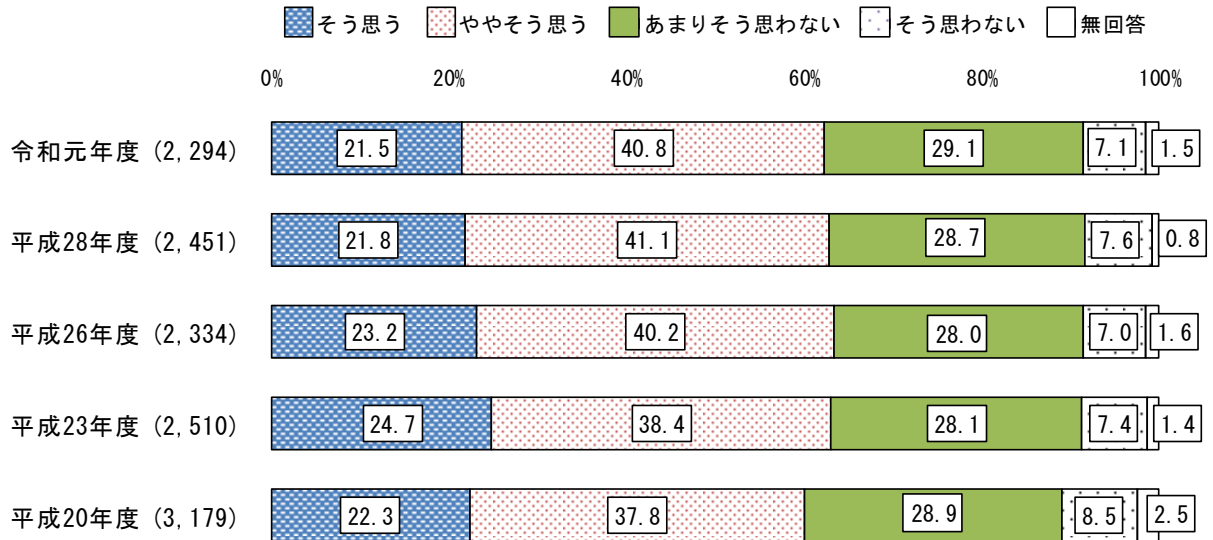
図表4-4 成果を計る指標－健康づくりへの取り組み別



2. あなたは、自ら健康づくりに取り組んでいると思う

【そう思う】は62.3%で、前回結果（62.9%）と比較して0.6ポイント減少している。（図表4-5）

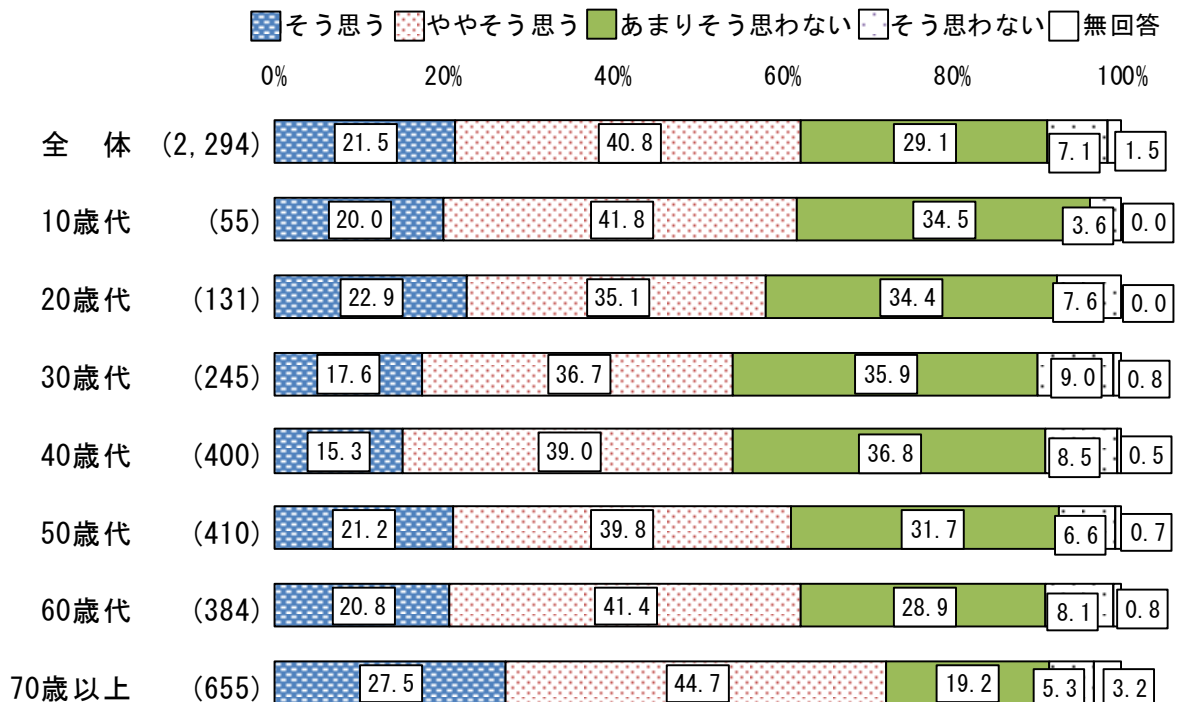
図表4-5 成果を計る指標－経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思う】が70歳以上（72.2%）で7割以上となっている。（図表4-6）

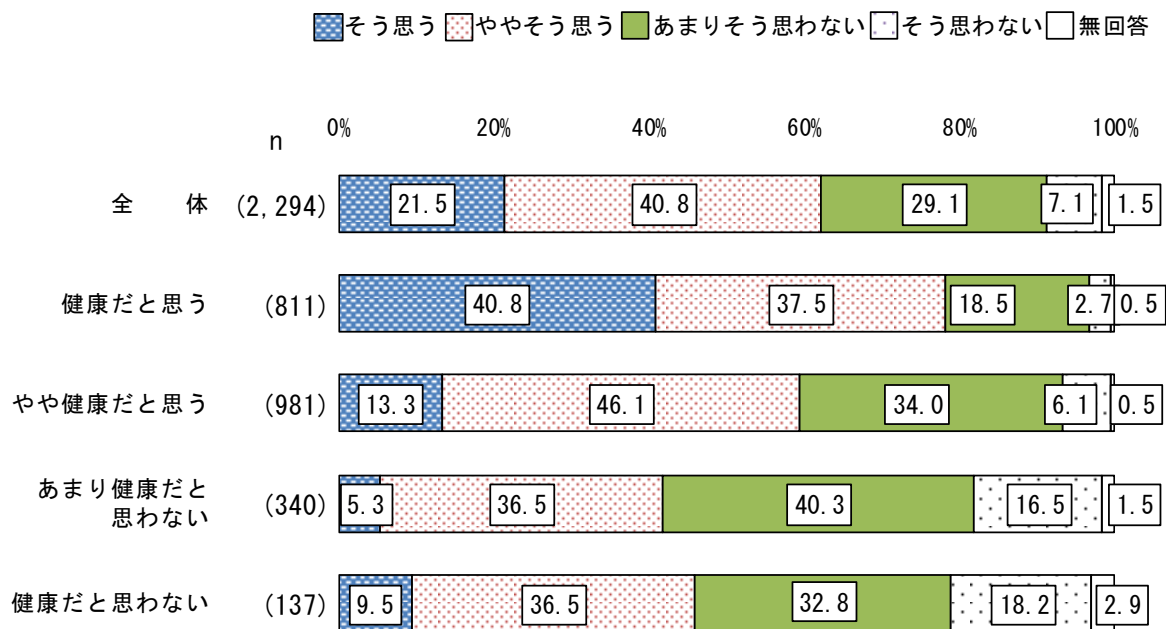
図表4-6 成果を計る指標－年齢別



【健康感別】

健康感別にみると、「健康だと思う」と回答した人では、【そう思う】(78.3%)が8割近くと多くなっている。また、「健康だと思わない」と回答した人では【そう思う】(46.0%)が4割台半ばとなっている。(図表4-7)

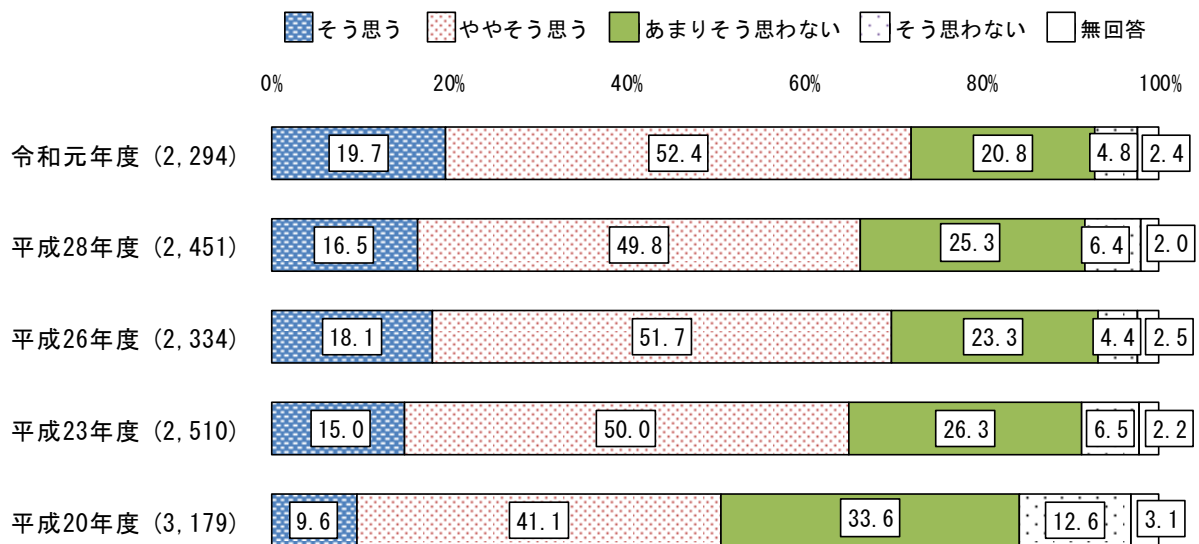
図表4-7 成果を計る指標－健康感別



3. 大和市は、安心して医療が受けられる体制が整っていると思う

【そう思う】は72.1%で、前回結果（66.3%）と比較して5.8ポイント増加している。（図表4-8）

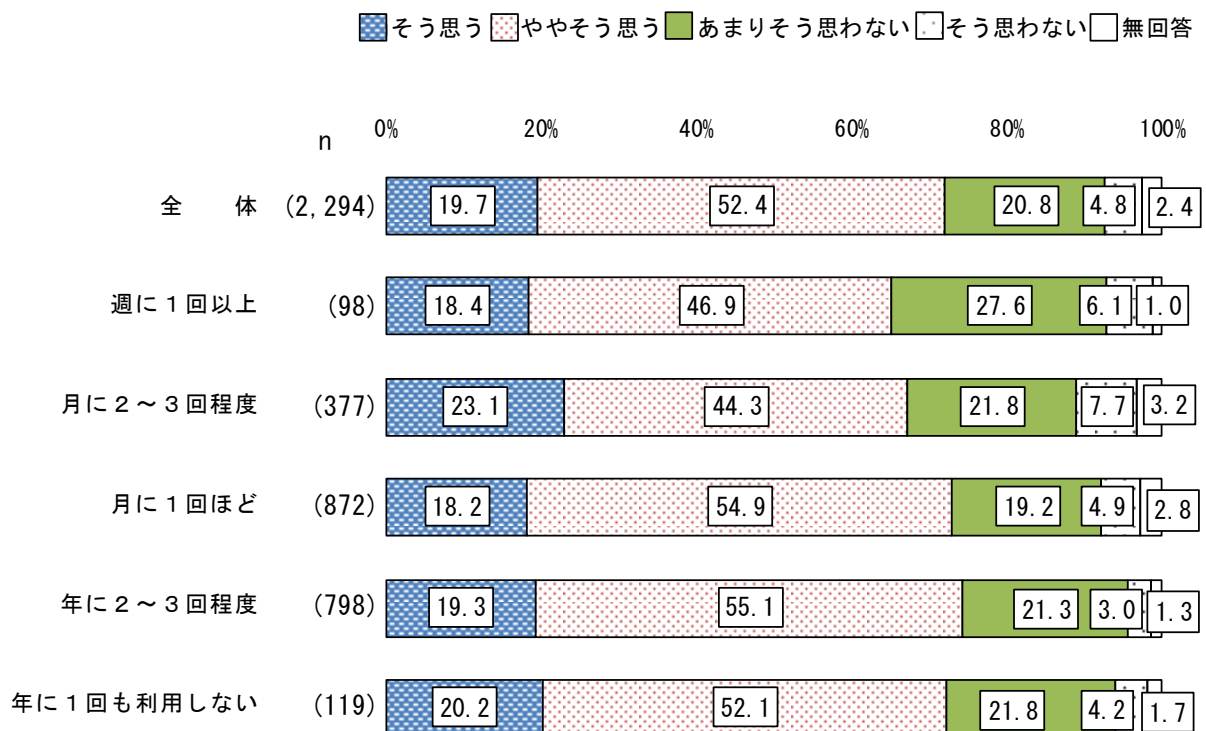
図表4-8 成果を計る指標－経年比較



【医療機関の利用頻度別】

医療機関の利用頻度別では、大きな差異は見られない。（図表4-9）

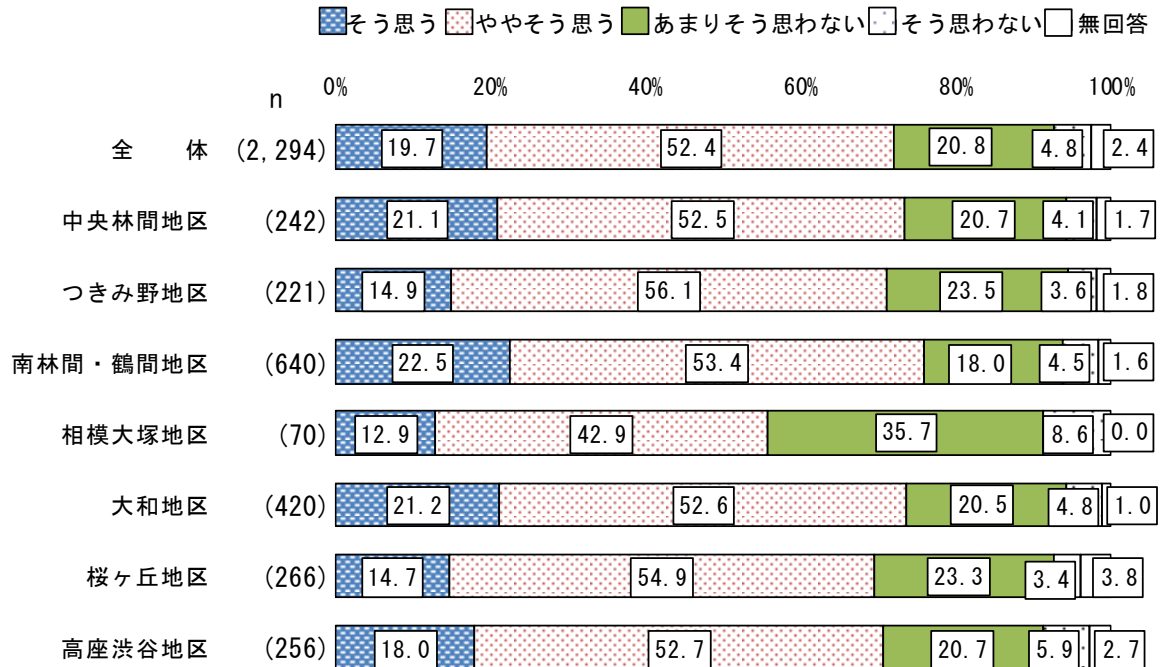
図表4-9 成果を計る指標－医療機関の利用頻度別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、相模大塚地区（55.8%）で5割台半ばとなっている。（図表4-10）

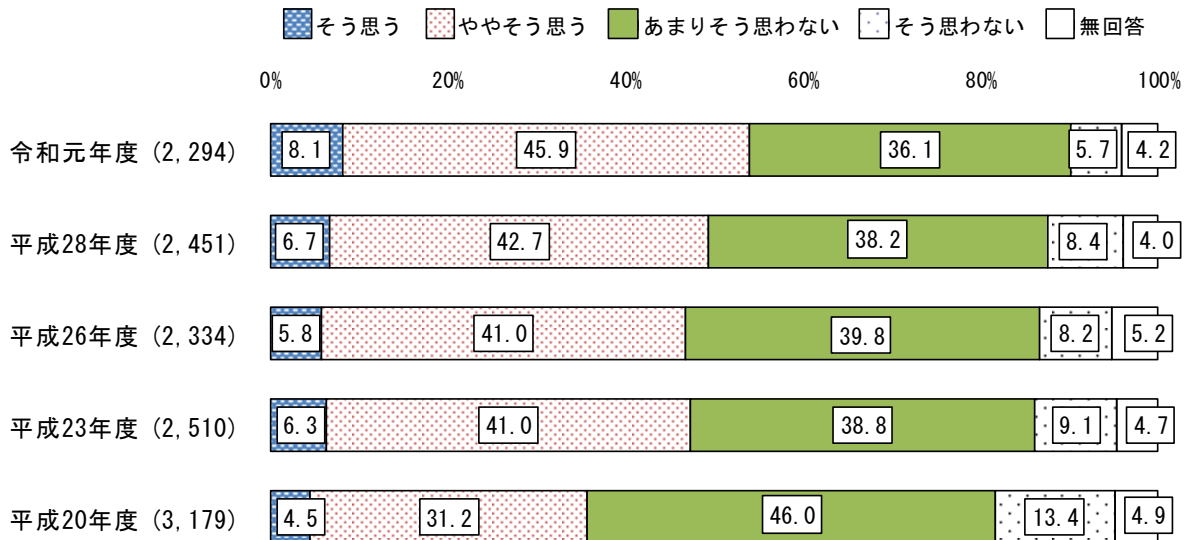
図表4-10 成果を計る指標－居住地域別



4. あなたの地域では、介護を必要とする人が安心して暮らしていると思う

【そう思う】は54.0%で、前回結果（49.4%）と比較して4.6ポイント増加している。（図表4-11）

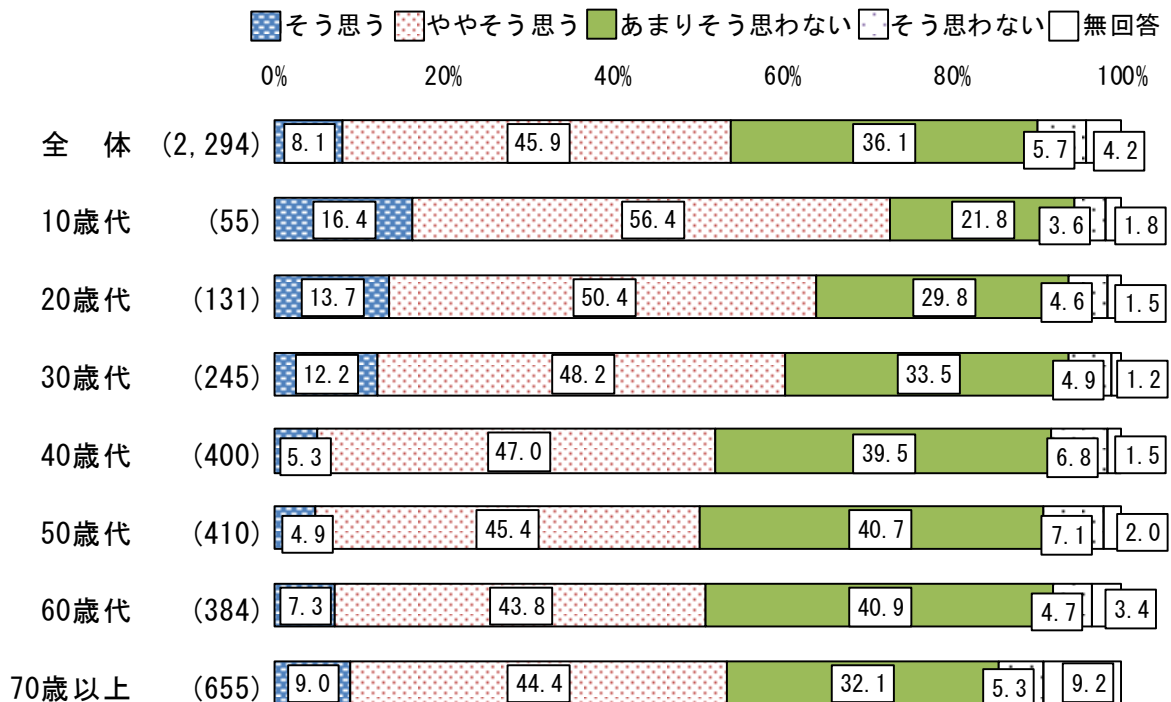
図表4-11 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、10歳代（72.8%）、20歳代（64.1%）で多くなっている。（図表4-12）

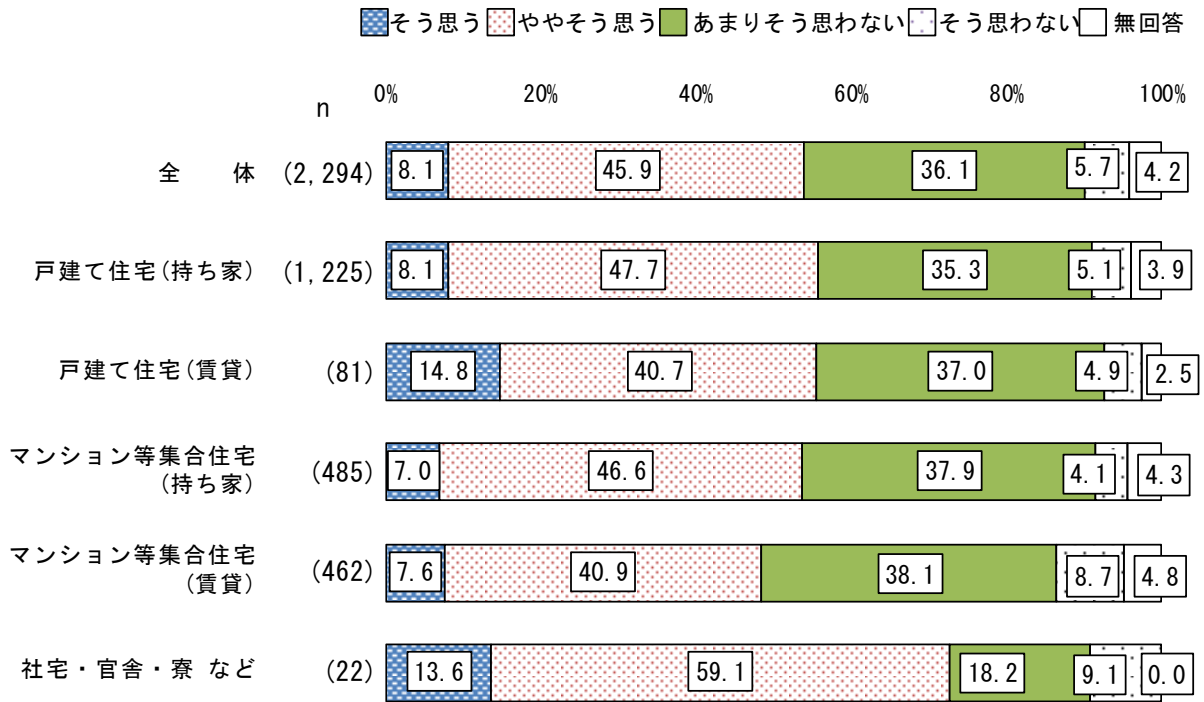
図表4-12 成果を計る指標—年齢別



【居住の形態別】

居住の形態別では、大きな差異は見られない。（図表4-13）

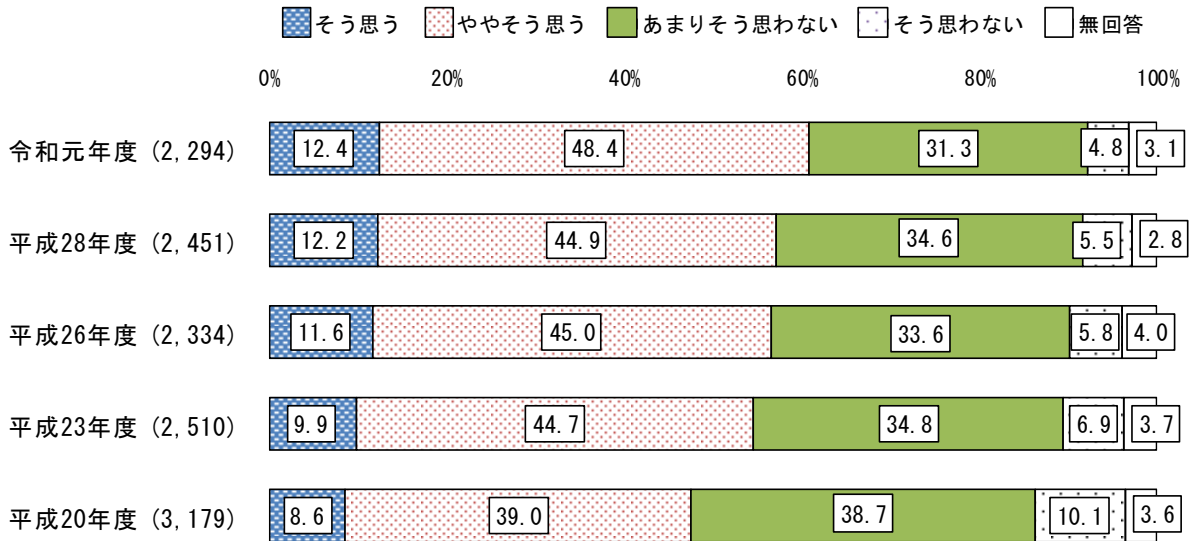
図表4-13 成果を計る指標－居住の形態別



5. あなたの地域では、高齢の方が生き生きと活動していると思う

【そう思う】は60.8%で、前回結果（57.1%）と比較して3.7ポイント増加している。（図表4-14）

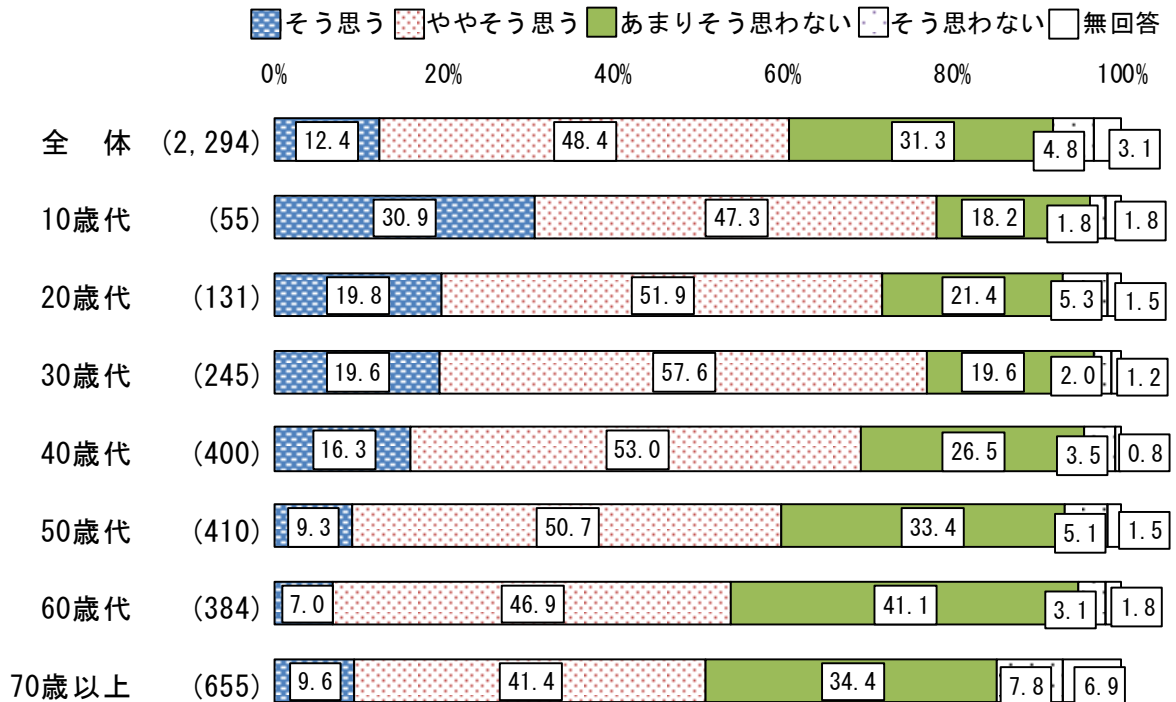
図表4-14 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となっている。（図表4-15）

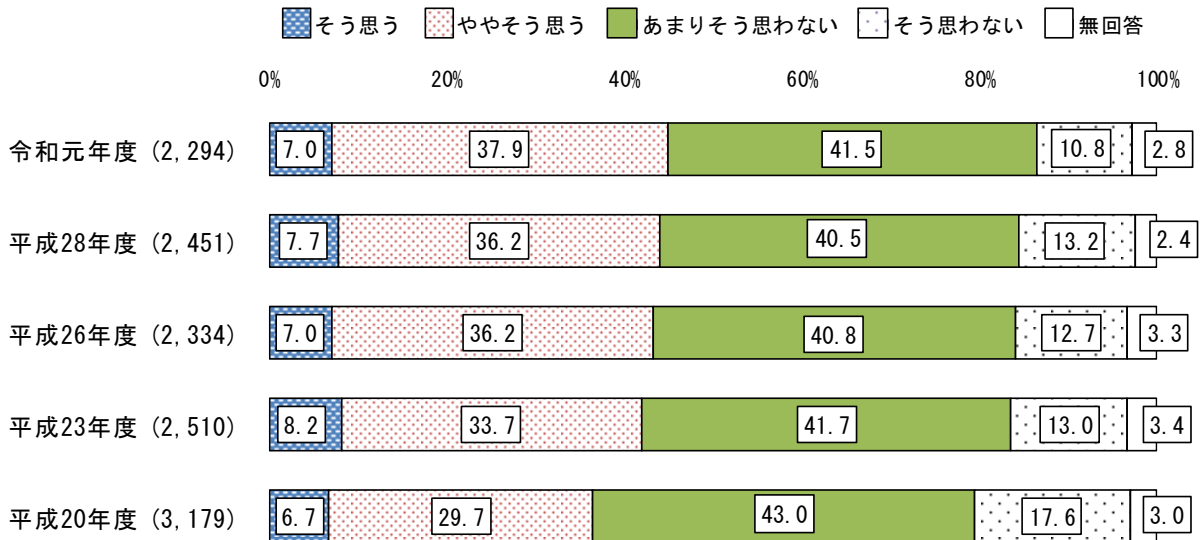
図表4-15 成果を計る指標—年齢別



6. あなたの地域では、支えあう人のつながりがあると思う

【そう思う】は44.9%で、前回結果（43.9%）と比較して1.0ポイント増加している。（図表4-16）

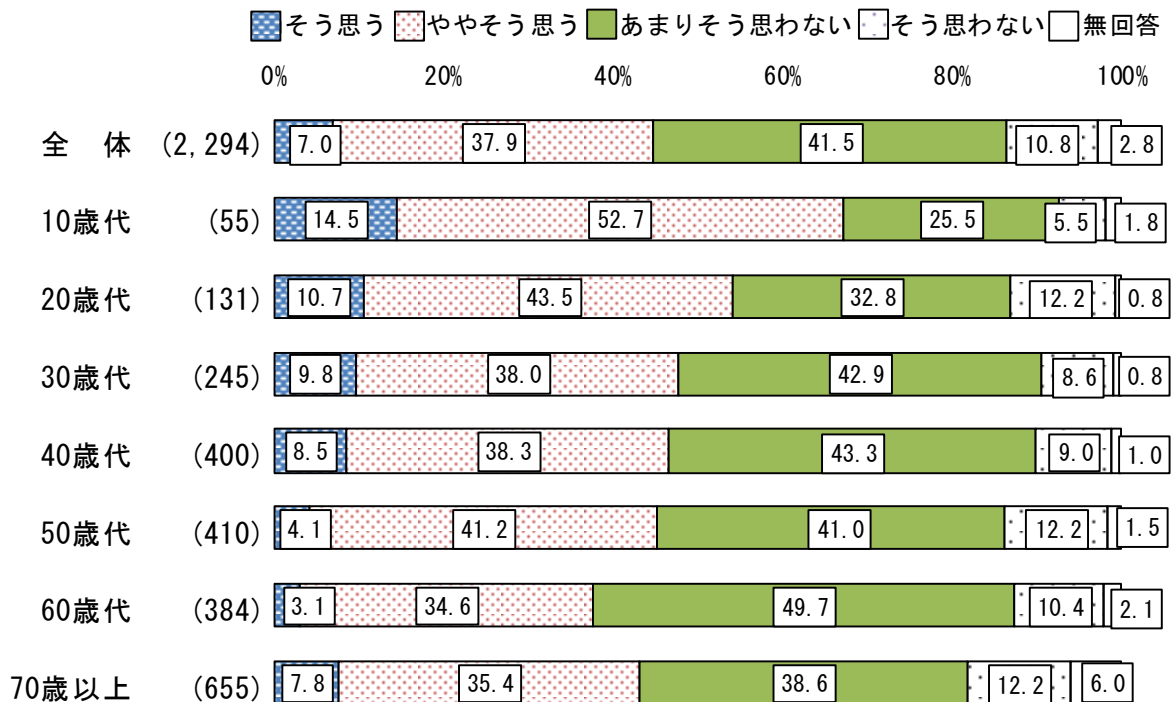
図表4-16 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、10歳代（67.2%）では6割台半ばとなっている。（図表4-17）

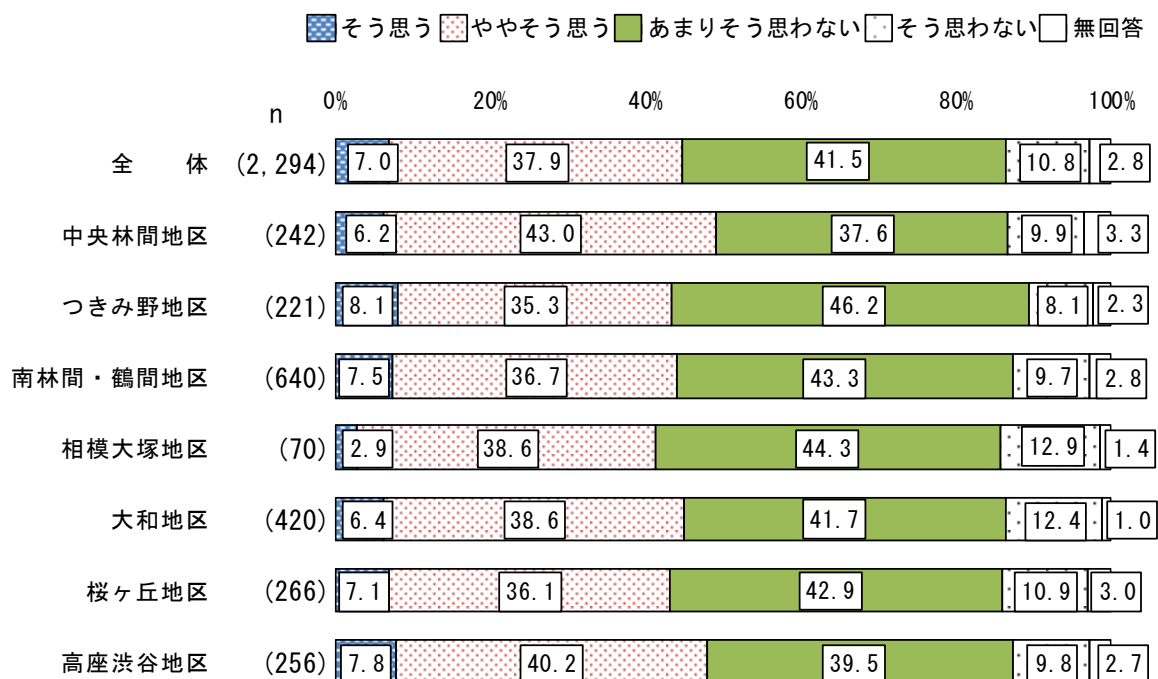
図表4-17 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、中央林間地区（49.2%）で5割弱となっている。（図表4-18）

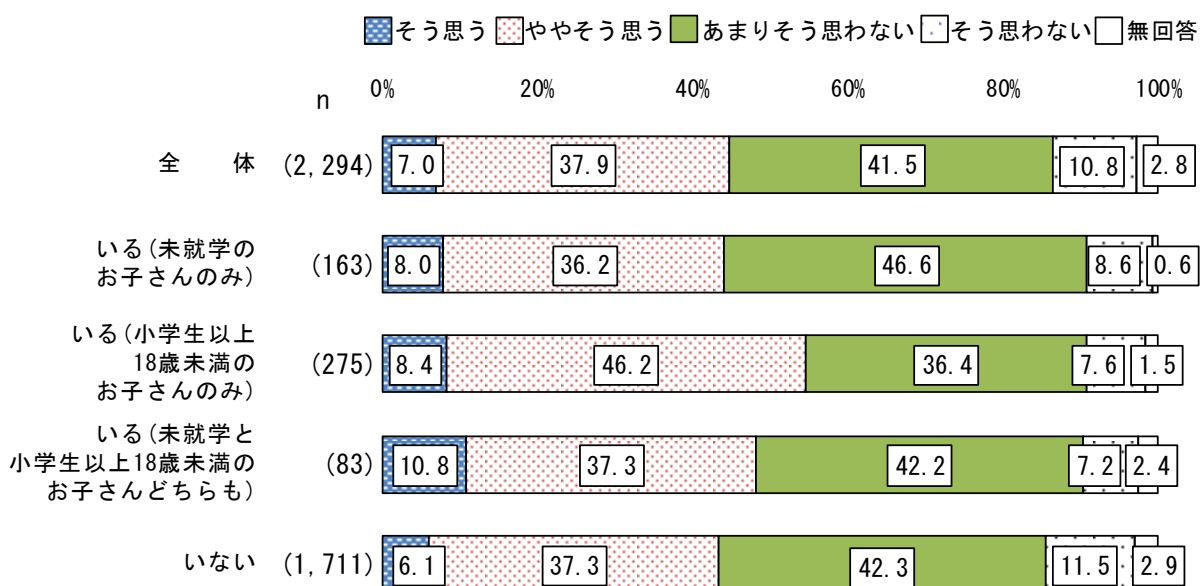
図表4-18 成果を計る指標—居住地域別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、「いる（小学生以上18未満のお子さんのみ）」と回答した人では、【そう思う】（54.6%）が5割半ばと多くなっている。（図表4-19）

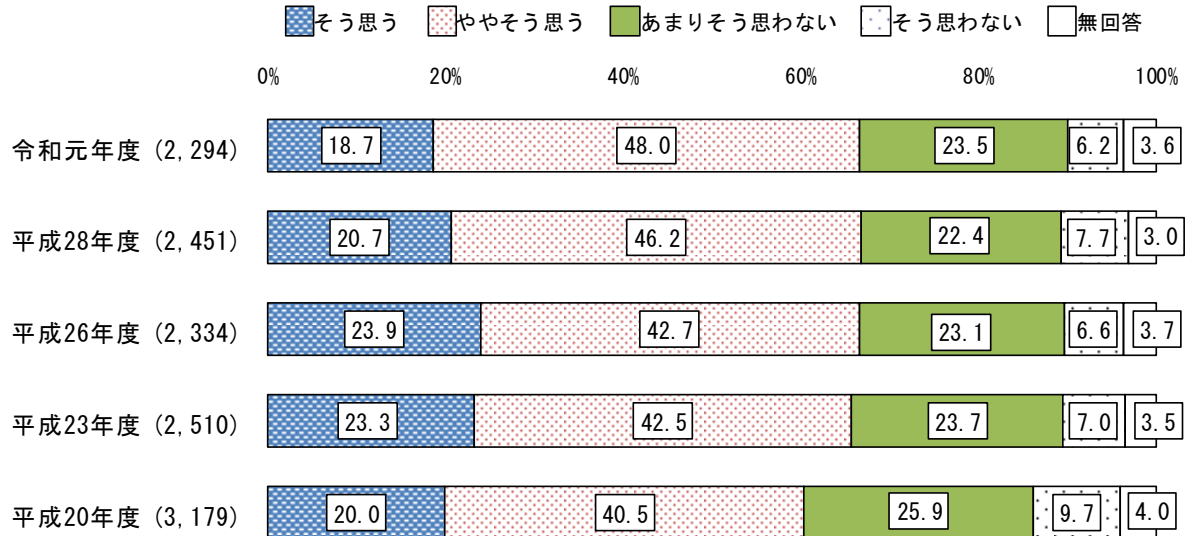
図表4-19 成果を計る指標—こどもの有無別



7. あなたの地域では、差別意識がないと思う

【そう思う】は66.7%で、前回結果（66.9%）と比較して0.2ポイント減少している。（図表4-20）

図表4-20 成果を計る指標－経年比較

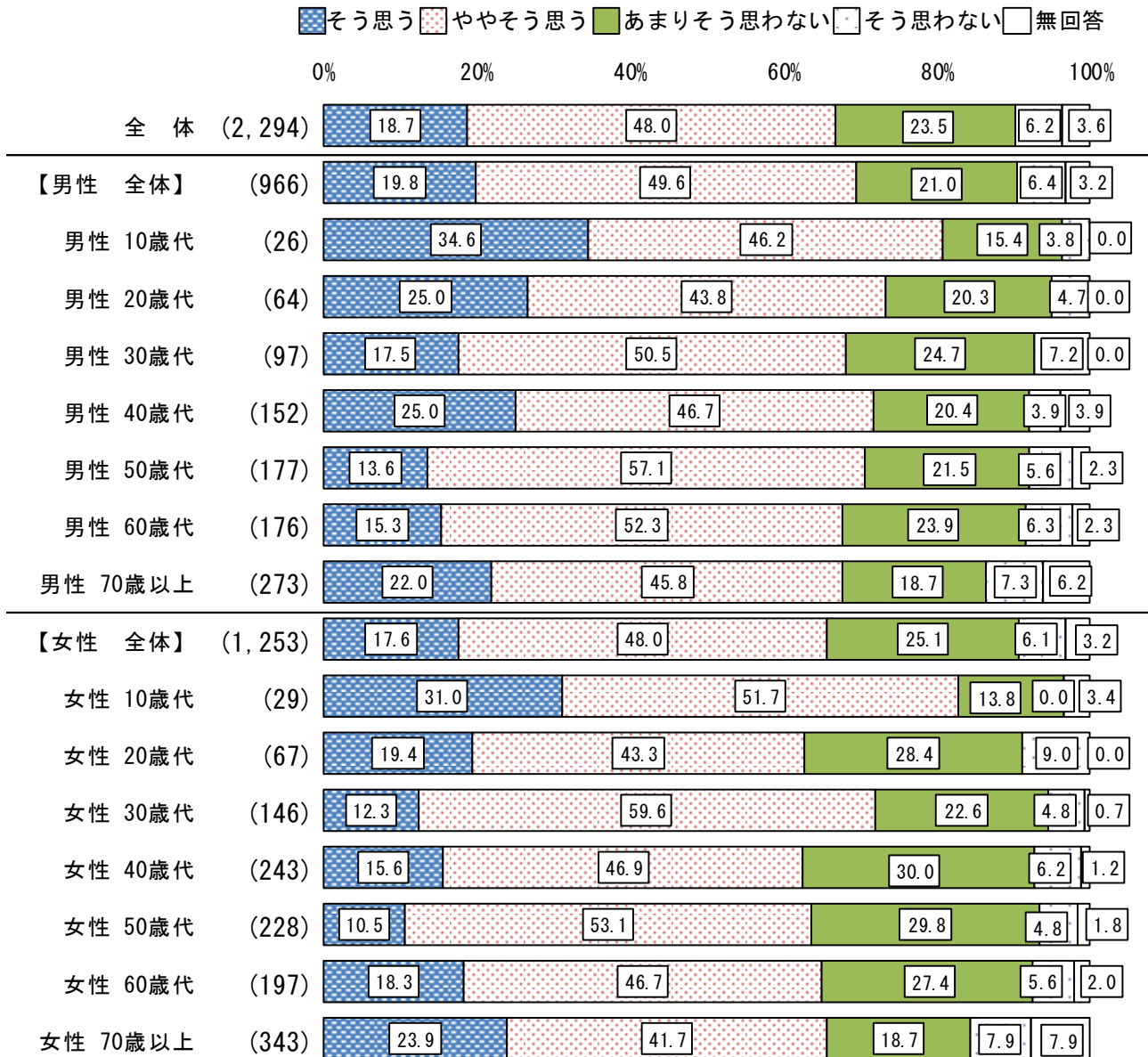


【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【そう思う】(69.4%)は女性の【そう思う】(65.6%)よりも3.8ポイント高くなっている。

年齢別では、大きな差異はみられない。(図表4-21)

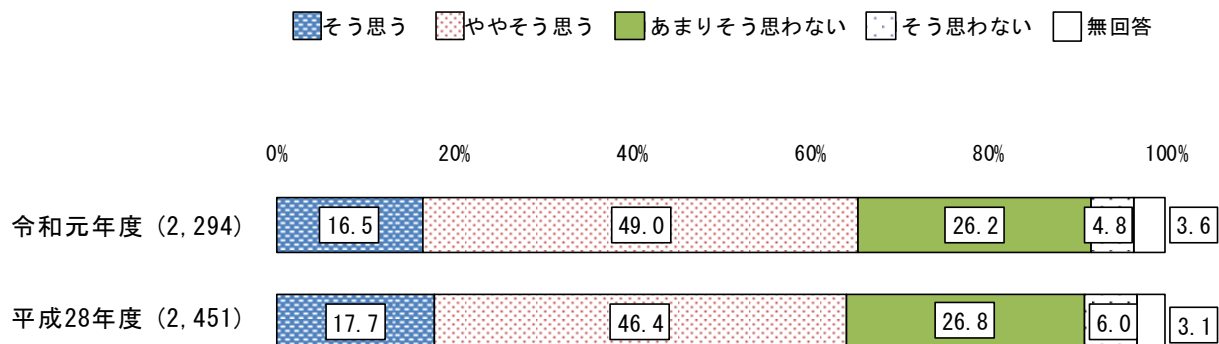
図表4-21 成果を計る指標—性別・年齢別



8. あなたのまわりでは、男女が対等な立場で活躍していると思う

【そう思う】は65.5%で前回結果（64.1%）と比較して1.4ポイント増加している。（図表4-22）

図表4-22 成果を計る指標－経年比較

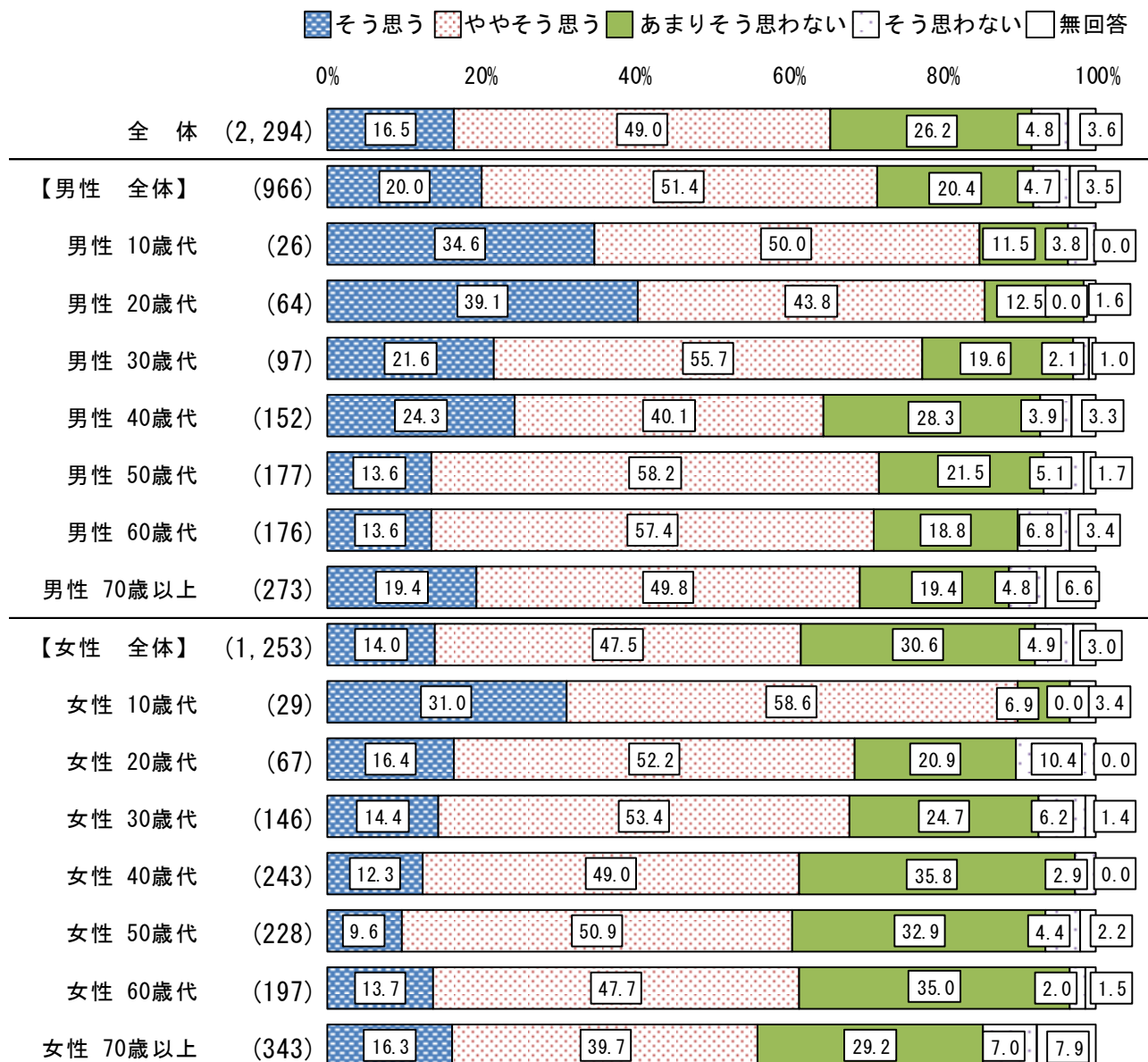


【性別・年齢別】

性別にみると、男性の【そう思う】(71.4%)は女性の【そう思う】(61.5%)よりも9.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となっている。(図表4-23)

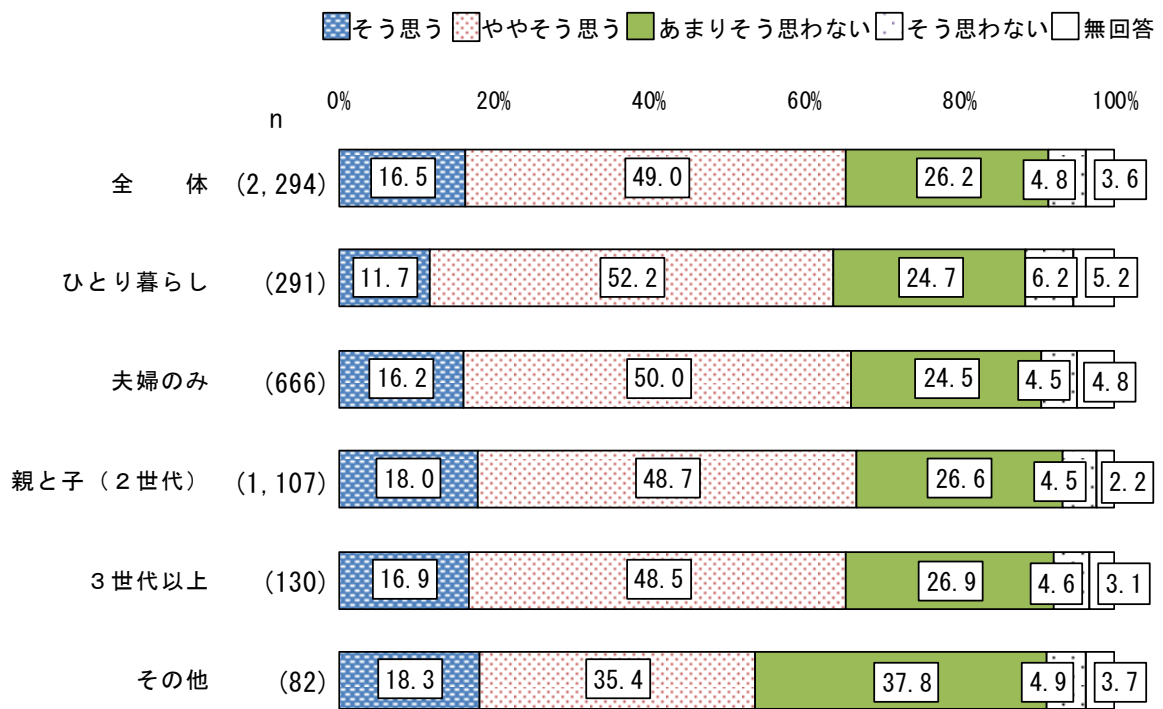
図表4-23 成果を計る指標—性別・年齢別



【家族構成別】

家族構成別では、大きな差異は見られない。（図表4-24）

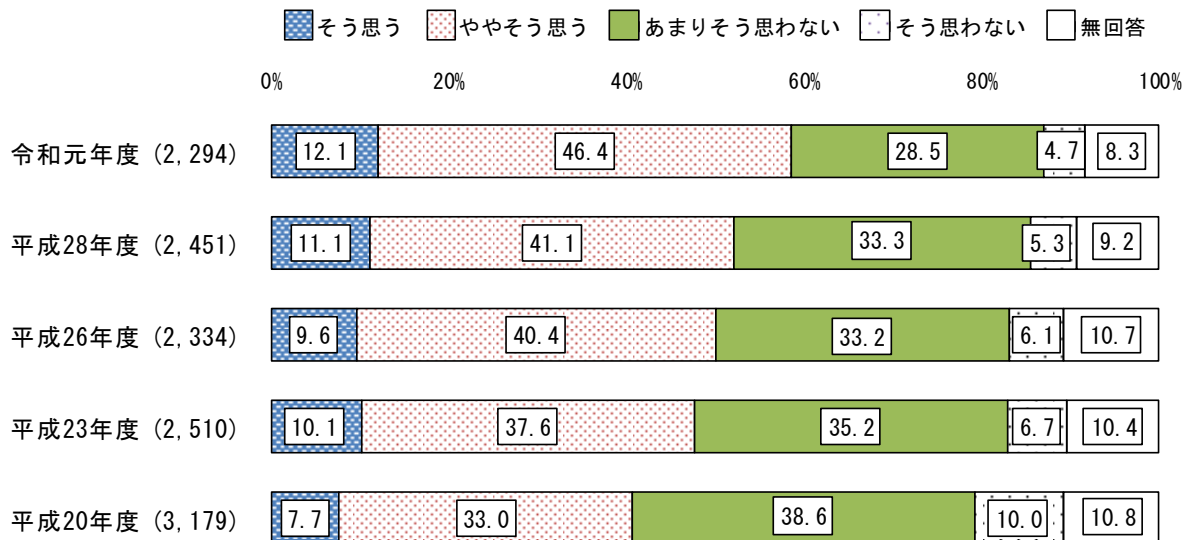
図表4-24 成果を計る指標—家族構成別



9. 大和市では、子育てに関する不安を相談できる場があると思う

【そう思う】は58.5%で、前回結果（52.2%）と比較して6.3ポイント増加している。（図表4-25）

図表4-25 成果を計る指標－経年比較

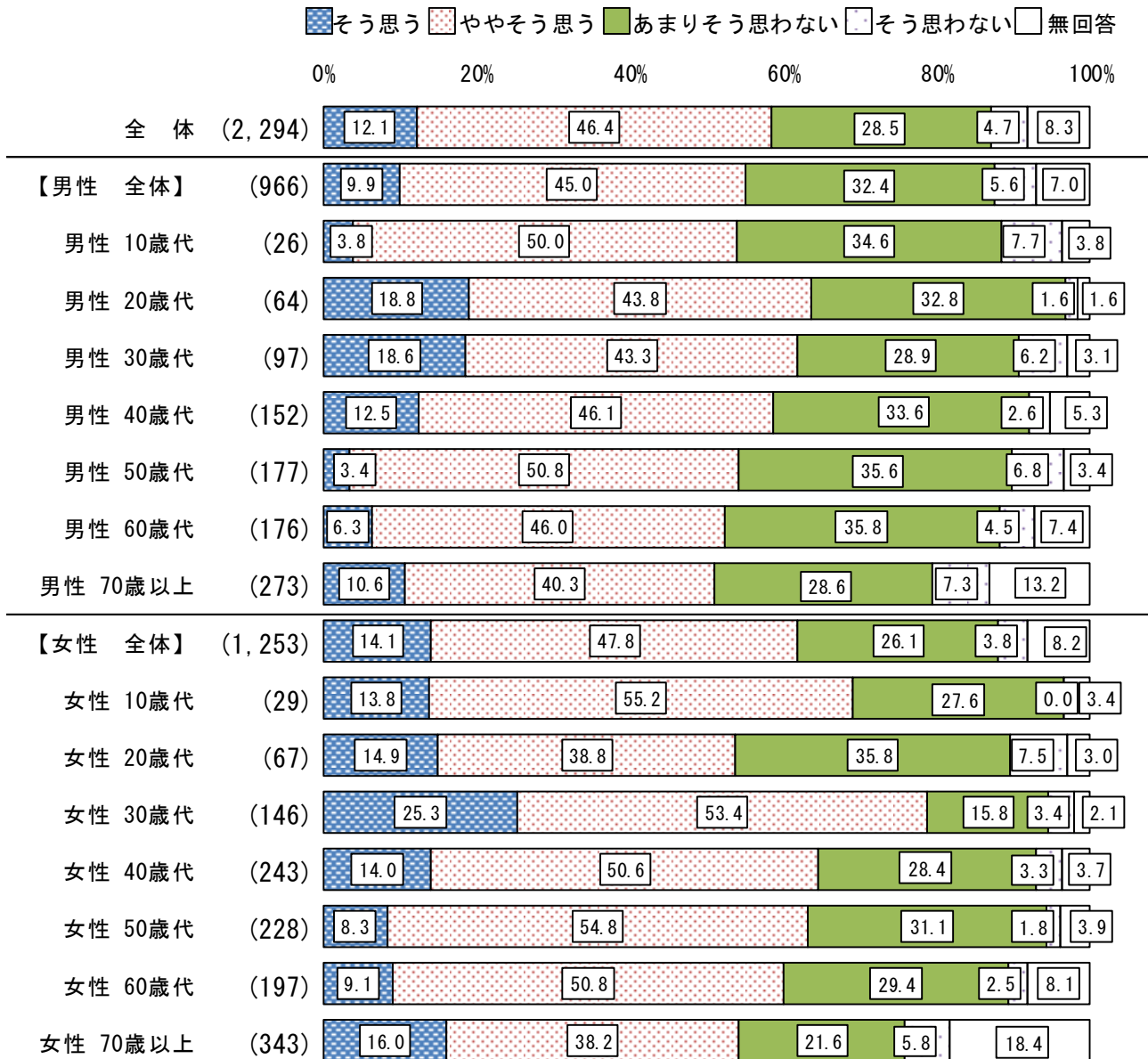


【性別・年齢別】

性別にみると、女性の【そう思う】(61.9%)は男性の【そう思う】(54.9%)よりも7.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、女性30歳代(78.8%)で【そう思う】が8割近くとなっている。(図表4-26)

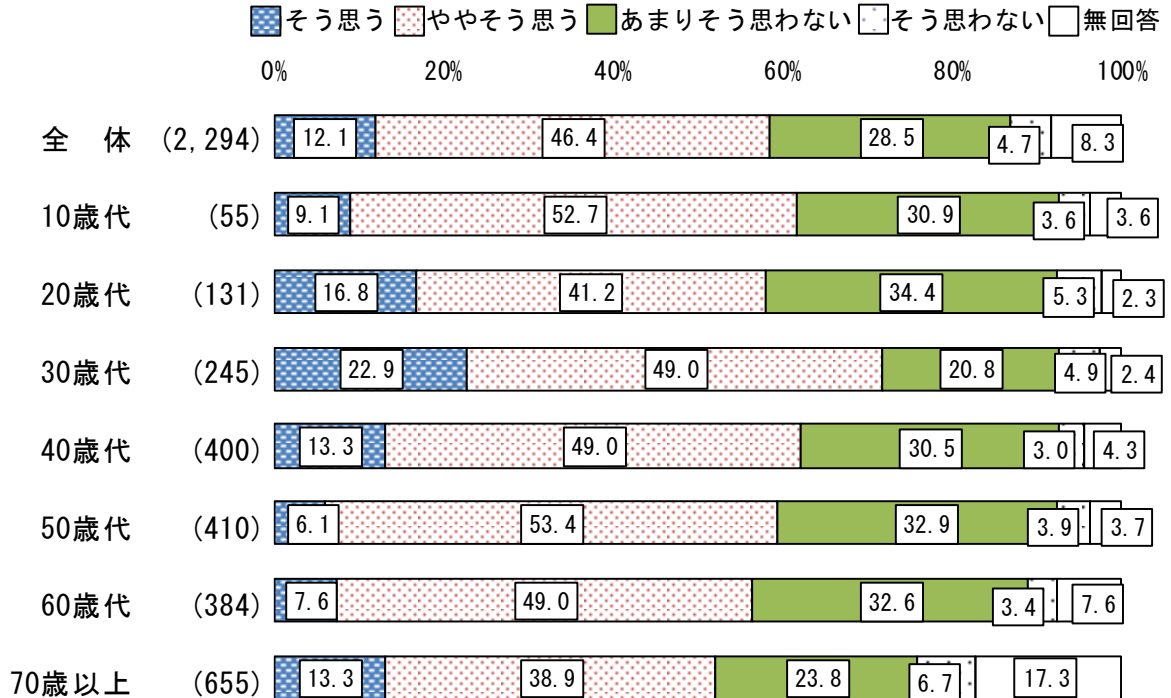
図表4-26 成果を計る指標—性別・年齢別



【年齢別】

年齢別にみると、30歳代（71.9%）で【そう思う】が7割強となっている。（図表4-27）

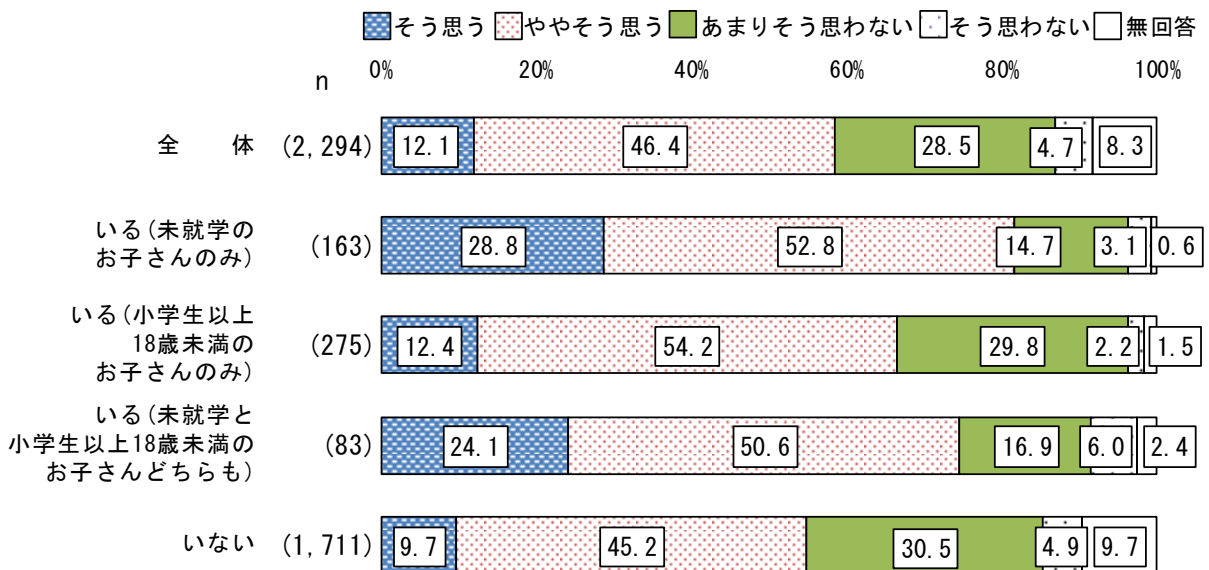
図表4-27 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、【そう思う】が「いる（未就学のお子さんのみ）」と回答した人で8割以上となっている。（図表4-28）

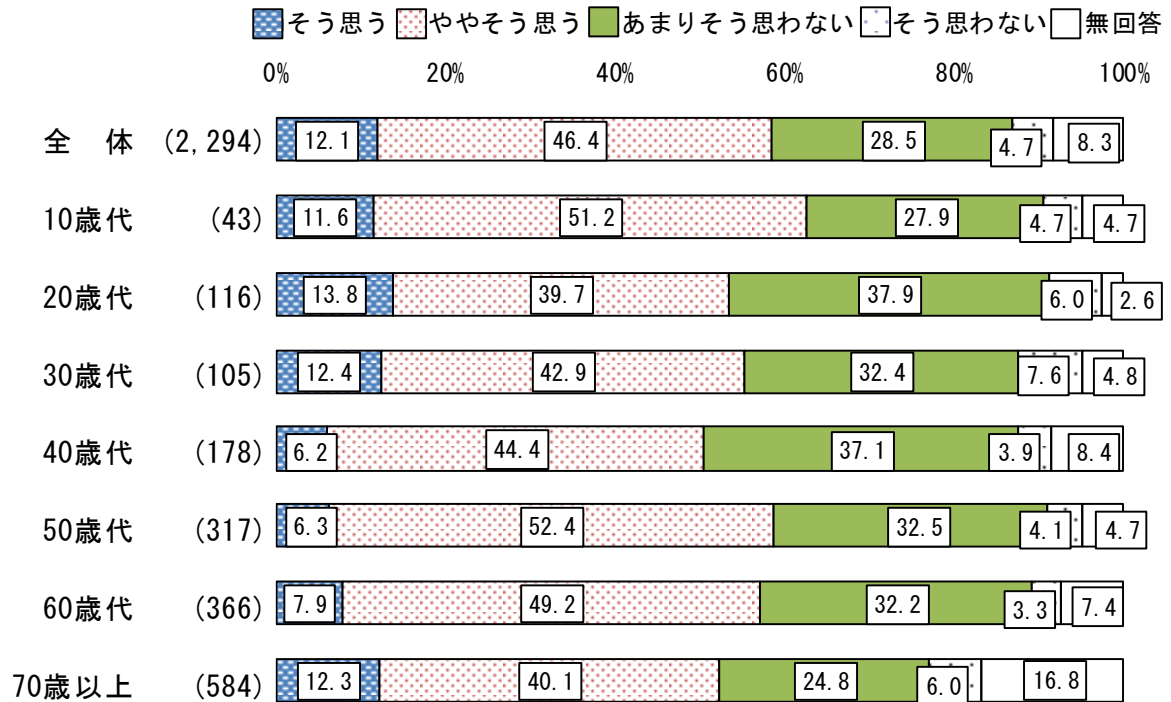
図表4-28 成果を計る指標—こどもの有無別



【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人を年齢別にみると、【**そう思う**】と回答した人が10歳代（62.8%）で多くなっている一方、40歳代（50.6%）で少なくなっている。（図表4-29）

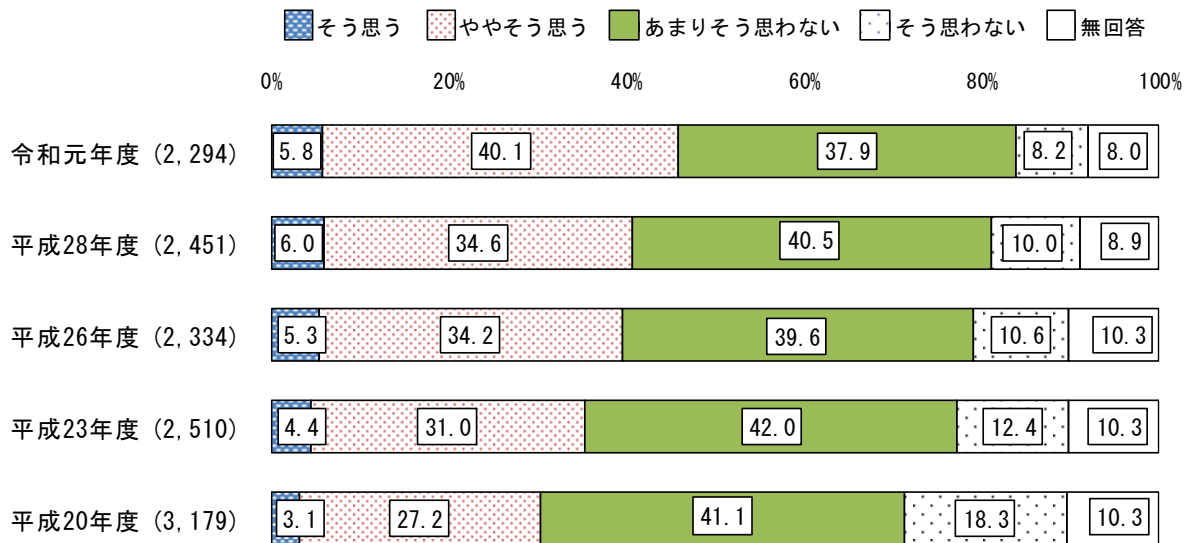
図表4-29 成果を計る指標—年齢別（こどものいない人）



10. 大和市では、経済的に不安なく子育てができていると思う

【そう思う】は45.9%で前回結果(40.6%)と比較して5.3ポイント増加している。(図表4-30)

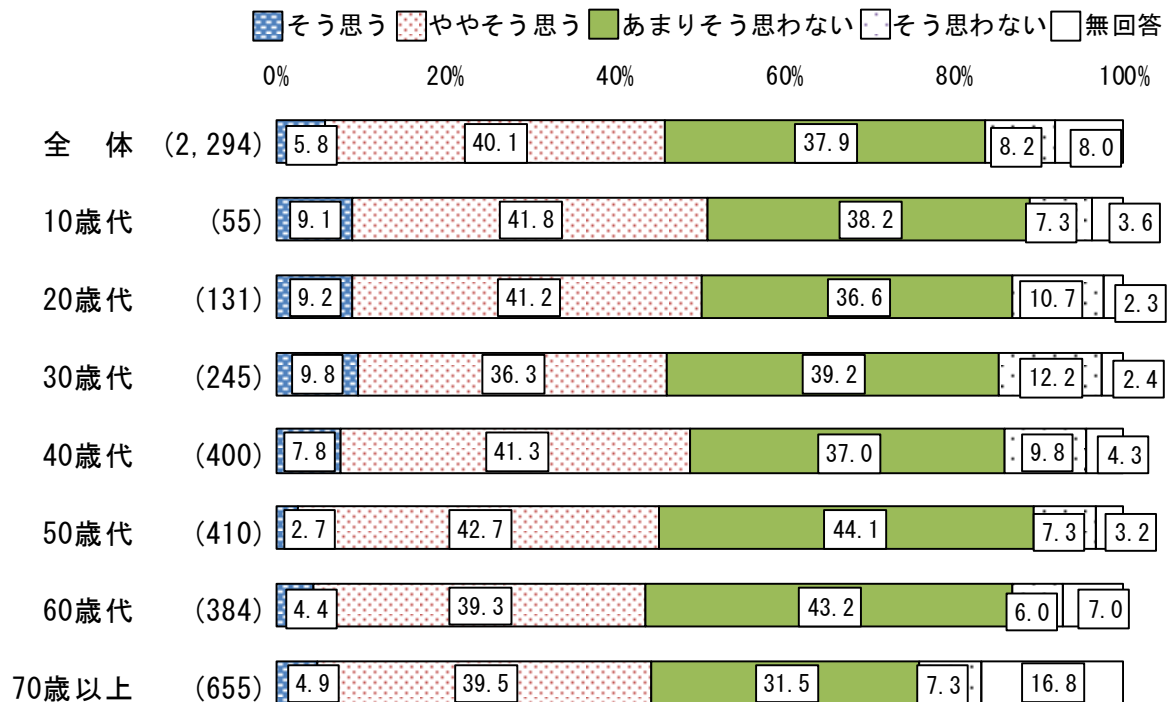
図表4-30 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上で【そう思わない】(38.8%)が4割弱と、他の年代と比較して少なくなっている。(図表4-31)

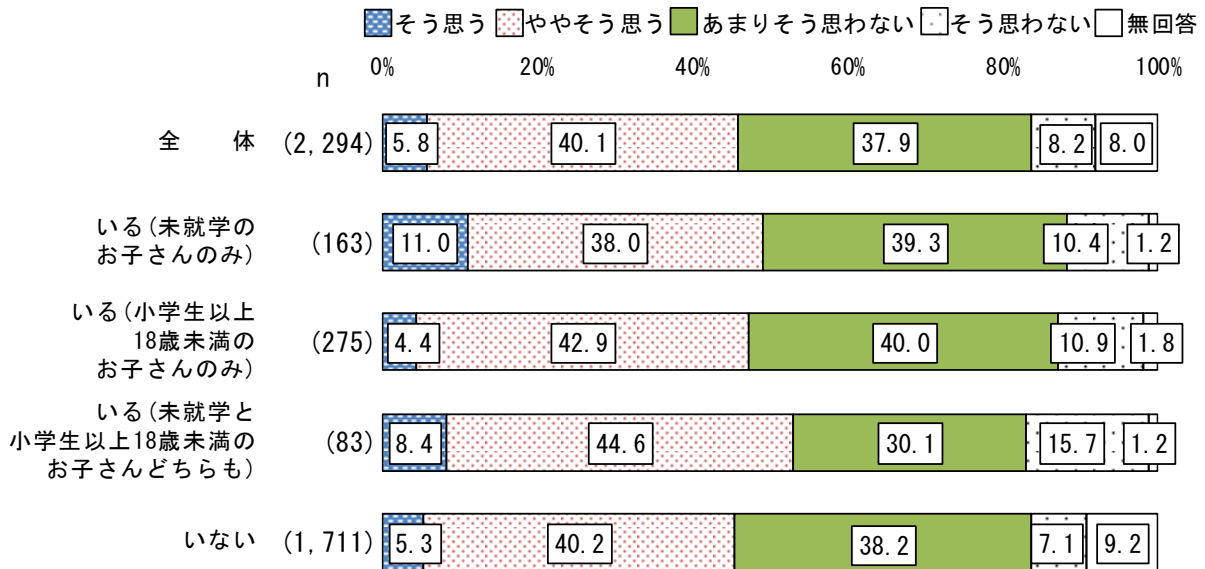
図表4-31 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別では、大きな差異は見られない。（図表4-32）

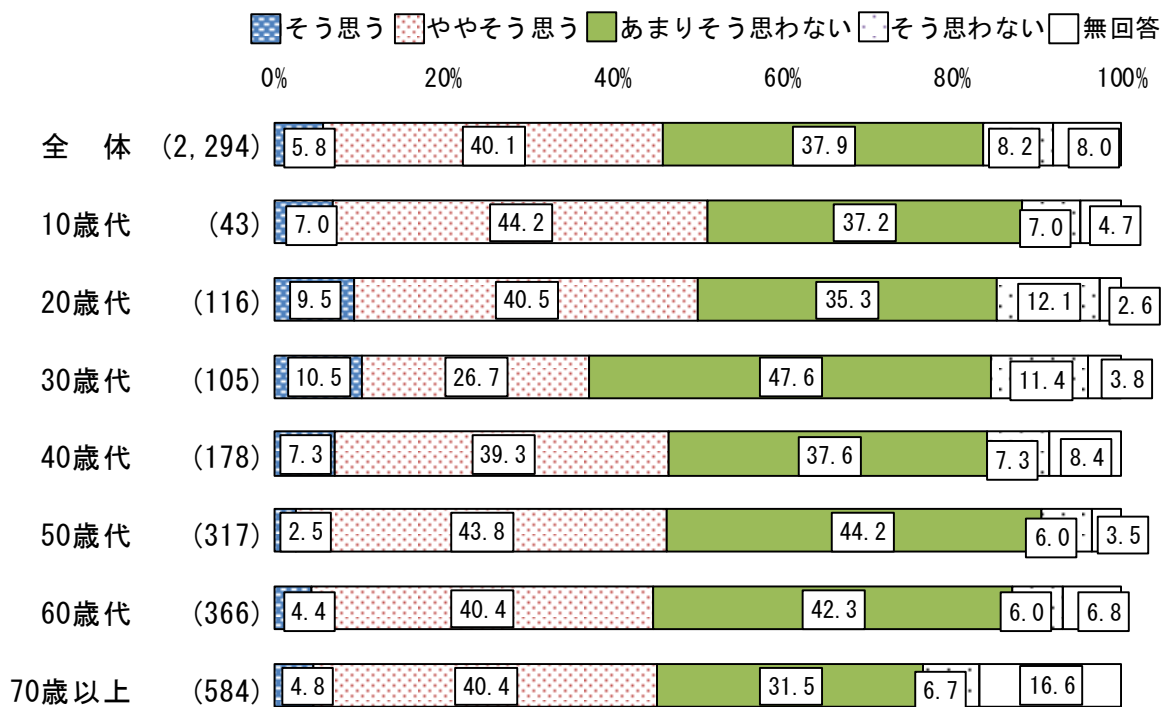
図表4-32 成果を計る指標—こどもの有無別



【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人を年齢別にみると、【そう思う】と回答した人が、30歳代（37.2%）で3割台半ばと他の年代と比べ少なくなっている。（図表4-33）

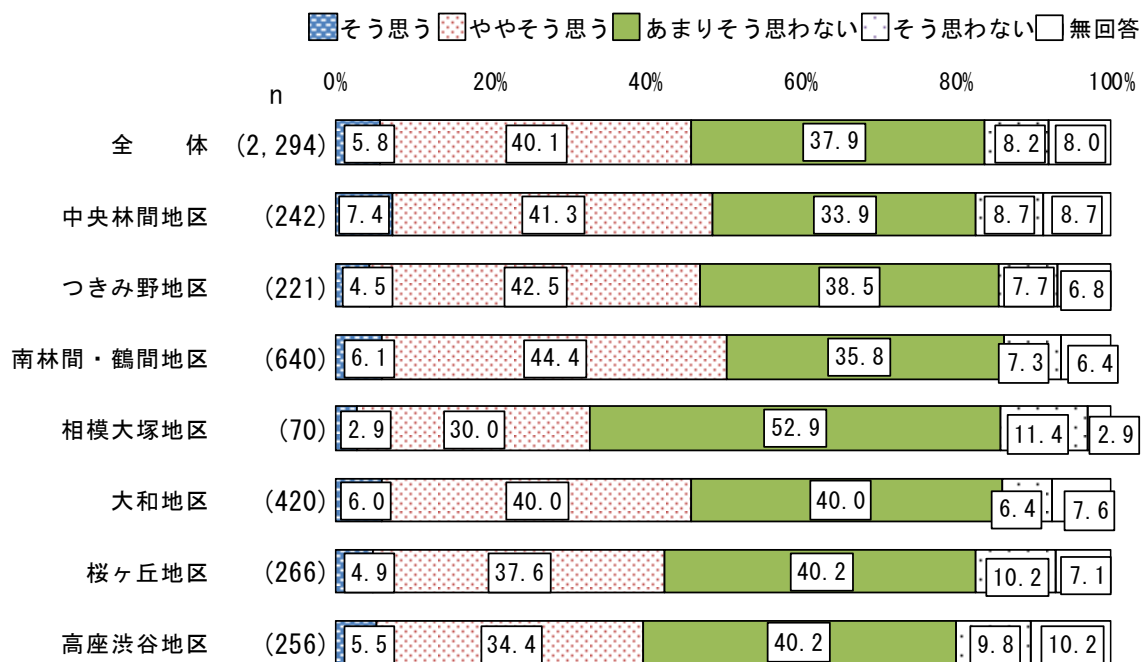
図表4-33 成果を計る指標—年齢別（こどものいない人）



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思わない】と回答した人が、相模大塚地区（64.3%）と多くなっている。（図表4-34）

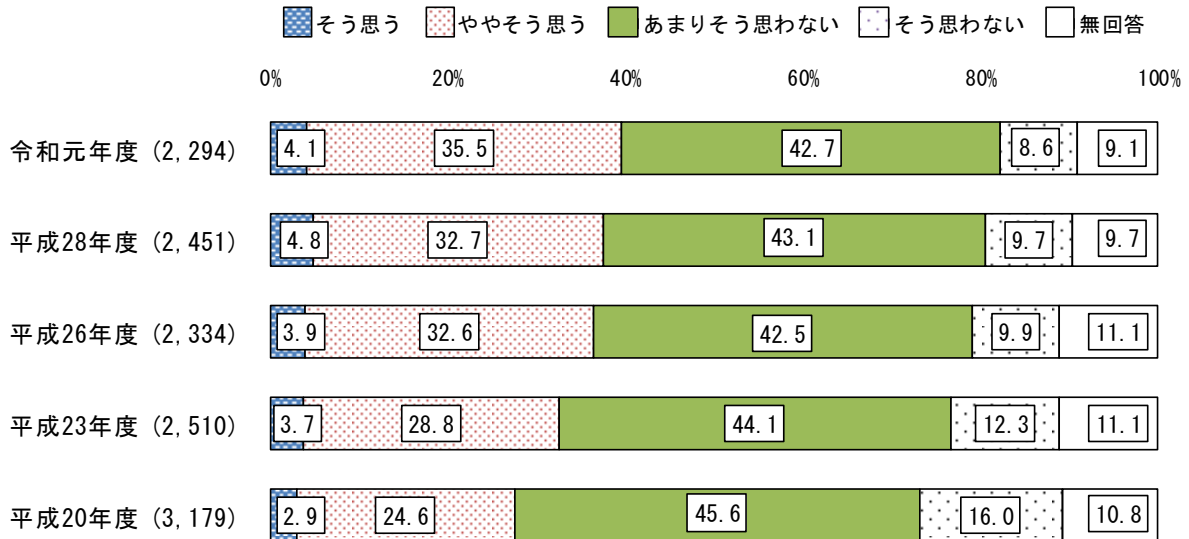
図表4-34 成果を計る指標－居住地域別



11. 大和市では、こどもの個性や能力にあった教育が行われていると思う

【そう思う】は39.6%で、前回結果(37.5%)と比較して2.1ポイント増加している。(図表4-35)

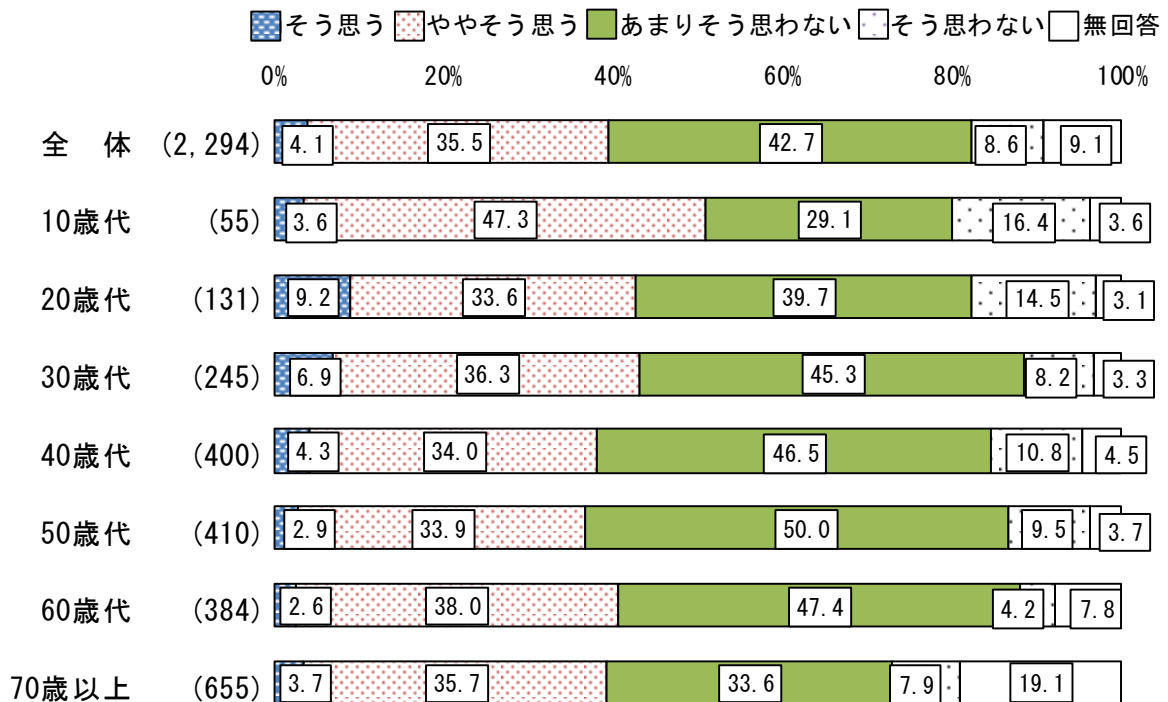
図表4-35 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】(50.9%)が約5割と他の年代と比較して多くなっている。(図表4-36)

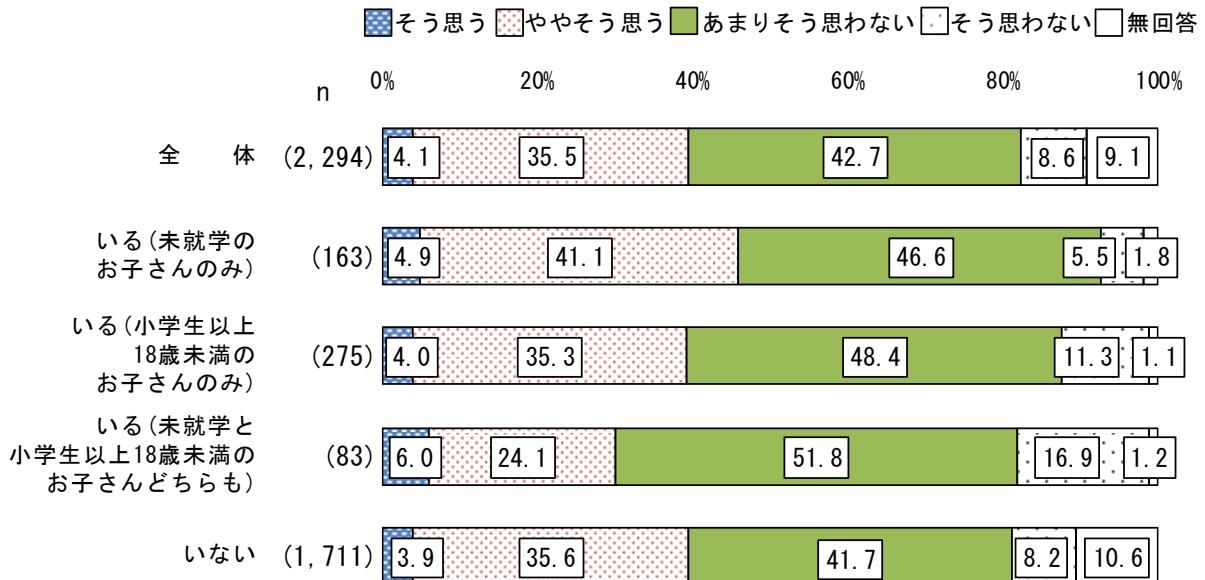
図表4-36 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、「未就学のこどもがいる」と回答した人で【そう思う】（46.0%）が4割台半ばと多くなっている。（図表4-37）

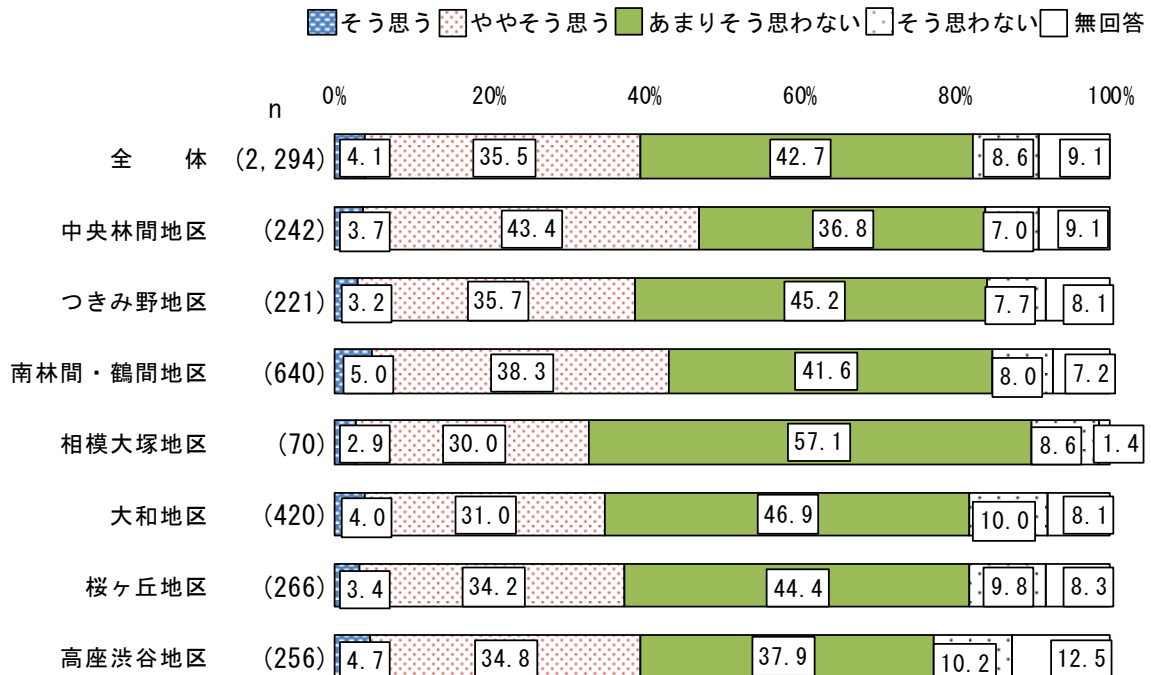
図表4-37 成果を計る指標—こどもの有無別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が中央林間地区（47.1%）で5割近くと多くなっている。（図表4-38）

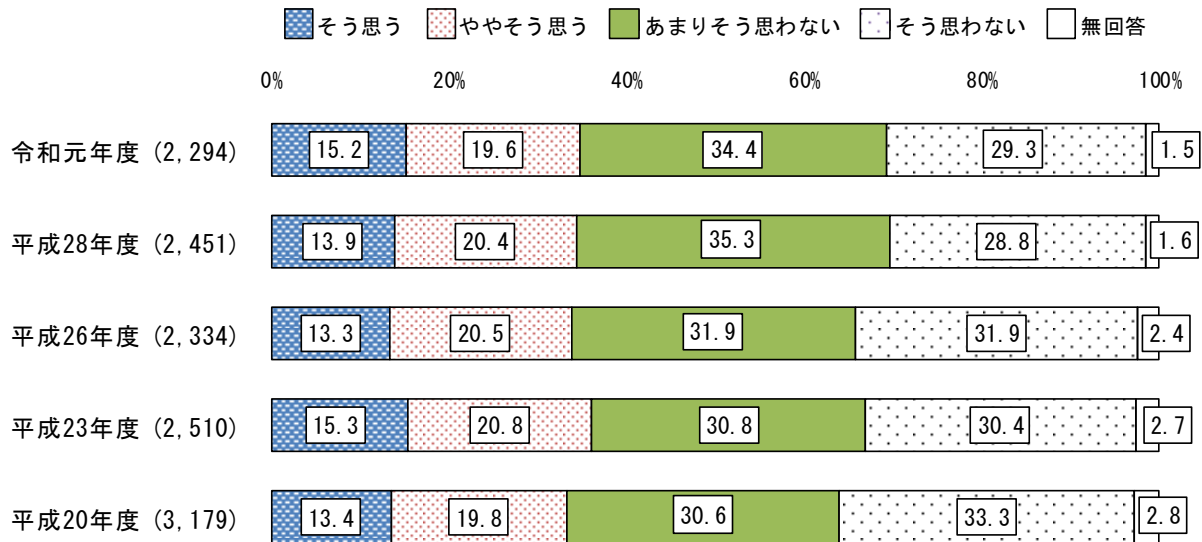
図表4-38 成果を計る指標—居住地域別



12. あなたは、日常的にスポーツを楽しんでいると思う

【そう思う】は34.8%で前回結果(34.3%)と比較して0.5ポイント増加している。(図表4-39)

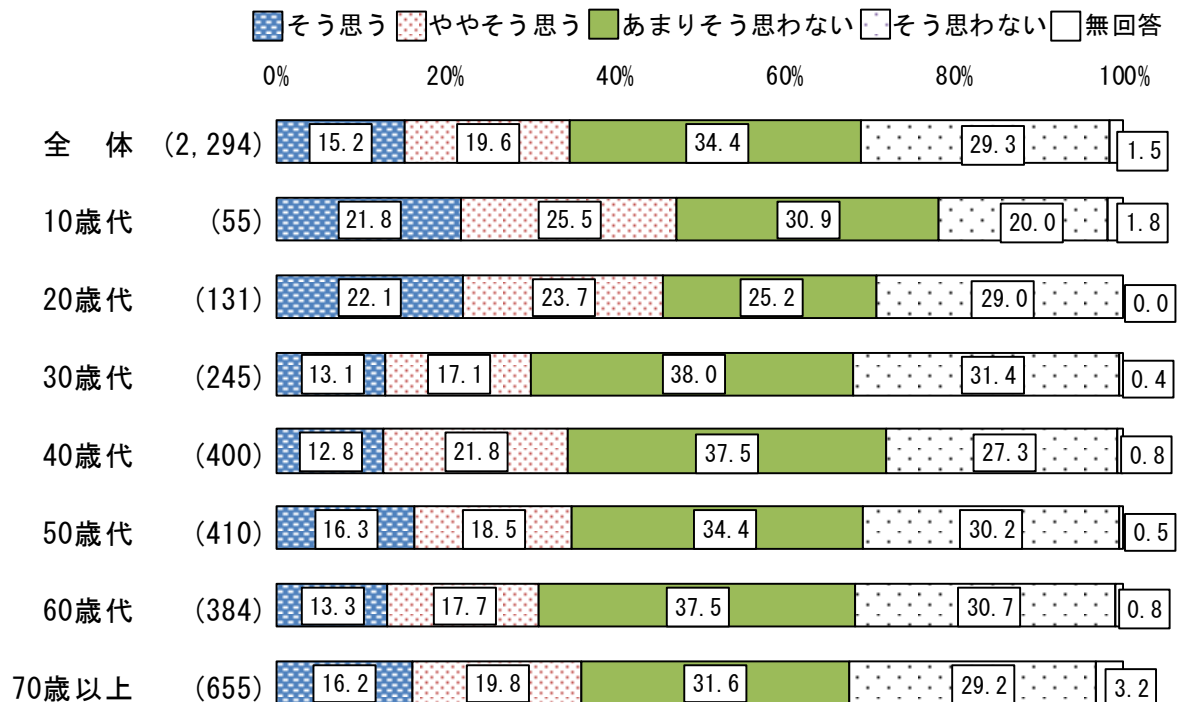
図表4-39 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代(47.3%)と20歳代(45.8%)で【そう思う】が4割台半ばと他の年代と比較して多くなっている。(図表4-40)

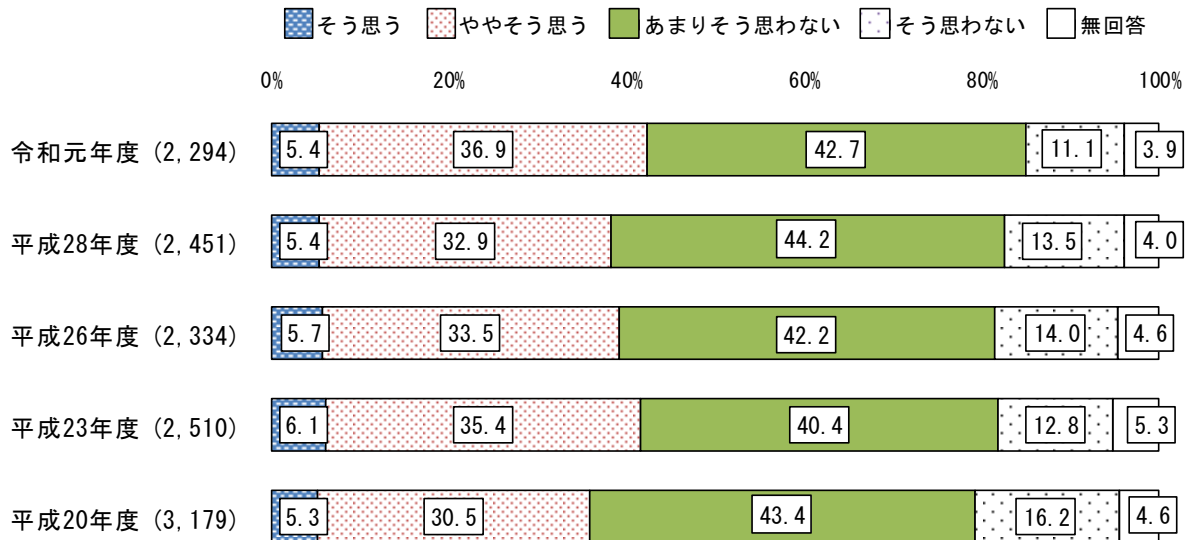
図表4-40 成果を計る指標—年齢別



13. 大和の歴史や文化は、しっかり継承されていると思う

【そう思う】は42.3%で、前回結果（38.3%）と比較して4.0ポイント増加している。（図表4-41）

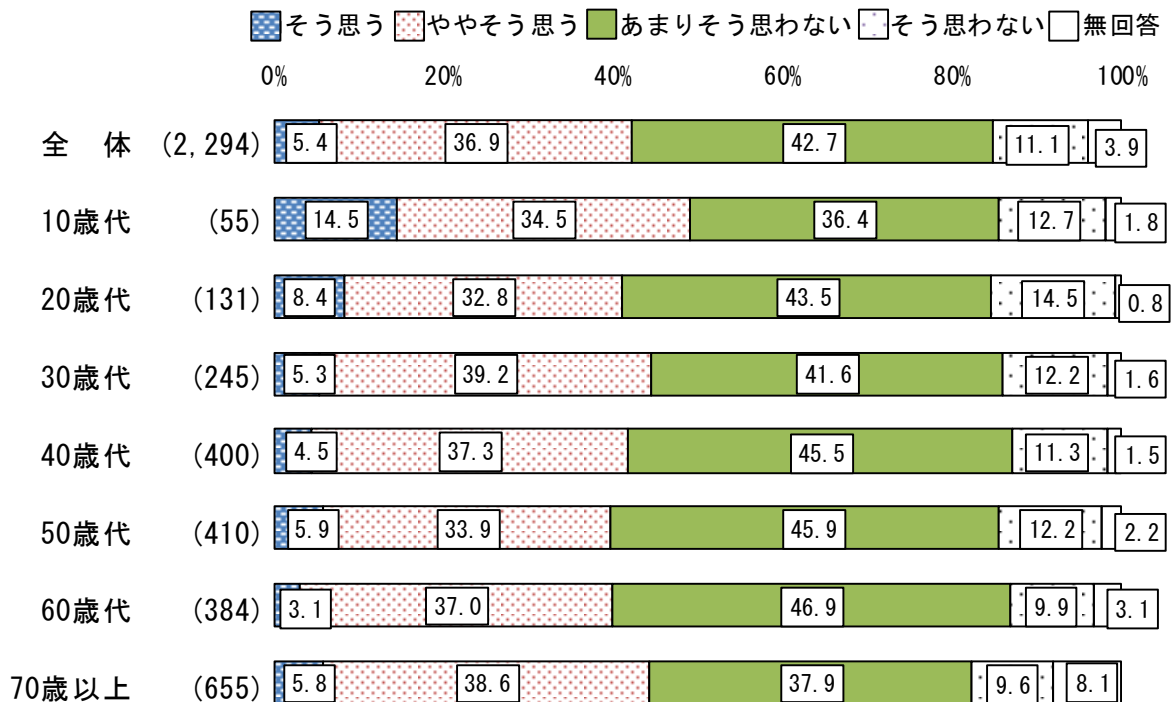
図表4-41 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、10歳代で【そう思う】（49.0%）が約5割となっている。（図表4-42）

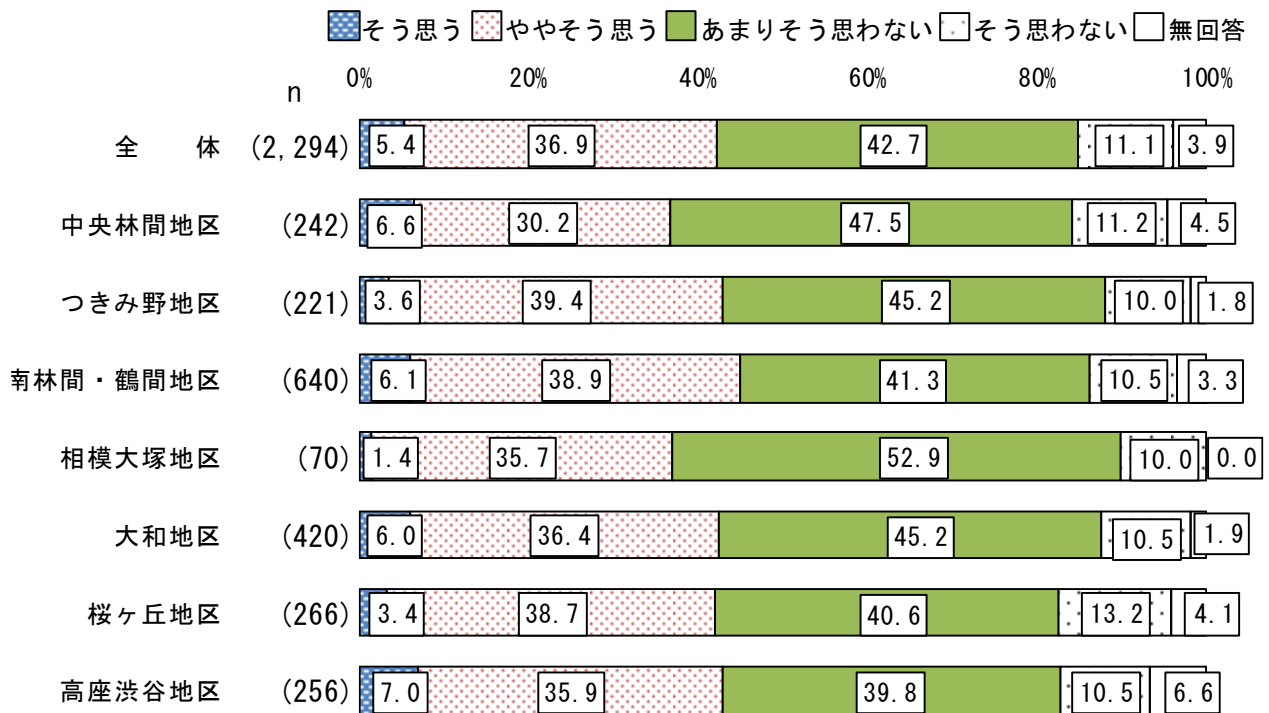
図表4-42 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異は見られない。（図表4-43）

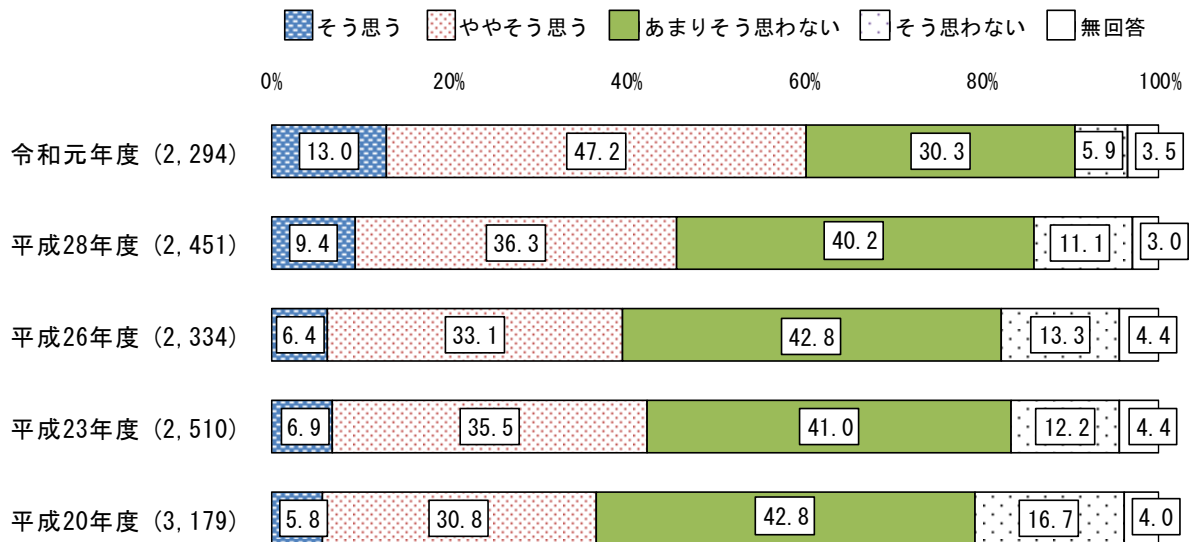
図表4-43 成果を計る指標－居住地域別



14. 大和市では、文化や芸術活動が盛んに行われていると思う

【そう思う】は60.2%で前回結果（45.7%）と比較して14.5ポイント増加している。（図表4-44）

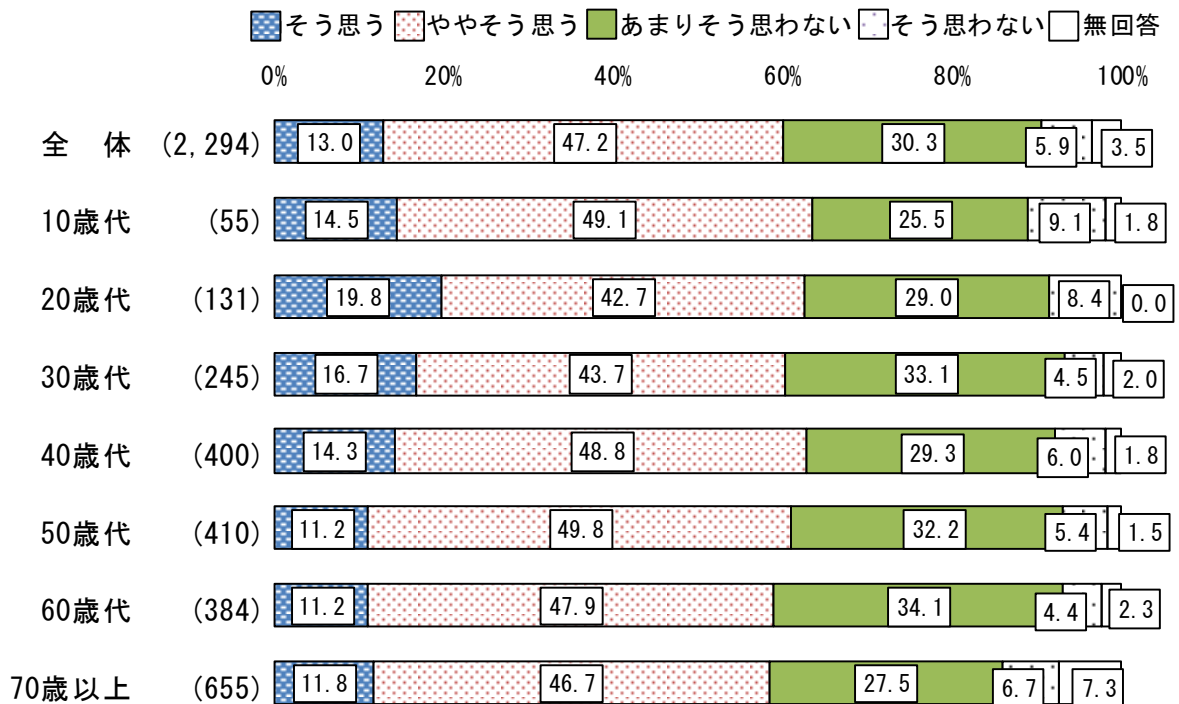
図表4-44 成果を計る指標－経年比較



【年齢別】

年齢別では、大きな差異は見られない。（図表4-45）

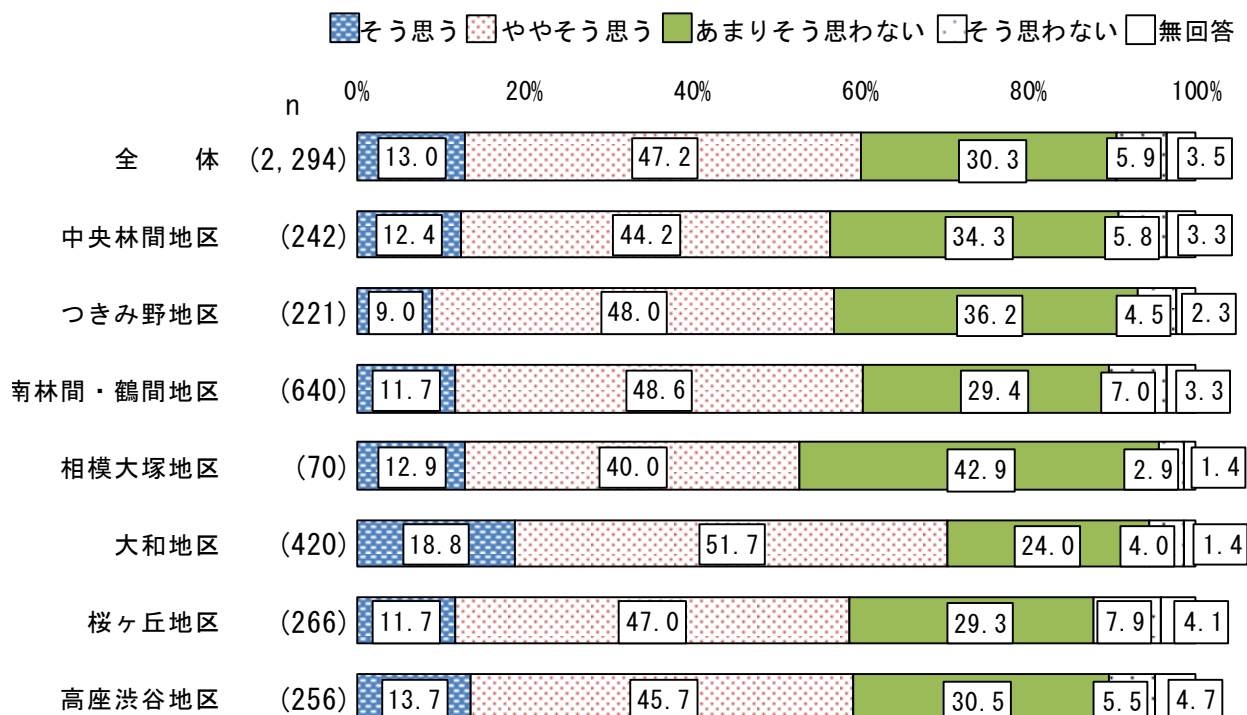
図表4-45 成果を計る指標－年齢別



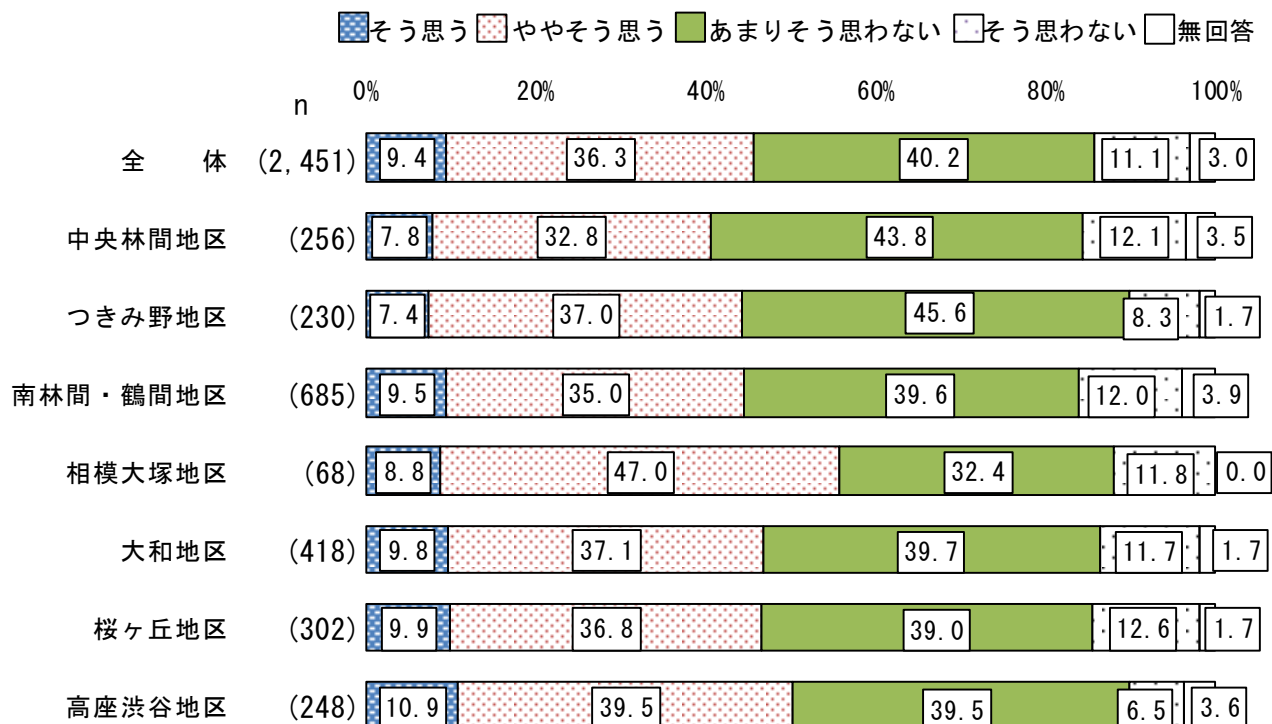
【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、大和地区（70.5%）で約7割となっている。また、前回結果（46.9%）と比較して23.6ポイント増加している。（図表4-46-1, 4-46-2）

図表4-46-1 成果を計る指標－居住地域別



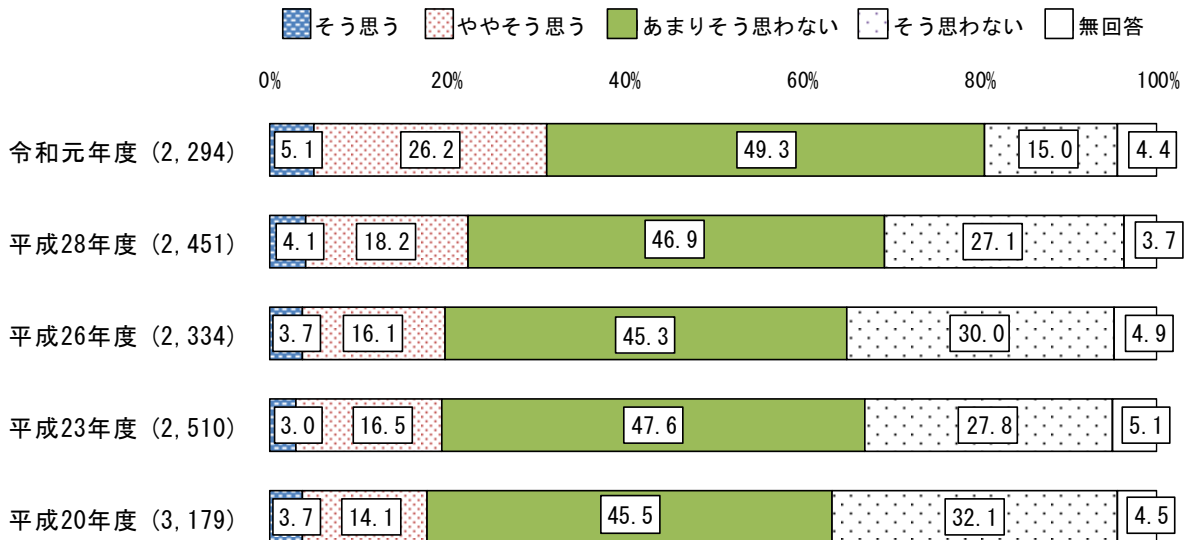
図表4-46-2 成果を計る指標－居住地域別（前回調査分）



15. あなたのまわりでは、多文化共生や国際交流が行われていると思う

【そう思う】は31.3%で、前回結果(22.3%)と比較して9.0ポイント増加している。(図表4-47)

図表4-47 成果を計る指標—経年比較

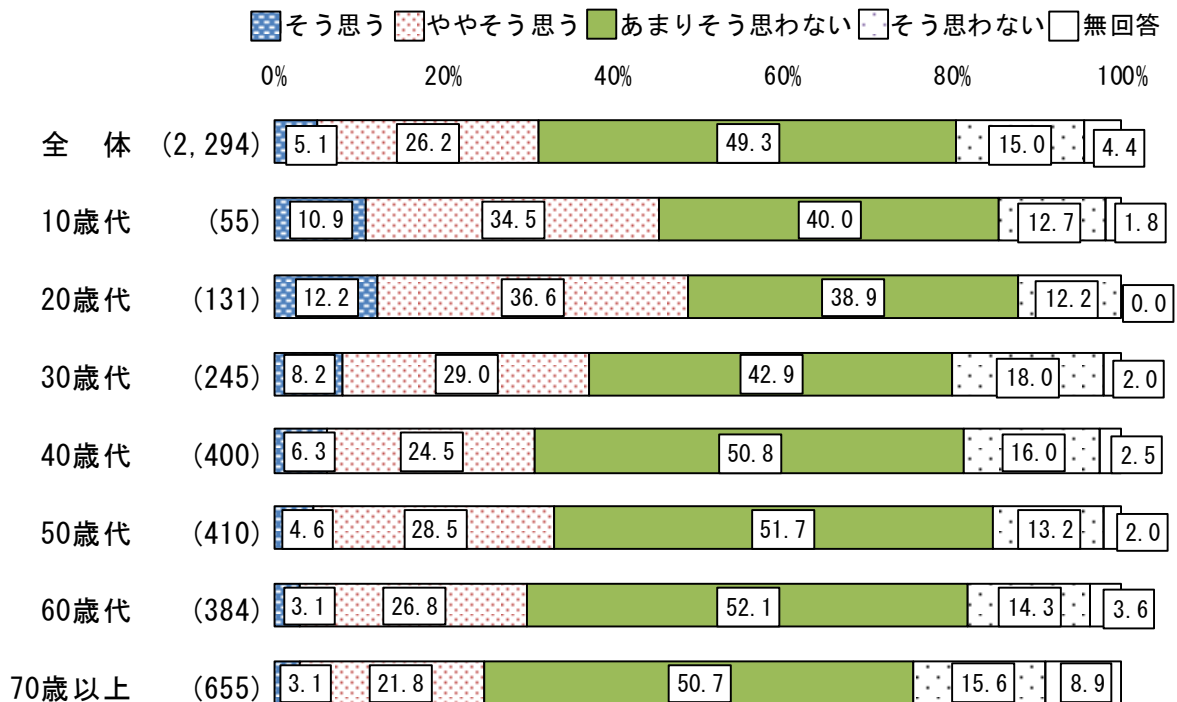


※前回調査までは「国際交流」のみ

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて【そう思う】が増加傾向となり、20歳代(48.9%)では5割近くとなっている。(図表4-48)

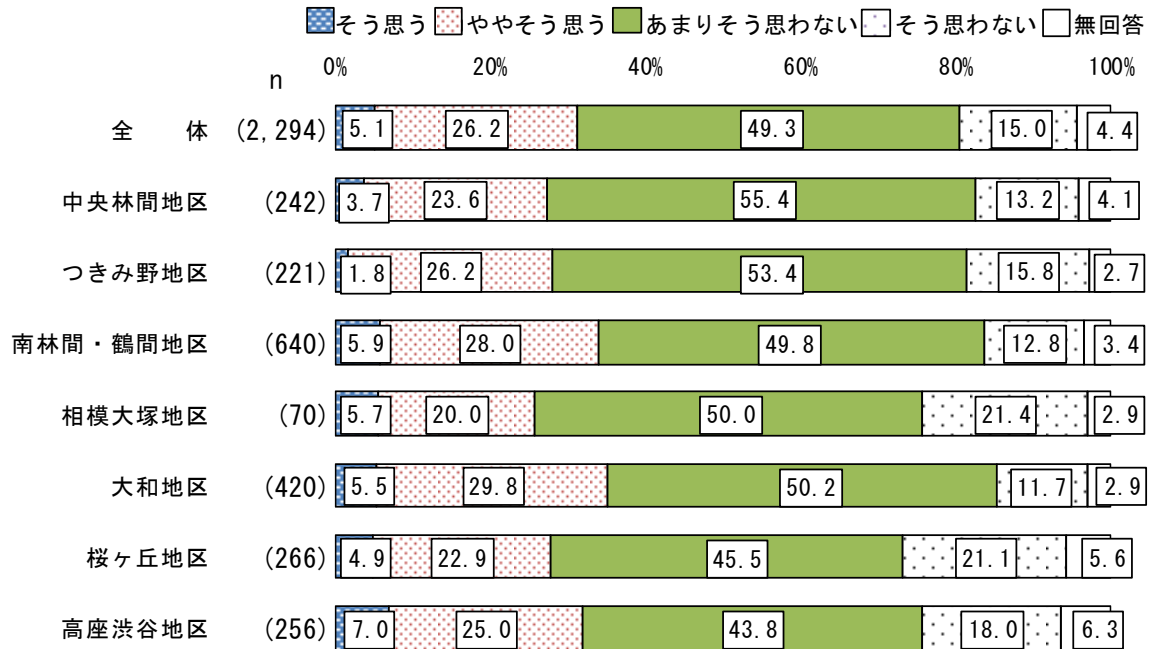
図表4-48 成果を計る指標—年齢別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【**そう思う**】と回答した人が、南林間・鶴間地区(33.9%)、大和地区(35.3%)で3割台半ばとなっている。(図表4-49)

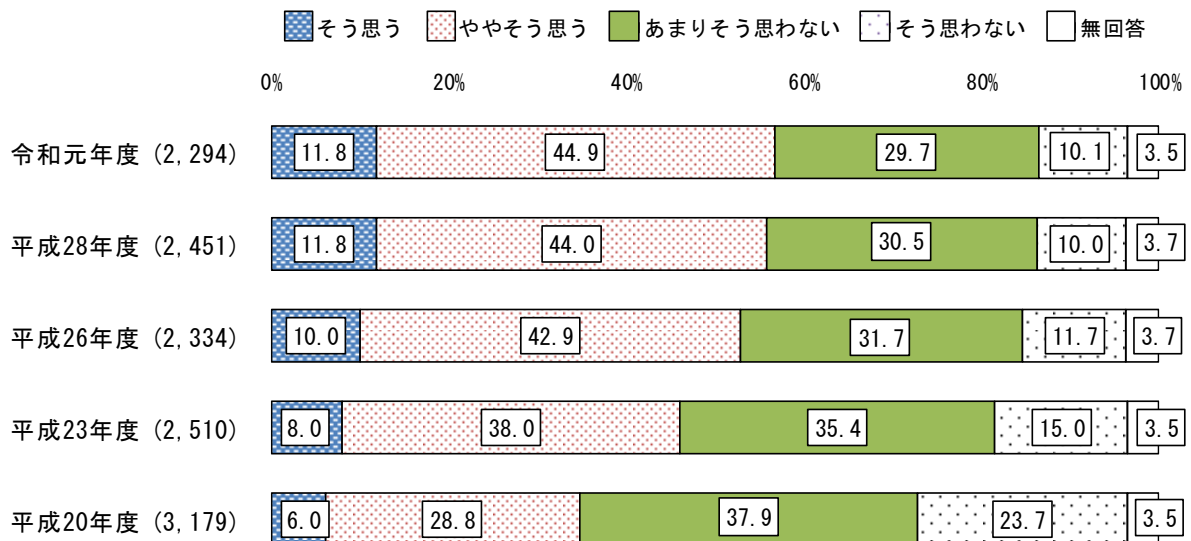
図表4-49 成果を計る指標－居住地域別



16. 以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う

【そう思う】は56.7%で前回結果(55.8%)と比較して0.9ポイント増加している。(図表4-50)

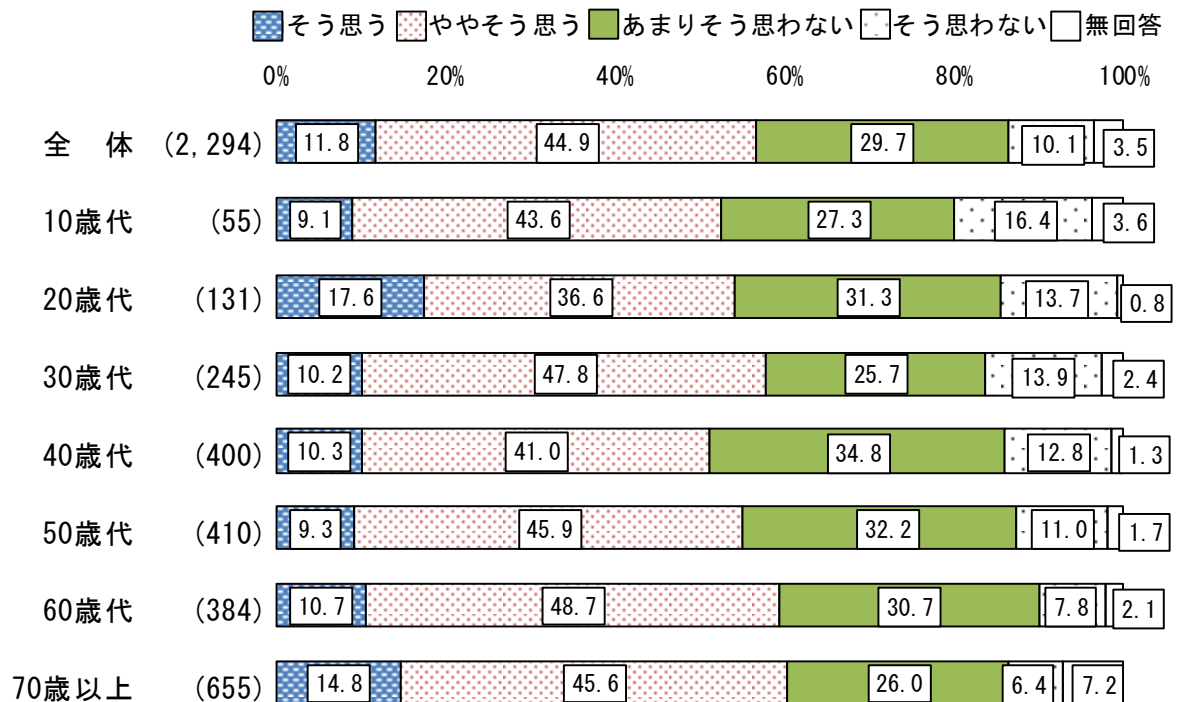
図表4-50 成果を計る指標—経年比較



【年齢別】

年齢別にみると、【そう思わない】と回答した人が、70歳以上(32.4%)で3割強と他の年代と比べ低くなっている。(図表4-51)

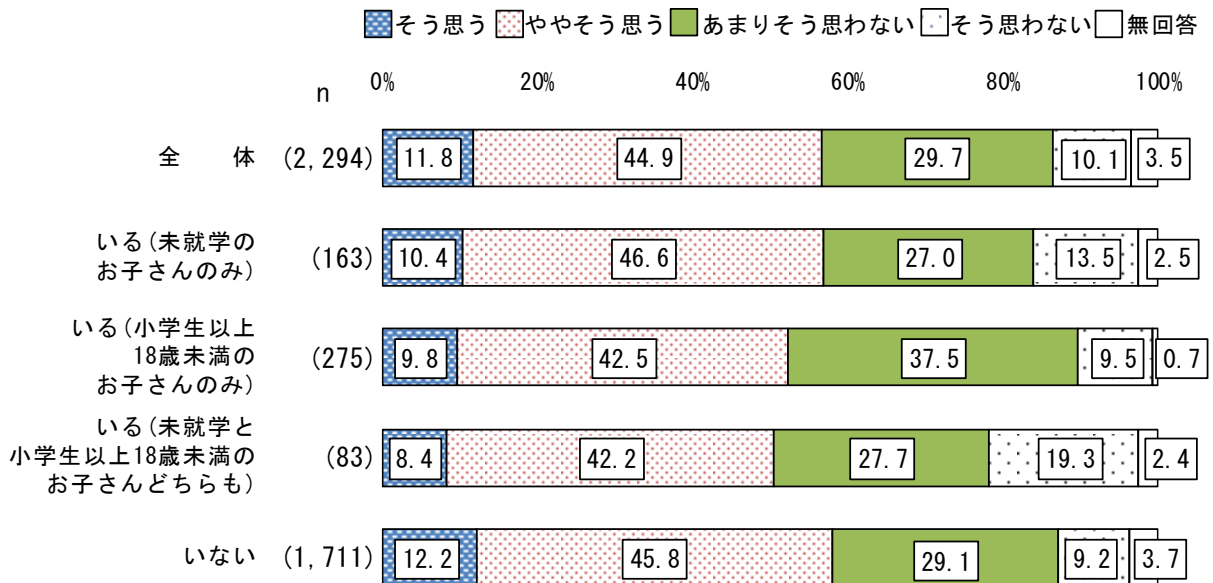
図表4-51 成果を計る指標—年齢別



【こどもの有無別】

こどもの有無別では、大きな差異は見られない。（図表4-52）

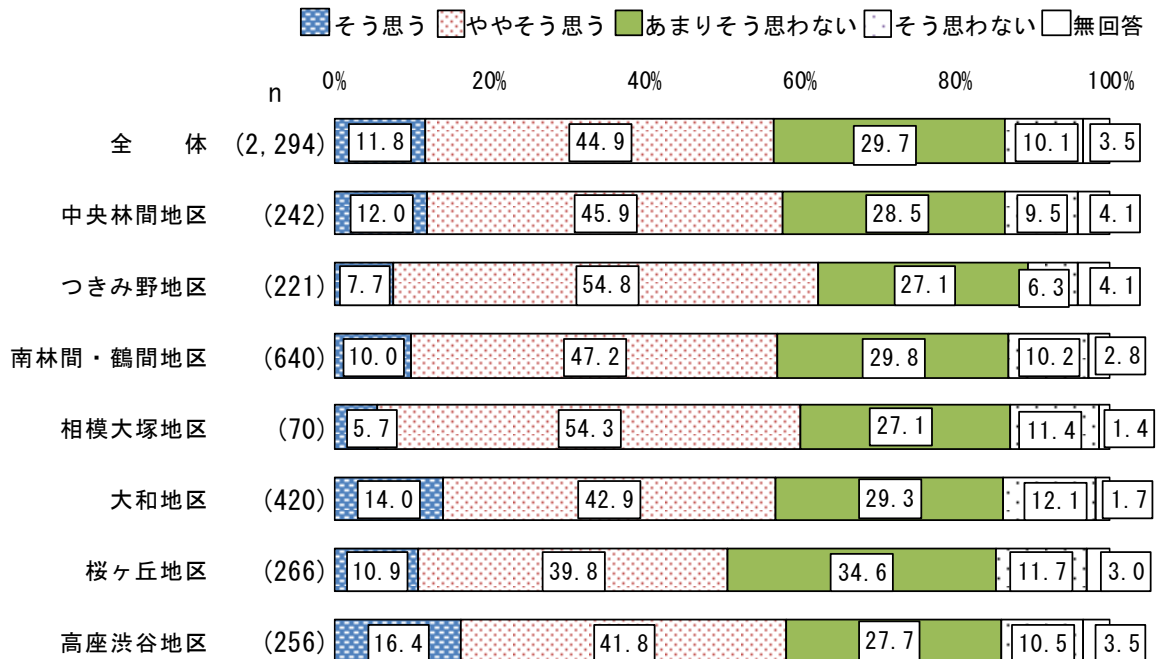
図表4-52 成果を計る指標—こどもの有無別



【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異は見られない。（図表4-53）

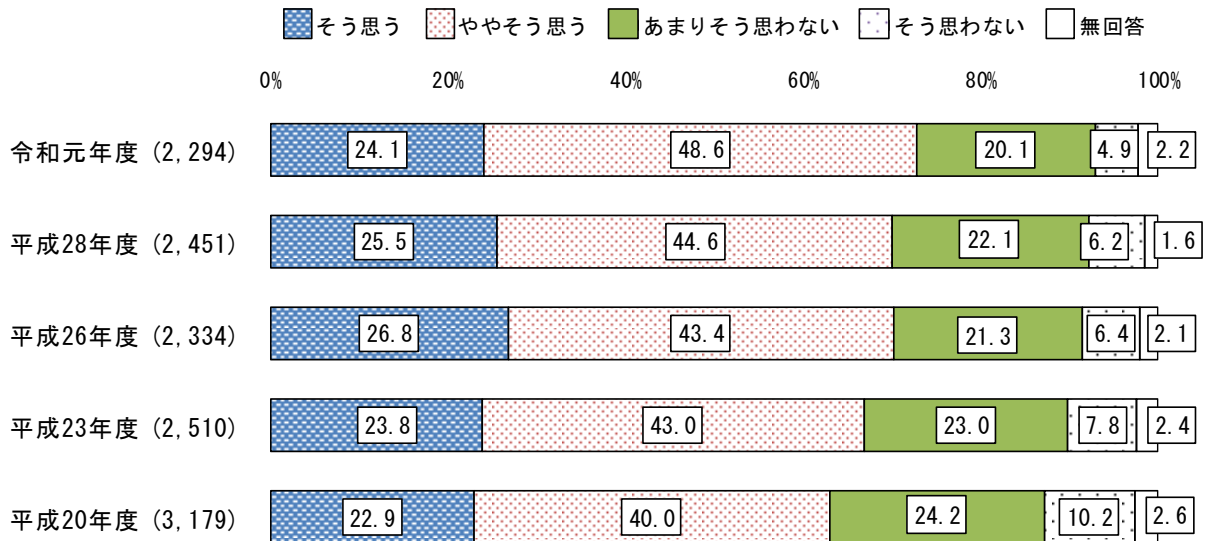
図表4-53 成果を計る指標—居住地域別



17. あなたの地域では、広域避難場所が知られていると思う

【そう思う】は72.7%で前回結果(70.1%)と比較して2.6ポイント増加している。(図表4-54)

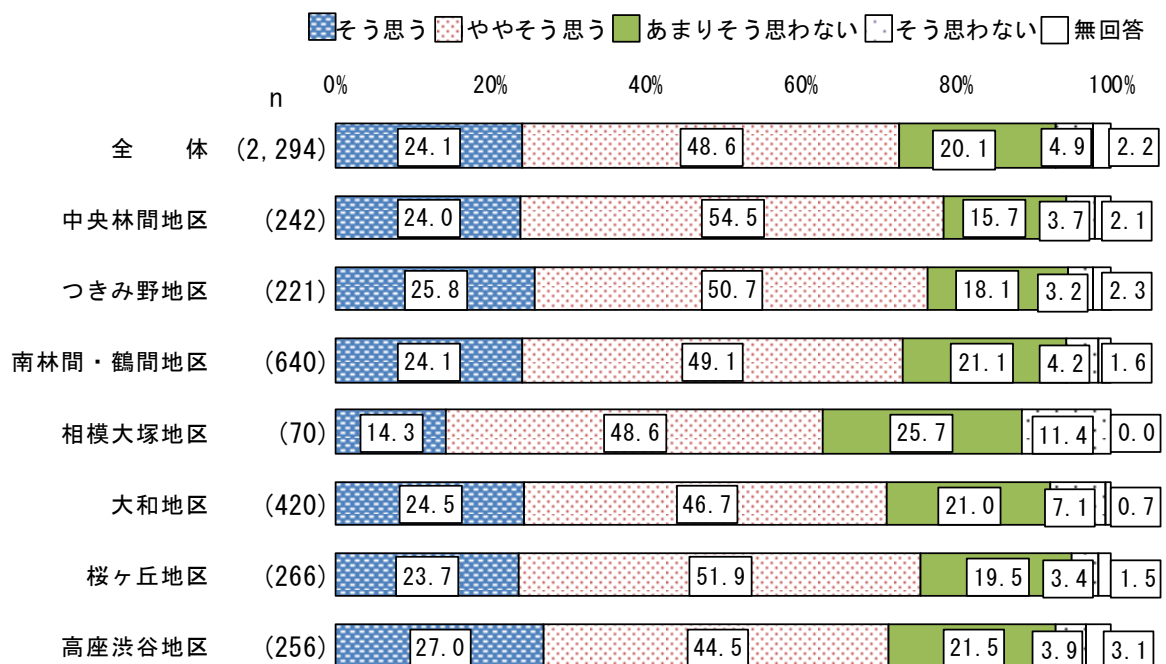
図表4-54 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、中央林間地区(78.5%)、つきみ野地区(76.5%)、桜ヶ丘地区(75.6%)で7割台半ば以上となっている。一方で、相模大塚地区(62.9%)は他の地域と比べ低くなっている。(図表4-55)

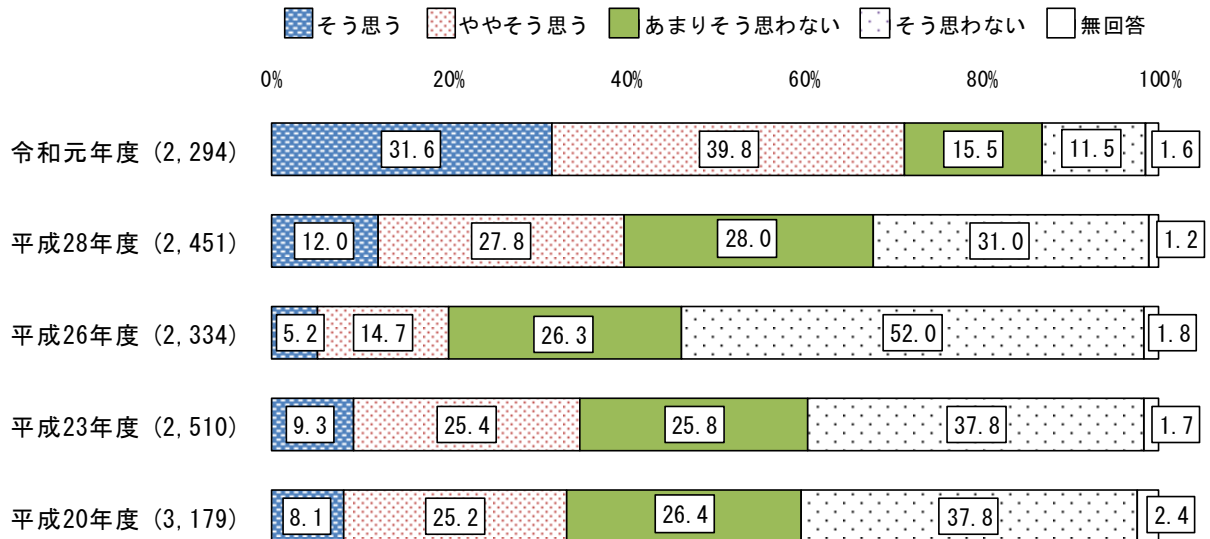
図表4-55 成果を計る指標—居住地域別



18. 以前に比べて、航空機による騒音が減ったと思う

【そう思う】は71.4%で前回結果（39.8%）と比較して31.6ポイント増加している。（図表4-56）

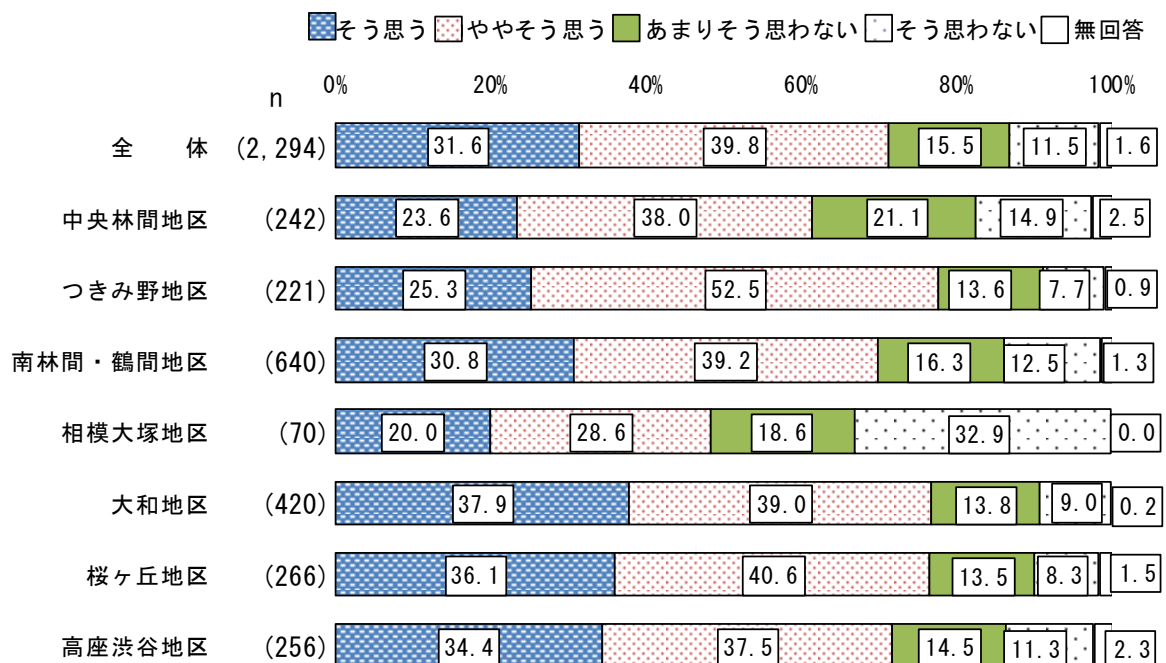
図表4-56 成果を計る指標－経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区（77.8%）、大和地区（76.9%）、桜ヶ丘地区（76.7%）で7割台半ば以上となっている。一方で、相模大塚地区（48.6%）は他の地域と比べ低くなっている。（図表4-57）

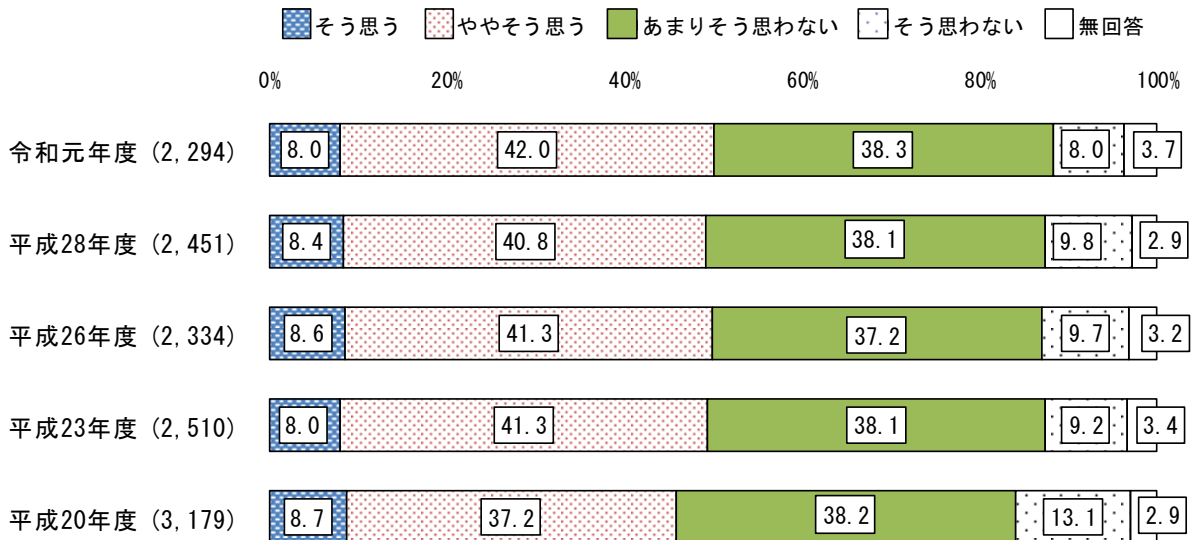
図表4-57 成果を計る指標－居住地域別



19. あなたのまわりでは、環境に配慮している人が多いと思う

【そう思う】は50.0%で前回結果(49.2%)と比較して0.8ポイント増加している。(図表4-58)

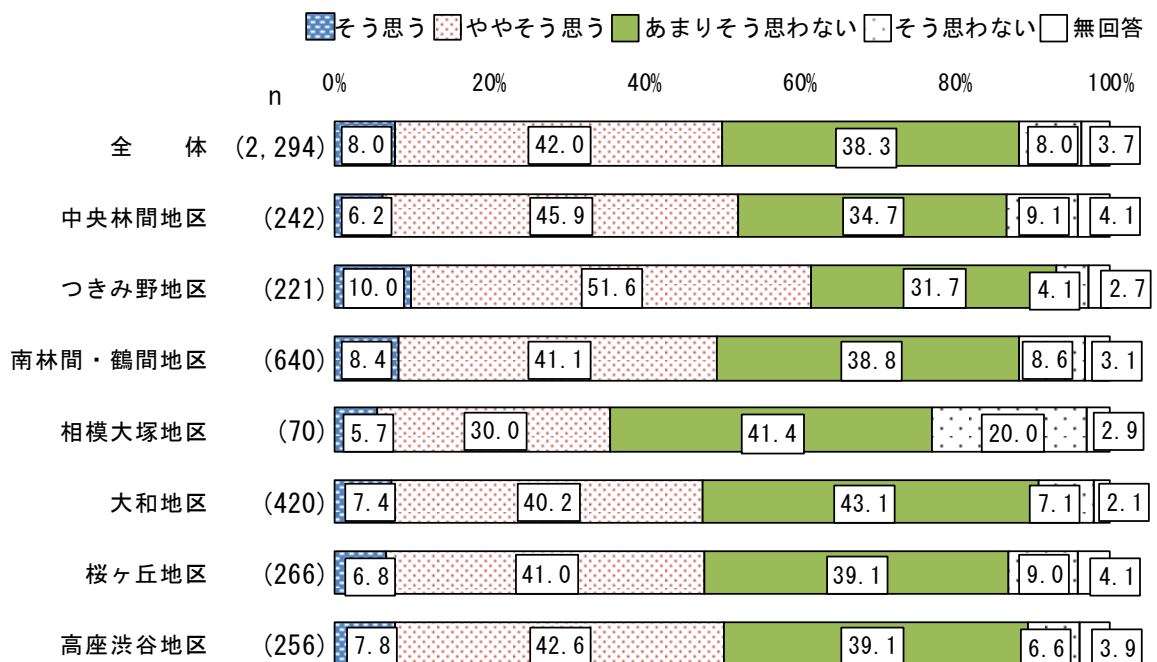
図表4-58 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区(61.6%)で6割強と多くなっている。一方で、相模大塚地区(35.7%)は他の地域と比べ低くなっている。(図表4-59)

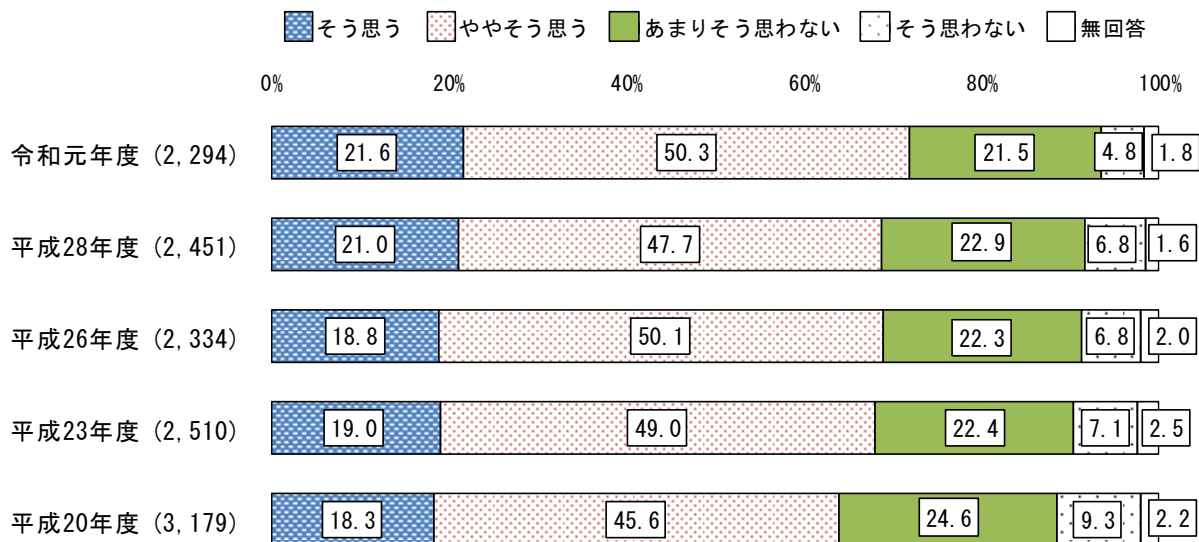
図表4-59 成果を計る指標—居住地域別



20. 大和市には、緑や公園が多いと思う

【そう思う】は71.9%で前回結果(68.7%)と比較して3.2ポイント増加している。(図表4-60)

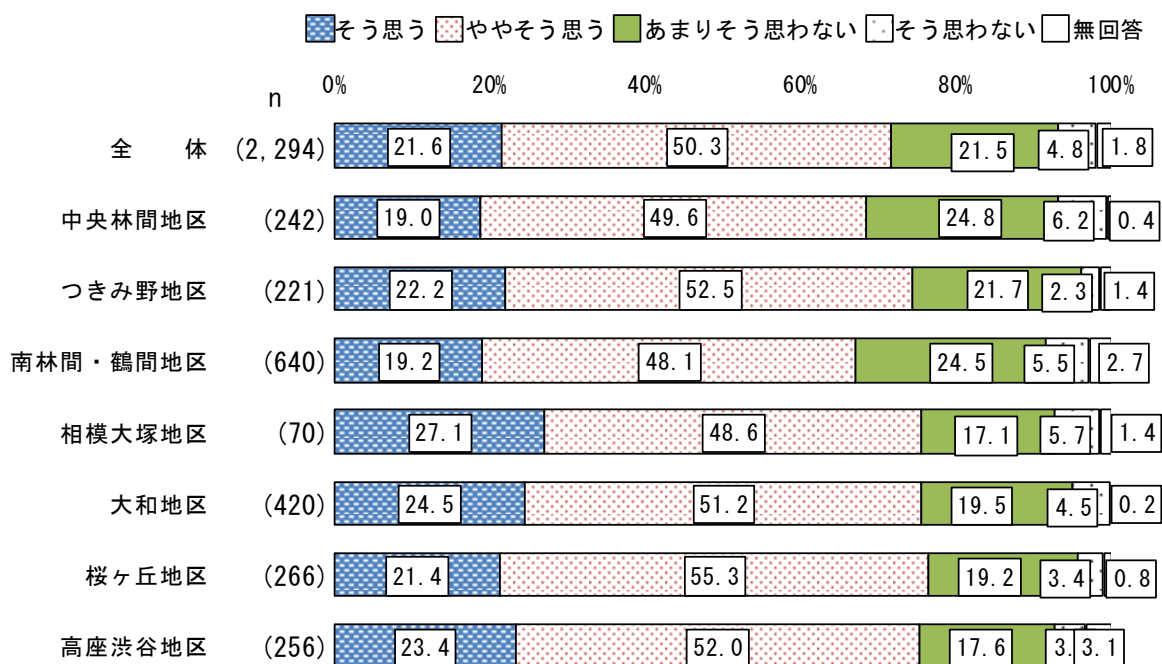
図表4-60 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異は見られない。(図表4-61)

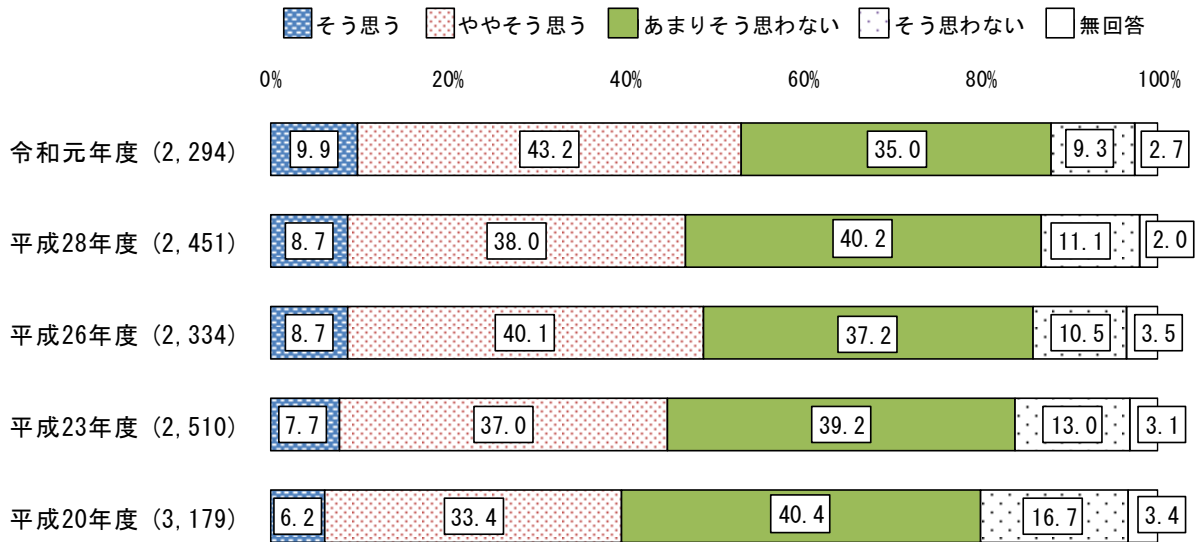
図表4-61 成果を計る指標—居住地域別



21. 大和市は、良好な街並みが形成されていると思う

【そう思う】は53.1%で前回結果(46.7%)と比較して6.4ポイント増加している。(図表4-62)

図表4-62 成果を計る指標—経年比較

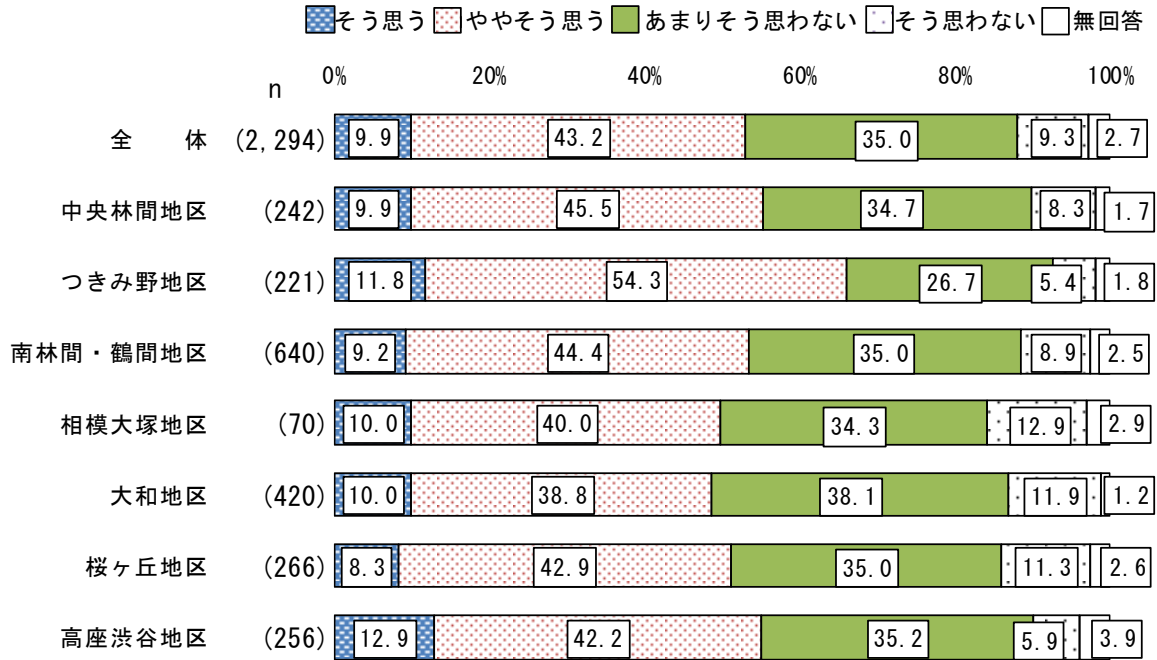


【居住地域別】

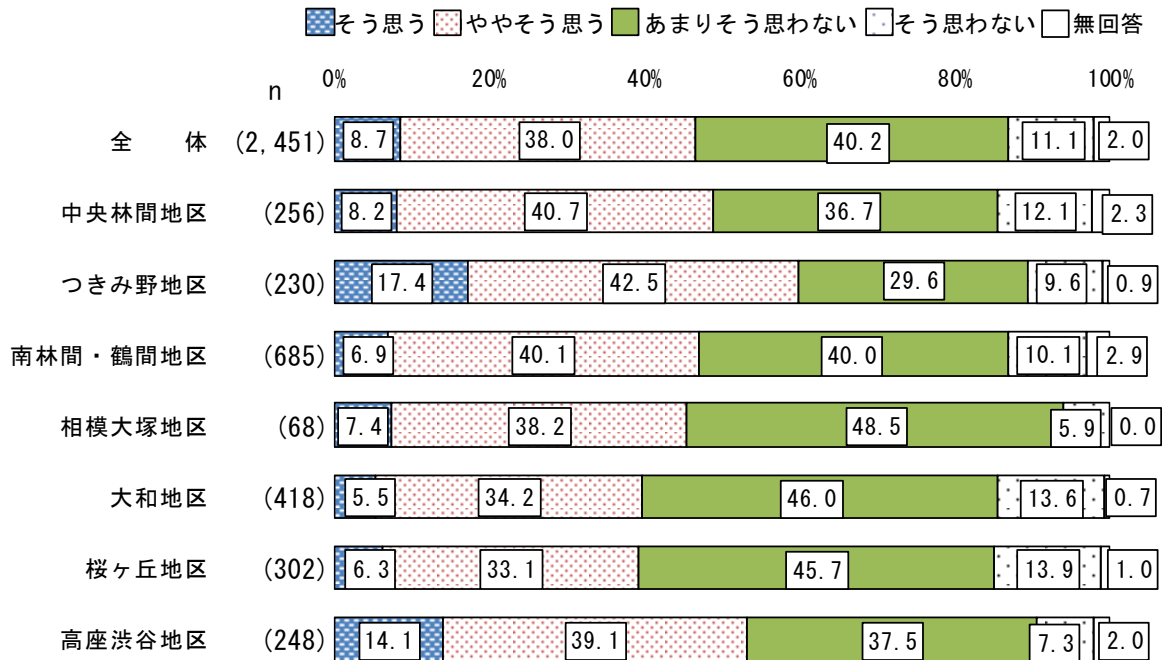
居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、つきみ野地区（66.1%）で6割台半ば以上と多くなっている。

また、前回結果（59.9%）と比較して6.2ポイント増加している。（図表4-63-1, 4-63-2）

図表4-63-1 成果を計る指標－居住地域別



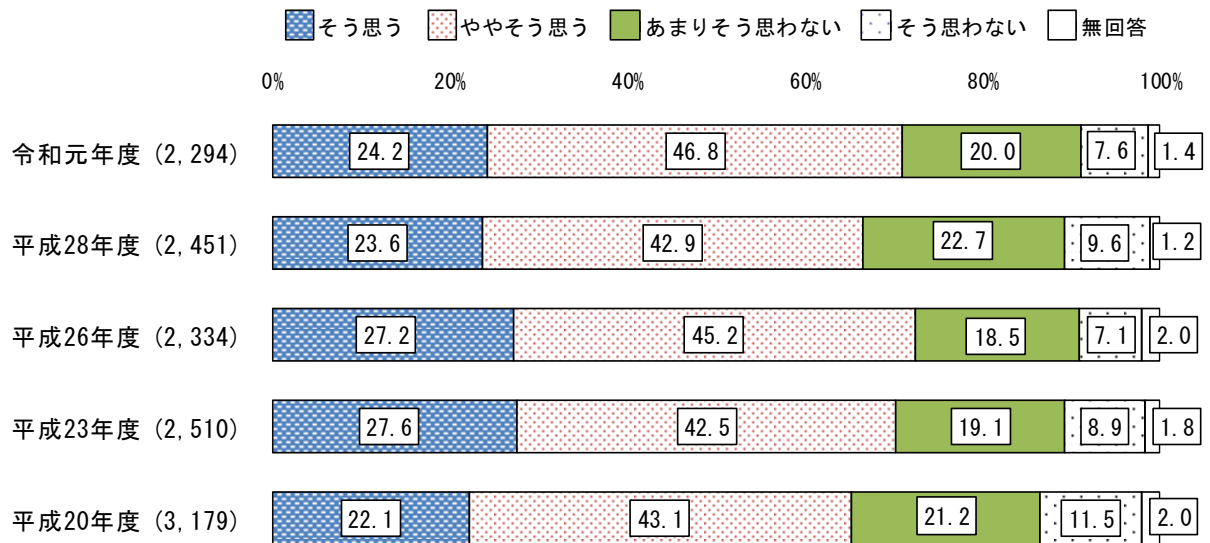
図表4-63-2 成果を計る指標－居住地域別（前回調査分）



22. 大和市は、買い物がしやすいと思う

【そう思う】は71.0%で前回結果(66.5%)と比較して4.5ポイント増加している。(図表4-64)

図表4-64 成果を計る指標—経年比較

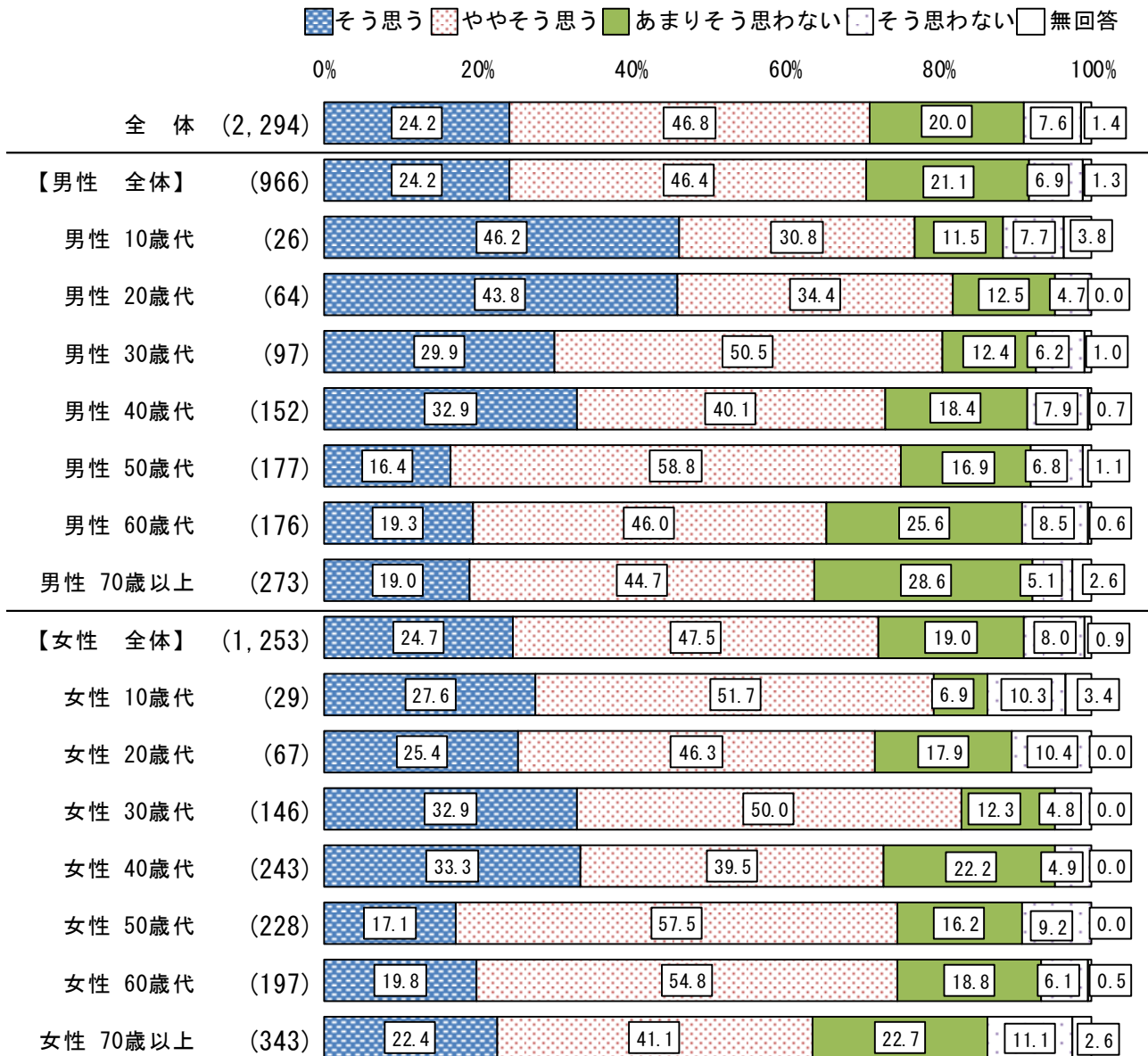


【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも【**そう思う**】と回答した人は7割を超えている。

年齢別にみると、男女とも30歳代で【**そう思う**】が8割以上となっている。(図表4-65)

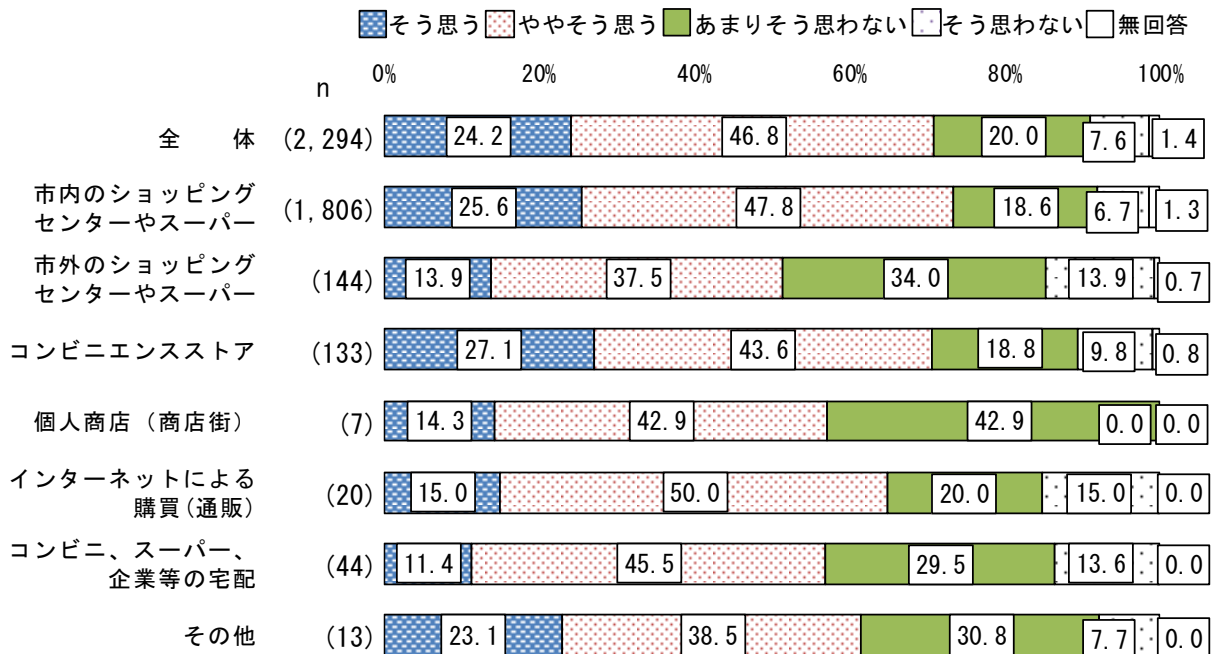
図表4-65 成果を計る指標－性別・年齢別



【買い物をする場所別】

買い物をする場所別にみると、「市内のショッピングセンターやスーパー」「コンビニエンスストア」と回答した人で、【そう思う】が7割以上となっている。（図表4-66）

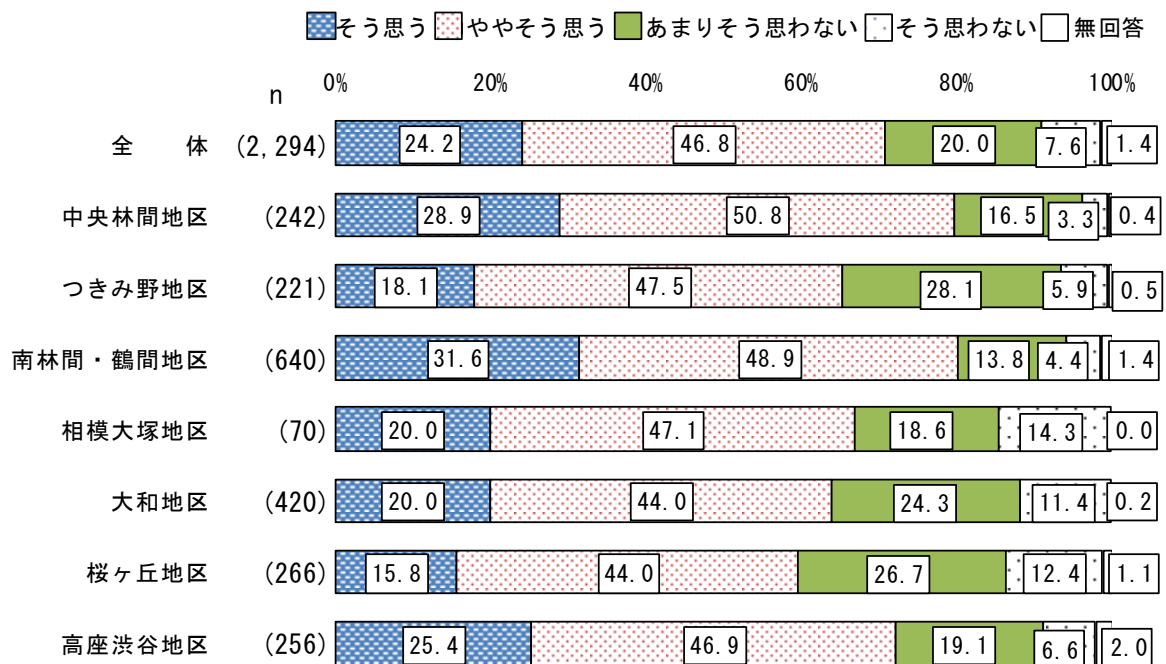
図表4-66 成果を計る指標－買い物をする場所別



【居住地域別】

居住地域別にみると、【そう思う】と回答した人が、中央林間地区（79.7%）と南林間・鶴間地区（80.5%）で約8割となっている。（図表4-67）

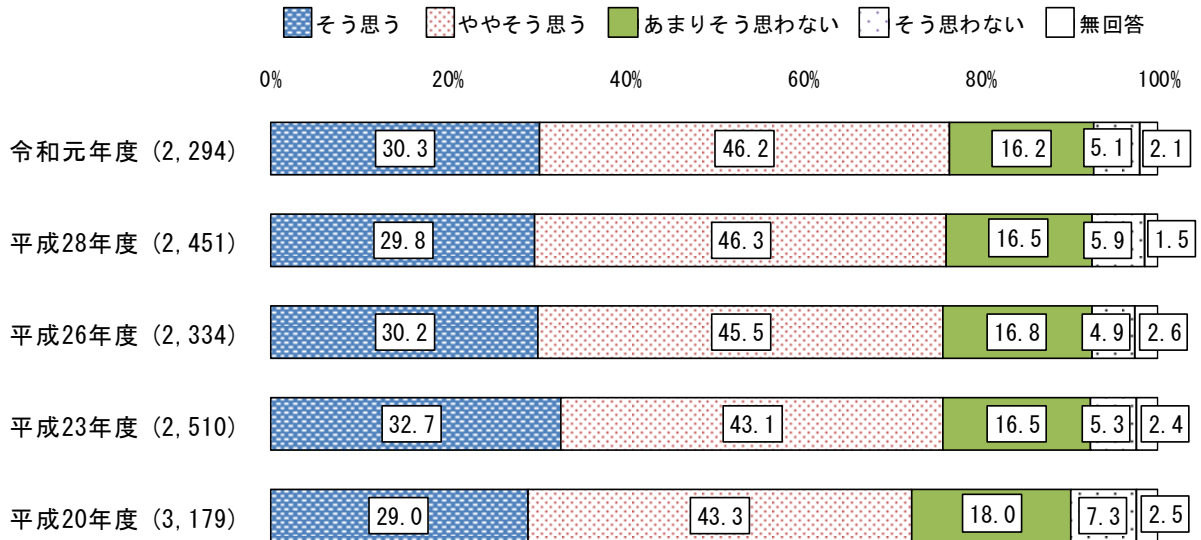
図表4-67 成果を計る指標－居住地域別



23. 大和市は、公共交通機関を手軽に利用できると思う

【そう思う】は76.5%で前回結果(76.1%)と比較して0.4ポイント増加している。(図表4-68)

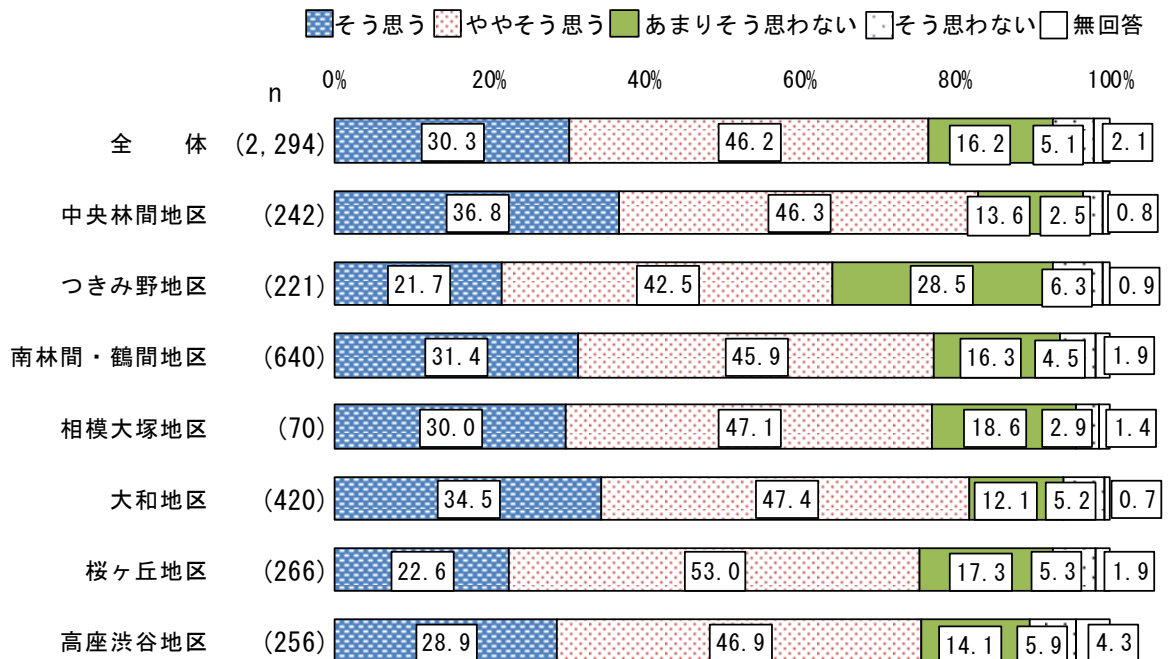
図表4-68 成果を計る指標—経年比較



【居住地域別】

居住地域別にみると、中央林間地区(83.1%)、大和地区(81.9%)で8割以上と多くなっている。一方で、つきみ野地区(64.2%)では6割台半ばと、他の地域と比べ低くなっている。(図表4-69)

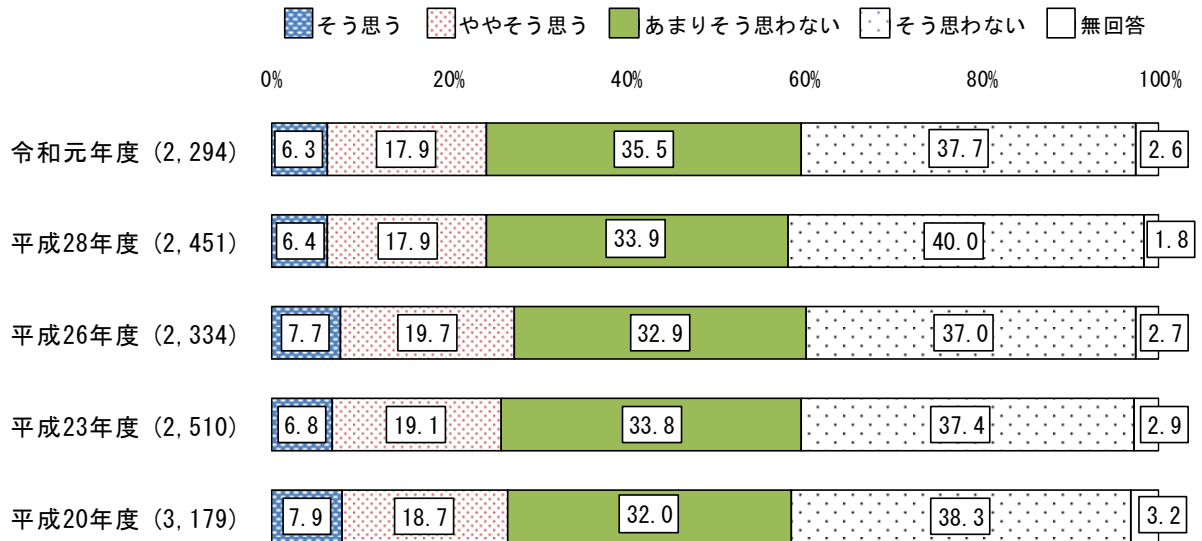
図表4-69 成果を計る指標—居住地域別



24. あなたは、地域活動に参加していると思う

【そう思う】は24.2%で前回結果(24.3%)と比較して0.1ポイント減少している。(図表4-70)

図表4-70 成果を計る指標—経年比較

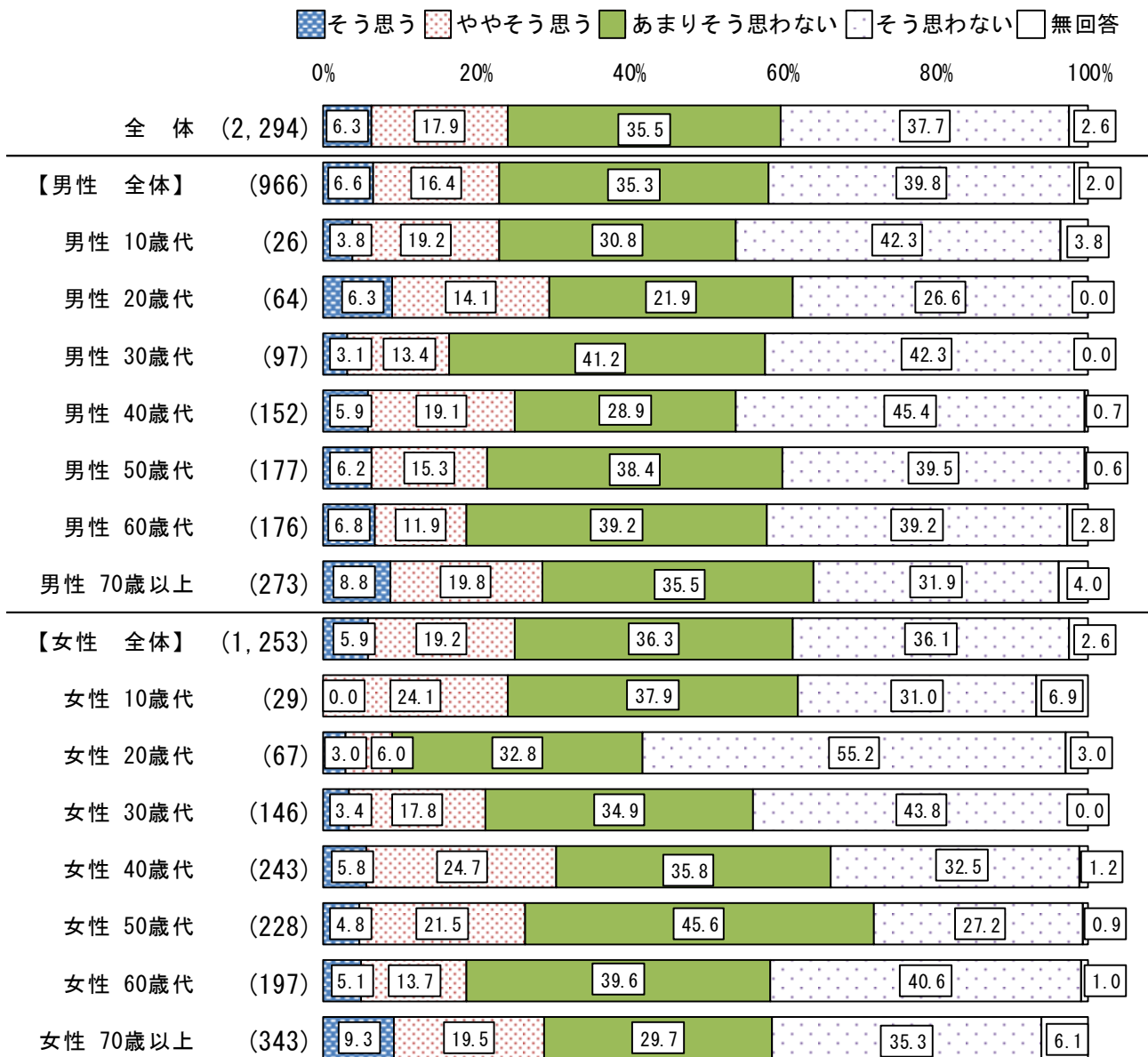


【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも【そう思う】は2割台半ばとなっている。

年齢別にみると、女性20歳代(9.0%)で【そう思う】は1割弱と他の年代と比べ少なくなっている。(図表4-71)

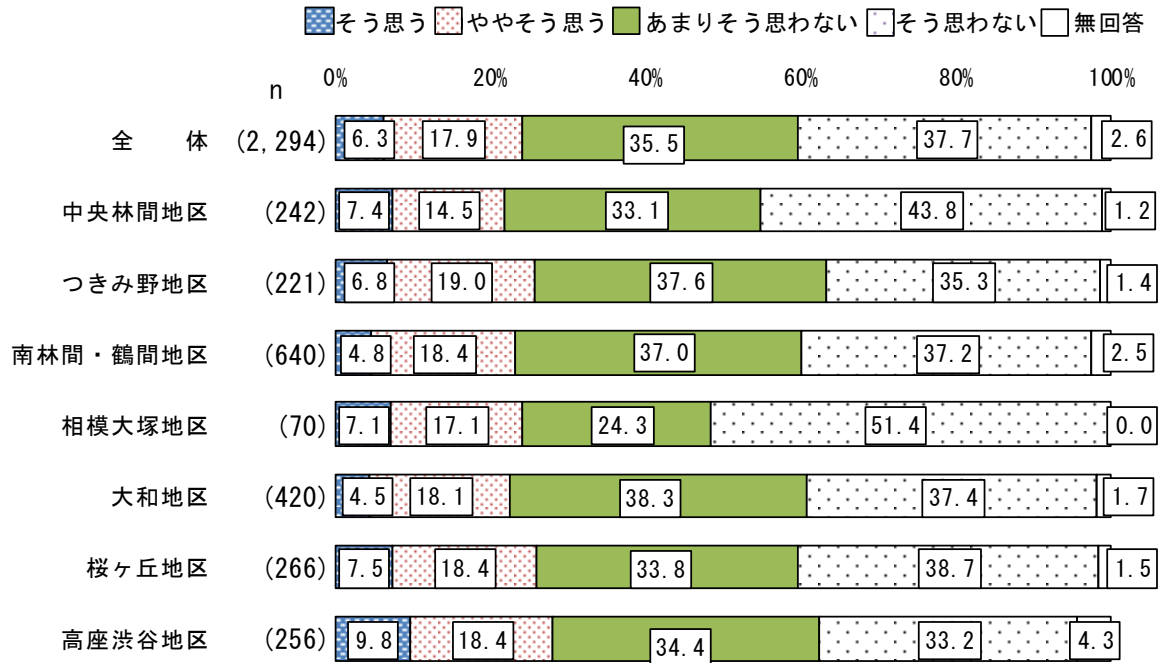
図表4-71 成果を計る指標－性別・年齢別



【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異は見られない。（図表4-72）

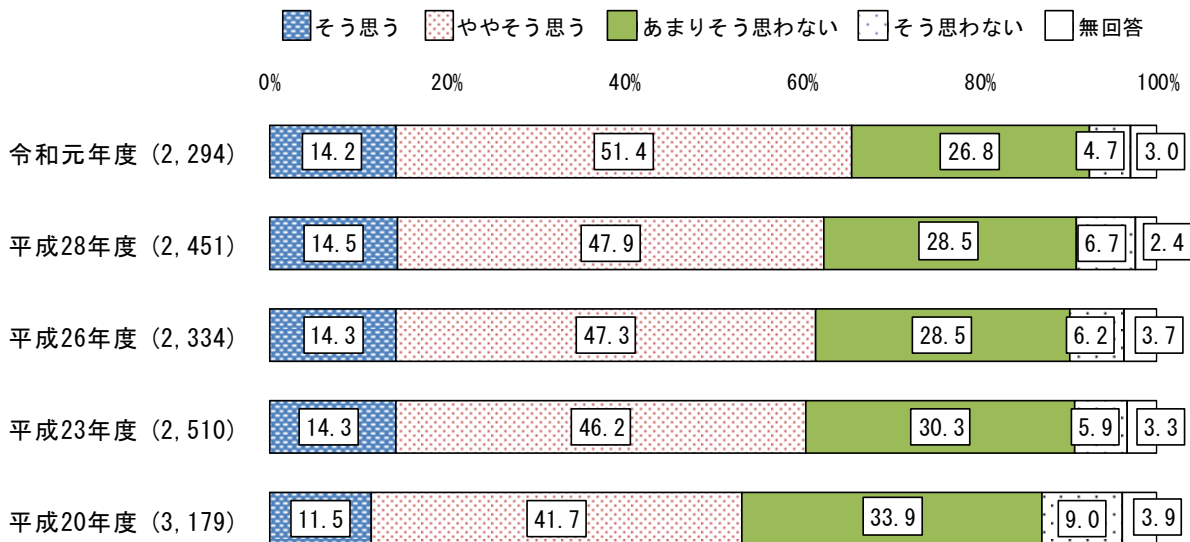
図表4-72 成果を計る指標－居住地域別



25. 大和市では、市政情報（市が提供すべき情報）を手軽に入手できると思う

【そう思う】は 65.6%で前回結果 (62.4%) と比較して 3.2 ポイント増加している。(図表 4-73)

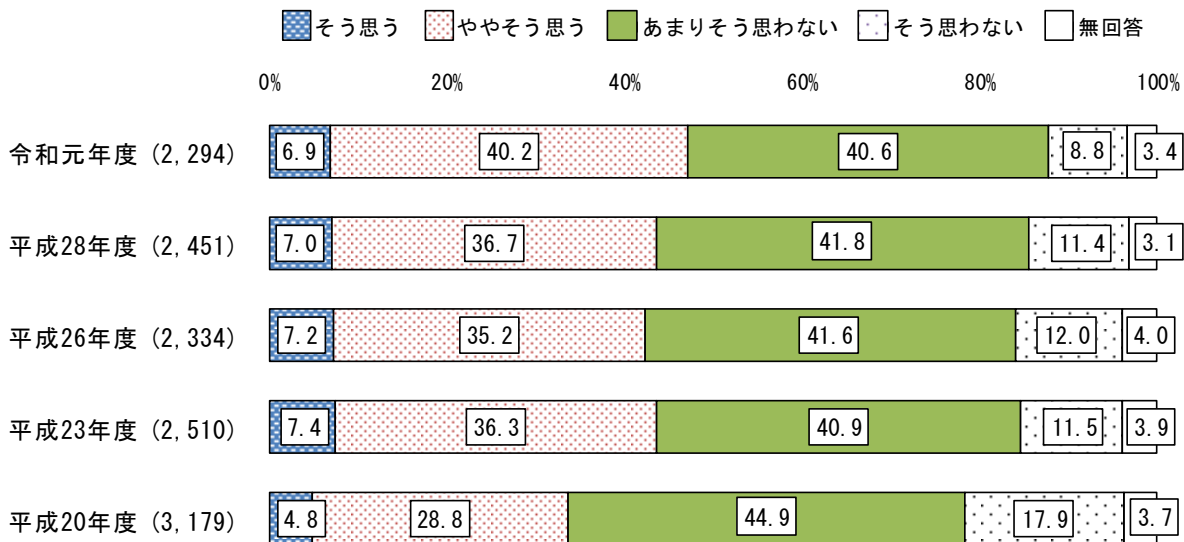
図表 4-73 成果を計る指標—経年比較



26. 大和市役所は、市民の声が届く市役所であると思う

【そう思う】は 47.1%で前回結果 (43.7%) と比較して 3.4 ポイント増加している。(図表 4-74)

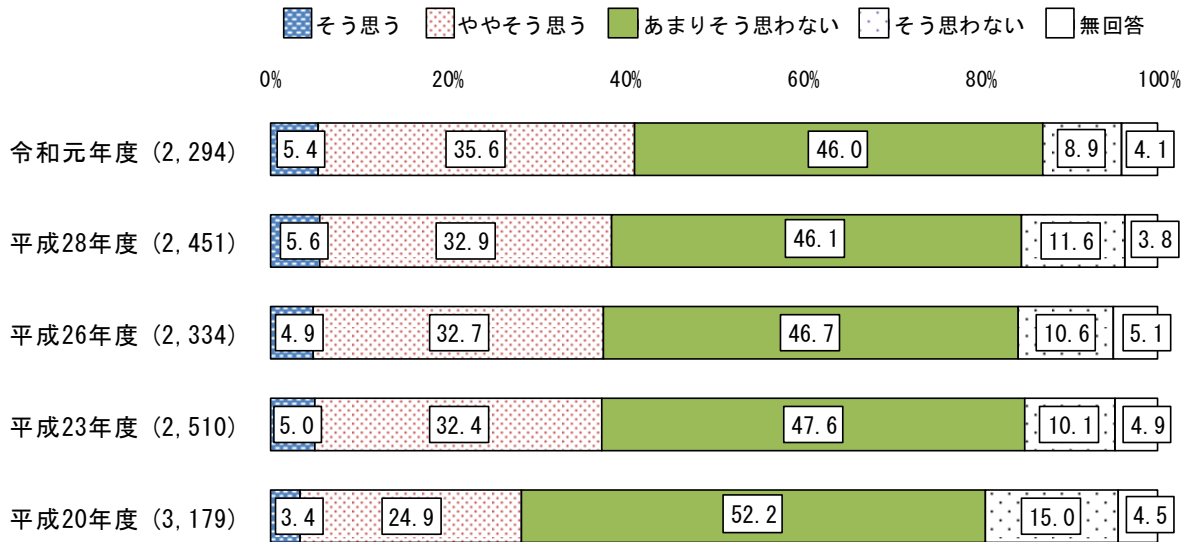
図表 4-74 成果を計る指標—経年比較



27. 大和市では、市政への参加の機会が確保されていると思う

【そう思う】は41.0%で前回結果(38.5%)と比較して2.5ポイント増加している。(図表4-75)

図表4-75 成果を計る指標—経年比較

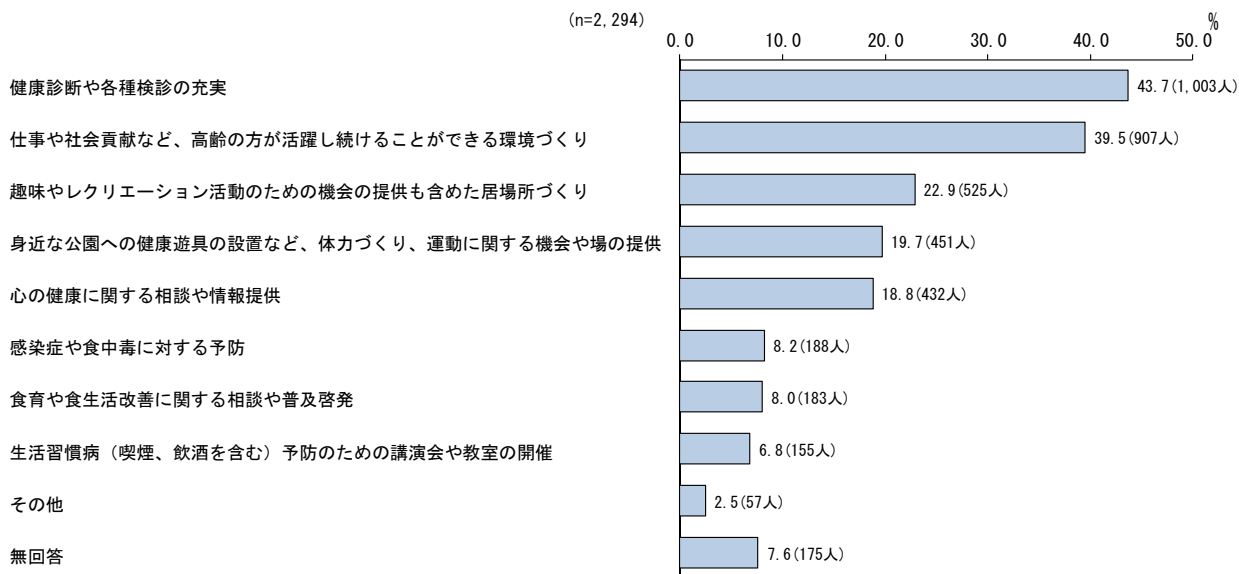


(5) 市が重視すべき取り組みについて

問5 心と身体の健康づくりに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「健康診断や各種検診の充実」(43.7%)が最も多く4割台半ばとなっている。次いで、「仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり」(39.5%)、「趣味やレクリエーション活動のための機会の提供も含めた居場所づくり」(22.9%)、「身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供」(19.7%)の順となっている。(図表5-1)

図表5-1 心と身体の健康づくりに関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別にみると、男性は「健康診断や各種検診の充実」(45.2%)が最も多く、女性は「仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり」(43.7%)が最も多くなっている。

年齢別にみると、男女とも年齢が上がるにつれて「仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり」が増加傾向となっている。(図表5-1-1)

図表5-1-1 心と身体の健康づくりに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	健康診断や各種検診の充実	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供	生活習慣病(喫煙、飲酒を含む)予防のための講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	食育や食生活改善に関する相談や普及啓発	感染症や食中毒に対する予防	趣味やレクリエーション活動のたのめりの提供も含めた居場所づくり	仕事や社会貢献など、高齢の方が活躍し続けることができる環境づくり	その他	無回答
全体	2,294	43.7	19.7	6.8	18.8	8.0	8.2	22.9	39.5	2.5	7.6
【男性 全体】	966	45.2	23.2	7.2	16.7	7.9	6.8	24.1	34.9	3.0	8.0
男性 10歳代	26	38.5	46.2	23.1	19.2	3.8	11.5	11.5	3.8	3.8	7.7
男性 20歳代	64	40.6	43.8	7.8	21.9	4.7	12.5	21.9	10.9	6.3	4.7
男性 30歳代	97	57.7	24.7	10.3	11.3	14.4	6.2	19.6	20.6	5.2	6.2
男性 40歳代	152	50.0	27.0	6.6	16.4	11.2	9.2	23.7	28.3	4.6	3.3
男性 50歳代	177	42.9	23.2	7.3	21.5	7.3	7.3	23.2	44.1	0.6	4.0
男性 60歳代	176	43.2	21.0	5.7	15.3	4.5	4.5	27.8	46.0	1.1	9.7
男性 70歳以上	273	42.5	15.0	5.9	14.7	7.3	5.1	26.0	39.2	3.3	13.6
【女性 全体】	1,253	42.8	17.1	6.4	20.9	8.1	9.4	21.9	43.7	2.2	6.5
女性 10歳代	29	41.4	27.6	3.4	10.3	-	10.3	34.5	37.9	3.4	10.3
女性 20歳代	67	56.7	26.9	1.5	28.4	7.5	11.9	17.9	26.9	1.5	4.5
女性 30歳代	146	58.2	21.9	4.1	19.9	13.0	15.8	25.3	30.1	0.7	0.7
女性 40歳代	243	51.9	14.8	2.5	20.6	8.6	7.8	17.7	49.8	4.1	2.1
女性 50歳代	228	41.7	17.1	8.3	19.7	7.5	5.7	21.9	51.8	2.6	3.9
女性 60歳代	197	32.5	18.8	8.1	21.8	7.1	10.2	24.4	54.8	2.0	3.6
女性 70歳以上	343	33.8	12.8	9.0	21.3	7.3	9.3	21.9	37.3	1.5	15.7

【医療機関の利用頻度別】

医療機関の利用頻度別では、大きな差異は見られない。（図表5-1-2）

図表5-1-2 心と身体の健康づくりに関する取り組み－医療機関の利用頻度別

単位：％

	調査数（n）	健康診断や各種検診の充実	会や場の提供	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会	生活習慣病（喫煙、飲酒を含む）の講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	普及啓発	食育や食生活改善に関する相談や	感染症や食中毒に対する予防	くめりの機会	趣味やレクリエーション活動の提供も含めた居場所づくり	活躍し続けることができる環境づくり	仕事や社会貢献など、高齢の方が	その他	無回答	
全体	2,294	43.7	19.7	6.8	18.8	8.0	8.2	22.9	39.5	2.5	7.6	2.0	16.3	6.9	9.9	4.1
週に1回以上	98	38.8	17.3	6.1	16.3	9.2	7.1	21.4	38.8	2.0	16.3	1.9	6.9	9.9	4.1	5.9
月に2～3回程度	377	49.3	16.7	6.9	23.3	7.4	7.4	18.8	41.9	1.9	6.9	2.4	9.9	4.1	5.9	4.1
月に1回ほど	872	45.4	18.2	6.4	18.2	7.8	7.5	22.7	37.4	2.4	9.9	3.0	4.1	5.9	4.1	5.9
年に2～3回程度	798	41.2	21.9	7.3	17.9	7.1	9.5	25.8	42.2	3.0	4.1	2.5	5.9	5.9	5.9	5.9
年に1回も利用しない	119	37.8	26.9	5.9	17.6	14.3	8.4	20.2	34.5	2.5	5.9	2.5	5.9	5.9	5.9	5.9

【居住地域別】

居住地域別にみると、「身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会や場の提供」が相模大塚地区（42.9％）で4割強と他の地域と比べ高くなっている。（図表5-1-3）

図表5-1-3 心と身体の健康づくりに関する取り組み－居住地域別

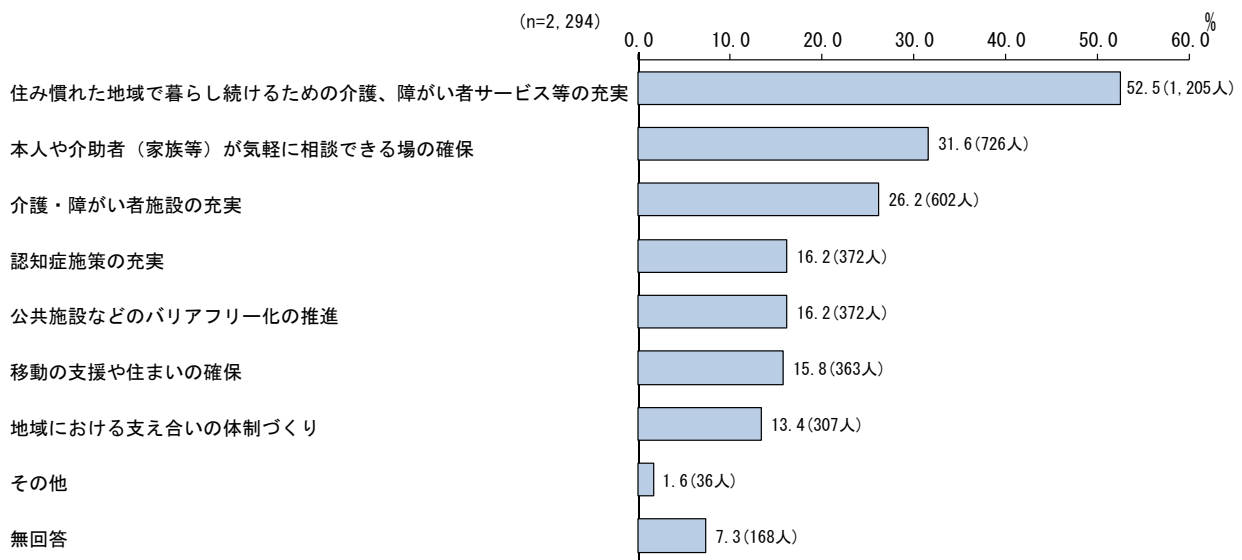
単位：％

	調査数（n）	健康診断や各種検診の充実	会や場の提供	身近な公園への健康遊具の設置など、体力づくり、運動に関する機会	生活習慣病（喫煙、飲酒を含む）の講演会や教室の開催	心の健康に関する相談や情報提供	普及啓発	食育や食生活改善に関する相談や	感染症や食中毒に対する予防	くめりの機会	趣味やレクリエーション活動の提供も含めた居場所づくり	活躍し続けることができる環境づくり	仕事や社会貢献など、高齢の方が	その他	無回答	
全体	2,294	43.7	19.7	6.8	18.8	8.0	8.2	22.9	39.5	2.5	7.6	2.0	16.3	6.9	9.9	4.1
中央林間地区	242	47.1	27.3	7.0	17.4	5.8	5.8	26.9	40.5	4.1	1.2	1.8	1.8	2.2	4.3	2.6
つきみ野地区	221	43.0	20.4	5.9	22.2	6.8	6.8	26.7	45.2	1.8	1.8	2.8	2.2	4.3	2.6	3.4
南林間・鶴間地区	640	49.1	18.8	6.6	20.8	8.9	10.5	23.1	41.9	2.8	2.2	2.8	2.2	4.3	2.6	3.4
相模大塚地区	70	47.1	42.9	2.9	17.1	11.4	11.4	18.6	27.1	1.4	4.3	2.4	2.6	3.4	3.4	3.4
大和地区	420	41.2	22.4	8.3	19.3	9.5	8.3	24.0	43.3	2.4	2.6	2.4	2.6	3.4	3.4	3.4
桜ヶ丘地区	266	48.1	13.2	7.9	20.7	8.3	9.8	24.1	41.7	1.5	3.4	1.5	3.4	3.4	3.4	3.4
高座渋谷地区	256	45.7	19.5	7.8	19.1	8.6	7.0	25.0	40.6	3.5	4.3	3.5	4.3	4.3	4.3	4.3

問6 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実」(52.5%)が最も多く5割を超えている。次いで「本人や介助者(家族等)が気軽に相談できる場の確保」(31.6%)、「介護・障がい者施設の充実」(26.2%)、「認知症施策の充実」「公共施設などのバリアフリー化の推進」(ともに16.2%)の順となっている。(図表5-2)

図表5-2 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実」が1位となっている。

年齢別にみると、男性50歳代で「介護・障がい者施設の充実」(30.5%)が約3割となっている。
(図表5-2-1)

図表5-2-1 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実	介護・障がい者施設の充実	本人や介助者(家族等)が気軽に相談できる場の確保	認知症施策の充実	移動の支援や住まいの確保	公共施設などのバリアフリー化の推進	地域における支え合いの体制づくり	その他	無回答
全体	2,294	52.5	26.2	31.6	16.2	15.8	16.2	13.4	1.6	7.3
【男性 全体】	966	49.9	26.8	30.6	16.3	15.1	17.1	13.0	1.3	8.1
男性 10歳代	26	50.0	15.4	30.8	26.9	15.4	26.9	3.8	3.8	7.7
男性 20歳代	64	45.3	25.0	28.1	12.5	17.2	29.7	7.8	1.6	4.7
男性 30歳代	97	43.3	28.9	30.9	14.4	15.5	28.9	13.4	-	5.2
男性 40歳代	152	55.3	23.0	32.2	14.5	19.1	19.7	11.2	2.0	4.6
男性 50歳代	177	45.8	30.5	29.9	20.3	20.3	15.3	12.4	1.7	4.5
男性 60歳代	176	46.6	27.3	32.4	18.8	13.1	14.8	14.2	1.1	9.7
男性 70歳以上	273	55.3	26.7	29.7	13.2	10.3	10.3	15.8	1.1	13.2
【女性 全体】	1,253	54.7	25.9	32.4	16.4	16.8	16.0	13.9	1.8	6.0
女性 10歳代	29	51.7	24.1	13.8	10.3	17.2	51.7	6.9	-	10.3
女性 20歳代	67	41.8	22.4	28.4	23.9	25.4	28.4	7.5	3.0	4.5
女性 30歳代	146	53.4	27.4	30.8	15.8	14.4	28.1	17.1	1.4	1.4
女性 40歳代	243	53.9	19.3	40.3	16.0	22.6	17.3	14.0	2.5	2.1
女性 50歳代	228	53.5	24.6	33.3	18.9	21.5	16.2	14.0	1.3	3.5
女性 60歳代	197	59.9	32.0	34.0	13.7	17.3	7.6	12.2	1.5	4.6
女性 70歳以上	343	56.6	28.0	28.3	15.7	8.5	9.0	15.2	1.7	13.1

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実」が1位となっている。また、高座渋谷地区を除くすべての地域において「本人や介助者（家族等）が気軽に相談できる場の確保」が2位となっている。（図表5-2-2）

図表5-2-2 介護が必要な方や障がいのある方に関する取り組み－居住地域別

単位：％

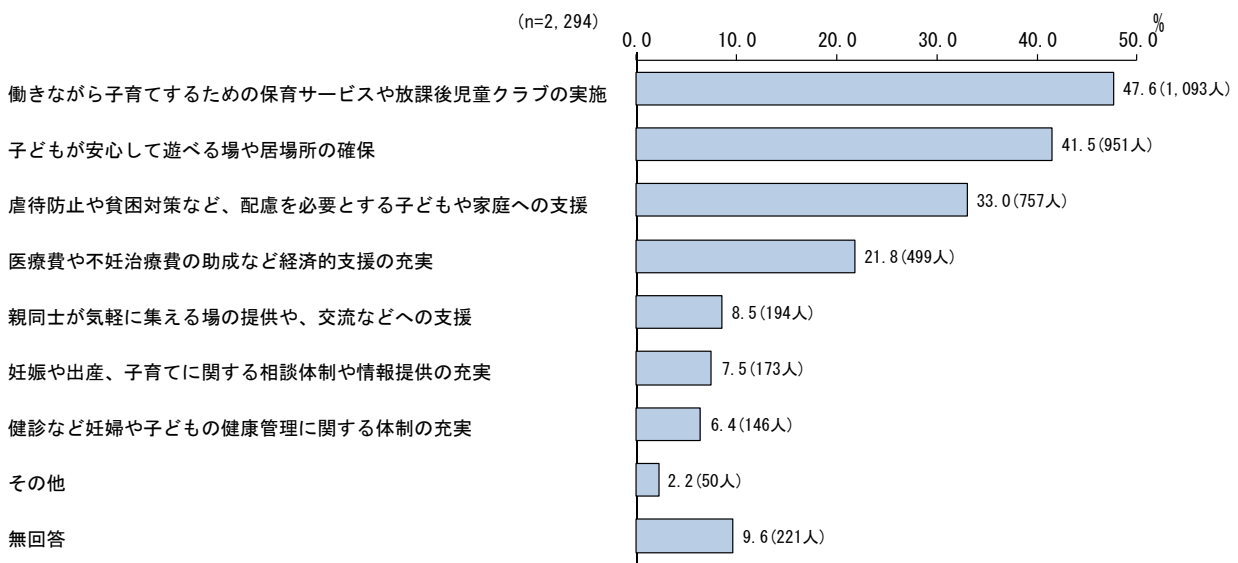
	調査数（n）	住み慣れた地域で暮らし続けるための介護、障がい者サービス等の充実	介護・障がい者施設の充実	本人や介助者（家族等）が気軽に相談できる場の確保	認知症施策の充実	移動の支援や住まいの確保	公共施設などのバリアフリー化の推進	地域における支え合いの体制づくり	その他	無回答
全体	2,294	52.5	26.2	31.6	16.2	15.8	16.2	13.4	1.6	7.3
中央林間地区	242	57.0	28.5	30.2	12.8	15.7	19.4	16.1	1.7	1.2
つきみ野地区	221	57.0	23.1	35.3	16.7	16.7	18.1	17.2	0.9	1.8
南林間・鶴間地区	640	57.5	28.3	32.5	16.3	16.7	17.5	13.8	1.3	2.0
相模大塚地区	70	54.3	28.6	35.7	17.1	8.6	15.7	17.1	2.9	4.3
大和地区	420	52.1	26.7	36.9	19.3	16.7	17.4	11.4	1.4	2.9
桜ヶ丘地区	266	53.8	25.9	35.7	19.2	18.4	14.7	11.7	2.6	2.6
高座渋谷地区	256	54.7	32.0	28.1	17.2	18.8	16.0	16.4	2.7	2.0

問7 子育てに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

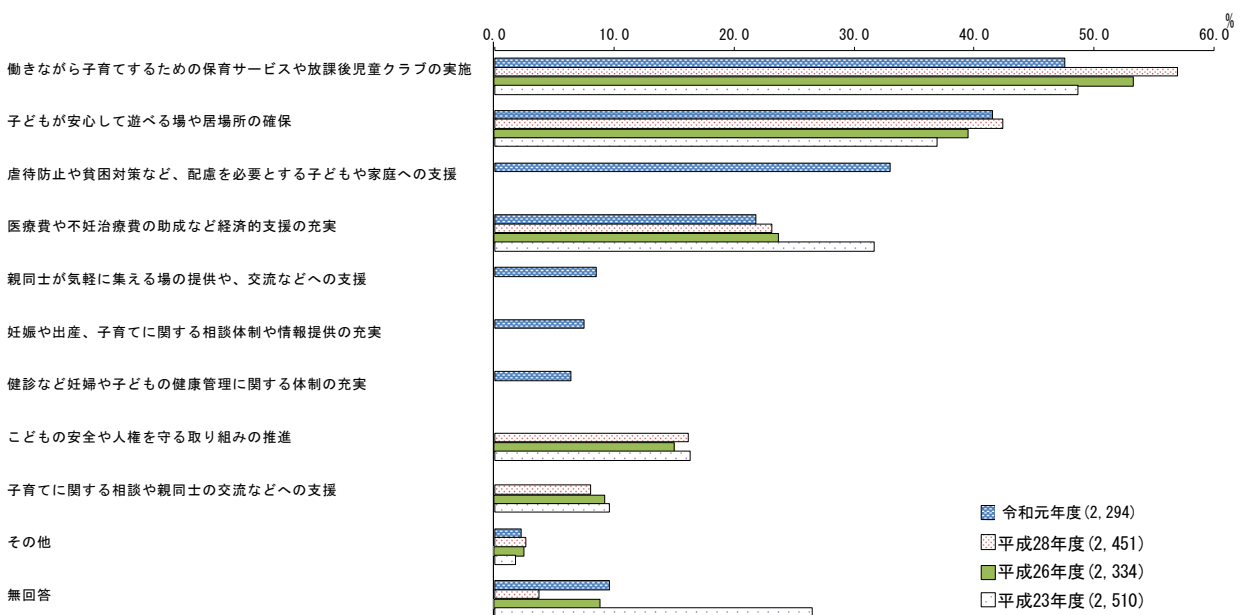
「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」(47.6%)が最も多く4割台半ば以上となっている。次いで、「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」(41.5%)、「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」(33.0%)、「医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実」(21.8%)の順となっている。(図表5-3)

前回結果と比較すると、「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位、「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」が2位となり、前回同様の順位となった。(図表5-3)

図表5-3 子育てに関する取り組み—全体



図表5-3-1 子育てに関する取り組み—経年比較



図表5-3-1 子育てに関する取り組み—経年比較（つづき）

（上段：人、下段：％）

	全体	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	（子育てに関する相談や親同士の交流などへの支援）	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保
令和元年度	2,294 100.0	1,093 47.6	499 21.8	173 7.5	194 8.5	- -	951 41.5
平成28年度	2,451	57.0	23.1	-	-	8.0	42.4
平成26年度	2,334	53.3	23.7	-	-	9.2	39.5
平成23年度	2,510	48.7	31.7	-	-	9.6	36.9
H28－R1比較		-9.4pt.	-1.3pt.	-	-	-	-0.9pt.
H26－H28比較		3.7pt.	-0.6pt.	-	-	-1.2pt.	2.9pt.
H23－H26比較		4.6pt.	-8.0pt.	-	-	-0.4pt.	2.6pt.

（上段：人、下段：％）

	全体	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	（こどもの安全や人権を守る取り組みの推進）	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	146 6.4	757 33.0	- -	50 2.2	221 9.6
平成28年度	2,451	-	-	16.2	2.6	3.7
平成26年度	2,334	-	-	15.0	2.5	8.8
平成23年度	2,510	-	-	16.3	1.8	26.5
H28－R1比較		-	-	-	-0.4pt.	5.9pt.
H26－H28比較		-	-	1.2pt.	0.1pt.	-5.1pt.
H23－H26比較		-	-	-1.3pt.	0.7pt.	-17.7pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位、「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」が2位となっている。

年齢別にみると、「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」が男性50歳代（44.1%）で2位となっている。また「子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保」が女性40歳代（49.4%）で1位となっている。（図表5-3-2）

図表5-3-2 子育てに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数（n）	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親や交流などが気軽に集える場の提供	子どもが安心して遊べる場所や居場所の確保	健康など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	2,294	47.6	21.8	7.5	8.5	41.5	6.4	33.0	2.2	9.6
【男性 全体】	966	48.8	24.5	8.9	8.2	37.8	7.9	29.1	2.2	9.8
男性 10歳代	26	53.8	30.8	11.5	-	53.8	11.5	11.5	3.8	7.7
男性 20歳代	64	48.4	28.1	21.9	6.3	34.4	10.9	21.9	4.7	4.7
男性 30歳代	97	46.4	39.2	10.3	6.2	42.3	10.3	18.6	5.2	5.2
男性 40歳代	152	46.7	38.8	11.2	7.2	39.5	5.9	27.6	1.3	5.3
男性 50歳代	177	52.5	24.3	4.5	8.5	31.6	8.5	44.1	2.8	5.1
男性 60歳代	176	55.7	14.8	7.4	9.1	39.8	5.7	28.4	1.7	11.9
男性 70歳以上	273	43.6	16.1	7.7	9.9	37.0	8.1	27.8	0.7	17.2
【女性 全体】	1,253	47.5	20.2	6.5	8.7	44.7	5.4	36.6	2.2	8.3
女性 10歳代	29	51.7	34.5	3.4	3.4	41.4	17.2	24.1	-	10.3
女性 20歳代	67	50.7	34.3	9.0	9.0	34.3	9.0	37.3	3.0	4.5
女性 30歳代	146	57.5	37.0	8.2	6.2	48.6	8.2	25.3	2.1	1.4
女性 40歳代	243	42.4	31.7	7.0	6.6	49.4	6.2	35.4	2.9	2.9
女性 50歳代	228	49.1	14.0	6.6	8.3	46.9	4.8	43.4	2.6	4.8
女性 60歳代	197	54.8	13.2	5.6	6.6	52.3	3.0	39.6	1.5	5.1
女性 70歳以上	343	40.5	9.0	5.5	13.1	36.2	3.8	36.7	2.0	19.8

【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、小学生以上18歳未満の子どもがいる人では「子どもが安心して遊べる場や居場所の確保」が1位となっている。（図表5-3-3）

図表5-3-3 子育てに関する取り組み—こどもの有無別

単位：%

	調査数（n）	働きながら子育てする児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	2,294	47.6	21.8	7.5	8.5	41.5	6.4	33.0	2.2	9.6
いる（未就学のお子さんのみ）	163	56.4	32.5	4.9	8.0	55.2	8.6	18.4	2.5	3.7
いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）	275	39.6	36.4	5.5	5.8	52.0	4.7	30.9	4.7	2.9
いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）	83	51.8	31.3	3.6	6.0	65.1	1.2	26.5	2.4	2.4
いない	1,711	48.7	18.3	8.5	8.9	37.9	6.7	35.5	1.8	10.4

【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人を年齢別にみると、すべての年代で「働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施」が1位となっている。また40歳代（40.4%）と50歳代（46.7%）では「虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援」が他の年代と比べて多くなっている。（図表5-3-4）

図表5-3-4 子育てに関する取り組み—年齢別（こどものいない人）

単位：%

	調査数（n）	働きながら子育てするための保育サービスや放課後児童クラブの実施	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	2,294	47.6	21.8	7.5	8.5	41.5	6.4	33.0	2.2	9.6
10歳代	43	51.2	32.6	9.3	2.3	51.2	11.6	14.0	2.3	9.3
20歳代	116	47.4	31.9	16.4	8.6	31.9	11.2	30.2	4.3	4.3
30歳代	105	55.2	37.1	11.4	5.7	33.3	10.5	29.5	1.0	2.9
40歳代	178	47.2	29.2	15.2	7.3	27.0	9.0	40.4	0.6	5.6
50歳代	317	52.1	15.1	5.4	8.2	39.7	6.0	46.7	1.9	6.0
60歳代	366	54.4	13.9	6.8	7.4	45.9	4.6	34.4	1.6	8.7
70歳以上	584	42.6	12.2	7.0	12.0	36.1	5.7	32.5	1.7	18.0

【居住地域別】

居住地域別では、大きな差異は見られない。（図表5-3-5）

図表5-3-5 子育てに関する取り組み—居住地域別

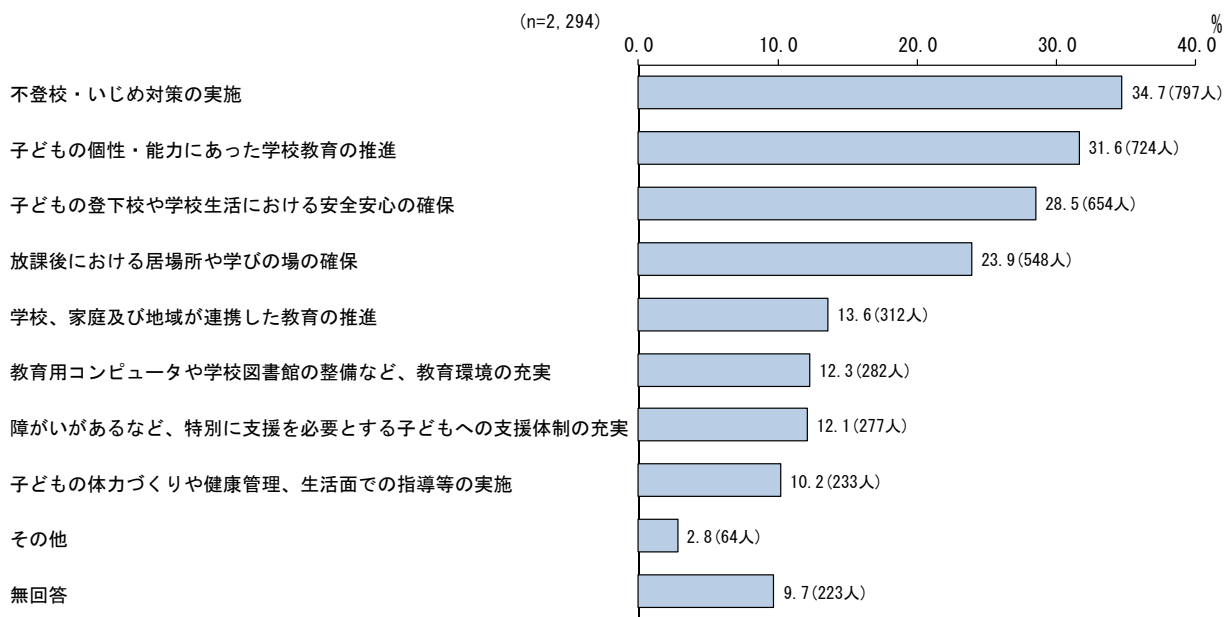
単位：%

	調査数（n）	働きながら子育てするための保育施設	医療費や不妊治療費の助成など経済的支援の充実	妊娠や出産、子育てに関する相談体制や情報提供の充実	親同士が気軽に集える場の提供や、交流などへの支援	子どもが安心して遊べる場や居場所の確保	健診など妊婦や子どもの健康管理に関する体制の充実	虐待防止や貧困対策など、配慮を必要とする子どもや家庭への支援	その他	無回答
全体	2,294	47.6	21.8	7.5	8.5	41.5	6.4	33.0	2.2	9.6
中央林間地区	242	50.4	21.9	8.7	9.9	47.1	6.6	31.0	3.7	3.7
つきみ野地区	221	51.1	25.3	7.7	11.8	46.2	4.5	34.4	1.8	3.6
南林間・鶴間地区	640	50.0	24.2	7.5	7.3	45.5	7.8	35.8	2.2	3.4
相模大塚地区	70	44.3	28.6	14.3	5.7	37.1	12.9	31.4	-	7.1
大和地区	420	52.1	22.1	9.3	8.3	42.4	6.7	33.3	2.6	4.5
桜ヶ丘地区	266	48.5	22.6	5.6	9.4	42.9	4.1	40.6	2.3	5.6
高座渋谷地区	256	49.6	20.7	7.8	10.2	37.9	7.4	35.9	2.3	7.4

問8 子どもの学びに関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「不登校・いじめ対策の実施」(34.7%)が最も多く3割台半ばとなっている。次いで、「子どもの個性・能力にあった学校教育の推進」(31.6%)、「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」(28.5%)、「放課後における居場所や学びの場の確保」(23.9%)の順となっている。(図表5-4)

図表5-4 子どもの学びに関する取り組み—全体・経年比較



【性別・年齢別】

性別にみると、男性は「子どもの個性・能力にあった学校教育の推進」が1位、女性は「不登校・いじめ対策の実施」が1位となっている。

年齢別にみると、「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」が男性30歳代(45.4%)と女性30歳代(50.7%)、女性40歳代(36.2%)で1位となっている。また、年齢が上がるにつれて「不登校・いじめ対策の実施」が増加傾向となっている。(図表5-4-1)

図表5-4-1 子どもの学びに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	子どもの個性・能力にあった学校教育の推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	子どもが学ぶなど、特別に支援を必要とする子どもへの支援体制の充実	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全体	2,294	31.6	12.3	13.6	28.5	23.9	10.2	12.1	34.7	2.8	9.7
【男性 全体】	966	32.5	15.1	14.9	26.2	22.9	11.5	10.5	31.9	3.0	9.8
男性 10歳代	26	57.7	11.5	3.8	26.9	23.1	3.8	7.7	38.5	7.7	7.7
男性 20歳代	64	42.2	20.3	14.1	28.1	21.9	18.8	4.7	23.4	3.1	4.7
男性 30歳代	97	25.8	19.6	10.3	45.4	23.7	15.5	9.3	25.8	4.1	5.2
男性 40歳代	152	34.9	15.8	16.4	28.3	23.7	12.5	10.5	34.9	4.6	5.3
男性 50歳代	177	32.2	18.1	14.1	22.0	25.4	6.2	13.6	36.7	4.5	5.1
男性 60歳代	176	30.1	11.9	15.3	22.7	26.7	10.8	10.8	35.2	1.7	11.9
男性 70歳以上	273	30.8	12.5	17.2	22.3	18.3	12.1	10.3	28.6	1.1	17.2
【女性 全体】	1,253	31.8	10.4	12.9	30.6	25.1	9.2	13.2	37.3	2.6	8.5
女性 10歳代	29	31.0	24.1	10.3	20.7	24.1	3.4	17.2	41.4	3.4	10.3
女性 20歳代	67	44.8	17.9	11.9	31.3	28.4	6.0	7.5	32.8	3.0	4.5
女性 30歳代	146	34.9	13.7	14.4	50.7	29.5	8.9	12.3	30.8	0.7	1.4
女性 40歳代	243	32.9	14.4	11.9	36.2	25.9	9.5	14.0	35.0	4.1	2.9
女性 50歳代	228	32.5	11.0	13.6	25.0	27.2	10.1	15.8	40.4	3.1	4.8
女性 60歳代	197	27.9	7.6	7.6	33.0	32.0	10.7	10.7	46.7	1.5	5.1
女性 70歳以上	343	28.9	4.7	16.0	21.0	16.6	8.7	13.7	34.7	2.6	20.4

【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、未就学のこどもがいる人では「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」が4割以上と高く、こどものいない人では「不登校・いじめ対策の実施」が1位となっている。（図表5-4-2）

図表5-4-2 子どもの学びに関する取り組み—こどもの有無別

単位：%

	調査数（n）	子どもの個性・能力にあった学校教育の推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	必要とする子どもへの支援体制の充実	障がいがある子どもへの特別に支援を実施	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全 体	2,294	31.6	12.3	13.6	28.5	23.9	10.2	12.1	34.7	2.8	9.7	
いる（未就学のお子さんのみ）	163	34.4	12.9	11.0	47.2	29.4	11.0	9.2	30.7	1.2	3.7	
いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）	275	37.5	19.3	11.6	33.1	22.2	6.9	9.8	34.5	6.9	2.9	
いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）	83	47.0	21.7	12.0	42.2	25.3	10.8	7.2	21.7	4.8	2.4	
いない	1,711	30.0	10.9	14.3	25.7	24.1	10.8	13.1	36.2	2.2	10.6	

【年齢別（こどものいない人）】

こどものいない人を年齢別にみると、「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」が30歳代で4割台半ばと最も多くなっている。（図表5-4-3）

図表5-4-3 子どもの学びに関する取り組み－年齢別（こどものいない人）

単位：％

	調査数（n）	子どもの推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	障がいがある子どもへの支援体制の充実を必要とするなど、特別に支援を実施	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全体	2,294	31.6	12.3	13.6	28.5	23.9	10.2	12.1	34.7	2.8	9.7
10歳代	43	39.5	18.6	9.3	18.6	23.3	4.7	16.3	39.5	7.0	9.3
20歳代	116	41.4	19.8	13.8	27.6	25.0	12.9	6.9	28.4	3.4	4.3
30歳代	105	24.8	10.5	15.2	45.7	28.6	9.5	17.1	35.2	1.0	2.9
40歳代	178	24.7	12.4	16.9	28.1	23.0	14.0	14.0	39.9	1.7	5.6
50歳代	317	33.1	11.7	13.2	23.7	27.1	9.1	15.8	40.1	2.8	6.0
60歳代	366	28.1	9.8	11.2	28.4	29.0	10.7	10.9	41.0	1.6	8.7
70歳以上	584	28.9	8.4	16.3	20.7	18.7	10.8	13.0	31.5	2.1	18.5

【居住地域別】

居住地域別にみると、「子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保」が相模大塚地区で（41.4%）で4割以上と他の地域と比べ高くなっている。（図表5-4-4）

図表5-4-4 子どもの学びに関する取り組み—居住地域別

単位：%

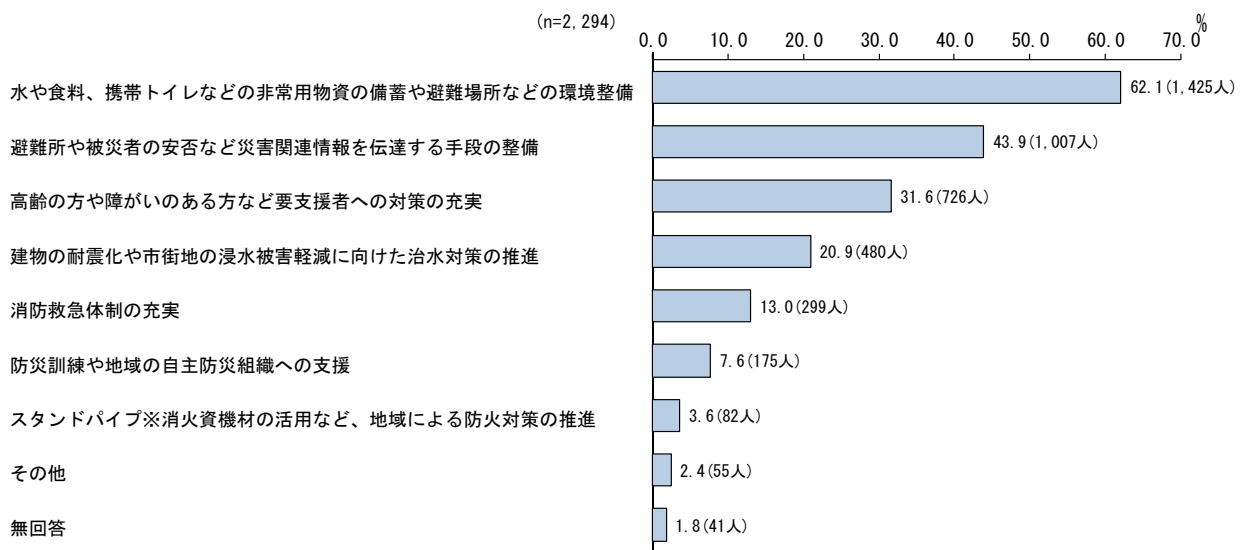
	調査数（n）	子どもの個性・能力にあった学校教育の推進	教育用コンピュータや学校図書館の整備など、教育環境の充実	学校、家庭及び地域が連携した教育の推進	子どもの登下校や学校生活における安全安心の確保	放課後における居場所や学びの場の確保	子どもの体力づくりや健康管理、生活面での指導等の実施	障がいがある子どもなど、特別に支援を必要とする子どもへの支援体制の充実	不登校・いじめ対策の実施	その他	無回答
全体	2,294	31.6	12.3	13.6	28.5	23.9	10.2	12.1	34.7	2.8	9.7
中央林間地区	242	30.2	14.0	16.9	26.0	26.9	9.1	13.6	38.4	6.2	3.7
つきみ野地区	221	35.7	10.0	14.9	30.8	27.1	7.2	11.3	38.9	4.1	3.6
南林間・鶴間地区	640	33.8	13.8	12.7	30.6	24.4	12.0	14.2	37.0	2.7	3.3
相模大塚地区	70	32.9	11.4	14.3	41.4	22.9	17.1	10.0	28.6	1.4	7.1
大和地区	420	34.5	13.6	14.8	29.5	27.4	10.5	11.7	34.3	2.4	4.8
桜ヶ丘地区	266	32.3	13.2	13.9	26.3	25.6	12.0	13.9	39.5	1.9	5.6
高座渋谷地区	256	32.0	12.1	15.6	32.8	23.0	9.8	10.9	35.5	2.3	7.8

問9 災害への対応力を高めるための取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

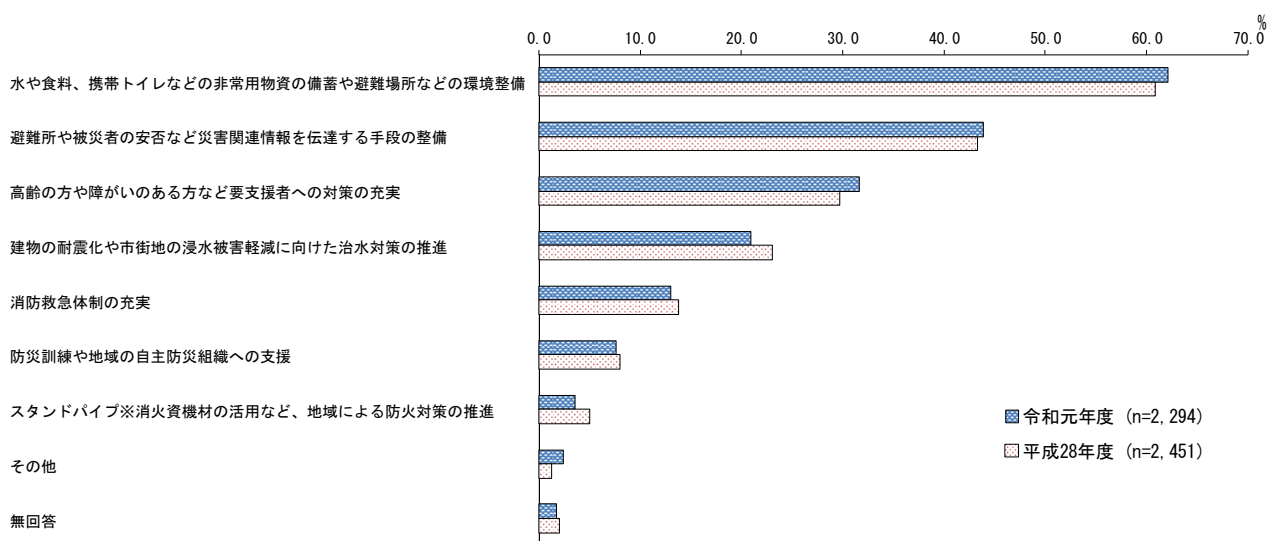
「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」(62.1%)が最も多く6割強となっている。次いで、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」(43.9%)、「高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実」(31.6%)、「建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進」(20.9%)の順となっている。(図表5-5)

前回結果と比較すると、「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となり、前回同様の順位となった。(図表5-5-1)

図表5-5 災害に関する取り組み—全体



図表5-5-1 災害に関する取り組み—経年比較



図表5-5-1 災害に関する取り組み—経年比較（つづき）

（上段：人、下段：％）

	全体	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実	スタンドパイプ※消火資機材の活用など、地域による防火対策の推進	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進
令和元年度	2,294 100.0	1,007 43.9	1,425 62.1	175 7.6	726 31.6	82 3.6	480 20.9
平成28年度	2,451	43.3	60.9	8.0	29.7	5.0	23.1
H28－R1比較		0.6pt.	1.2pt.	-0.4pt.	1.9pt.	-1.4pt.	-2.2pt.

（上段：人、下段：％）

	全体	消防救急体制の充実	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	299 13.0	55 2.4	41 1.8
平成28年度	2,451	13.8	1.3	2.0
H28－R1比較		-0.8pt.	1.1pt.	-0.2pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となっている。

年齢別にみると、女性70歳以上で「高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実」が2位、男性20歳代で「建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進」が2位となっている。(図表5-5-2)

図表5-5-2 災害に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実	スタンダードパイプ※による防火資機材の活用	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進	消防救急体制の充実	その他	無回答
全体	2,294	43.9	62.1	7.6	31.6	3.6	20.9	13.0	2.4	1.8
【男性 全体】	966	42.4	64.0	10.2	28.2	3.6	19.5	14.4	2.9	1.1
男性 10歳代	26	34.6	69.2	7.7	26.9	11.5	26.9	7.7	3.8	-
男性 20歳代	64	37.5	62.5	10.9	26.6	1.6	39.1	9.4	-	-
男性 30歳代	97	46.4	69.1	15.5	15.5	4.1	24.7	14.4	3.1	-
男性 40歳代	152	44.1	67.1	9.2	13.8	3.3	23.0	19.7	4.6	-
男性 50歳代	177	41.8	67.8	9.6	27.1	4.5	17.5	10.7	4.0	1.1
男性 60歳代	176	44.9	62.5	10.8	31.3	1.7	16.5	15.3	2.8	-
男性 70歳以上	273	40.7	58.6	9.2	39.9	4.0	13.6	15.0	1.8	3.3
【女性 全体】	1,253	45.1	61.4	5.7	33.9	3.5	22.3	12.3	2.1	1.7
女性 10歳代	29	48.3	58.6	3.4	27.6	3.4	31.0	6.9	3.4	3.4
女性 20歳代	67	41.8	70.1	9.0	17.9	4.5	31.3	16.4	-	-
女性 30歳代	146	47.3	74.0	6.2	19.2	2.7	32.9	8.2	1.4	0.7
女性 40歳代	243	42.8	61.7	5.3	25.5	3.7	35.0	11.9	4.9	0.4
女性 50歳代	228	39.9	67.5	7.0	34.2	3.9	19.3	13.6	0.9	0.9
女性 60歳代	197	51.3	56.3	4.6	39.6	3.0	14.2	13.2	1.0	1.5
女性 70歳以上	343	46.1	53.1	5.2	46.4	3.5	13.1	12.5	2.0	3.8

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備」が1位、「避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備」が2位となっている。(図表5-5-3)

図表5-5-3 災害に関する取り組み—居住地域別

単位：%

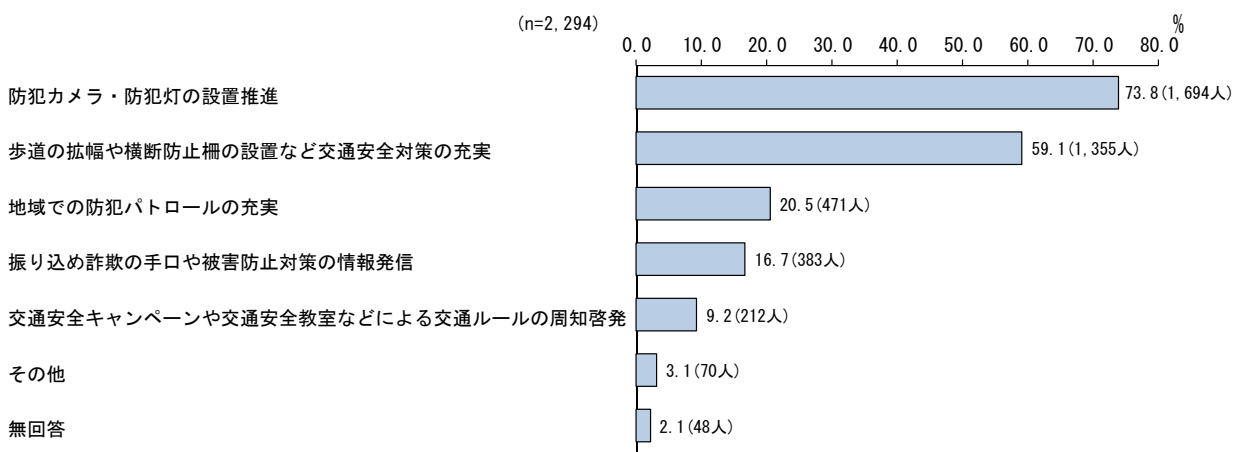
	調査数 (n)	避難所や被災者の安否など災害関連情報を伝達する手段の整備	水や食料、携帯トイレなどの非常用物資の備蓄や避難場所などの環境整備	防災訓練や地域の自主防災組織への支援	高齢の方や障がいのある方など要支援者への対策の充実	スタンドパイプ※消火資機材の活用など、地域による防火対策の推進	建物の耐震化や市街地の浸水被害軽減に向けた治水対策の推進	消防救急体制の充実	その他	無回答
全体	2,294	43.9	62.1	7.6	31.6	3.6	20.9	13.0	2.4	1.8
中央林間地区	242	41.7	63.2	7.4	31.4	4.1	18.6	16.1	3.3	2.1
つきみ野地区	221	46.2	62.0	5.0	29.9	4.1	25.3	14.0	2.3	0.9
南林間・鶴間地区	640	46.3	64.7	7.0	31.4	3.1	19.8	12.0	2.5	1.1
相模大塚地区	70	47.1	71.4	2.9	27.1	8.6	24.3	10.0	1.4	-
大和地区	420	45.2	60.0	10.7	31.0	3.3	20.7	13.1	2.1	1.4
桜ヶ丘地区	266	40.6	63.2	7.9	36.1	3.4	20.3	10.9	1.9	1.1
高座渋谷地区	256	43.4	61.7	7.4	30.5	3.1	21.9	14.8	2.7	0.8

問10 生活の安全性を高めるための取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

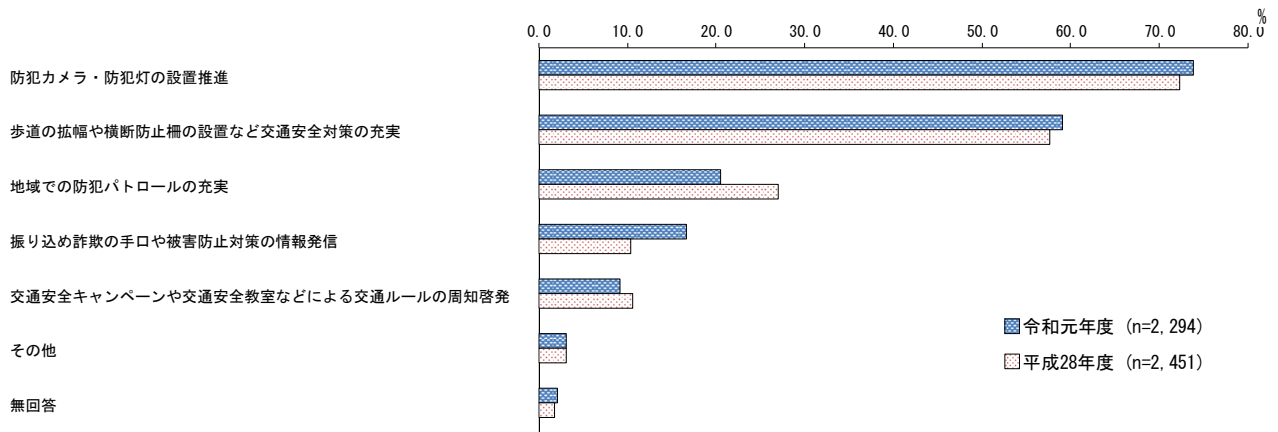
「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」(73.8%)が最も多く7割強となっている。次いで、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」(59.1%)、「地域での防犯パトロールの充実」(20.5%)、「振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信」(16.7%)の順となっている。(図表5-6)

前回結果と比較すると、「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となり、前回同様の順位となった。(図表5-6-1)

図表5-6 生活の安全性に関する取り組み-全体



図表 5-6-1 生活の安全性に関する取り組み—経年比較



(上段：人、下段：%)

	全体	防犯カメラ・防犯灯の設置推進	地域での防犯パトロールの充実	交通安全キャンペーンや交通安全教室などによる交通ルールの周知啓発	歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実	振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	1,694 73.8	471 20.5	212 9.2	1,355 59.1	383 16.7	70 3.1	48 2.1
平成28年度	2,451	72.3	27.0	10.6	57.6	10.4	3.1	1.8
H28— R1 比較		1.5pt.	-6.5pt.	-1.4pt.	1.5pt.	6.3pt.	0.0pt.	0.3pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となっている。

年齢別にみると、「振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信」は年齢が上がるにつれて増加傾向となっている。(図表5-6-2)

図表5-6-2 生活の安全性に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	防犯カメラ・防犯灯の設置推進	地域での防犯パトロールの充実	啓発 教室などによる 交通安全ルールの周知	交通安全キャンペーンや交通安全 ど歩道の拡幅や横断防止柵の設置な ど交通安全対策の充実	振り込め詐欺の手口や被害防止対 策の情報発信	その他	無回答
全体	2,294	73.8	20.5	9.2	59.1	16.7	3.1	2.1
【男性 全体】	966	73.9	19.0	11.9	59.7	15.0	3.1	1.1
男性 10歳代	26	61.5	42.3	15.4	46.2	19.2	3.8	-
男性 20歳代	64	64.1	21.9	10.9	60.9	14.1	3.1	-
男性 30歳代	97	70.1	17.5	13.4	73.2	6.2	3.1	-
男性 40歳代	152	71.7	23.7	7.9	67.8	8.6	4.6	0.7
男性 50歳代	177	80.8	16.4	8.5	57.1	14.1	2.8	0.6
男性 60歳代	176	79.5	18.8	10.8	60.2	16.5	0.6	0.6
男性 70歳以上	273	71.8	16.1	16.5	52.7	21.2	4.0	2.9
【女性 全体】	1,253	73.9	21.9	7.1	59.5	18.0	3.1	2.3
女性 10歳代	29	72.4	31.0	6.9	48.3	17.2	3.4	3.4
女性 20歳代	67	68.7	35.8	6.0	58.2	10.4	1.5	3.0
女性 30歳代	146	78.8	27.4	8.2	69.9	6.8	4.1	-
女性 40歳代	243	74.5	25.5	5.3	63.4	14.4	4.5	0.8
女性 50歳代	228	78.5	19.3	6.6	64.5	16.7	3.1	1.3
女性 60歳代	197	76.6	13.7	7.6	56.3	22.3	3.0	2.0
女性 70歳以上	343	67.9	19.8	8.2	51.9	25.1	2.0	5.0

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「防犯カメラ・防犯灯の設置推進」が1位、「歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実」が2位となっている。(図表5-6-3)

図表5-6-3 生活の安全性に関する取り組み—居住地域別

単位：%

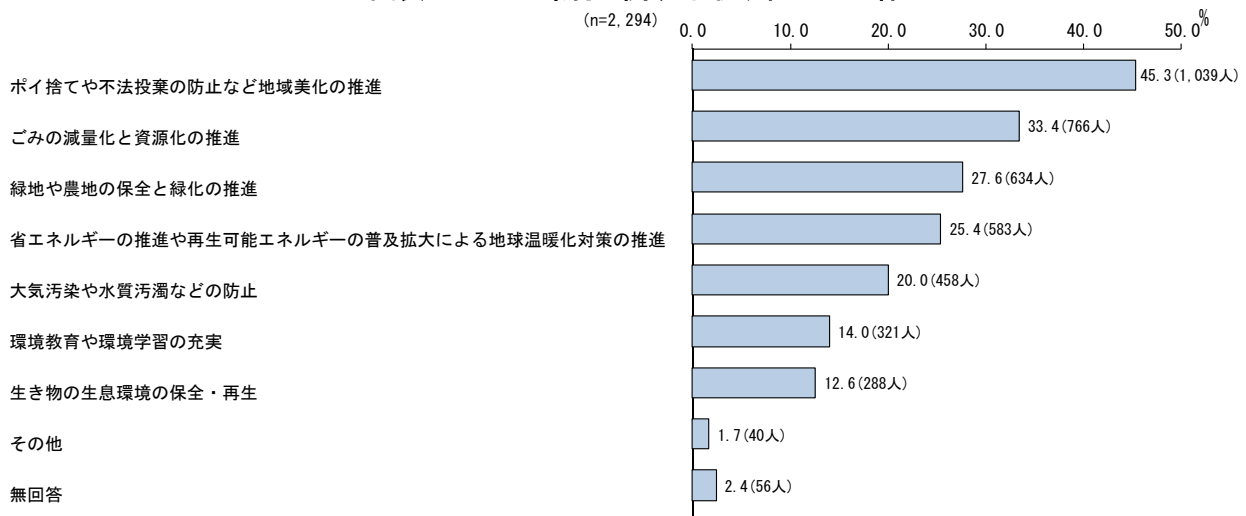
	調査数 (n)	防犯カメラ・防犯灯の設置推進	地域での防犯パトロールの充実	啓発 教室などによる交通安全啓蒙	交通安全キャンペーンや交通安全周知	歩道の拡幅や横断防止柵の設置など交通安全対策の充実	振り込め詐欺の手口や被害防止対策の情報発信	その他	無回答
全体	2,294	73.8	20.5	9.2	59.1	16.7	3.1	2.1	
中央林間地区	242	74.0	21.5	12.0	59.5	10.7	4.1	2.1	
つきみ野地区	221	68.3	23.1	10.4	60.6	16.3	4.1	0.9	
南林間・鶴間地区	640	73.1	20.6	8.6	61.1	16.7	2.8	1.4	
相模大塚地区	70	84.3	12.9	7.1	68.6	10.0	4.3	-	
大和地区	420	74.3	24.0	7.4	59.3	17.4	3.1	1.4	
桜ヶ丘地区	266	75.9	17.7	10.2	57.5	19.2	2.3	1.9	
高座渋谷地区	256	79.3	19.1	7.0	56.3	18.8	2.3	2.3	

問 1 1 環境に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

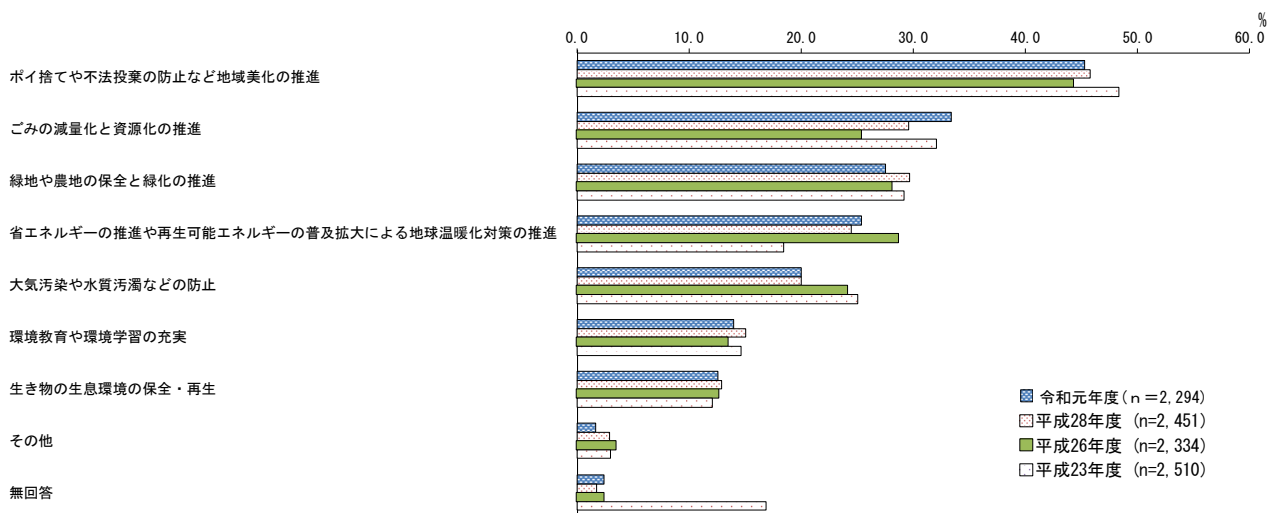
「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」(45.3%)が最も多く4割台半ばとなっている。次いで、「ごみの減量化と資源化の推進」(33.4%)、「緑地や農地の保全と緑化の推進」(27.6%)、「省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及拡大による地球温暖化の推進」(25.4%)、「大気汚染や水質汚濁などの防止」(20.0%)の順となっている。(図表5-7)

前回結果と比較すると、「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」は前回と変わらず1位となっており、「ごみの減量化と資源化の推進」が前回3位から今回2位、「緑地や農地の保全と緑化の推進」が前回2位から今回3位となっている。(図表5-7-1)

図表 5-7 環境に関する取り組み—全体



図表 5-7-1 環境に関する取り組み—経年比較



図表5-7-1 環境に関する取り組み—経年比較（つづき）

（上段：人、下段：％）

	全体	ごみの減 量化と資 源化の推 進	ポイ捨て や不法投 棄の防止 など地域 美化の推 進	省エネル ギーの推 進や再生 可能エネ ルギーの 普及拡大 による地 球温暖化 対策の推 進	緑地や農 地の保全 と緑化の 推進	生き物の 生息環境 の保全・ 再生
令和元年度	2,294 100.0	766 33.4	1,039 45.3	583 25.4	634 27.6	288 12.6
平成28年度	2,451	29.6	45.8	24.5	29.7	12.9
平成26年度	2,334	25.4	44.3	28.7	28.1	12.7
平成23年度	2,510	32.1	48.4	18.5	29.2	12.1
H28－R1比較		3.8pt.	-0.5pt.	0.9pt.	-2.1pt.	-0.3pt.
H26－H28比較		4.2pt.	1.5pt.	-4.2pt.	1.6pt.	0.2pt.
H23－H26比較		-6.7pt.	-4.1pt.	10.2pt.	-1.1pt.	0.6pt.

（上段：人、下段：％）

	全体	環境教育 や環境学 習の充実	大気汚染 や水質汚 濁などの 防止	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	321 14.0	458 20.0	40 1.7	56 2.4
平成28年度	2,451	15.1	20.0	2.9	1.8
平成26年度	2,334	13.5	24.2	3.5	2.4
平成23年度	2,510	14.7	25.1	3.0	16.9
H28－R1比較		-1.1pt.	0.0pt.	-1.2pt.	0.6pt.
H26－H28比較		1.6pt.	-4.2pt.	-0.6pt.	-0.6pt.
H23－H26比較		-1.2pt.	-0.9pt.	0.5pt.	-14.5pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」が1位、「ごみの減量化と資源化の推進」が2位となっている。

年齢別にみると、女性40歳代では「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」が3割台半ばと他の年代と比べ低くなっている。(図表5-7-2)

図表5-7-2 環境に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	ごみの減量化と資源化の推進	ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	温暖化対策の推進	省エネルギーの普及拡大による再生可能エネルギーの推進	緑地や農地の保全と緑化の推進	生き物の生息環境の保全・再生	環境教育や環境学習の充実	大気汚染や水質汚濁などの防止	その他	無回答
全体	2,294	33.4	45.3	25.4	27.6	12.6	14.0	20.0	1.7	2.4	
【男性 全体】	966	33.3	44.4	24.5	31.5	15.1	14.3	16.6	1.8	1.7	
男性 10歳代	26	38.5	30.8	15.4	38.5	19.2	11.5	26.9	3.8	-	
男性 20歳代	64	39.1	48.4	7.8	25.0	17.2	15.6	20.3	1.6	1.6	
男性 30歳代	97	28.9	48.5	19.6	30.9	20.6	13.4	18.6	4.1	-	
男性 40歳代	152	30.3	46.1	25.0	28.9	19.7	16.4	15.8	3.3	0.7	
男性 50歳代	177	27.7	41.8	18.6	32.8	18.6	15.3	19.2	2.3	1.7	
男性 60歳代	176	35.8	43.8	29.0	38.6	11.9	11.4	15.3	0.6	1.1	
男性 70歳以上	273	36.6	44.7	31.9	28.6	9.5	14.7	13.2	0.4	3.3	
【女性 全体】	1,253	34.1	46.0	25.9	25.5	11.0	13.9	22.4	1.6	2.4	
女性 10歳代	29	37.9	48.3	27.6	24.1	17.2	13.8	13.8	-	3.4	
女性 20歳代	67	32.8	55.2	20.9	20.9	14.9	10.4	25.4	1.5	-	
女性 30歳代	146	34.9	50.7	23.3	22.6	10.3	16.4	24.0	2.1	1.4	
女性 40歳代	243	34.6	37.0	28.0	28.4	15.2	16.5	23.5	2.1	0.8	
女性 50歳代	228	35.1	46.5	30.3	23.7	11.4	13.6	16.2	2.2	1.3	
女性 60歳代	197	32.5	48.7	20.8	26.9	8.6	17.3	22.3	1.0	3.0	
女性 70歳以上	343	33.5	46.6	26.2	25.9	8.2	9.9	25.4	1.2	4.7	

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進」が1位となっている。また「緑地や農地の保全と緑化の推進」が中央林間地区（36.8%）で2位となっている。（図表5-7-3）

図表5-7-3 環境に関する取り組み—居住地域別

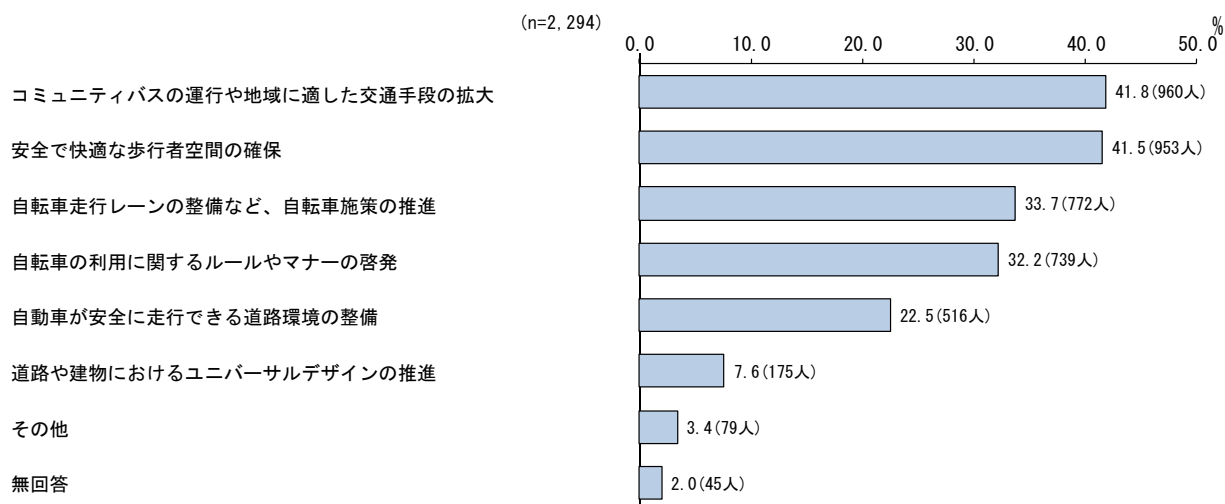
単位：%

	調査数（n）	ごみの減量化と資源化の推進	ポイ捨てや不法投棄の防止など地域美化の推進	省エネルギーの普及拡大による再生可能エネルギーの推進	緑地や農地の保全と緑化の推進	生き物の生息環境の保全・再生	環境教育や環境学習の充実	大気汚染や水質汚濁などの防止	その他	無回答
全体	2,294	33.4	45.3	25.4	27.6	12.6	14.0	20.0	1.7	2.4
中央林間地区	242	31.0	44.2	22.7	36.8	12.4	12.4	19.4	2.9	1.7
つきみ野地区	221	34.8	42.1	23.5	30.3	13.6	12.7	19.0	2.3	2.7
南林間・鶴間地区	640	34.8	43.4	25.8	29.2	12.8	14.8	19.1	1.4	1.7
相模大塚地区	70	37.1	50.0	14.3	30.0	14.3	17.1	17.1	4.3	-
大和地区	420	32.4	49.0	28.6	26.4	11.2	12.9	20.2	1.4	1.9
桜ヶ丘地区	266	33.5	46.2	26.3	20.7	11.3	14.7	23.7	1.1	2.6
高座渋谷地区	256	35.9	46.5	25.0	24.2	14.5	15.6	21.1	1.2	2.0

問 1 2 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」(41.8%)が最も多く4割強となっている。次いで、「安全で快適な歩行者空間の確保」(41.5%)、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」(33.7%)、「自転車の利用に関するルールやマナーの啓発」(32.2%)の順となっている。(図表5-8)

図表 5-8 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—全体



【性別・年齢別】

性別にみると、男性は「安全で快適な歩行者空間の確保」が1位、女性は「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」が1位となっている。

年齢別にみると、「自転車の利用に関するルールやマナーの啓発」が男性60歳代（39.8%）、男性70歳以上（42.5%）で約4割と他の年代と比べ多くなっている。（図表5-8-1）

図表5-8-1 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数（n）	コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大	自転車の利用に関するルールやマナーの啓発	自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進	安全で快適な歩行者空間の確保	自動車が安全に走行できる道路環境の整備	道路や建物におけるユニバーサルデザイン	その他	無回答
全体	2,294	41.8	32.2	33.7	41.5	22.5	7.6	3.4	2.0
【男性 全体】	966	38.8	36.7	33.4	40.2	23.8	7.6	3.6	1.4
男性 10歳代	26	15.4	26.9	34.6	46.2	34.6	19.2	3.8	3.8
男性 20歳代	64	31.3	25.0	37.5	39.1	29.7	17.2	4.7	-
男性 30歳代	97	35.1	28.9	38.1	42.3	29.9	12.4	3.1	-
男性 40歳代	152	34.9	34.9	34.9	37.5	28.9	9.9	4.6	0.7
男性 50歳代	177	38.4	36.7	29.4	37.9	30.5	7.3	1.7	0.6
男性 60歳代	176	39.8	39.8	34.7	43.8	16.5	7.4	3.4	1.1
男性 70歳以上	273	46.2	42.5	31.5	39.6	16.8	1.5	4.4	3.3
【女性 全体】	1,253	44.1	28.7	34.6	42.7	21.9	8.0	3.4	1.8
女性 10歳代	29	27.6	13.8	37.9	37.9	27.6	27.6	13.8	3.4
女性 20歳代	67	46.3	17.9	43.3	34.3	25.4	9.0	4.5	3.0
女性 30歳代	146	34.9	21.9	37.0	49.3	32.9	9.6	1.4	0.7
女性 40歳代	243	39.5	29.2	38.3	34.6	29.2	11.5	6.6	0.4
女性 50歳代	228	43.0	32.9	38.6	36.8	22.4	8.3	1.8	0.4
女性 60歳代	197	46.7	33.5	31.5	46.7	14.7	5.1	2.0	2.5
女性 70歳以上	343	51.3	28.9	28.3	49.3	14.6	4.4	2.6	3.5

【居住地域別】

居住地域別にみると、「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」がつきみ野地区で5割台半ば以上と他の地域と比べ多くなっている。また、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」が大和地区（39.3%）で2位となっている。（図表5-8-2）

図表5-8-2 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—居住地域別

単位：%

	調査数（n）	コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大	自転車の利用に関するルールやマナーの啓発	自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進	安全で快適な歩行者空間の確保	自動車が安全に走行できる道路環境の整備	道路や建物におけるユニバーサルデザイン	その他	無回答
全体	2,294	41.8	32.2	33.7	41.5	22.5	7.6	3.4	2.0
中央林間地区	242	35.5	34.7	31.0	48.3	19.8	9.5	4.5	2.1
つきみ野地区	221	57.5	24.4	29.0	39.8	18.6	9.0	4.5	1.8
南林間・鶴間地区	640	37.5	32.7	36.9	42.7	25.6	7.8	3.0	1.6
相模大塚地区	70	38.6	28.6	35.7	44.3	28.6	5.7	2.9	-
大和地区	420	36.7	33.3	39.3	39.5	23.3	7.9	3.1	1.4
桜ヶ丘地区	266	48.1	32.0	28.9	42.9	19.2	6.0	3.4	1.1
高座渋谷地区	256	48.0	32.8	27.3	38.7	25.0	8.6	3.1	1.6

【こどもの有無別】

こどもの有無別にみると、未就学のこどもがいる人では「安全で快適な歩行者空間の確保」が1位となっており、小学生以上18歳未満のこどものみいる人では、「自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進」が1位となっている。また、こどものいない人では「コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大」が1位となっている。（図表5-8-3）

図表5-8-3 まちの快適さと利便性の向上に関する取り組み—こどもの有無別

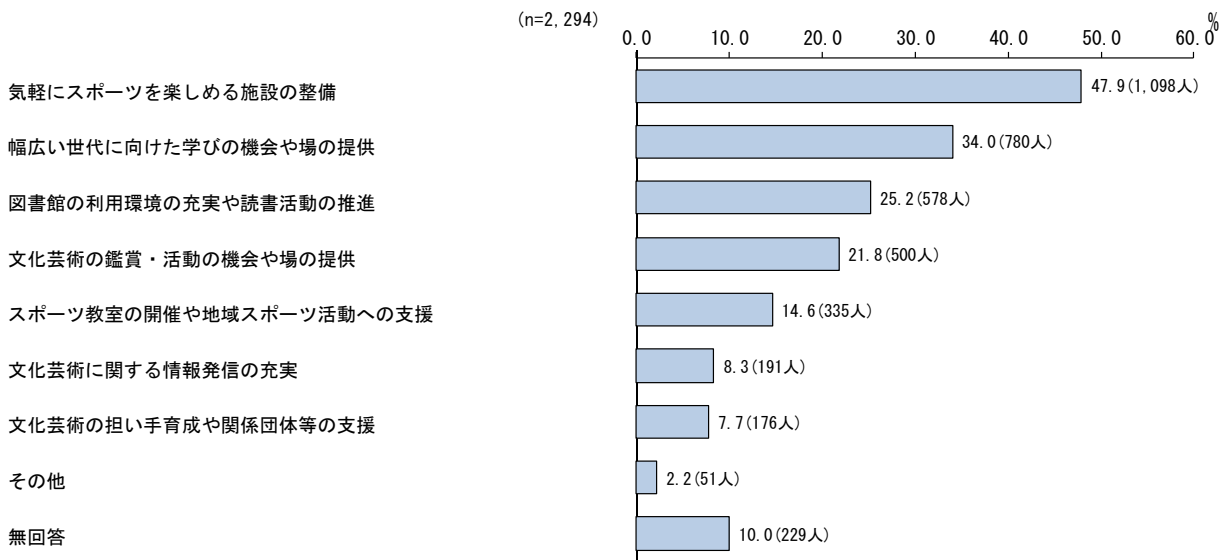
単位：%

	調査数（n）	コミュニティバスの運行や地域に適した交通手段の拡大	自転車の利用に関するルールやマナーの啓発	自転車走行レーンの整備など、自転車施策の推進	安全で快適な歩行者空間の確保	自動車が安全に走行できる道路環境の整備	道路や建物におけるユニバーサルデザインの推進	その他	無回答
全体	2,294	41.8	32.2	33.7	41.5	22.5	7.6	3.4	2.0
いる（未就学のお子さんのみ）	163	42.3	24.5	31.3	47.2	26.4	12.9	3.1	1.2
いる（小学生以上18歳未満のお子さんのみ）	275	31.3	30.5	45.1	32.0	26.2	8.7	7.3	1.1
いる（未就学と小学生以上18歳未満のお子さんどちらも）	83	32.5	30.1	36.1	42.2	34.9	4.8	4.8	1.2
いない	1,711	44.3	33.3	32.3	42.6	20.8	7.3	2.7	1.8

問 13 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組みとして、大和市はどのようなことにかを入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

「気軽にスポーツを楽しめる施設の整備」(47.9%)が最も多く5割近くとなっている。次いで、「幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供」(34.0%)、「図書館の利用環境の充実や読書活動の推進」(25.2%)、「文化芸術の鑑賞・活動の機会や場の提供」(21.8%)の順となっている。(図表5-9)

図表5-9 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組み－全体



(上段：人、下段：%)

	全体	図書館の利用環境の充実や読書活動の推進	スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	気軽にスポーツを楽しめる施設の整備	幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供	文化芸術の鑑賞・活動の機会や場の提供
令和元年度	2,294 100.0	578 25.2	335 14.6	1,098 47.9	780 34.0	500 21.8

(上段：人、下段：%)

	全体	文化芸術の担い手育成や関係団体等の支援	文化芸術に関する情報発信の充実	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	176 7.7	191 8.3	51 2.2	229 10.0

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「気軽にスポーツを楽しめる施設の整備」が1位、「幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供」が2位となっている。

年齢別にみると、「図書館の利用環境の充実や読書活動の推進」は年齢が下がるにつれて増加傾向となっている。(図表5-9-1)

図表5-9-1 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	図書館の利用環境の充実や読書活動の推進	スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	気軽にスポーツを楽しめる施設の整備	幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供	文化芸術の鑑賞・活動の機会や場の提供	文化芸術の担い手育成や関係団体等の支援	文化芸術に関する情報発信の充実	その他	無回答
全体	2,294	25.2	14.6	47.9	34.0	21.8	7.7	8.3	2.2	10.0
【男性 全体】	966	26.8	15.5	48.2	30.4	21.7	8.6	7.5	1.8	10.4
男性 10歳代	26	42.3	7.7	61.5	19.2	7.7	7.7	3.8	7.7	3.8
男性 20歳代	64	35.9	15.6	59.4	21.9	17.2	10.9	6.3	1.6	6.3
男性 30歳代	97	28.9	18.6	61.9	17.5	21.6	13.4	5.2	2.1	7.2
男性 40歳代	152	29.6	19.7	51.3	33.6	18.4	9.9	4.6	2.6	5.9
男性 50歳代	177	24.9	15.8	52.5	27.1	29.4	7.3	9.0	2.3	4.5
男性 60歳代	176	24.4	16.5	46.0	36.4	21.0	5.7	7.4	0.6	13.6
男性 70歳以上	273	23.4	12.1	36.6	34.4	21.6	8.4	9.5	1.1	17.2
【女性 全体】	1,253	24.4	14.4	48.0	37.8	21.7	7.3	8.9	2.3	8.8
女性 10歳代	29	34.5	10.3	51.7	17.2	37.9	13.8	3.4	-	10.3
女性 20歳代	67	38.8	11.9	55.2	23.9	25.4	6.0	10.4	3.0	4.5
女性 30歳代	146	29.5	22.6	62.3	29.5	21.9	6.8	6.8	2.1	2.1
女性 40歳代	243	25.1	18.1	54.7	39.9	23.0	7.0	8.2	3.3	2.9
女性 50歳代	228	26.8	13.6	46.5	41.2	22.4	7.9	7.9	2.6	4.8
女性 60歳代	197	16.8	16.8	46.7	44.7	20.8	9.6	9.6	1.0	7.6
女性 70歳以上	343	21.0	8.2	37.0	38.2	18.7	5.5	10.8	2.3	19.8

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域において「気軽にスポーツを楽しめる施設の整備」が1位、「幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供」が2位となっている。また、「図書館の利用環境の充実や読書活動の推進」が相模大塚地区で3割台半ば以上と他の地域と比べ多くになっている。(図表5-9-2)

図表5-9-2 文化芸術、読書や学び、スポーツに関する取り組み—居住地域別

単位：%

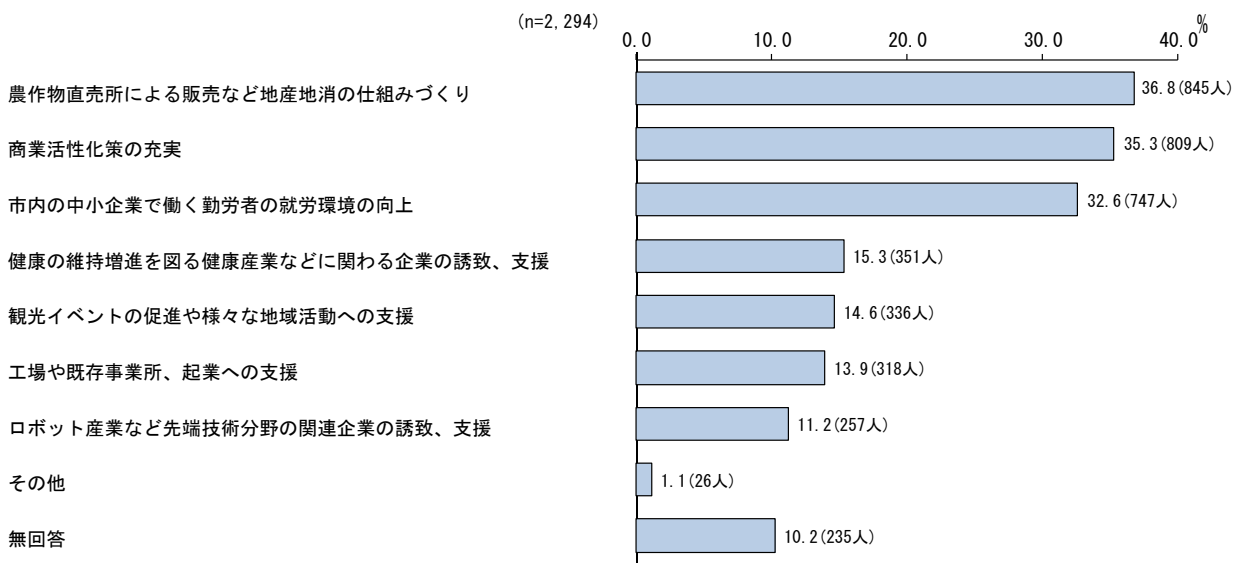
	調査数 (n)	図書館の利用環境の充実や読書活動の推進	スポーツ教室の開催や地域スポーツ活動への支援	気軽にスポーツを楽しめる施設の整備	幅広い世代に向けた学びの機会や場の提供	文化芸術の鑑賞・活動の機会や場の提供	文化芸術の担い手育成や関係団体等の支援	文化芸術に関する情報発信の充実	その他	無回答
全体	2,294	25.2	14.6	47.9	34.0	21.8	7.7	8.3	2.2	10.0
中央林間地区	242	34.7	13.6	45.0	38.0	21.5	7.4	8.3	4.1	5.0
つきみ野地区	221	29.9	14.5	54.8	35.7	21.7	7.2	6.8	3.6	5.0
南林間・鶴間地区	640	24.2	14.5	50.8	37.0	26.1	8.4	8.8	2.0	4.8
相模大塚地区	70	37.1	10.0	62.9	37.1	17.1	4.3	10.0	1.4	4.3
大和地区	420	25.0	15.7	51.2	36.0	22.4	8.3	9.5	1.7	4.0
桜ヶ丘地区	266	21.8	18.0	50.8	33.5	22.2	11.3	9.8	1.9	3.4
高座渋谷地区	256	26.2	17.6	48.0	34.8	22.7	7.0	10.5	1.6	6.6

問 1 4 地域経済の活性化に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

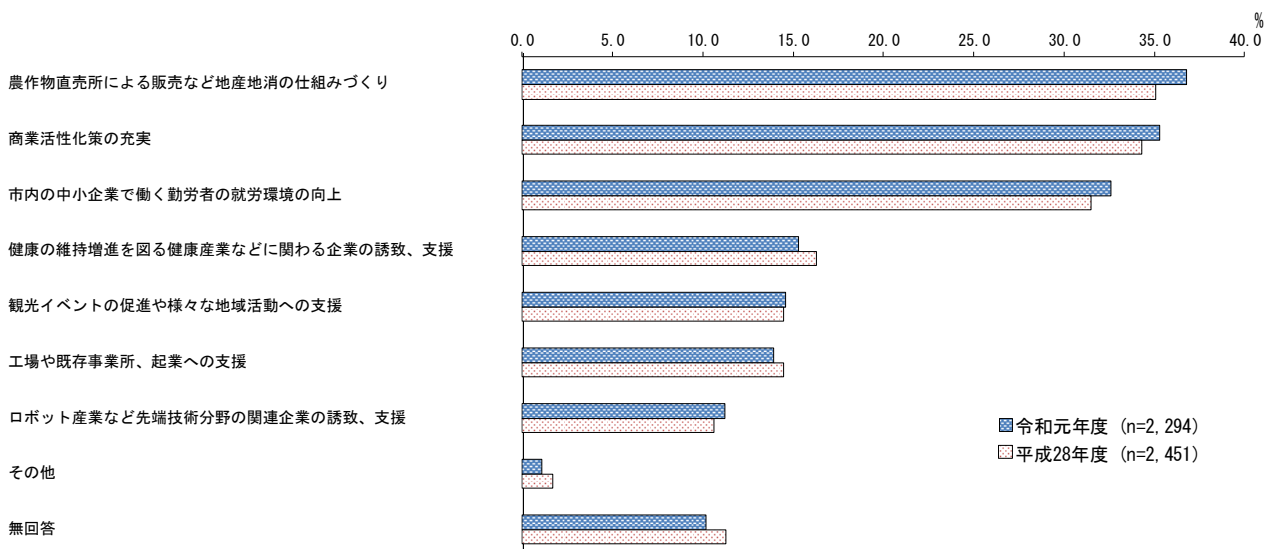
「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」(36.8%) が最も多く 3 割台半ば以上となっている。次いで、「商業活性化策の充実」(35.3%)、「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」(32.6%)、「健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援」(15.3%) の順となっている。(図表 5-10)

前回結果と比較すると、「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が 1 位、「商業活性化策の充実」が 2 位、「市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上」が 3 位で前回同様となっている。(図表 5-10-1)

図表 5-10 地域経済の活性化に関する取り組み—全体



図表 5-10-1 地域経済の活性化に関する取り組み—経年比較



図表5-10-1 地域経済の活性化に関する取り組み—経年比較（つづき）

（上段：人、下段：％）

	全体	商業活性化策の充実	工場や既存事業所、起業への支援	ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	市内の中小企業で働く勤労者の就労環境の向上
令和元年度	2,294 100.0	809 35.3	318 13.9	257 11.2	351 15.3	747 32.6
平成28年度	2,451	34.3	14.5	10.6	16.3	31.5
H28－R1比較		1.0pt.	-0.6pt.	0.6pt.	-1.0pt.	1.1pt.

（上段：人、下段：％）

	全体	農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	845 36.8	336 14.6	26 1.1	235 10.2
平成28年度	2,451	35.1	14.5	1.7	11.3
H28－R1比較		1.7pt.	0.1pt.	-0.6pt.	-1.1pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男性は「商業活性化策の充実」が1位、女性は「農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり」が1位となっている。また、男女とも「市内の中小企業で働く勤労者の就業環境の向上」が3割台で3位となっている。

年齢別にみると、男女とも70歳以上では「商業活性化策の充実」が2割台と他の年代と比較して少なくなっている。(図表5-10-2)

図表5-10-2 地域経済の活性化に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	商業 活性化 策の充 実	工 場や 既存 事業 所、 起業 への 支援	ロ ボツ ト産 業な ど先 端技 術分 野の 関連 企業 の誘 致、 支援	ど健 康の 維持 増進 を図 る健 康産 業な どに 関わ る企 業の 誘致 、支 援	市 内 の 中 小 企 業 で 働 く 勤 労 者 の 就 業 環 境 の 向 上	農 作 物 直 売 所 に よ る 販 売 な ど 地 産 地 消 の 仕 組 み づ く り	活 動 へ の 支 援	観 光 イ ベ ン ト の 促 進 や 様 々 な 地 域	そ の 他	無 回 答
全 体	2,294	35.3	13.9	11.2	15.3	32.6	36.8	14.6	1.1	10.2	
【男性 全体】	966	35.5	16.5	15.5	13.8	31.9	32.2	14.8	1.4	10.1	
男性 10歳代	26	42.3	11.5	15.4	11.5	42.3	19.2	11.5	-	7.7	
男性 20歳代	64	34.4	10.9	31.3	12.5	42.2	21.9	15.6	1.6	6.3	
男性 30歳代	97	36.1	15.5	13.4	13.4	27.8	36.1	17.5	2.1	7.2	
男性 40歳代	152	42.1	21.7	15.8	11.8	25.7	26.3	19.1	3.3	5.3	
男性 50歳代	177	40.7	19.8	14.1	12.4	40.1	29.4	14.7	2.3	5.1	
男性 60歳代	176	38.6	16.5	12.5	11.9	30.1	31.8	15.9	0.6	13.6	
男性 70歳以上	273	26.0	13.6	15.4	17.6	28.9	39.6	11.0	0.4	16.1	
【女性 全体】	1,253	35.7	12.4	8.0	16.1	33.6	40.6	14.8	0.9	9.3	
女性 10歳代	29	44.8	3.4	6.9	17.2	20.7	20.7	31.0	-	13.8	
女性 20歳代	67	38.8	9.0	9.0	14.9	37.3	29.9	28.4	-	4.5	
女性 30歳代	146	39.7	9.6	12.3	15.1	39.0	38.4	19.9	-	2.1	
女性 40歳代	243	42.4	22.2	5.8	13.2	36.2	42.4	12.3	1.2	3.3	
女性 50歳代	228	35.1	10.5	8.8	15.8	36.8	42.1	18.4	0.9	5.3	
女性 60歳代	197	35.0	11.7	7.6	18.3	33.0	46.7	11.2	0.5	7.6	
女性 70歳以上	343	28.6	9.6	7.3	17.8	28.0	39.7	10.2	1.5	21.0	

【居住地域別】

居住地域別にみると、大和地区（41.2%）では「商業活性化策の充実」が1位となっている。（図表5-10-3）

図表5-10-3 地域経済の活性化に関する取り組み—居住地域別

単位：%

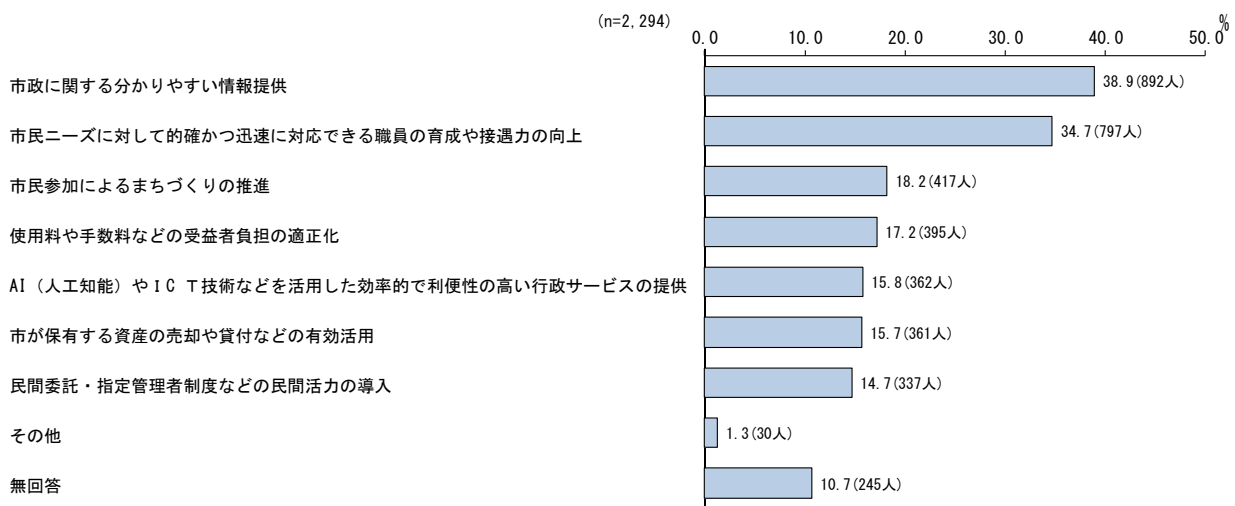
	調査数（n）	商業活性化策の充実	工場や既存事業所、起業への支援	ロボット産業など先端技術分野の関連企業の誘致、支援	健康の維持増進を図る健康産業などに関わる企業の誘致、支援	市内の中小企業で働く勤労者の就業環境の向上	農作物直売所による販売など地産地消の仕組みづくり	観光イベントの促進や様々な地域活動への支援	その他	無回答
全体	2,294	35.3	13.9	11.2	15.3	32.6	36.8	14.6	1.1	10.2
中央林間地区	242	33.5	16.5	16.5	18.6	31.8	38.0	12.0	2.9	5.0
つきみ野地区	221	35.7	17.2	14.0	14.9	34.8	44.3	13.6	0.9	5.0
南林間・鶴間地区	640	37.8	14.1	10.5	15.9	35.5	39.5	15.3	0.5	4.7
相模大塚地区	70	40.0	8.6	17.1	17.1	37.1	42.9	11.4	-	2.9
大和地区	420	41.2	14.3	11.2	15.2	34.0	35.0	17.1	1.7	5.0
桜ヶ丘地区	266	39.1	10.5	10.2	16.9	34.6	40.2	16.2	1.5	5.6
高座渋谷地区	256	34.0	17.2	10.2	17.6	34.0	38.3	18.4	0.8	6.3

問 15 行政経営に関する取り組みとして、大和市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

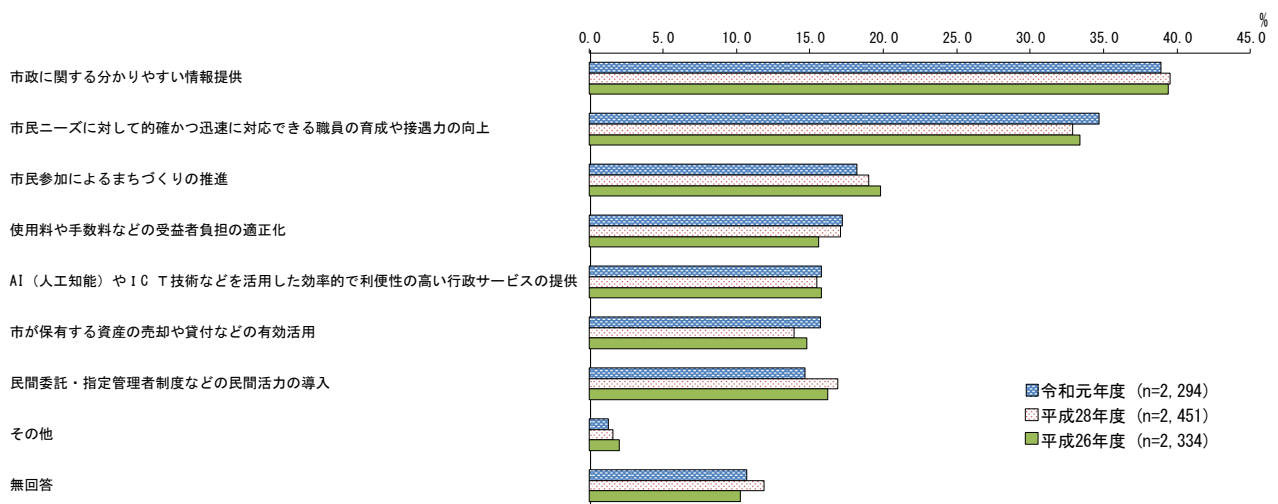
「市政に関するわかりやすい情報提供」(38.9%)が最も多く4割近くとなっている。次いで、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる」(34.7%)、「市民参加によるまちづくりの推進」(18.2%)、「使用料や手数料などの受益者負担の適正化」(17.2%)の順となっている。(図表5-11)

前回結果と比較すると、「市政に関するわかりやすい情報提供」が1位、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる」が2位で前回同様となっている。(図表5-11-1)

図表5-11 行政経営に関する取り組み—全体



図表5-11-1 行政経営に関する取り組み—経年比較



※ 「AI (人工知能) や I C T 技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供」の平成28年度以前の項目名称は「IT 技術などを活用した利便性の高い行政サービスの提供」

図表5-11-1 行政経営に関する取り組み—経年比較（つづき）

（上段：人、下段：％）

	全体	市政に関する分かりやすい情報提供	民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入	市民参加によるまちづくりの推進	AI（人工知能）やICT技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	使用料や手数料などの受益者負担の適正化
令和元年度	2,294 100.0	892 38.9	337 14.7	417 18.2	362 15.8	361 15.7	395 17.2
平成28年度	2,451	39.5	16.9	19.0	15.5	13.9	17.1
平成26年度	2,334	39.4	16.2	19.8	15.8	14.8	15.6
H28－R1比較		-0.6pt.	-2.2pt.	-0.8pt.	0.3pt.	1.8pt.	0.1pt.
H26－H28比較		0.1pt.	0.7pt.	-0.8pt.	-0.3pt.	-0.9pt.	1.5pt.

（上段：人、下段：％）

	全体	市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	797 34.7	30 1.3	245 10.7
平成28年度	2,451	32.9	1.6	11.9
平成26年度	2,334	33.4	2.0	10.3
H28－R1比較		1.8pt.	-0.3pt.	-1.2pt.
H26－H28比較		-0.5pt.	-0.4pt.	1.6pt.

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「市政に関するわかりやすい情報提供」が1位、「市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上」が2位となっている。

年齢別にみると、年齢が下がるにつれて「A I（人工知能）やI C T技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供」が増加傾向となっている。（図表5-11-2）

図表5-11-2 行政経営に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数（n）	市政に関するわかりやすい情報提供	民間委託・指定管理者制度などの民間活力の導入	市民参加によるまちづくりの推進	A I（人工知能）やI C T技術などを活用した効率的で利便性の高い行政サービスの提供	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	の適用料や手数料などの受益者負担の適正化	市民ニーズに対して的確かつ迅速に対応できる職員の育成や接遇力の向上	その他	無回答
全体	2,294	38.9	14.7	18.2	15.8	15.7	17.2	34.7	1.3	10.7
【男性 全体】	966	35.9	16.9	17.8	21.0	15.6	17.6	33.3	1.4	10.8
男性 10歳代	26	30.8	7.7	26.9	19.2	19.2	15.4	42.3	-	7.7
男性 20歳代	64	37.5	7.8	10.9	39.1	14.1	28.1	29.7	-	7.8
男性 30歳代	97	36.1	14.4	17.5	23.7	12.4	29.9	26.8	2.1	9.3
男性 40歳代	152	35.5	19.1	16.4	23.7	21.7	16.4	30.3	3.3	6.6
男性 50歳代	177	36.2	15.3	16.9	19.8	21.5	19.8	35.6	1.7	6.2
男性 60歳代	176	36.9	21.0	10.2	17.6	15.3	16.5	39.2	-	12.5
男性 70歳以上	273	35.5	17.9	24.9	17.6	9.9	10.6	31.9	1.5	16.5
【女性 全体】	1,253	41.7	13.1	18.3	12.5	16.0	17.0	36.2	1.2	9.8
女性 10歳代	29	37.9	3.4	24.1	27.6	10.3	24.1	24.1	-	10.3
女性 20歳代	67	44.8	11.9	17.9	22.4	7.5	25.4	26.9	3.0	6.0
女性 30歳代	146	45.2	15.8	17.8	17.8	18.5	26.7	34.2	0.7	2.7
女性 40歳代	243	46.1	14.0	15.6	12.8	22.6	18.9	37.0	0.4	4.1
女性 50歳代	228	38.2	14.0	15.8	12.3	21.1	15.4	39.5	2.2	6.1
女性 60歳代	197	44.2	14.2	21.3	10.2	11.7	17.8	40.6	-	6.6
女性 70歳以上	343	37.6	11.1	19.8	8.2	11.7	9.9	34.7	1.7	21.9

【居住地域別】

居住地域別にみると、つきみ野地区を除くすべての地域で「市政に関するわかりやすい情報提供」が1位となっている。（図表5-11-3）

図表5-11-3 行政経営に関する取り組み—居住地域別

単位：%

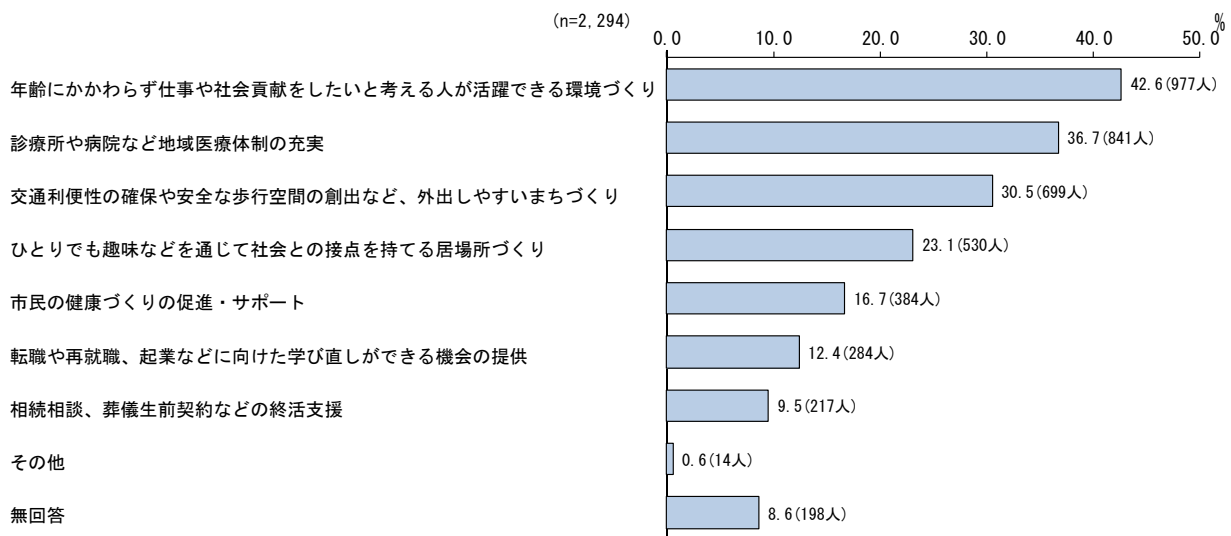
	調査数（n）	市民に関するわかりやすい情報提供	民間委託・指定管理者制度などの導入	市民参加によるまちづくりの推進	AI（人工知能）やICT技術の高	行政サービスの提供	市が保有する資産の売却や貸付などの有効活用	の適正化	の向上	市民ニーズに對する職員の育成や迅速	その他	無回答
全体	2,294	38.9	14.7	18.2	15.8	15.7	17.2	34.7	1.3	10.7		
中央林間地区	242	40.1	14.5	22.3	14.9	17.4	16.9	37.2	3.3	6.6		
つきみ野地区	221	36.2	21.3	18.6	19.0	16.7	16.7	37.1	1.4	5.4		
南林間・鶴間地区	640	40.8	14.1	18.4	17.2	15.8	19.2	38.1	0.9	5.2		
相模大塚地区	70	44.3	18.6	12.9	14.3	15.7	18.6	44.3	1.4	4.3		
大和地区	420	44.3	17.1	17.4	19.3	19.3	16.2	33.6	1.7	4.5		
桜ヶ丘地区	266	42.9	12.8	23.7	13.9	15.4	22.2	35.7	1.1	5.3		
高座渋谷地区	256	39.1	15.6	20.3	14.1	16.4	17.6	38.3	0.4	7.0		

問16 人生100年時代※と言われる中、大和市はどのような取り組みをさらに充実していくべきだと思いますか。(〇印は2つまで)

※人生100年時代とは、ある海外の研究によって、日本で2007年に生まれた子どもの半数が107歳より長く生きると推計されるなど、我が国が健康寿命・世界一の長寿社会を迎えている中で、広く用いられるようになっている言葉です。

「年齢にかかわらず仕事や社会貢献をしたいと考える人が活躍できる環境づくり」(42.6%)が最も多く4割強となっている。次いで、「診療所や病院など地域医療体制の充実」(36.7%)、「交通利便性の確保や安全な歩行空間の創出など、外出しやすいまちづくり」(30.5%)、「ひとりでも趣味などを通じて社会との接点を持てる居場所づくり」(23.1%)の順となっている。(図表5-12)

図表5-12 行政経営に関する取り組み—全体



(上段：人、下段：%)

	全体	市民の健康づくりの促進・サポート	診療所や病院など地域医療体制の充実	相続相談、葬儀生前契約などの終活支援	交通利便性の確保や安全な歩行空間の創出など、外出しやすいまちづくり	ひとりでも趣味などを通じて社会との接点を持てる居場所づくり
令和元年度	2,294 100.0	384 16.7	841 36.7	217 9.5	699 30.5	530 23.1

(上段：人、下段：%)

	全体	転職や再就職、起業などに向けた学び直しができる機会の提供	年齢にかかわらず仕事や社会貢献をしたいと考える人が活躍できる環境づくり	その他	無回答
令和元年度	2,294 100.0	284 12.4	977 42.6	14 0.6	198 8.6

【性別・年齢別】

性別にみると、男女とも「年齢にかかわらず仕事や社会貢献をしたいと考える人が活躍できる環境づくり」が1位、「診療所や病院など地域医療体制の充実」が2位となっている。また、男女とも「交通利便性の確保や安全な歩行空間の創出など、外出しやすいまちづくり」が3割台で3位となっている。

年齢別にみると、「診療所や病院など地域医療体制の充実」は男性40歳代で4割台半ばと他の年代と比べ多くなっている。(図表5-12-1)

図表5-12-1 行政経営に関する取り組み—性別・年齢別

単位：%

	調査数 (n)	市民の健康づくりの促進・サポート	診療所や病院など地域医療体制の充実	相続相談、葬儀生前契約などの終活支援	交通利便性の確保や安全な歩行空間の創出など、外出しやすいまちづくり	ひとりでなくても趣味などを通じて社会との接点を持つ居場所づくり	学び直しや再就職、起業などに向けた機会提供	年齢にかかわらず仕事や社会貢献したいと考える人が活躍できる環境づくり	その他	無回答
全体	2,294	16.7	36.7	9.5	30.5	23.1	12.4	42.6	0.6	8.6
【男性 全体】	966	19.9	38.1	9.5	30.3	21.6	11.5	39.0	0.5	9.1
男性 10歳代	26	26.9	19.2	11.5	15.4	50.0	11.5	34.6	3.8	3.8
男性 20歳代	64	12.5	32.8	7.8	37.5	28.1	29.7	25.0	-	6.3
男性 30歳代	97	15.5	40.2	4.1	26.8	24.7	16.5	41.2	-	8.2
男性 40歳代	152	13.8	47.4	12.5	37.5	17.8	17.8	33.6	1.3	3.9
男性 50歳代	177	19.2	40.7	9.0	29.4	18.1	16.9	48.6	-	4.0
男性 60歳代	176	27.3	30.7	7.4	27.3	23.9	4.5	41.5	-	12.5
男性 70歳以上	273	21.6	38.1	11.7	29.7	19.4	2.9	37.4	0.7	14.7
【女性 全体】	1,253	13.8	35.8	9.3	30.6	24.9	13.6	46.2	0.7	7.5
女性 10歳代	29	24.1	34.5	3.4	31.0	20.7	17.2	37.9	-	10.3
女性 20歳代	67	14.9	31.3	6.0	28.4	29.9	25.4	47.8	-	4.5
女性 30歳代	146	15.8	41.1	4.8	28.8	26.7	24.7	47.9	-	2.1
女性 40歳代	243	11.9	34.2	11.1	34.6	23.5	17.3	52.3	2.1	2.1
女性 50歳代	228	11.8	38.2	12.3	25.0	25.4	15.8	51.8	0.4	4.4
女性 60歳代	197	11.7	35.5	9.6	31.5	30.5	7.1	50.8	1.0	6.1
女性 70歳以上	343	15.7	34.4	8.7	32.1	21.0	6.1	35.3	0.3	16.9

【居住地域別】

居住地域別にみると、すべての地域で「年齢にかかわらず仕事や社会貢献をしたいと考える人が活躍できる環境づくり」が1位となっている。また、「交通利便性の確保や安全な歩行空間の創出など、外出しやすいまちづくり」がつきみ野地区で2位となっている。（図表5-12-2）

図表5-12-2 行政経営に関する取り組み—居住地域別

単位：%

	調査数（n）	市民の健康づくりの促進・サポート	診療所や病院など地域医療体制の充実	相続相談、葬儀生前契約などの終活支援	交通利便性の確保や安全な歩行空間の創出など、外出しやすいまちづくり	ひとりで興味などを通じて社会との接点を持つ居場所づくり	学び直しができる機会などに向けた転職や再就職、起業などの提供	年齢にかかわらず仕事や社会貢献したいと考える人が活躍できる環境づくり	その他	無回答
全体	2,294	16.7	36.7	9.5	30.5	23.1	12.4	42.6	0.6	8.6
中央林間地区	242	16.9	36.8	10.3	29.3	27.3	10.7	49.2	1.2	3.3
つきみ野地区	221	15.4	32.6	10.0	41.2	26.2	13.1	44.8	0.5	3.2
南林間・鶴間地区	640	17.3	40.3	10.9	32.3	23.8	14.4	42.5	0.6	3.3
相模大塚地区	70	20.0	41.4	8.6	32.9	12.9	15.7	57.1	-	2.9
大和地区	420	19.8	41.0	11.0	30.2	22.6	13.1	43.3	0.5	2.9
桜ヶ丘地区	266	16.9	42.1	7.9	34.2	28.6	10.5	42.9	0.4	3.4
高座渋谷地区	256	18.4	34.4	9.4	28.5	23.4	14.5	50.4	1.2	4.7

Ⅲ まちづくりに関する意見・要望

回答者 2,294 人のうち 942 人からまちづくりに関する意見や要望があった。そのうち特に多かった記載事項は次のとおりとなっている。

- ◇ 道路や公園の整備について（歩道・車道が凸凹している、道が狭い など）（約 130 件）
- ◇ 商業・産業について（駅ビルの整備、歩いていけるところにスーパーがない など）（約 70 件）
- ◇ 文化施設・活動について（シリウス内の健康都市図書館は満席が多く利用できない など）（約 70 件）
- ◇ 自転車利用について（自転車が走りづらい など）（約 70 件）

自由記述の回答について、主な意見の内容を基本目標別に分類して掲載した。内容については意見の趣旨を損なわないよう、一部要約したものもある。

◎ 基本目標 1 一人ひとりがいつまでも元気でいられるまち ◎

◆健康づくりのための施策について

- 無料の健康診断を充実させてほしいです。

◆医療体制について

- 病院・個人医院等で待ち時間が 1 時間以上です。年取ってからのことが心配です。
- 救急病院がありますが、役に立っていないのが現状です。来院される人すべてに治療できる態勢を作ってほしいです。

◆高齢の方の支援について

- 高齢化が進む中、地域で健康づくりや居場所づくり等に頑張っておられるグループには、市からの支援が必要と思います。

◆障がい者への支援について

- 発達障害の子への理解がある先生や専門の方がいるクラスを作ってもらえたらと思います。

◎ 基本目標 2 こどもが生き生きと育つまち ◎

◆こどもの健康や安全について

- 今年の夏も猛暑日が続きましたが、子供達が室内で安心して遊べる場所を何ヶ所か作ってほしいです。特に兄弟をもつ親にとって一緒に遊べる広場が少ないので、夏休みは行き場を失ってしまいます。屋外でも水場や日除け、送風機などがあれば遊べると思います。

◆こどもの教育や学校教育について

- 小中学校の生徒・児童数の適正化してほしいです。

◆こどもを産み育てやすい環境づくりについて

- 雨の日や猛暑日、外で遊ぶのが困難な日等、赤ちゃんから小学生くらいまでの子供が遊べる施設（シリウスにあるげんきっこ広場）が複数箇所あるとありがたいです。
- 子どもの遊ぶところが増えるのもうれしいですが、おむつ支給など金銭面にかかわってくる場所の支援がほしいです。

◎ 基本目標3 安全と安心が感じられるまち ◎

◆防災について

- 市からの放送（防災や行方不明者の情報など）の音声反響がひどいので改善していただきたいです。

◆防犯について

- 夜帰るとき、暗くて怖いです。以前よりパトカーによるパトロールが増えたと思いますが、パトロールを増やす、街灯を増やすなどの対策をお願いします。
- 防犯カメラなどの設置（民家の細い路地等へ）もしくは個人宅で購入する時の補助などがあると助かります。

◆基地について

- 航空機の騒音が軽減した点はとてありがたいと感じています。今後も空母の寄港などで飛ぶことはあると思いますが、事前に情報提供いただければ幸いです。

◎ 基本目標4 環境を守り育てるまち ◎

◆ごみの減量化、資源化について

- ゴミ袋をすべて無料にしてほしいです。分別が細かすぎて、ゴミステーションの日に一気に出しているのですが大変です。
- ごみの戸別収集になってから、きれいになったように思いますが集合住宅わきの放置ごみが気になります。道路に出ている植木の枝等で、緊急時に車が通れるのか不安になる場所も多くみられます。

◆生活環境について

- 路上喫煙による罰金の対象地域を市内全域としてほしいです。
- 猫の糞害に大変困っています。以前、市役所、保健所に電話しましたところ条例がないのでと言われます。

◆まちの緑について

- 田舎はもちろんのこと都内に比べても緑が少なく感じます。街路樹がないので真夏にスーパーへ買物に行くのも気がすすみません。

◎ 基本目標5 快適な都市空間が整うまち ◎

◆道路や公園の整備について

- 車通りが多い所でも道幅がせまくて歩道がない所や小学校近く等 5 差路、6 差路や、道路の見通しの悪い場所の改善、整備をしてほしいです。
- 電柱の地中化を実現してほしいです。
- 公園に屋根のある休める場所をつくってほしいです。大人用の健康器具を公園に設置するより子供が安全に遊べる遊具を新しく設置してほしいです。

◆コミュニティバスについて

- コミュニティバスは走っているのですが乗りたい時間帯に利用出来ないのが残念です。もう少し本数を増やしていただけたら助かります。
- コミュニティバスルートがよくわかりません。わかりやすい表示がほしいです。

◆自転車利用について

- シェアサイクルのステーションをもう少し増設してほしいと思いました。
- 自転車利用の人が歩行者のレーンでベルを鳴らす場合があります。自転車の人には専用のレーンを利用してほしいです。
- 自転車を止められる場所を増やしてほしいです。
- 自転車通行帯がありますが、路上駐車されているとその通行帯がブロックされて、自転車が飛び出してきて、車を運転する立場からすると大変危険です。

◎ 基本目標6 豊かな心を育むまち ◎

◆文化施設・活動について

- 図書館(シリウス)をもっと活用したいですが、いつも満席で利用出来ないことが不満です。
- 地域のコミュニティセンターへ、何か参加できる講座がないかと行ってみましたが、ほとんどが高齢者、子ども向けで平日昼間ばかりです。平日夜や土日に参加できるような生涯学習活動があればと思います。
- 中央林間図書館にもっと子どもが楽しめる本を増やしてほしいです。

◆スポーツ施設・活動について

- もっと誰でも気軽にスポーツ(特に球技)ができる場所があればいいなと前からずっと思っていました。少しでも実現できることを願っています。

◆歴史や文化の継承について

- 若い時や、子供の頃の思い出となるような建物、景観を一部でも残してほしいです。あると「いやし」を得られる気がします。

◆マナーについて

- 市として外国人を受け入れるに当たり、よりよく住んでもらう為に日本の生活のマナーや生活相談等のフォロー充実が必要だと思っています。

◎ 基本目標7 市民の活力があふれるまち ◎

◆商業・産業について

- 普段の買物は市内でしますが、食料品以外の全ての買物は横浜、海老名、藤沢などのモール、アウトレットに出向きます。魅力を感じる商業施設がないと思います。趣味分野を含めて多様性のある商業施設がほしいと常々思っています。
- 大和市のプレミアム商品券をまたやってほしいです。

◆地域活動や市民活動について

- 自治会活動では、現在のニーズがない行事が多く、脱会することで役員をしないという選択をする人が増えてきています。広報やまと等市の情報は、自治会を通して配布していますが同じ市税を払いつつも自治会に入っていないことで情報を受けることができない人が多いです。

◆行政について

- アンケートの集計結果は、どんな意見があって結果どのように生かすか（見送るか）を公表してほしいです。時間をかけてしっかり考えて回答したので、どのように扱ったかがわからないと、回答した側としては、その意義を感じられません。
- 税収と行政サービスのバランスを考慮してほしいです。消費税の増税をひかえ、市税まで上がっては困ります。「減税」もひとつの行政サービスだと思います。